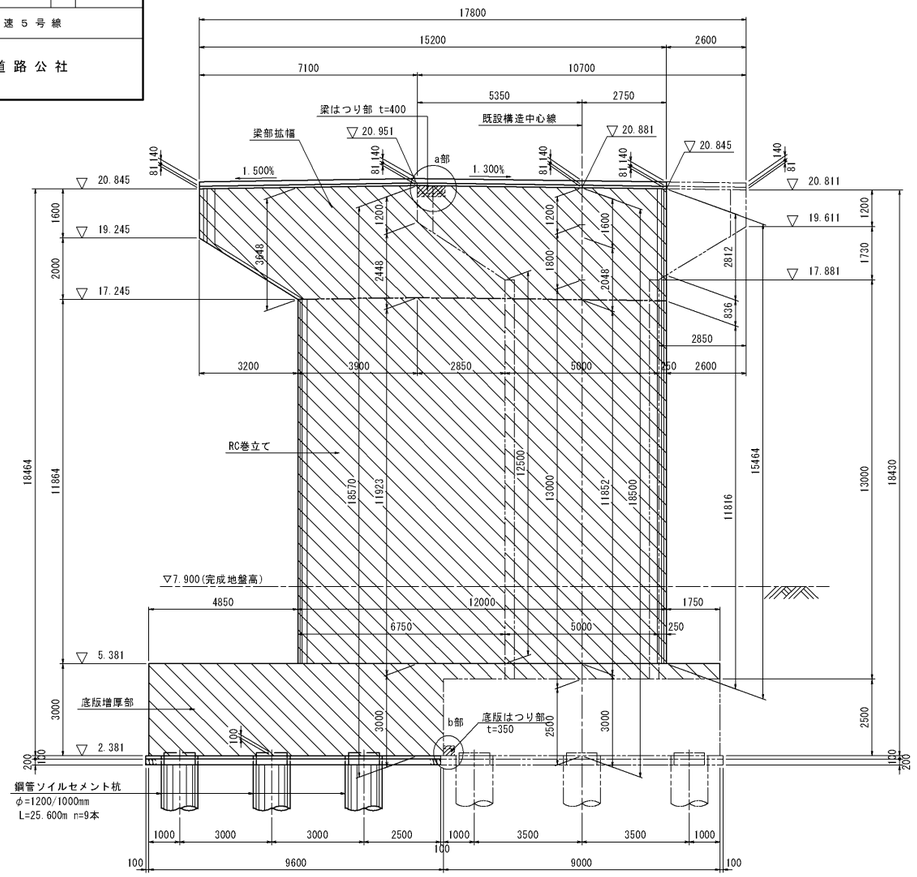
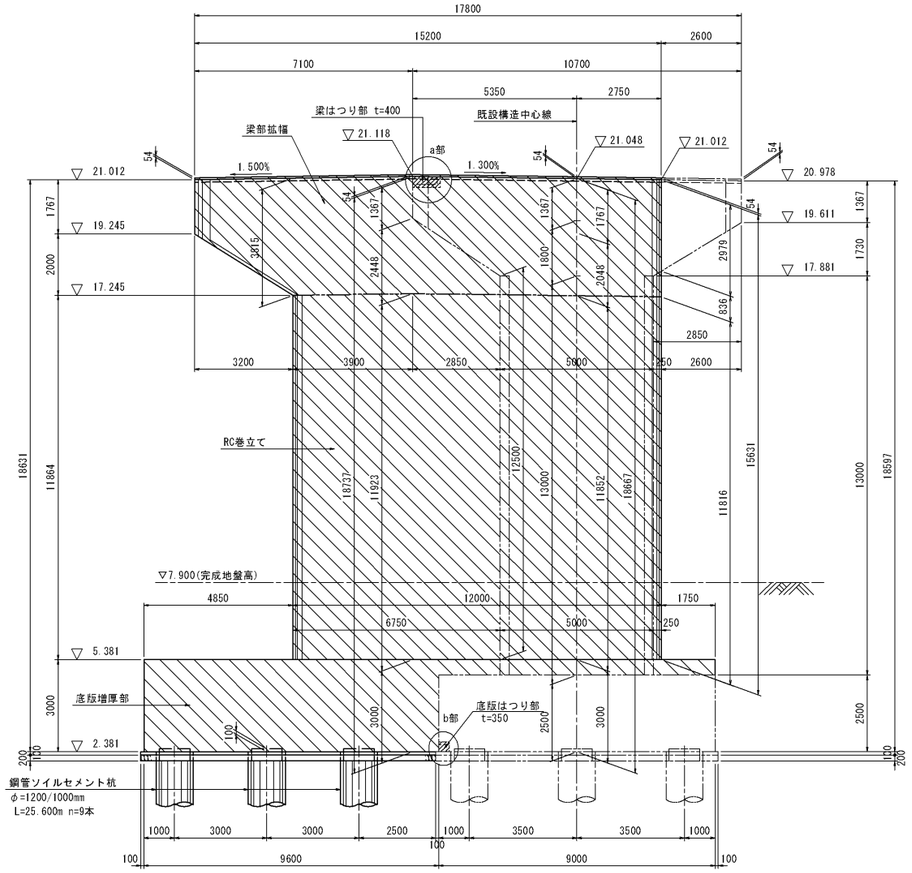
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	7 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	中山P１橋脚 補強構造図（その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

中山P１橋脚補強構造図（その1） S=1:100

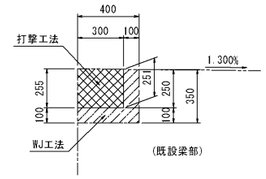
正面図
1 － 1（P2橋脚側）



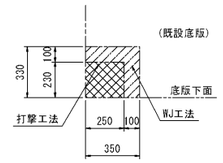
正面図
2 － 2（P5橋脚側）



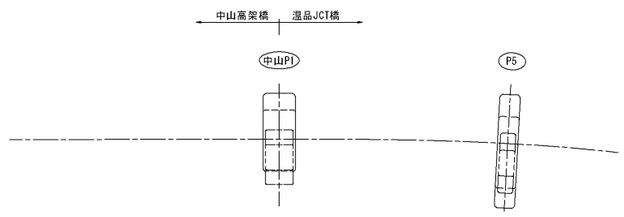
a部詳細図 S=1:20



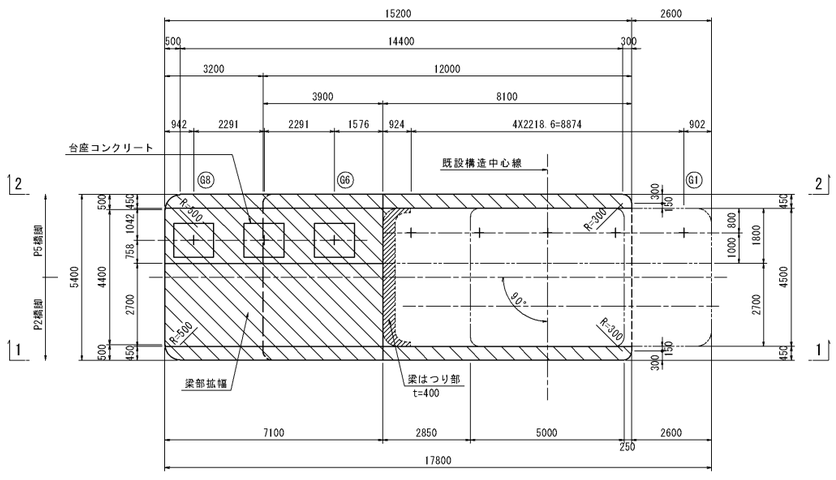
b部詳細図 S=1:20



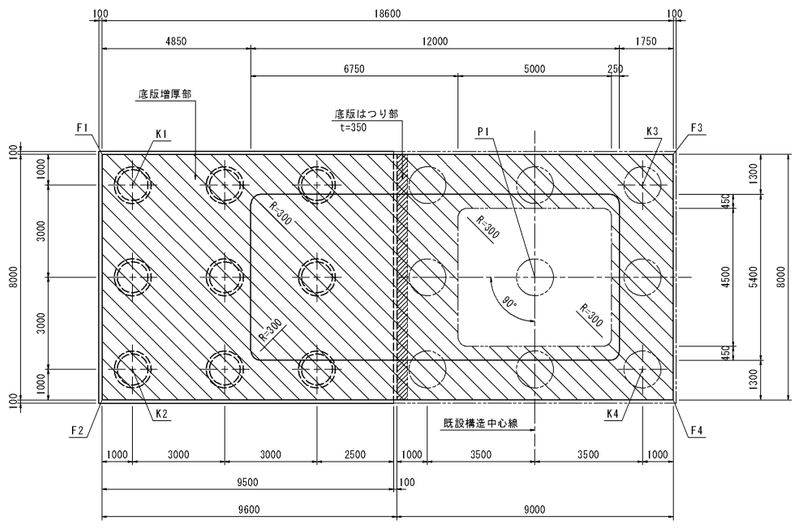
位置図



平面図



底版



下部工座標

		X	Y
躯体	P1	-176980.0683	31166.7044
	F1	-176968.3842	31175.5497
	F2	-176965.4798	31168.0955
	F3	-176985.7151	31168.7971
	F4	-176982.8108	31161.3429
杭	K1	-176968.9529	31174.2549
	K2	-176966.7746	31168.6643
	K3	-176984.4203	31168.2284
	K4	-176982.2421	31162.6377

設計条件

躯体コンクリート	底版以外	σck=24N/mm²
	底版	σck=30N/mm²
均しコンクリート		σck=18N/mm²
鉄筋材質	躯　体	SD345
	杭頭鉄筋	SD490

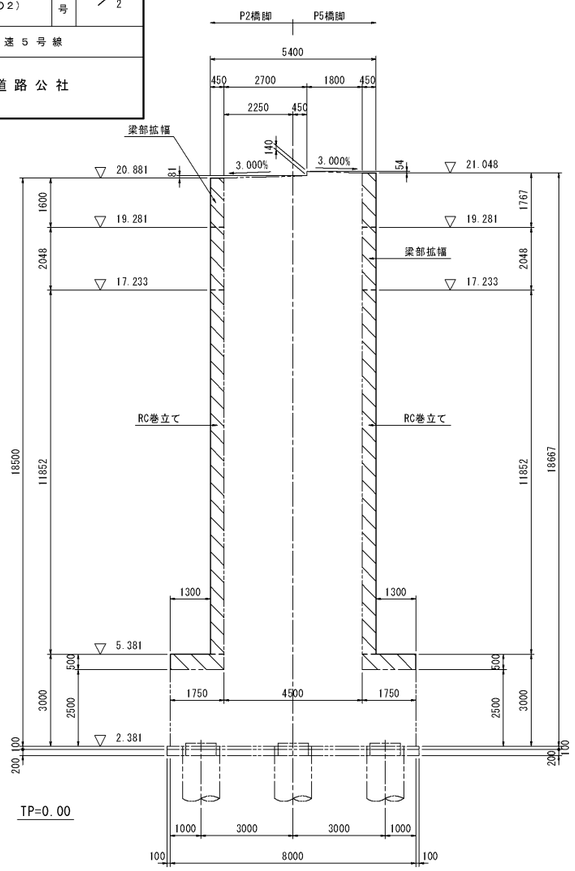
注）1. ▨ 部は、補強部（梁部拡幅・RC巻立て・底版増厚）を示す。
　　2. ▨ 部は、配筋時のはつり部を示す。

※施工上の留意点
- 細部寸法は現地調査実施の上、最終確認を行うこと。
- 既設橋脚にアンカーを施工する際は、鉄筋探査を行って鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないものとすること。
  （ただし、既設沓座補強筋は切断可とする）
- 既設部と新設部の接合面には、十分な下地処理（チッピング）を行うこと。

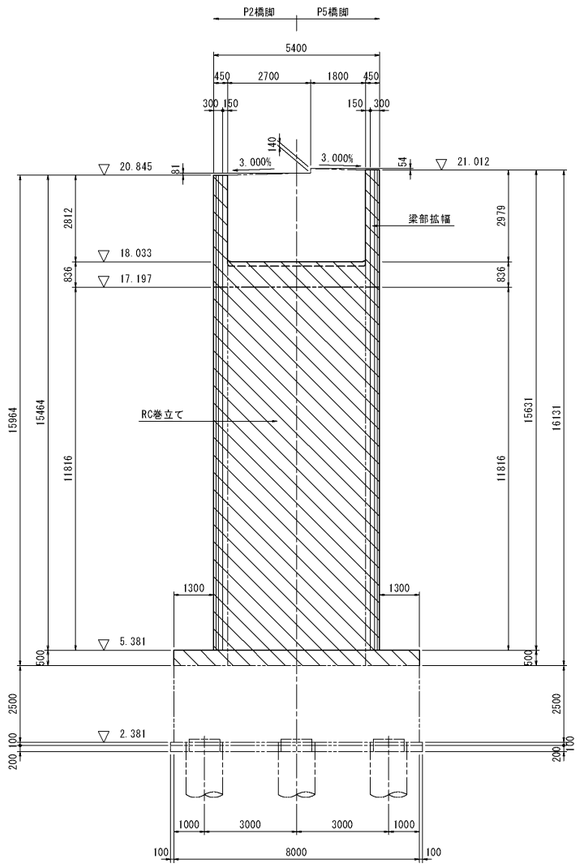
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	8 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山Ｐ１橋脚 補強構造図（その２）	番号	2／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

中山Ｐ１橋脚補強構造図（その2） S=1:100

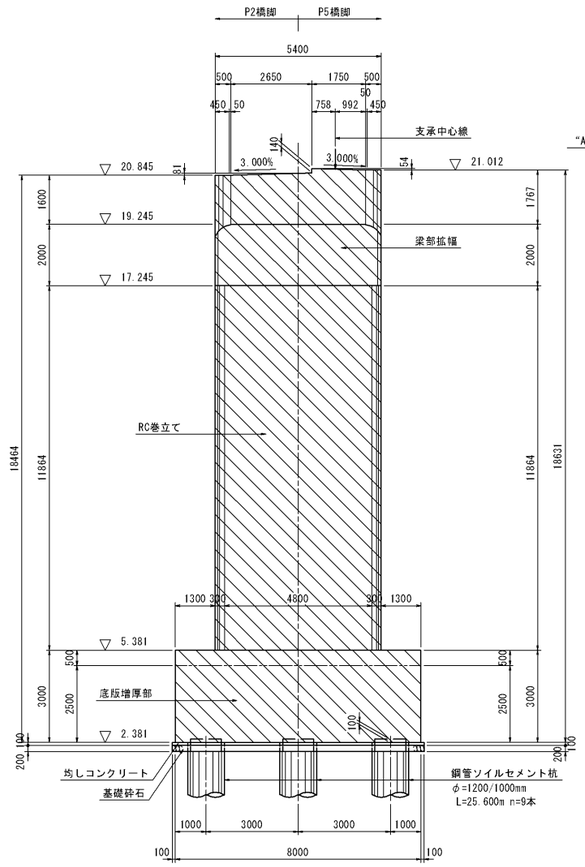
3 － 3



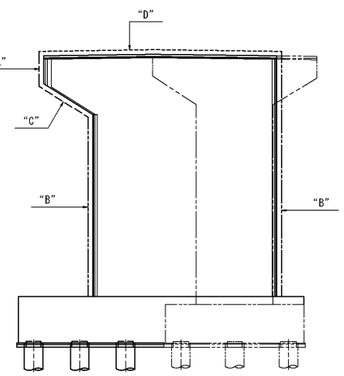
4 － 4



5 － 5

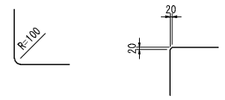


面取り形状詳細図



"A" 部　"B" 部

"C" 部　"D" 部

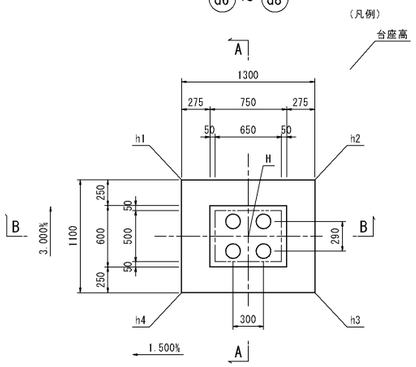


構造高表（支点上）

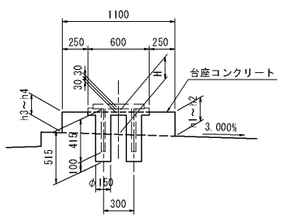
	新設桁			既設桁				
	G8	G7	G6	G5	G4	G3	G2	G1
計画高	25.137	25.171	25.204	25.275	25.231	25.186	25.142	25.097
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000
床版上面高	25.057	25.091	25.124	25.161	25.151	25.106	25.062	25.017
床版厚	0.230	0.230	0.230	0.210	0.210	0.210	0.210	0.210
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
桁高	3.200	3.200	3.200	3.200	3.200	3.200	3.200	3.200
下フランジ厚	0.022	0.019	0.020	0.031	0.025	0.018	0.026	0.030
ソールプレート厚	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048
支承高	0.174	0.174	0.174	0.196	0.196	0.196	0.196	0.196
支承下面標高	21.303	21.340	21.372	21.396	21.392	21.354	21.302	21.253
容座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.216	0.219	0.217	0.236	0.261	0.252	0.229	0.209
下部工高	21.057	21.091	21.125	21.130	21.101	21.072	21.043	21.014

台座コンクリート詳細図 S=1:30

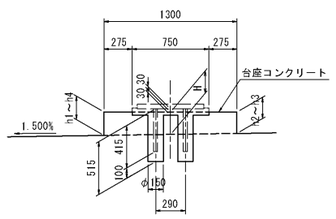
G6 ～ G8



A － A



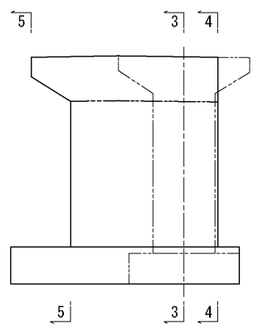
B － B



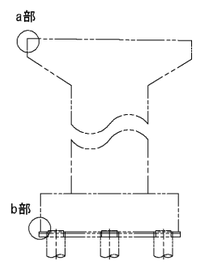
台座コンクリート高表

	G8	G7	G6
H	216	219	217
h1	242	245	243
h2	223	226	224
h3	190	193	191
h4	209	212	210

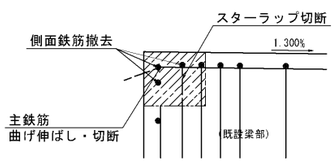
位置図



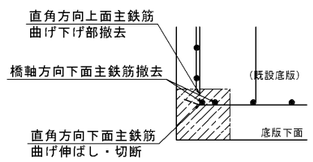
既設橋脚はつり部鉄筋切断概要図 S=1:20



a部詳細図



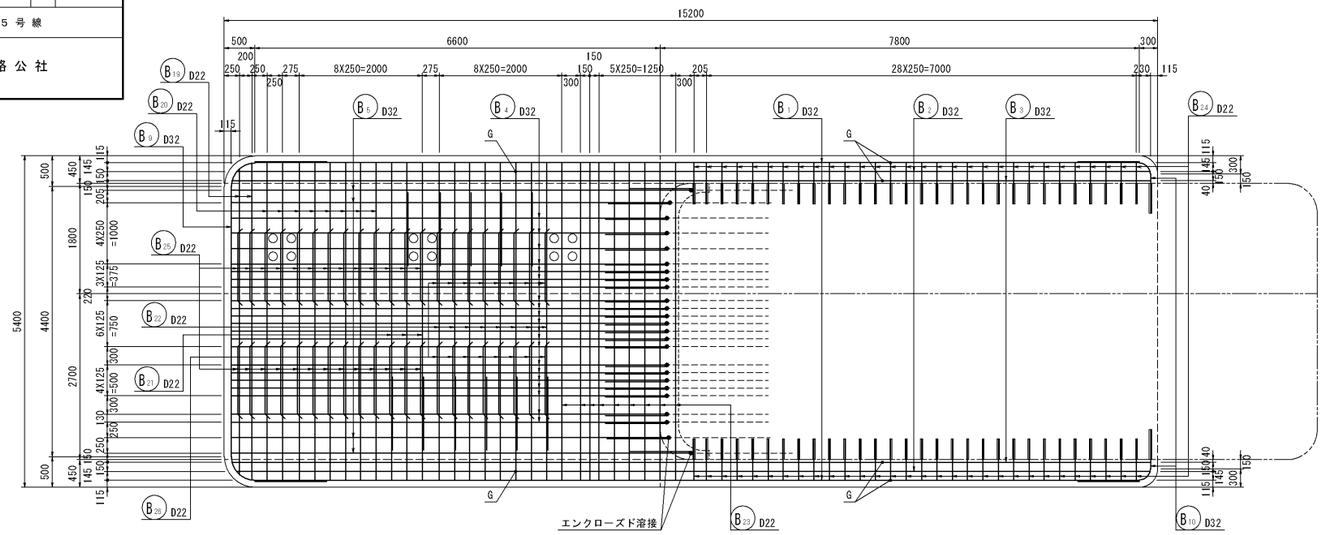
b部詳細図



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	9 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その１）	番号	1／11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

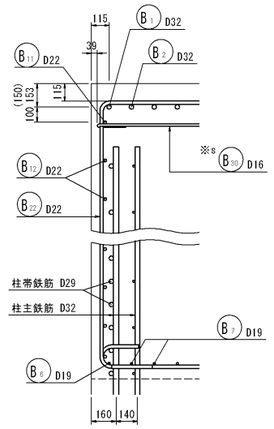
中山 P1 橋脚補強配筋図（その1） S=1:50

1 － 1

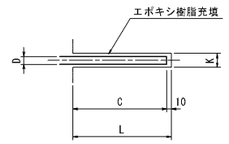


梁かぶり詳細図 S=1:20

注（ ）内寸法は既設側を示す。

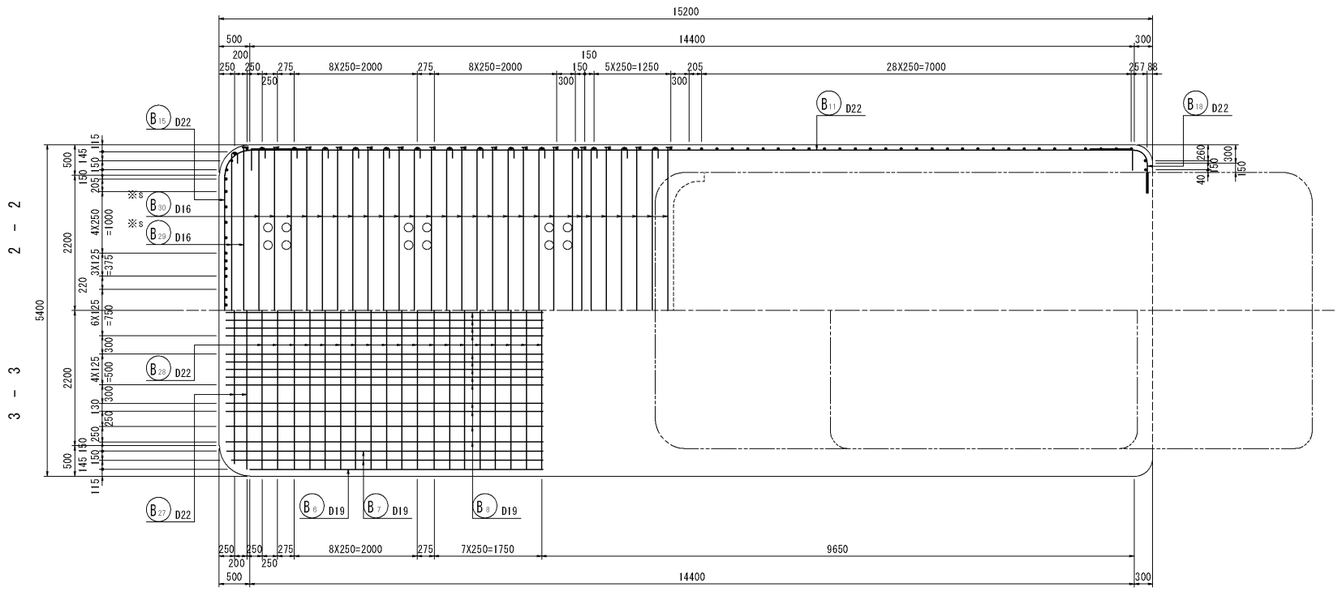


樹脂アンカー詳細図

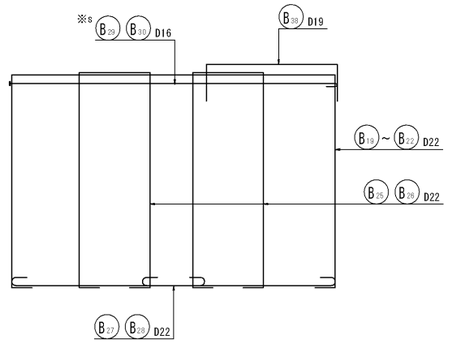


鉄筋径(D)	削孔長(L)	埋込長(C)	削孔径(K)
D22	340	330	φ32
D32	490	480	φ42

2 － 2

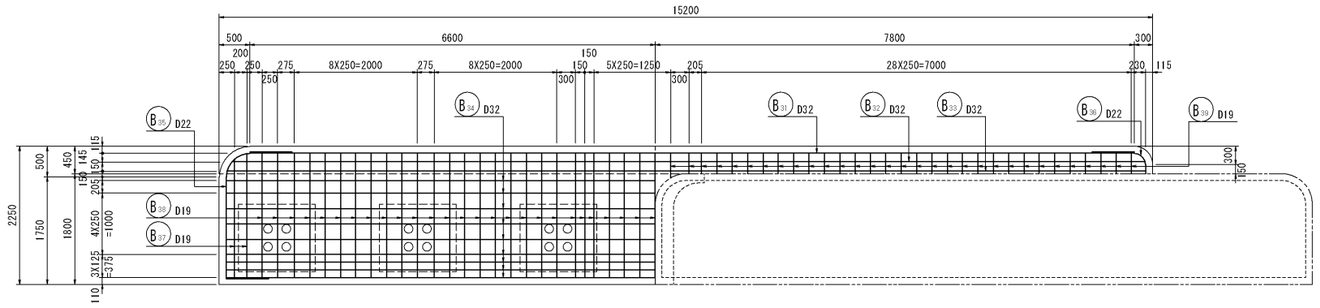


鉄筋組立図

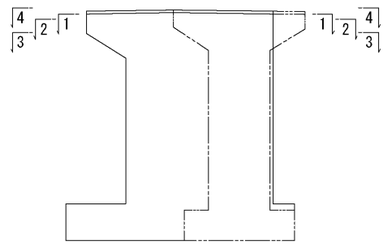


3 － 3

4 － 4



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

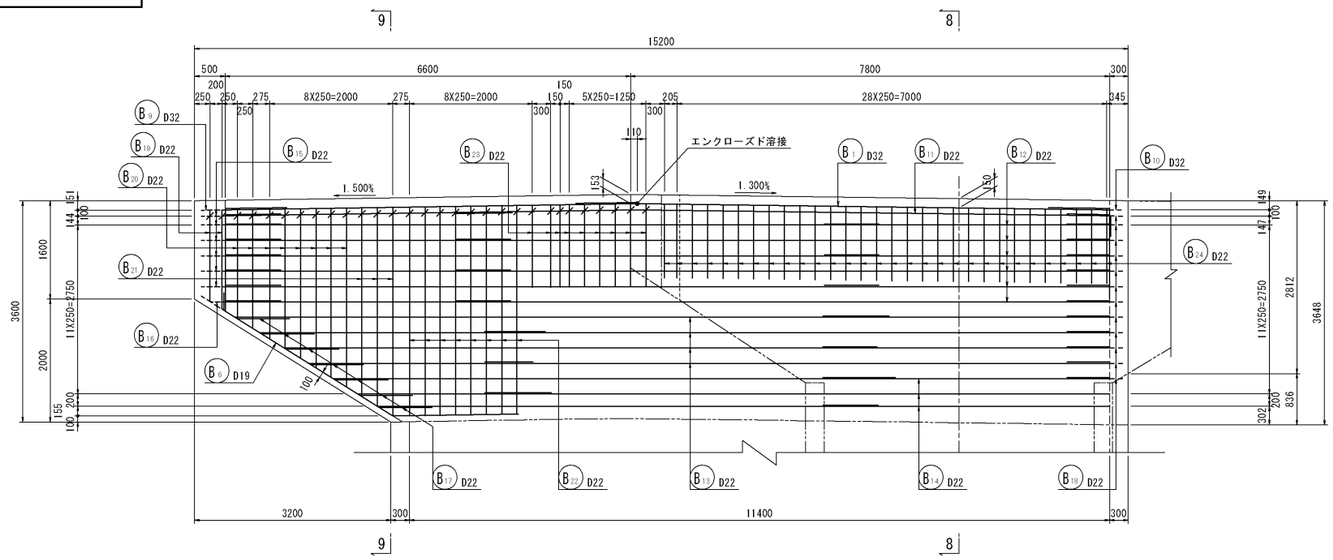
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

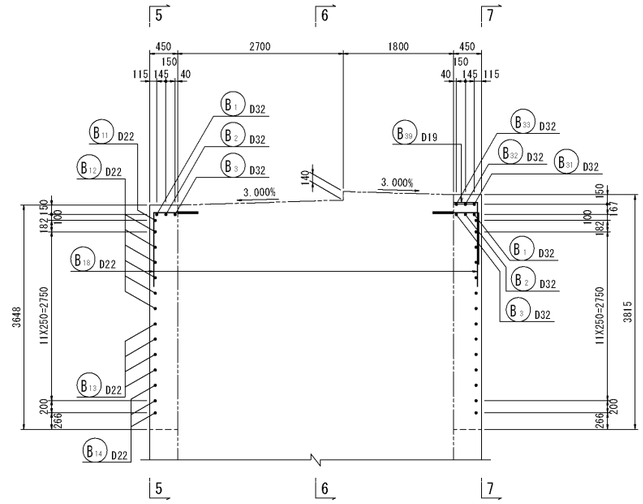
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	10 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山P1橋脚 補強配筋図（その2）	番号	2 ／ 11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

中山 P1橋脚補強配筋図（その2） S=1:50

5 － 5

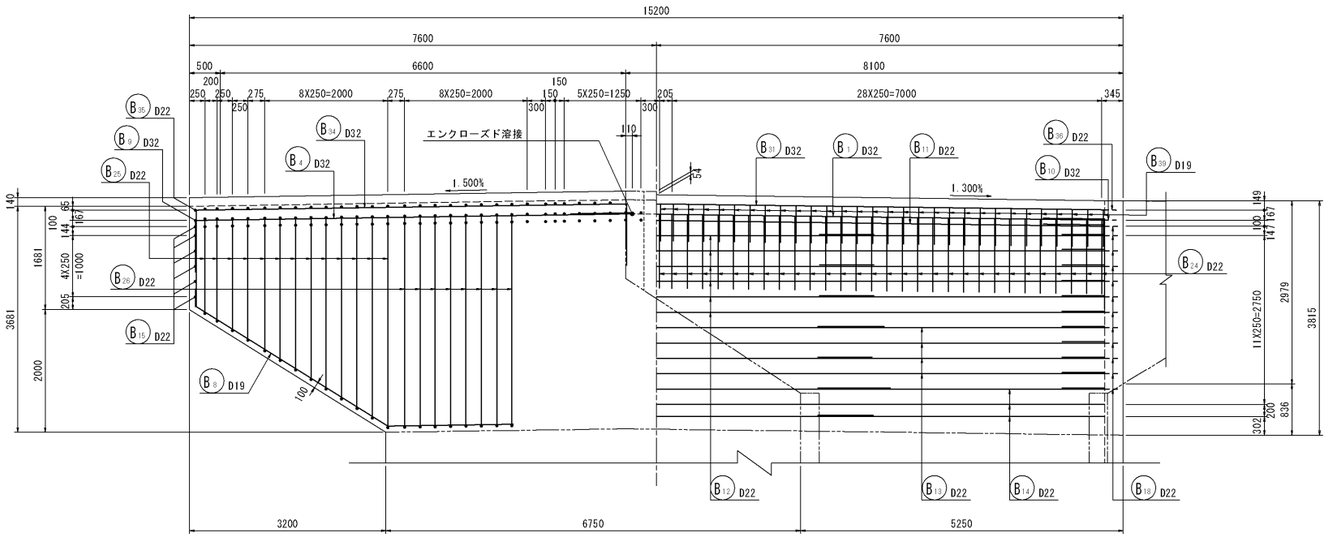


8 － 8

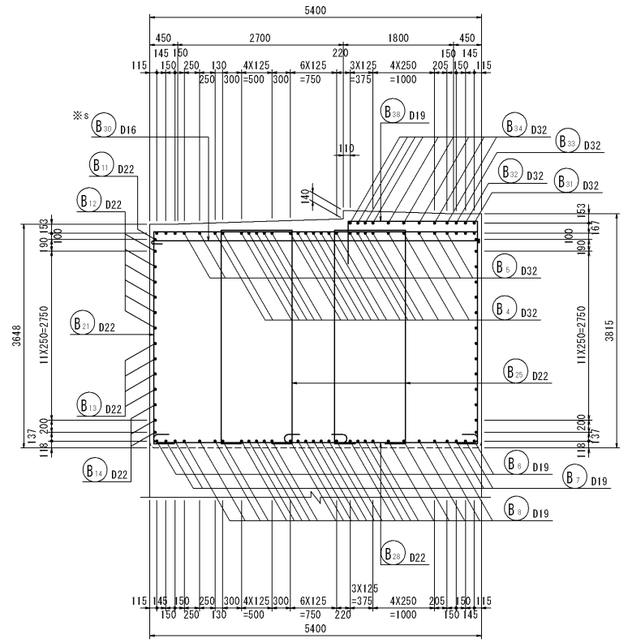


6 － 6

7 － 7



9 － 9



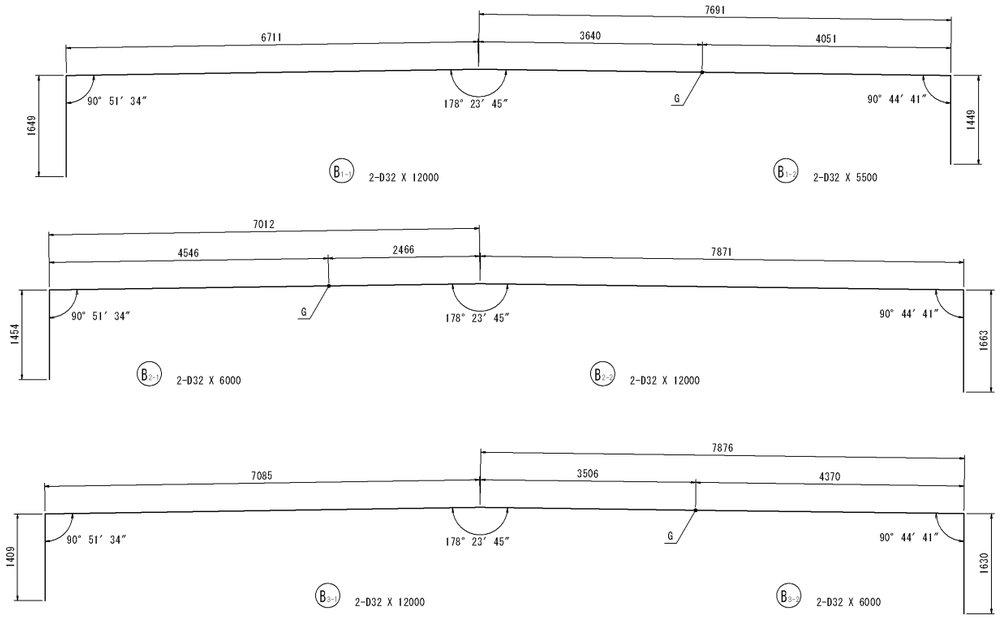
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

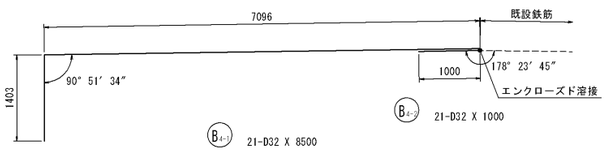
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

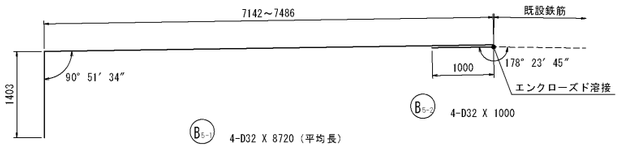
中 山 P 1 橋 脚 補 強 配 筋 図（その3）

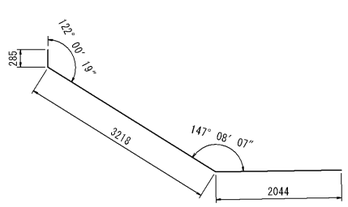
S=1:50

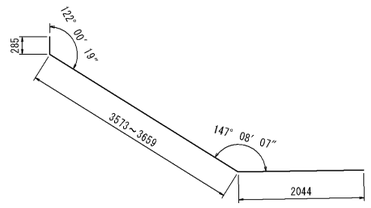
工 事 名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	11 ／ 110	縮 尺	図 示
図 名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その３）	番号	3 ／ 11
路線名	広 島 高 速 5 号 線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

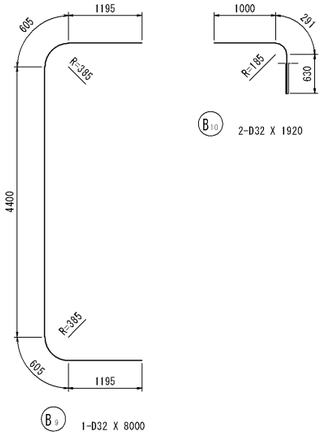


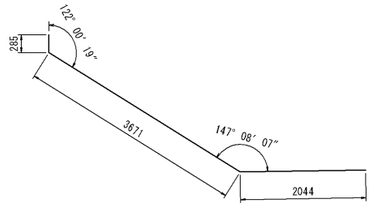


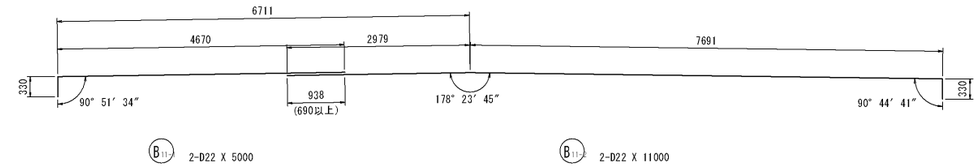


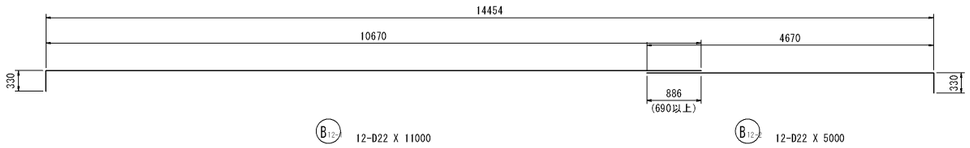


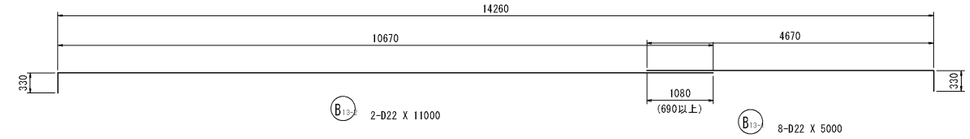


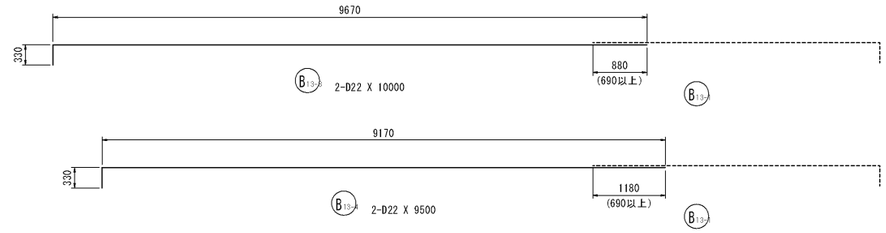


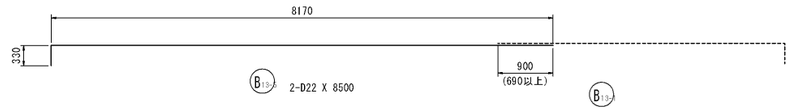


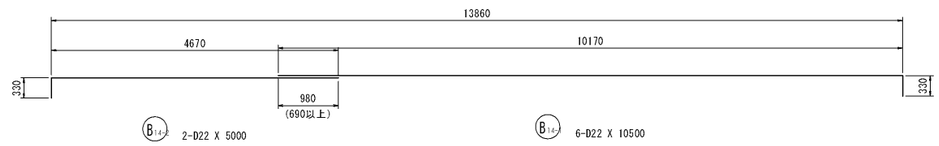


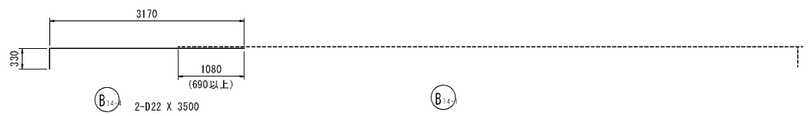


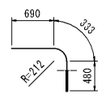


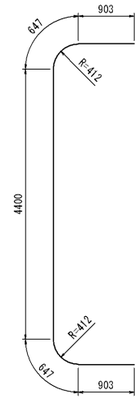


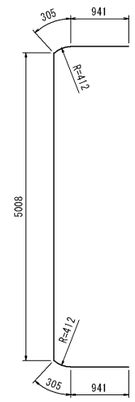








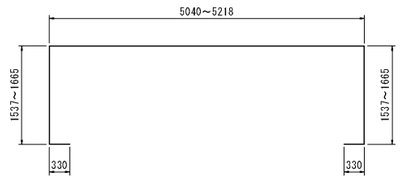




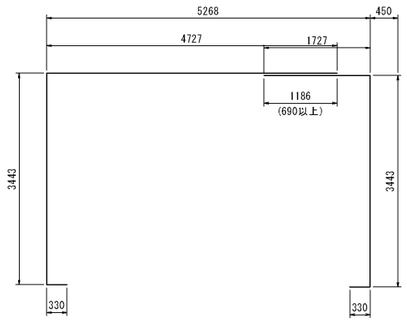
中 山 P 1 橋 脚 補 強 配 筋 図（その4）

S=1:50

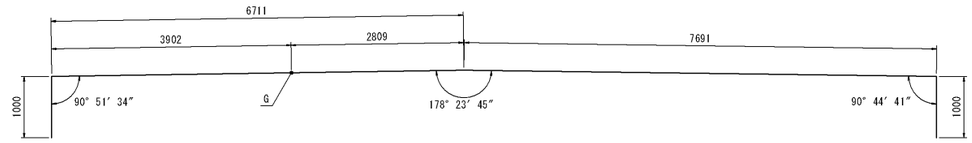
工 事 名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	12 ／ 110	縮 尺	図 示
図 名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その４）	番 号	4 ／ 11
路 線 名	広 島 高 速 5 号 線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



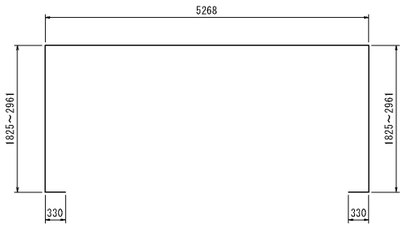
B19 2-D22 X 8990（平均長）



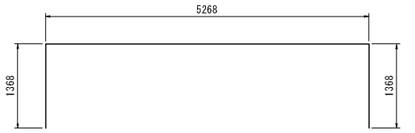
B22 8-D22 X 8500　B22-2 8-D22 X 5500



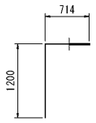
B31 1-D32 X 4900　B31-2 1-D32 X 11500



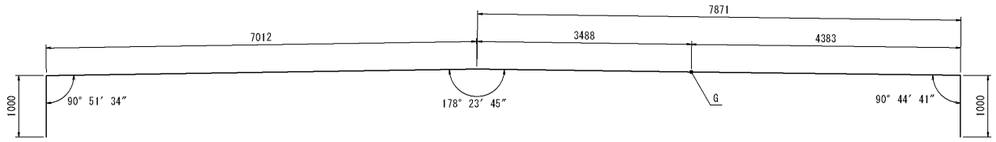
B20 8-D22 X 10710（平均長）



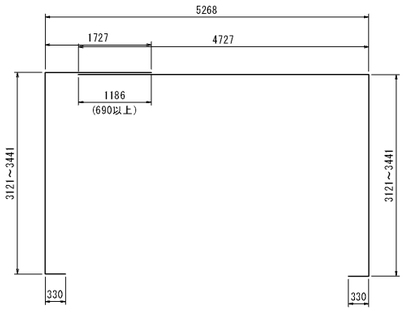
B23 9-D22 X 8000



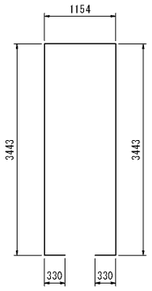
B24 60-D22 X 1910



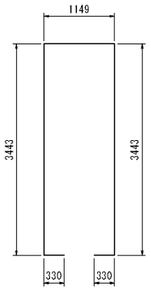
B32 1-D32 X 11500　B32-2 1-D32 X 5380



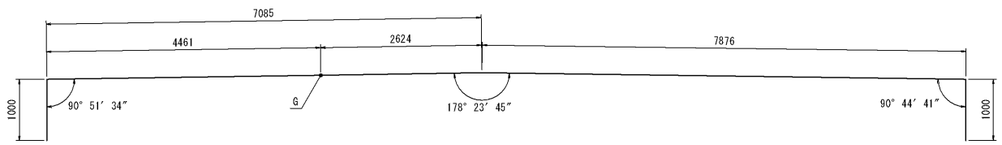
B21 3-D22 X 5340（平均長）　B21-2 3-D22 X 8340（平均長）



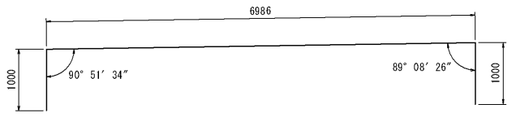
B26 8-D22 X 8700



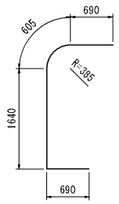
B26-2 8-D22 X 8700



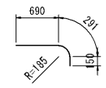
B33 1-D32 X 5460　B33-2 1-D32 X 11500



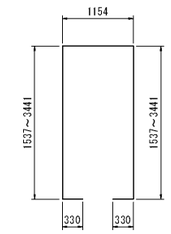
B34 9-D32 X 8990



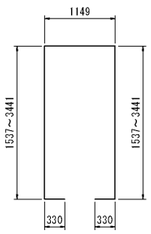
B35 1-D22 X 3620



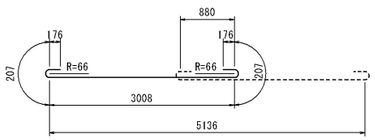
B36 1-D22 X 1130



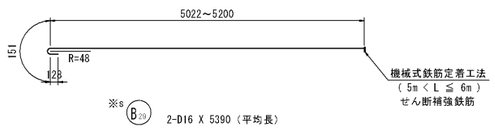
B25 13-D22 X 6790（平均長）



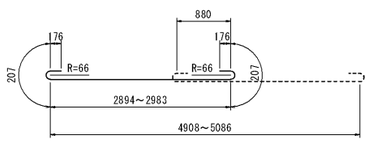
B25-2 13-D22 X 6790（平均長）



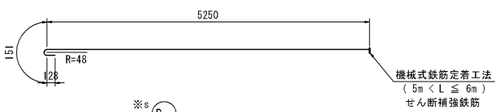
B28 38-D22 X 3770



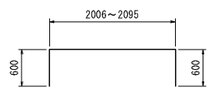
※s B29 2-D16 X 5390（平均長）



B27 4-D22 X 3700（平均長）

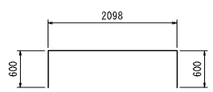


※s B30 28-D16 X 5530



B37 2-D19 X 3250（平均長）

B39-2 30-D19 X 980



B38 27-D19 X 3300

B39-3 1-D19 X 1050

注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

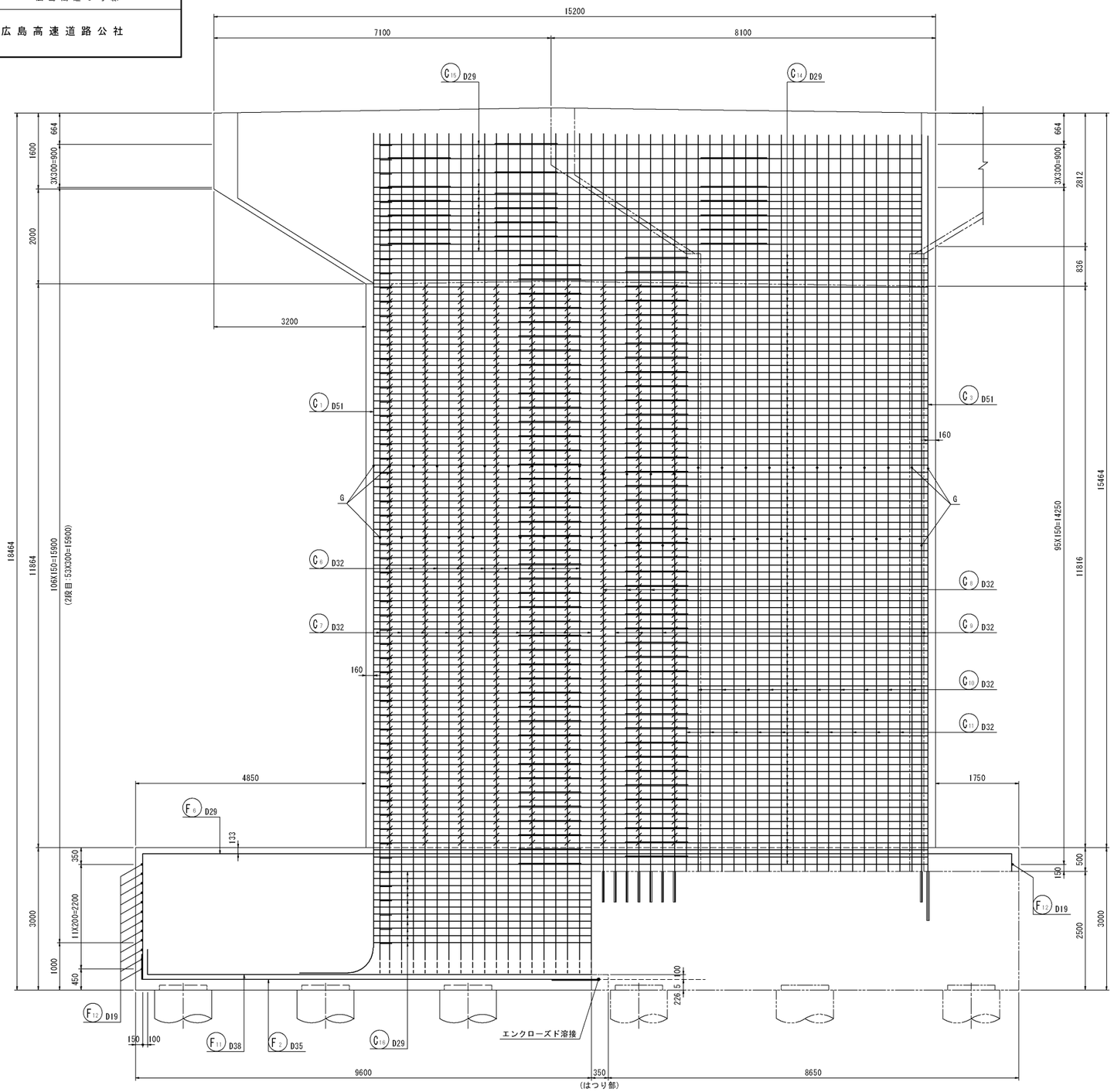
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	13 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山P1橋脚 補強配筋図（その5）	番号	5／11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

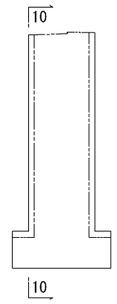
中山 P1橋脚補強配筋図（その5）

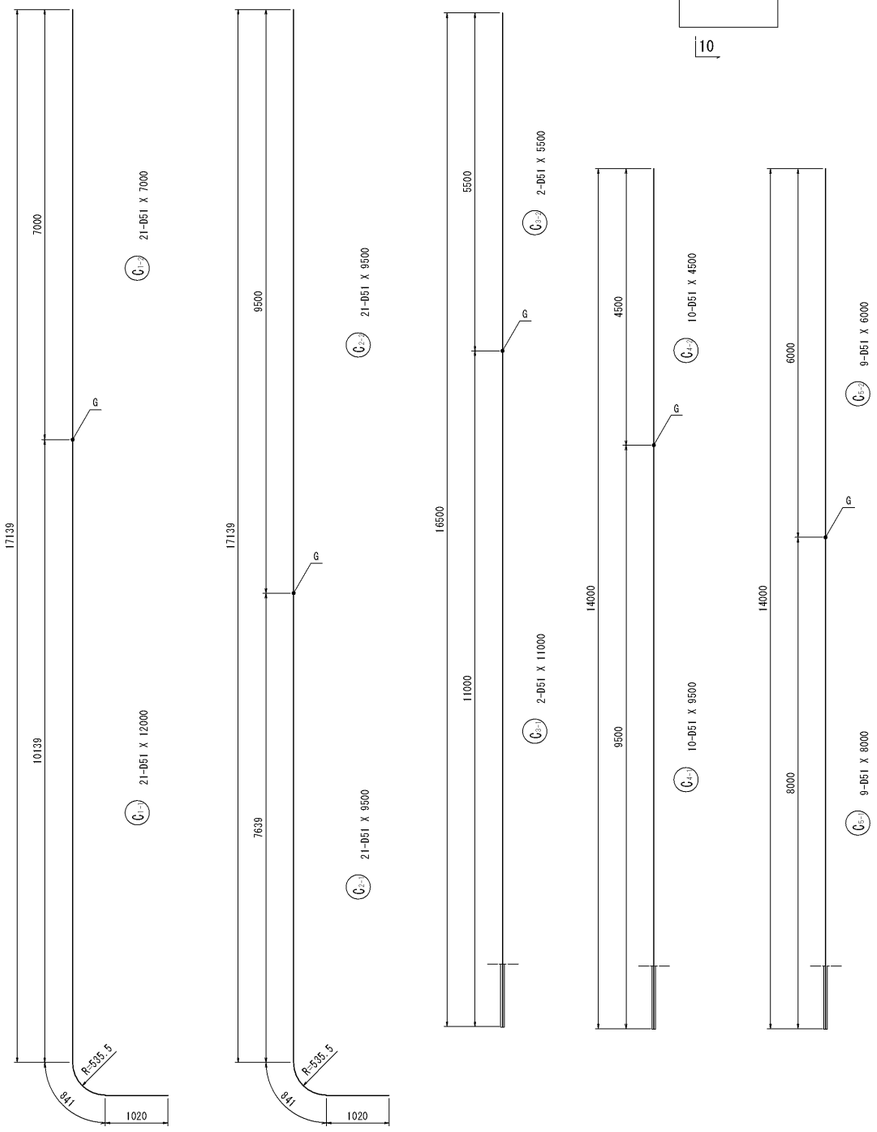
S=1:50

10 － 10（1段目）



位置図

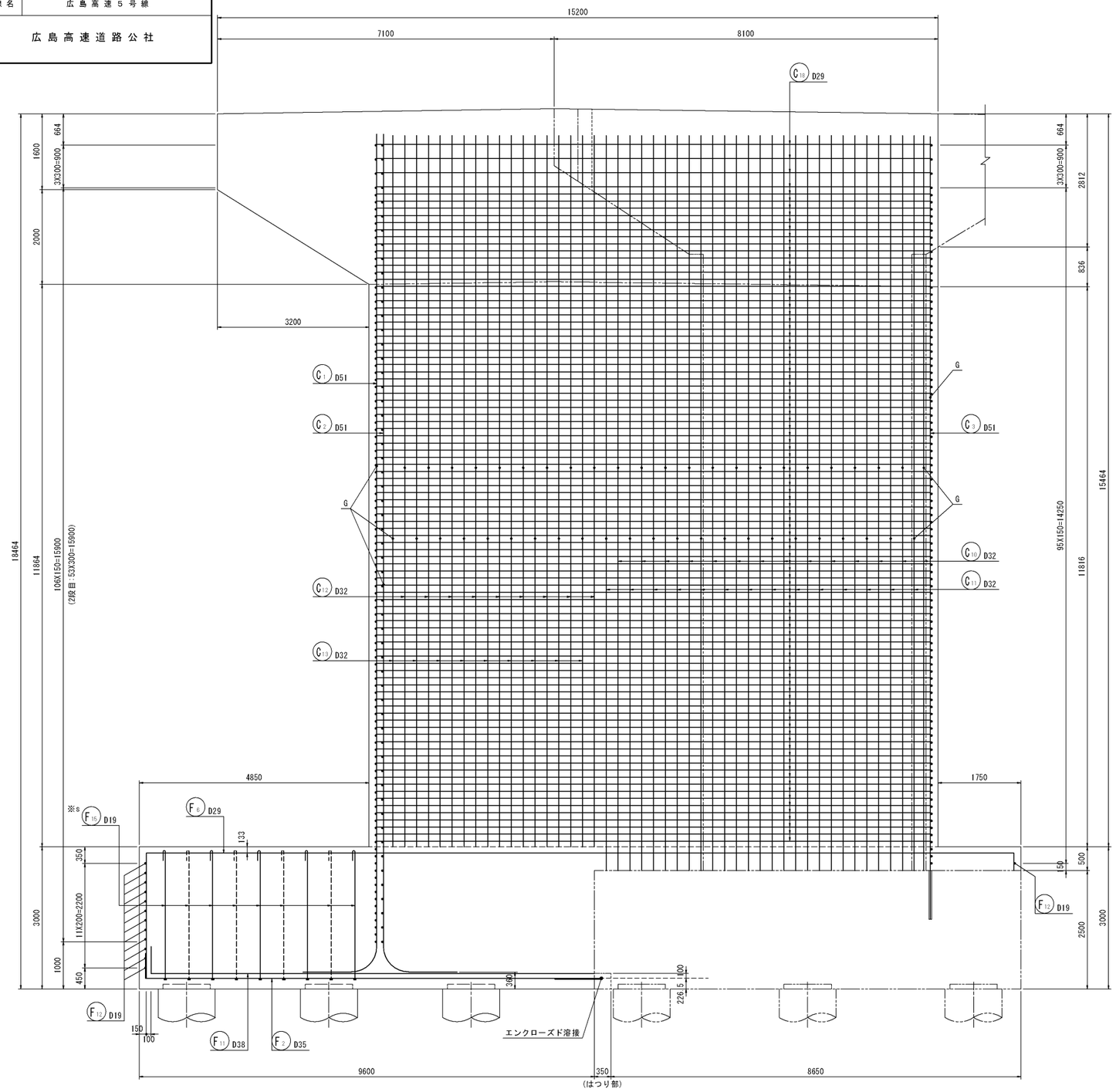


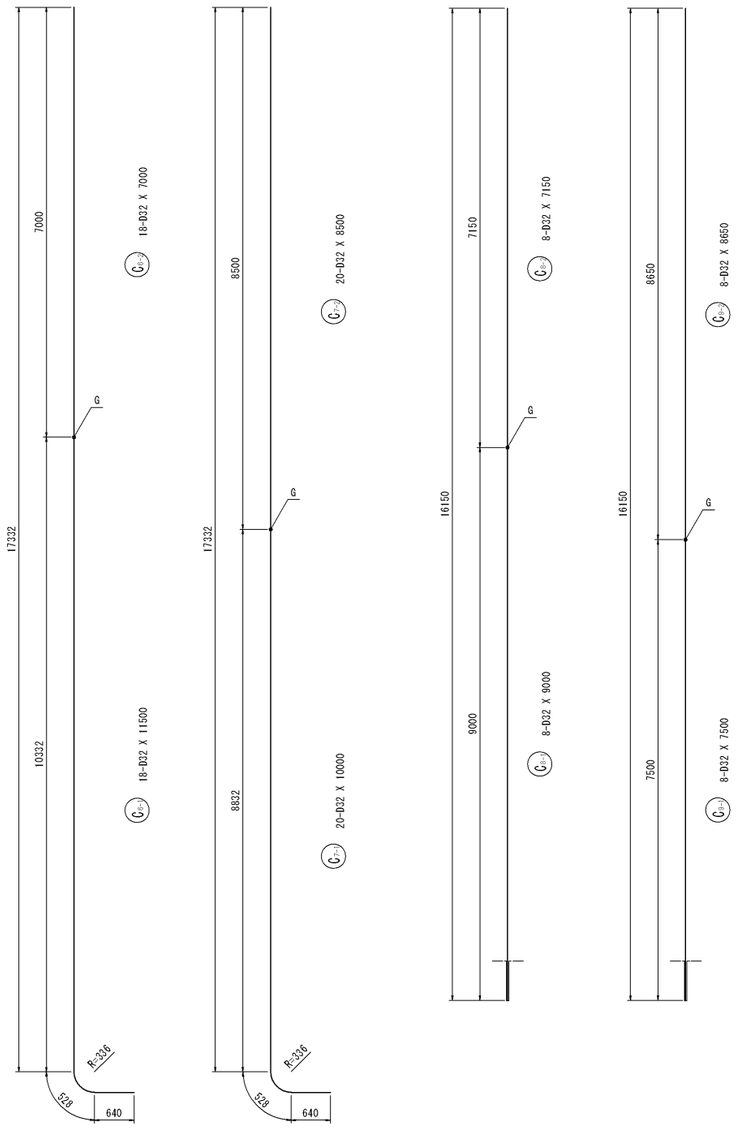


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	14 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山P1橋脚 補強配筋図（その6）	番号	6 ／ 11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

中山 P1橋脚補強配筋図（その6） S=1:50

10 － 10（2段目）





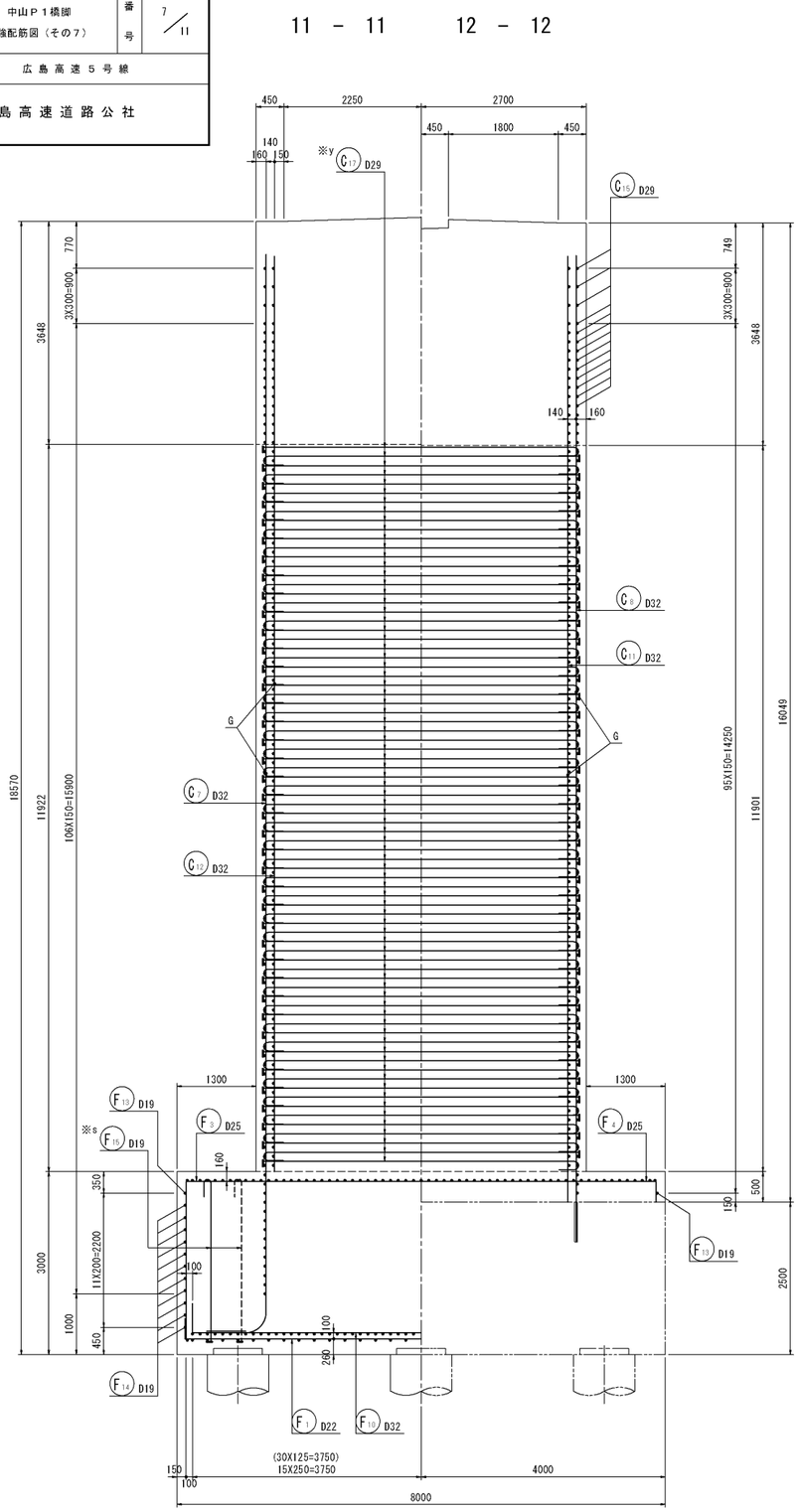
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

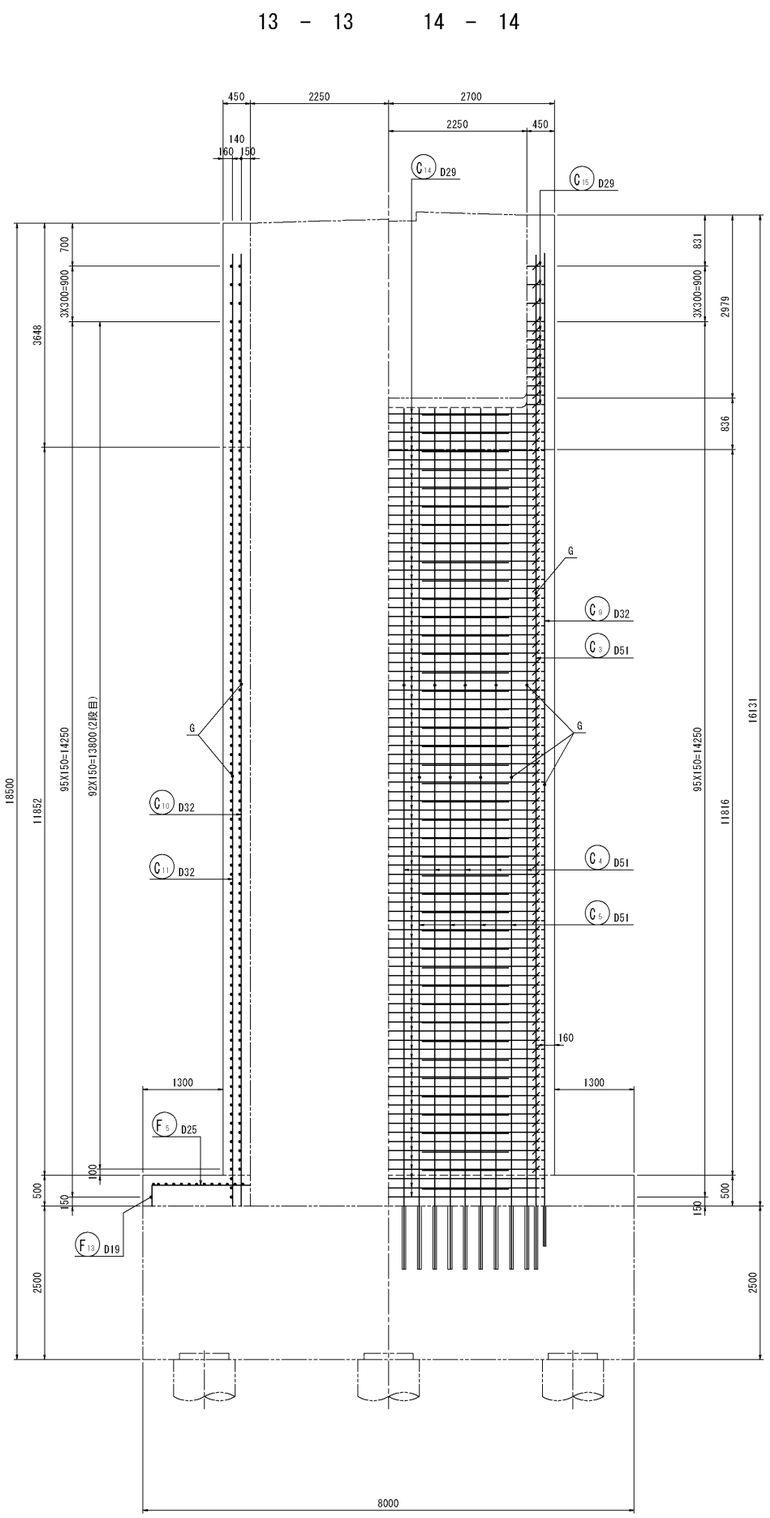
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

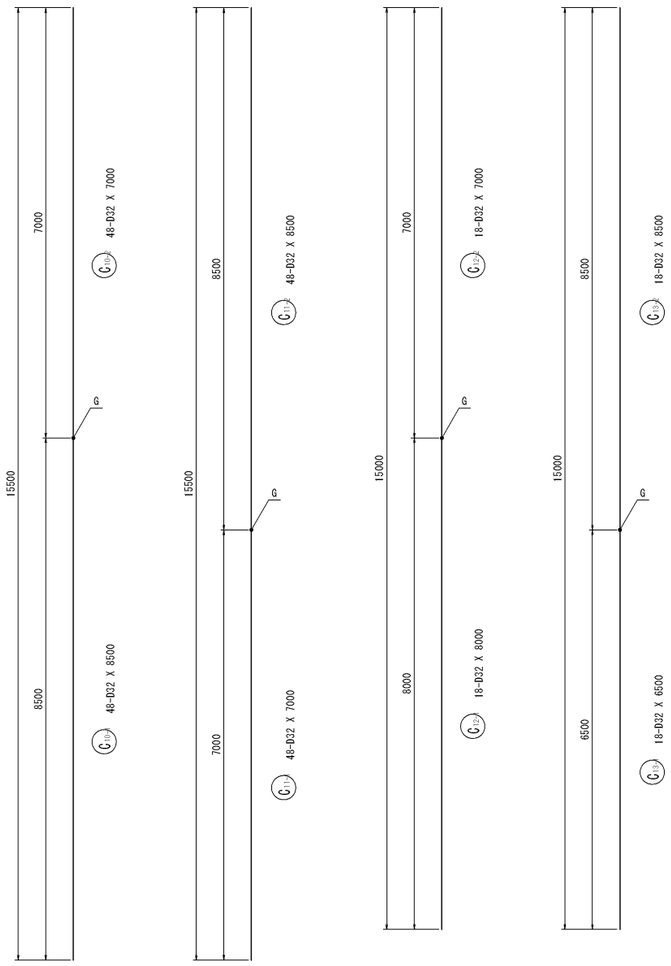
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	15 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山P1橋脚 補強配筋図（その7）	番号	7／11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

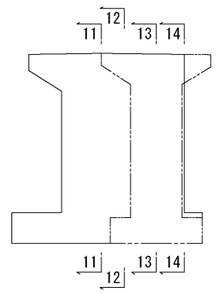
中山 P1橋脚補強配筋図（その7） S=1:50







位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

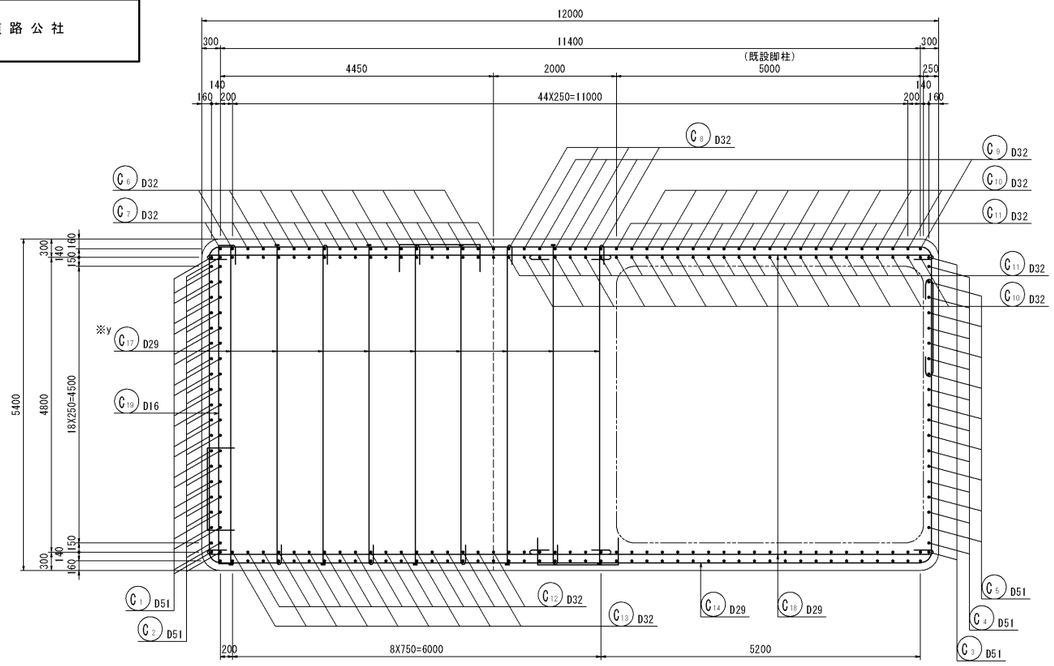
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	16 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その８）	番号	8／11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

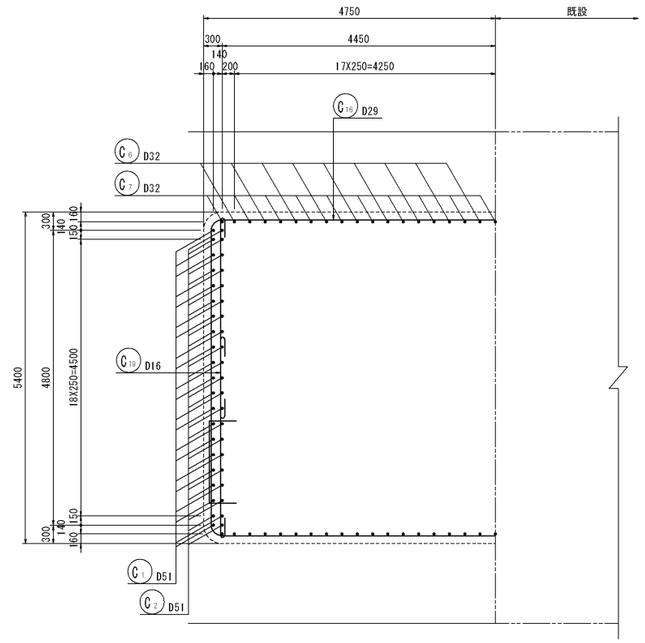
中山 P1橋脚補強配筋図（その8） S=1:50

15 － 15

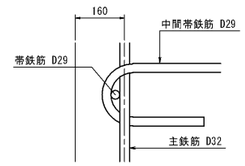


17 － 17

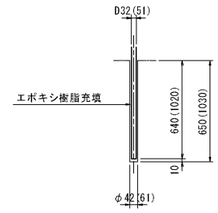
（底版内部）



中間帯鉄筋詳細図 S=1:10

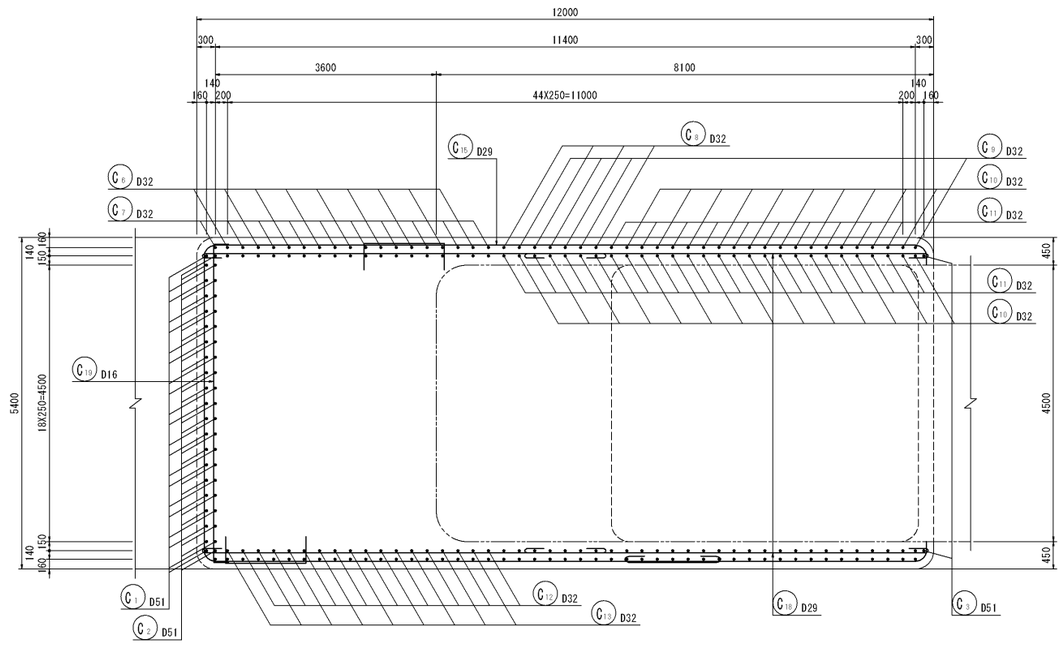


樹脂アンカー詳細図

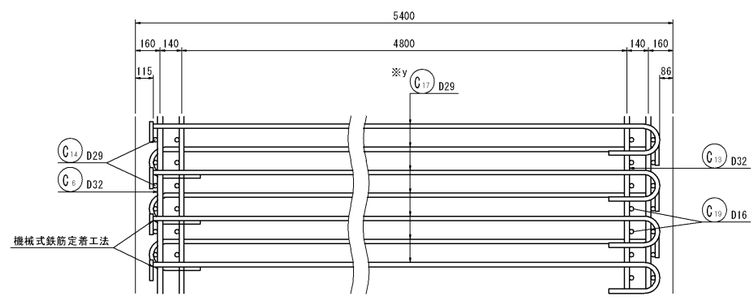


16 － 16

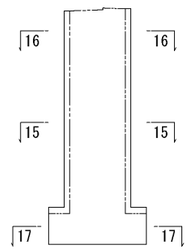
（梁内部）



柱かぶり詳細図 S=1:20



位置図

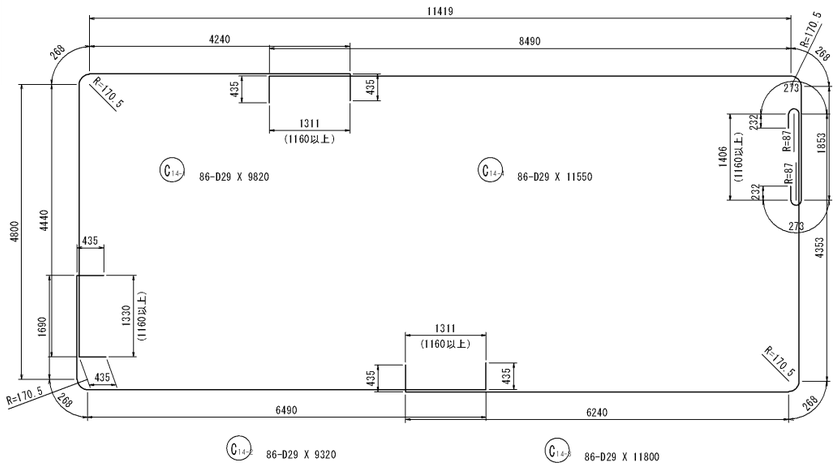


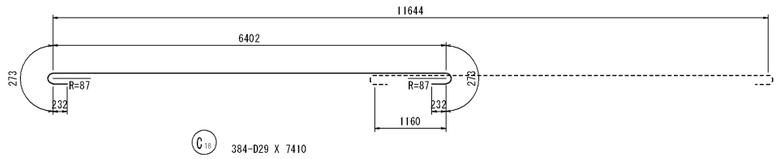
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

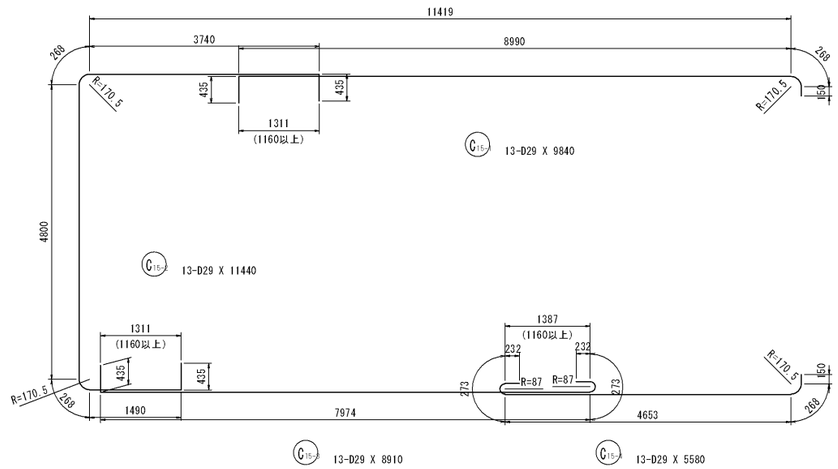
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	17 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その９）	番号	9 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

中山 P1橋脚補強配筋図（その9） S=1:50



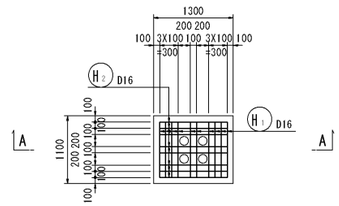


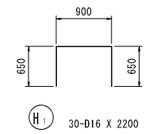


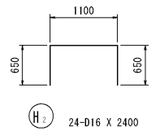
台座コンクリート配筋図

G6 ～ G8

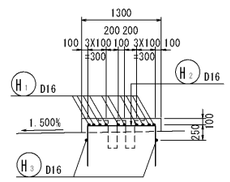
平面図

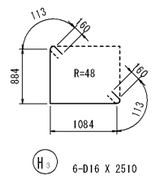


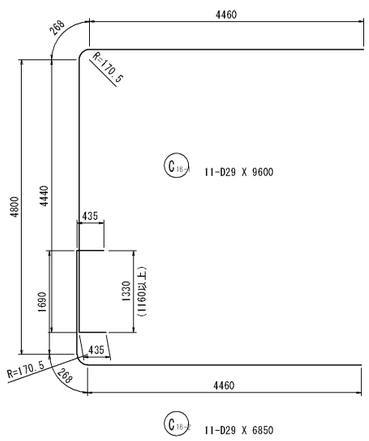


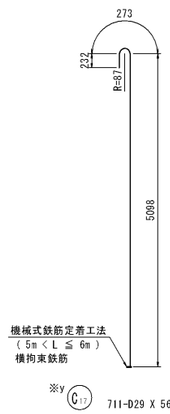


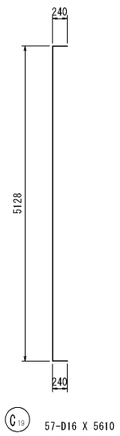
断面図
(A － A)











注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

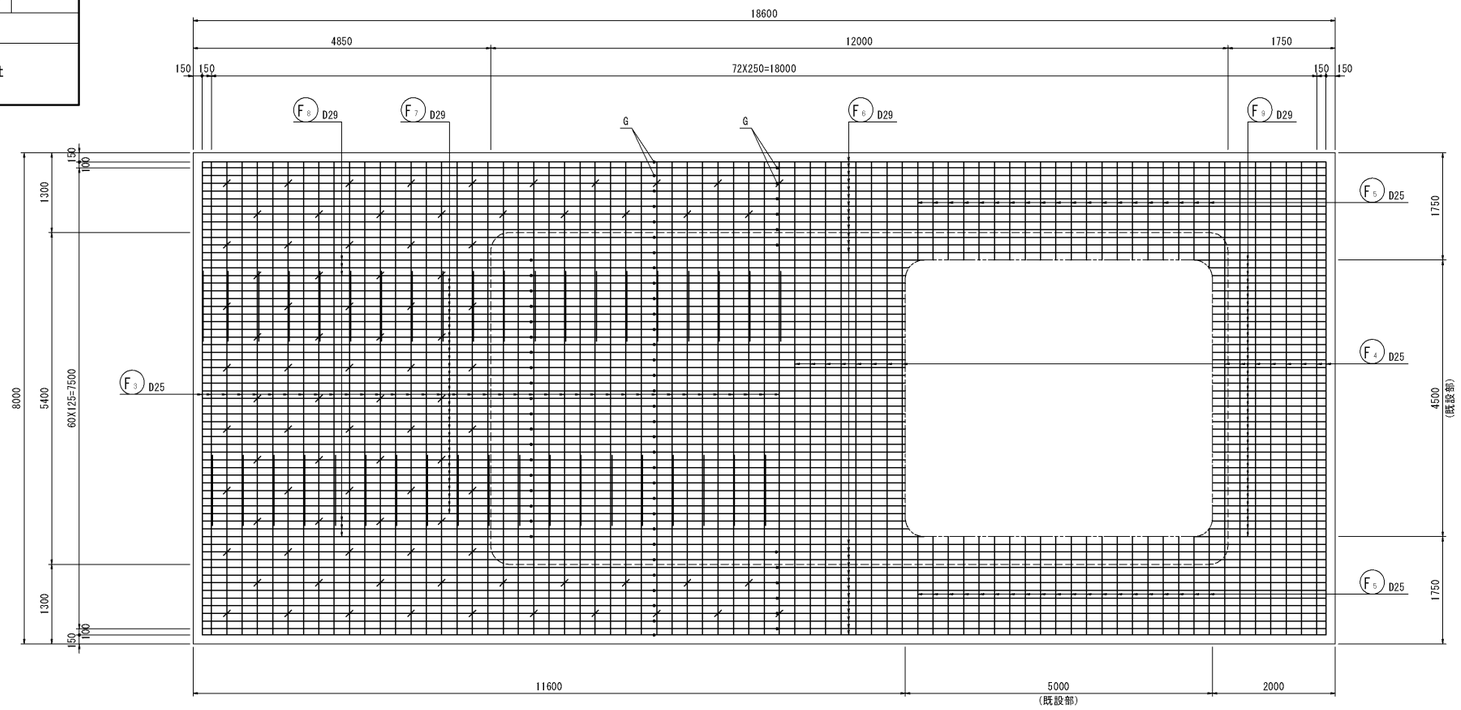
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

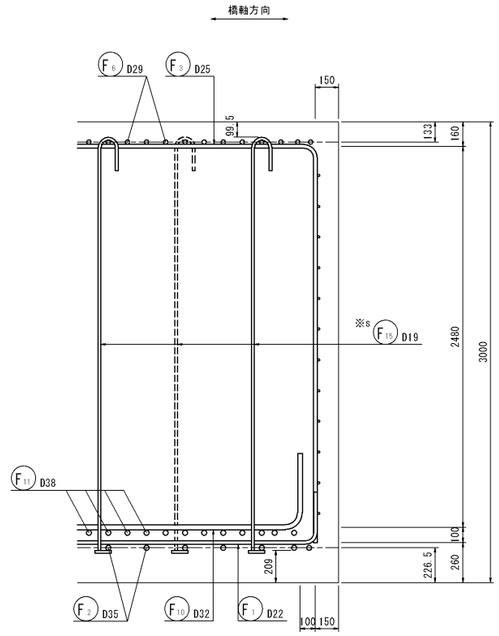
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	18 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	中山Ｐ１橋脚 補強配筋図（その１０）	番号	10／11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

中山 P1橋脚補強配筋図（その10） S=1:50

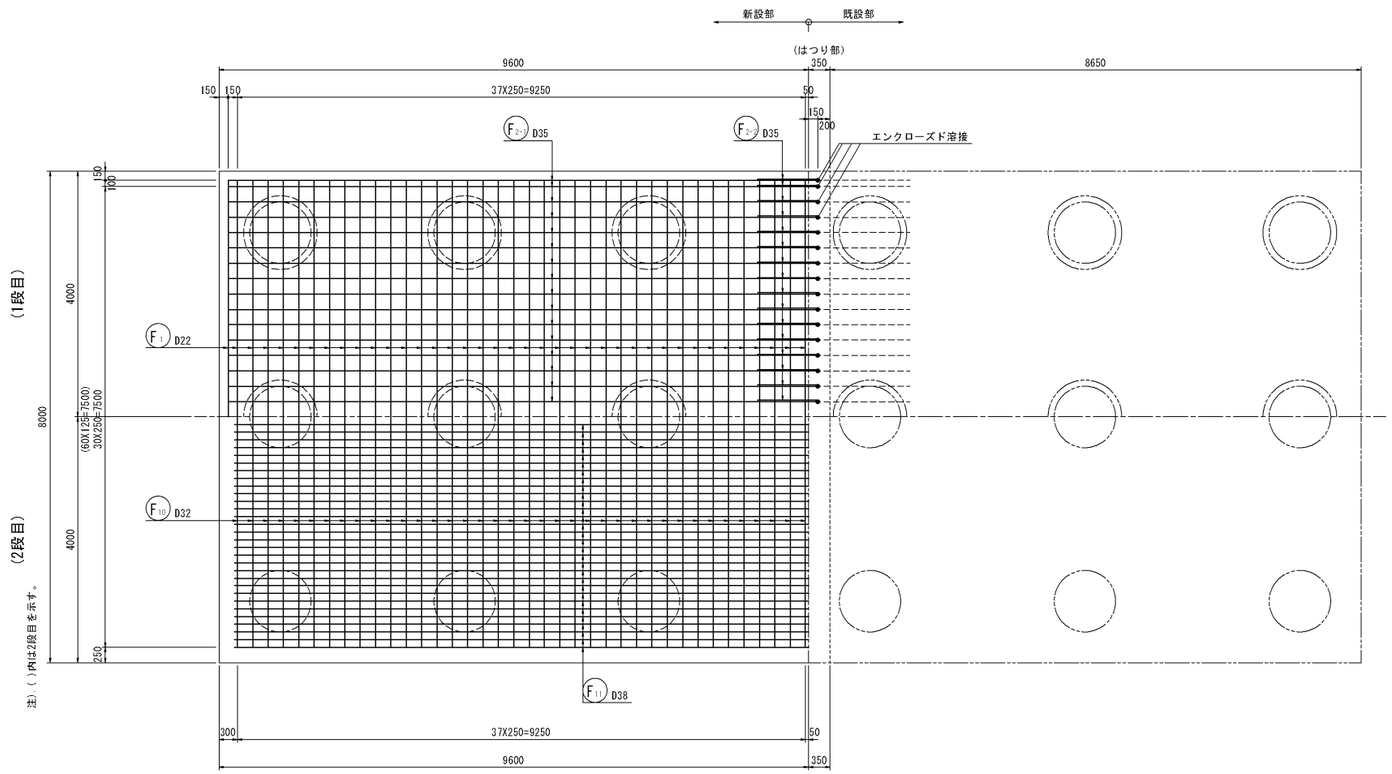
18 － 18（上面）



底版かぶり詳細図 S=1:20

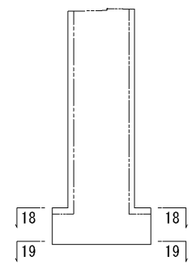


19 － 19（下面）



注）（ ）内は2段目を示す。

位置図

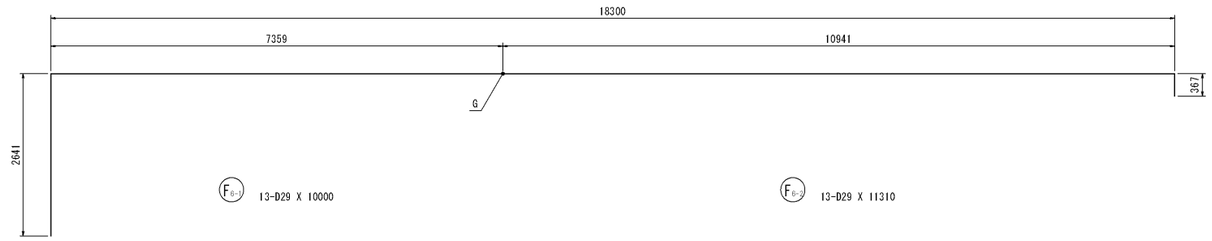


注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

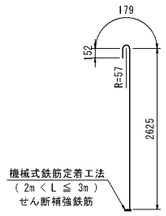
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	19 ／ 110	縮尺	図示
図名	中山P1橋脚 補強配筋図（その11）	番号	11 ／ 11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

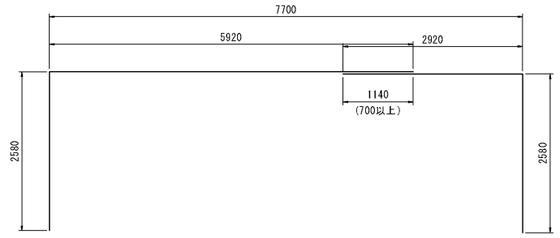
中山 P1橋脚補強配筋図（その11） S=1:50



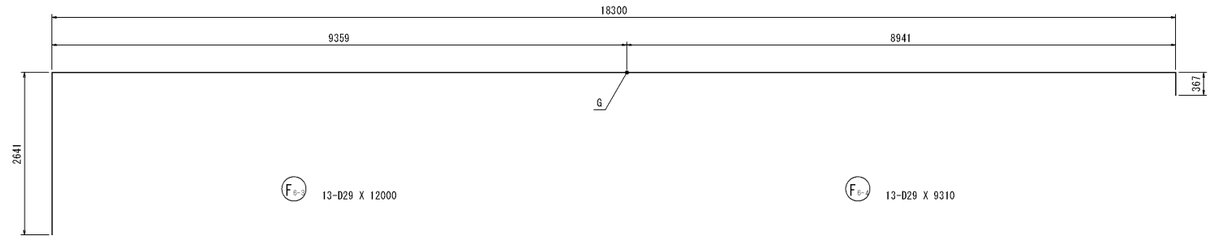
F6-1 13-D29 X 10000　F6-2 13-D29 X 11310



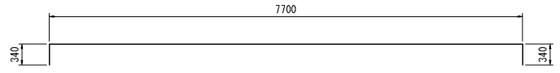
※8 F15 88-D19 X 2960



F3-1 39-D25 X 8500　F3-2 39-D25 X 5500



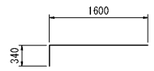
F6-3 13-D29 X 12000　F6-4 13-D29 X 9310



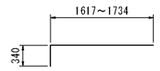
F4 16-D25 X 8380

F9-1 31-D29 X 2220

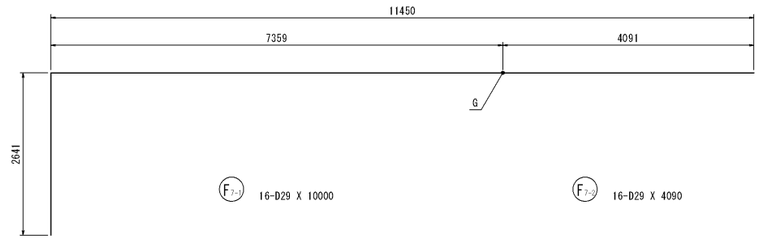
F6-5 6-D29 X 2370（平均長）



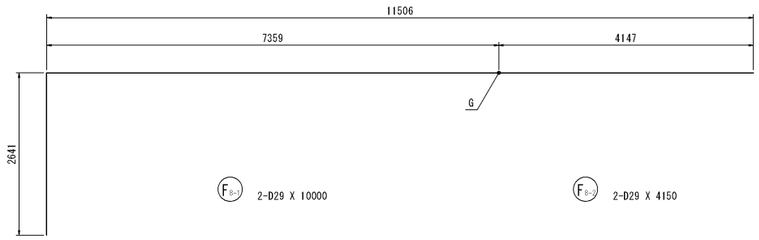
F5-1 36-D25 X 1940



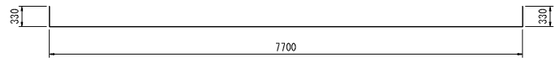
F5-2 4-D25 X 2020（平均長）



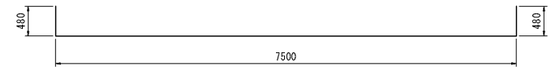
F7-1 16-D29 X 10000　F7-2 16-D29 X 4090



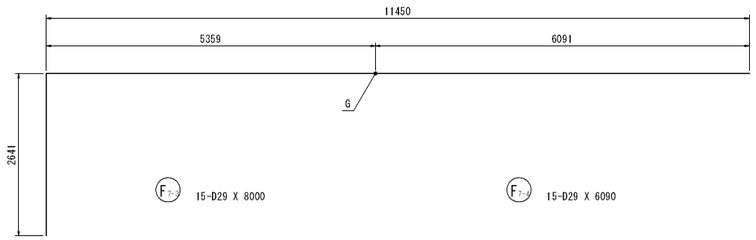
F8-1 2-D29 X 10000　F8-3 2-D29 X 4150



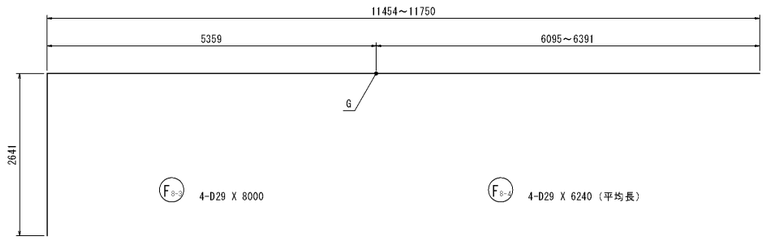
F1 39-D22 X 8360



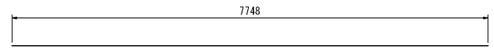
F10 38-D32 X 8460



F7-3 15-D29 X 8000　F7-4 15-D29 X 6090

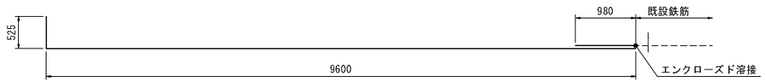


F8-2 4-D29 X 8000　F8-4 4-D29 X 6240（平均長）

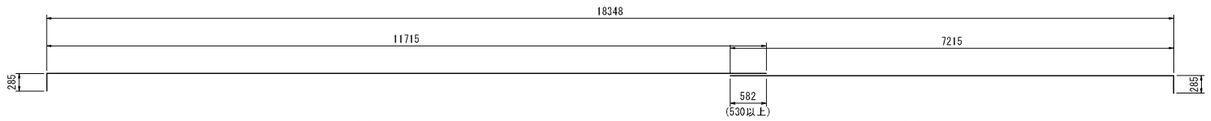


F12 13-D19 X 7750

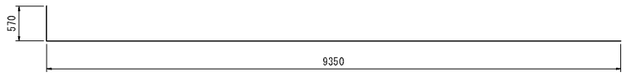
F2-2 33-D35 X 980



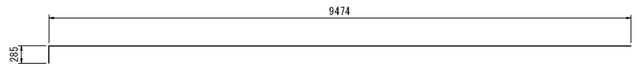
F2-1 33-D35 X 10130



F13-1 2-D19 X 12000　F13-2 2-D19 X 7500



F11 61-D38 X 9920

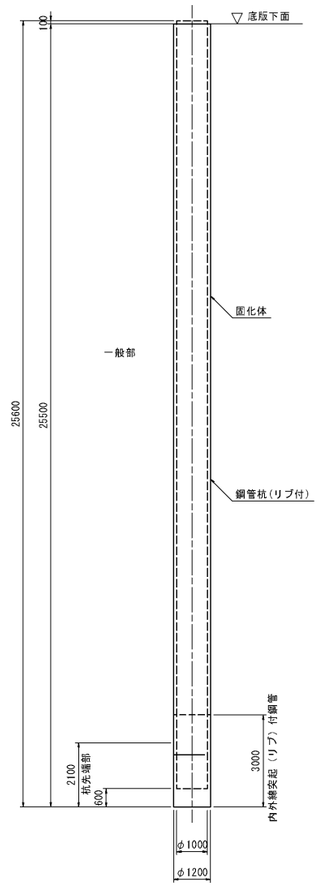


F14 22-D19 X 9760

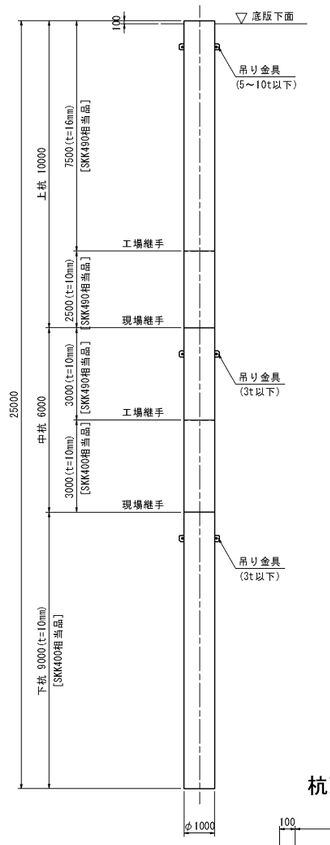
中山P1橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1）

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	20 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	中山Ｐ１橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

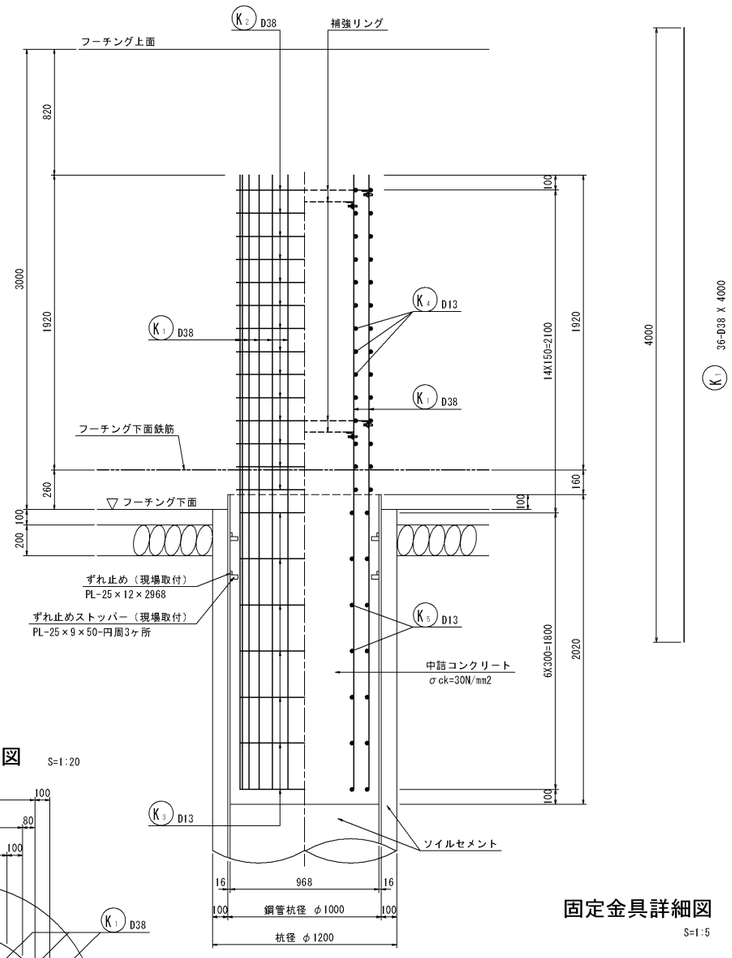
杭構成図 S=1:100

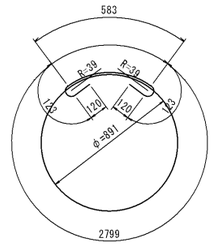


鋼管杭構成図 S=1:100

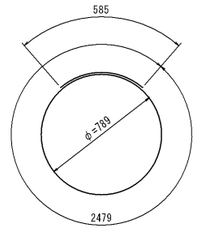


杭頭部詳細図 S=1:20

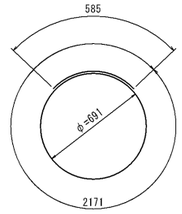




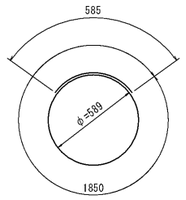
K2 14-D13 X 3870



K3 7-D13 X 3060

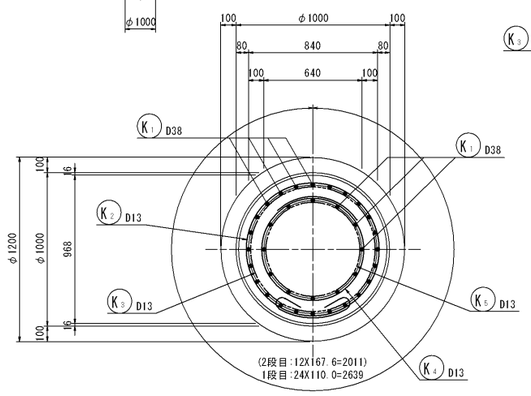


K4 14-D13 X 2760

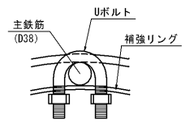


K5 7-D13 X 2440

杭頭部断面図 S=1:20



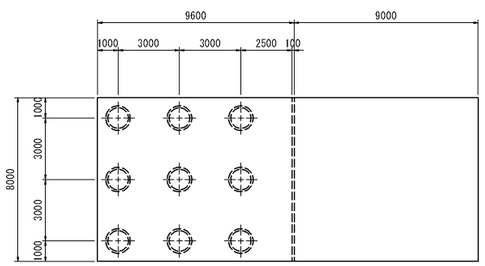
固定金具詳細図 S=1:5



Ｕボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

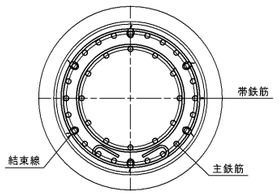
P1橋脚杭配置図 S=1:150

n=9本



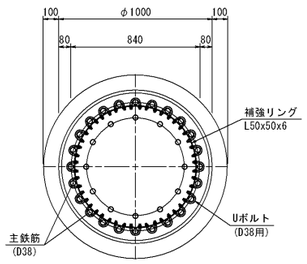
主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図 S=1:20

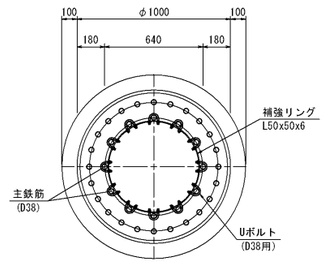
注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



主鉄筋と帯鉄筋は番線結束とする。

補強リングと主筋金具詳細図 S=1:20





※1. Ｕボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

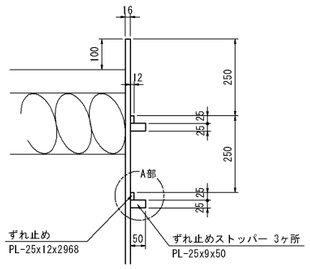
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1200(φ1000)
鋼　管		SKK400, 490
コンクリート	底　版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄　筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	21 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	中山Ｐ１橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その２）	番号	2／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

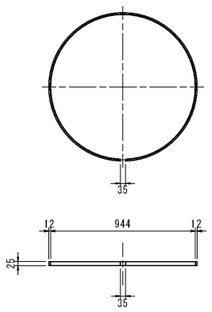
中山P1橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2）

ずれ止め詳細図 S=1:10

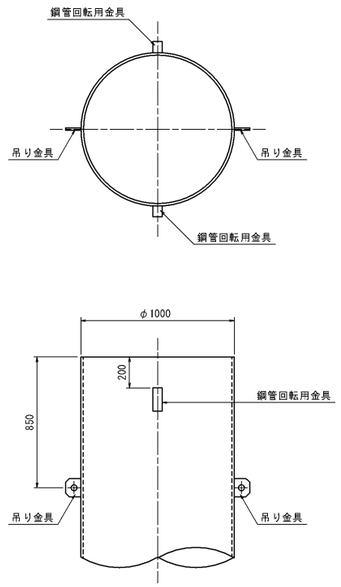


ずれ止め取付詳細図 S=1:20

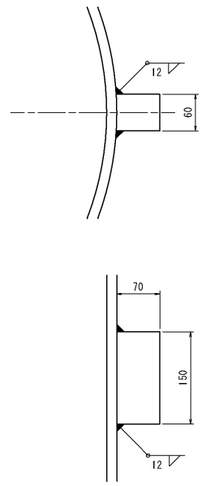
（ニュートラルライン）



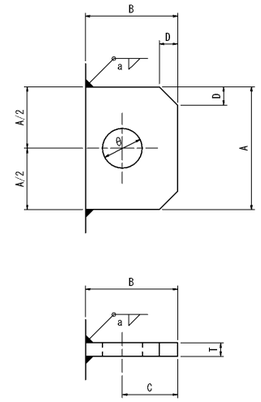
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図 S=1:20



鋼管回転用金具詳細図 S=1:5

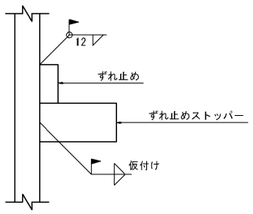


吊金具詳細図 S=1:5



種　別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/箇	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2
10～20t以下	300	250	22	80	15	150	50	17	2

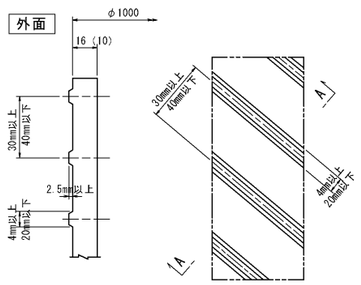
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

A － A　　正面図

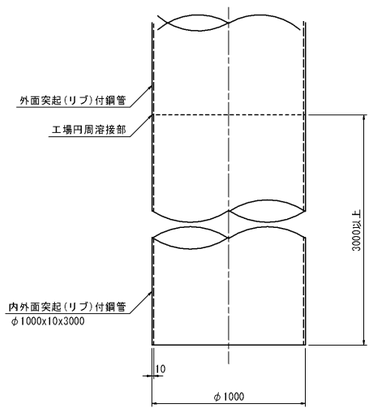


特記事項

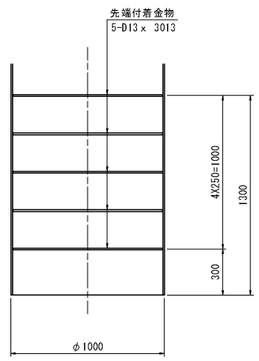
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

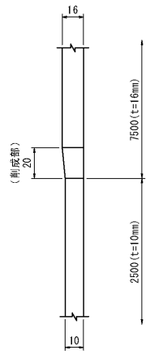
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付



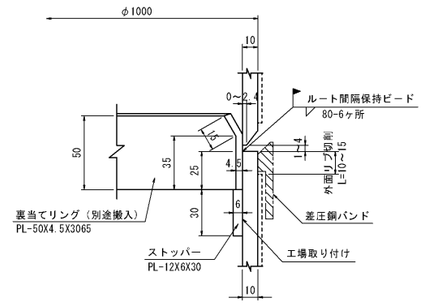
工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

（差厚鋼バンド使用時）

t=10mmの場合

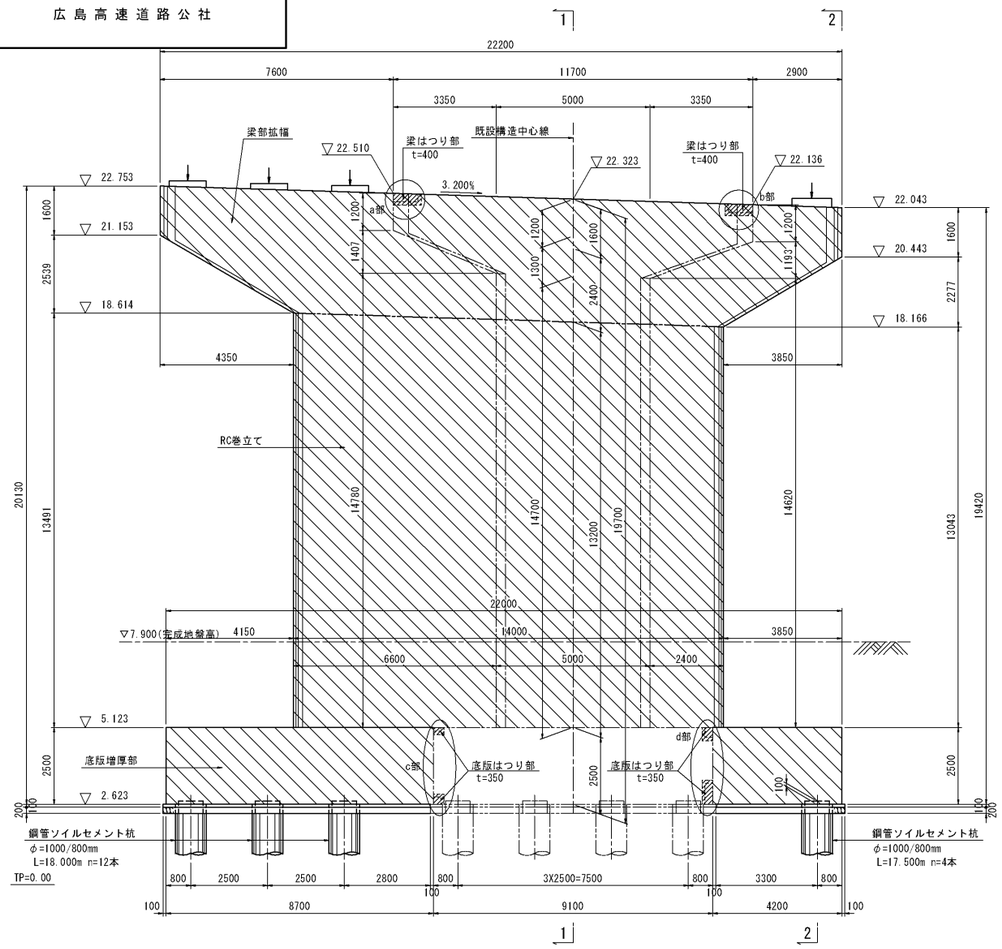


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	22 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ５橋脚 補強構造図（その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ５橋脚補強構造図（その1）

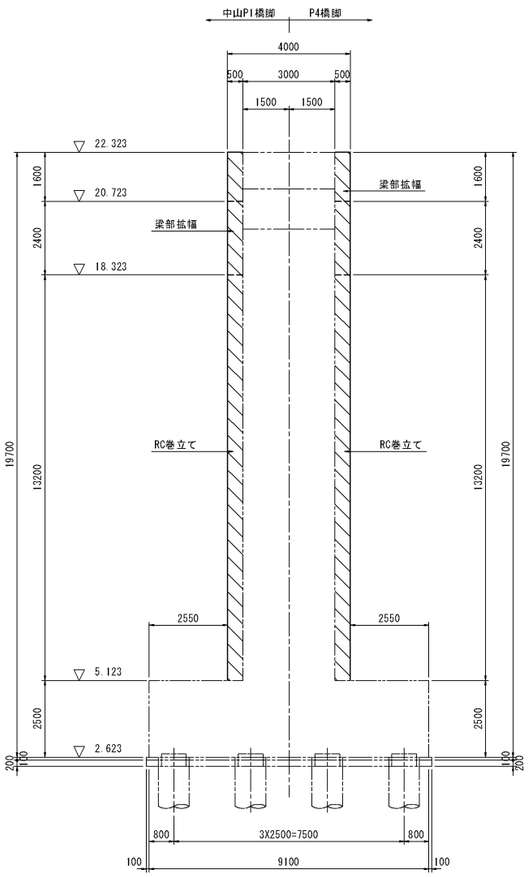
S=1:100

正面図

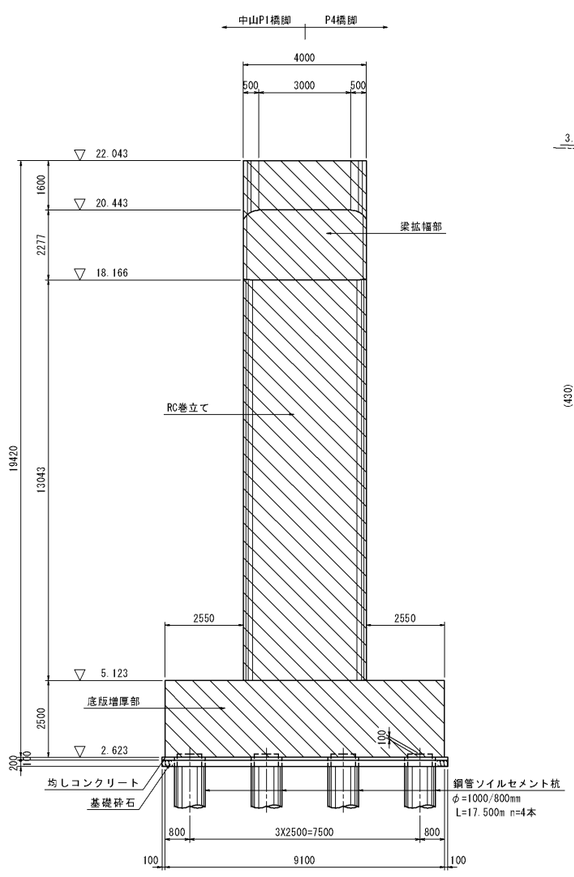


側面図

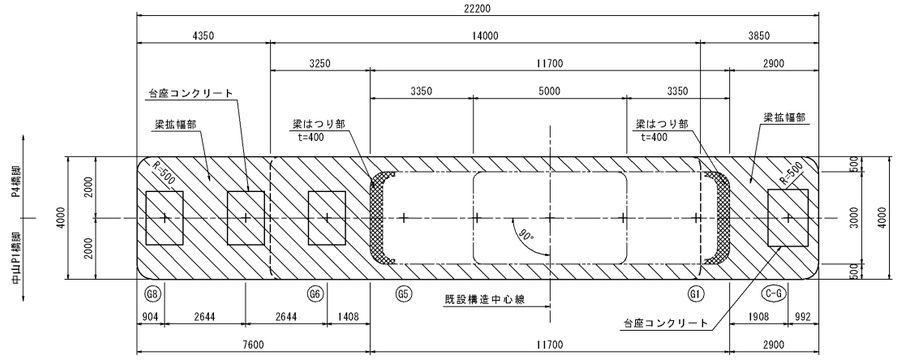
1 － 1



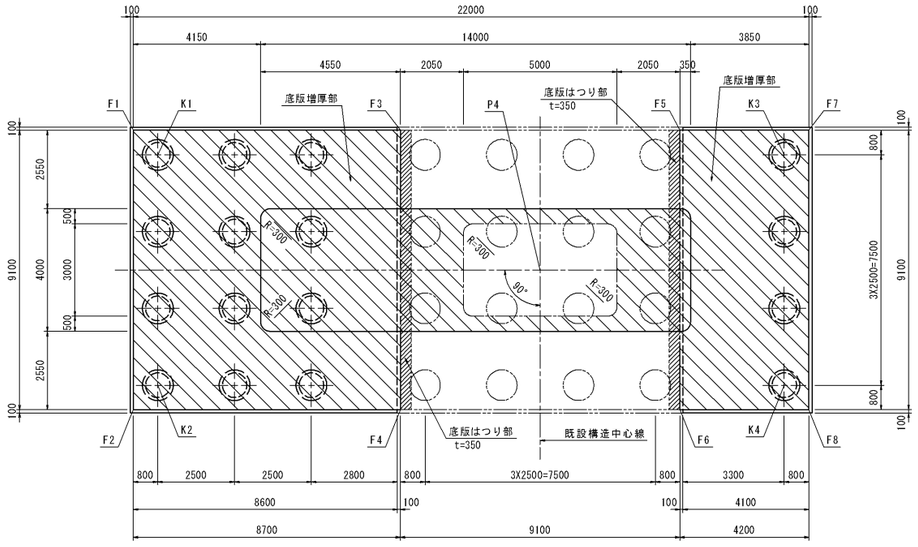
2 － 2



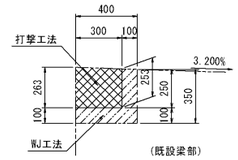
平面図



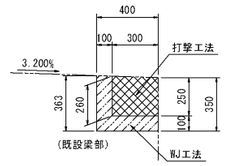
底版



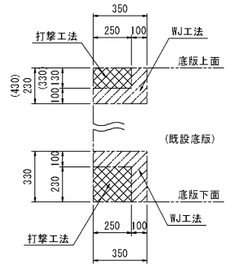
a部詳細図 S=1:20



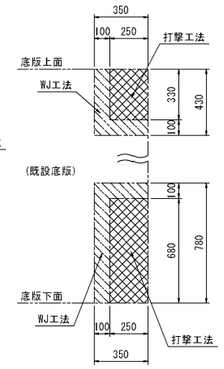
b部詳細図 S=1:20



c部詳細図 S=1:20



d部詳細図 S=1:20



下部工座標

		X	Y
躯体	P5	-176997.2840	31207.6776
	F1	-176987.0914	31217.2890
	F2	-176983.3370	31208.9996
	F3	-176995.0165	31213.6995
	F4	-176991.2620	31205.4102
	F5	-177003.3059	31209.9451
	F6	-176999.5514	31201.6557
	F7	-177006.6763	31208.4185
	F8	-177002.9218	31200.1291
杭	K1	-176987.4902	31216.2302
	K2	-176984.3958	31209.3983
	K3	-177005.6175	31208.0198
	K4	-177002.5231	31201.1879

設計条件

躯体コンクリート		σck=30N/mm²
均しコンクリート		σck=18N/mm²
鉄筋材質	躯体	SD345
	杭頭鉄筋	SD490

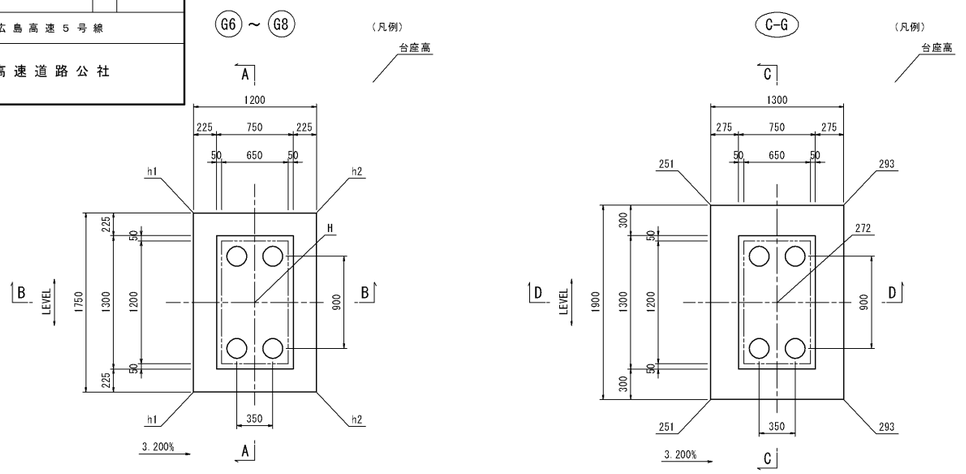
注）1. ▨ 部は、補強部（梁部拡幅・RC巻立て・底版増厚）を示す。
2. ▨ 部は、配筋時のはつり部を示す。

※施工上の留意点
- 細部寸法は現地調査実施の上、最終確認を行うこと。
- 既設橋脚にアンカーを施工する際は、鉄筋探査を行って鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないものとすること。（ただし、既設沓座補強筋は切断可とする）
- 既設部と新設部の接合面には、十分な下地処理（チッピング）を行うこと。

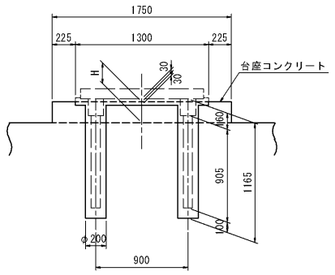
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	23 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強構造図（その２）	番号	2／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ５橋脚補強構造図（その2）　S=1:30

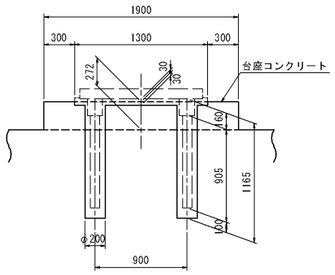
台座コンクリート詳細図



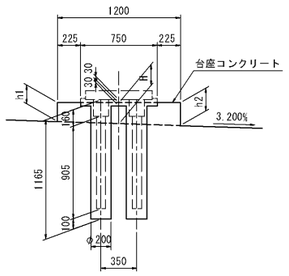
A － A



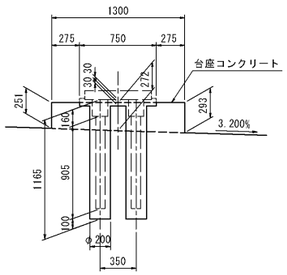
C － C



B － B



D － D

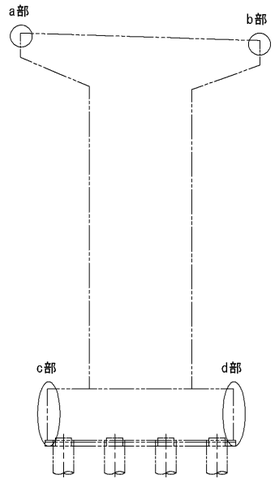


台座コンクリート高表

	G8	G7	G6
H	197	194	204
h1	178	175	185
h2	216	213	223

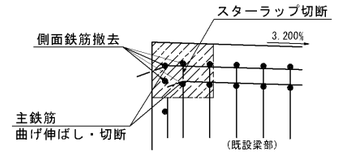
構造高表（支点上）

	新設桁			既　設　桁					新設桁
	G8	G7	G6	G5	G4	G3	G2	G1	C-G
計画高	25.709	25.626	25.542	25.463	25.388	25.313	25.238	25.163	25.068
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.032	0.032	0.032	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
床版上面高	25.597	25.514	25.430	25.351	25.308	25.233	25.158	25.083	24.988
床版厚	0.230	0.230	0.230	0.210	0.210	0.210	0.210	0.210	0.230
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
桁高	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000
下フランジ厚	0.053	0.057	0.048	0.044	0.040	0.041	0.037	0.041	0.019
ソールプレート厚	0.046	0.046	0.046	0.046	0.046	0.046	0.046	0.046	0.046
支承高	0.237	0.237	0.237	0.327	0.327	0.327	0.327	0.327	0.237
支承下面標高	22.951	22.864	22.789	22.644	22.605	22.529	22.458	22.379	22.376
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.197	0.194	0.204	0.140	0.176	0.176	0.181	0.178	0.272
下部工高	22.724	22.640	22.555	22.474	22.399	22.323	22.247	22.171	22.074

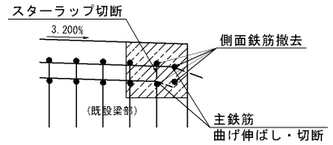


既設橋脚はつり部鉄筋切断概要図　S=1:20

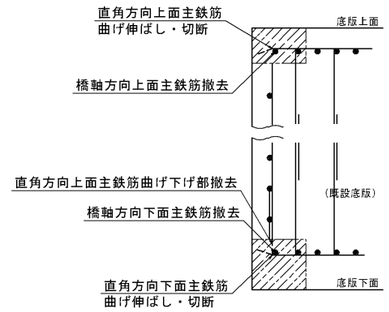
a部詳細図



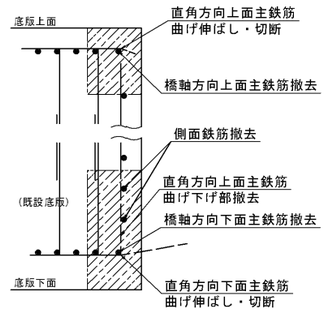
b部詳細図



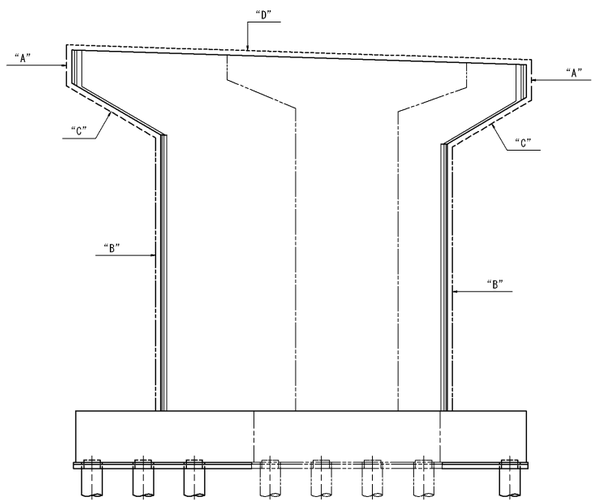
c部詳細図

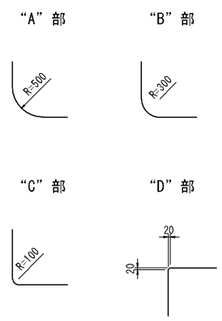


d部詳細図



面取り形状詳細図

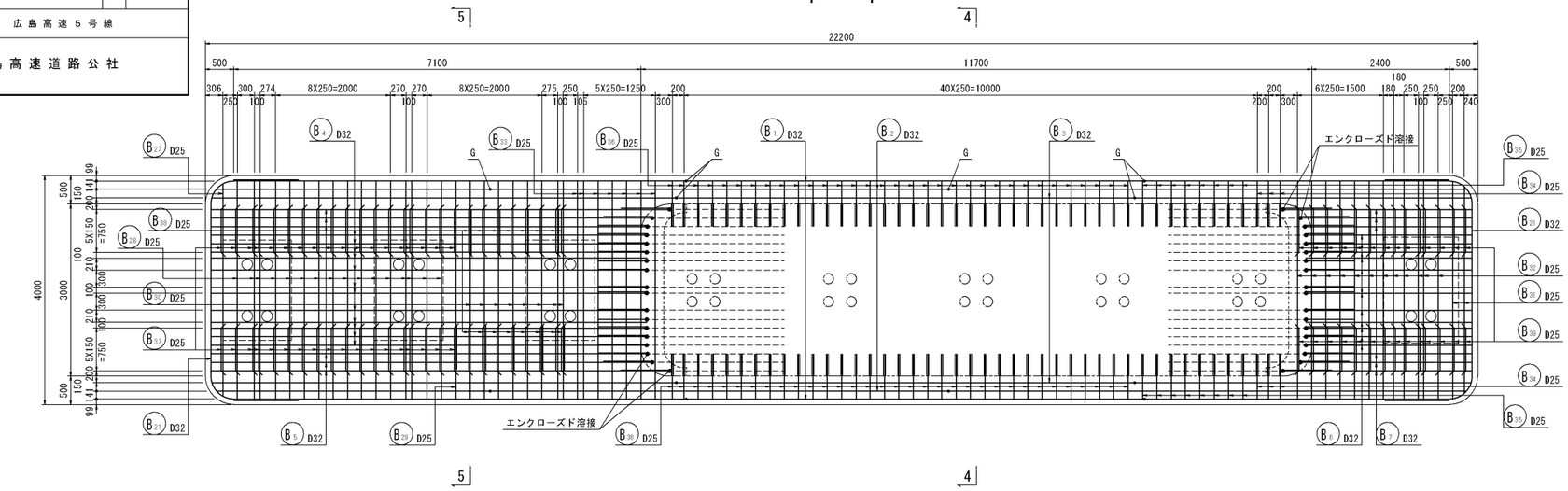




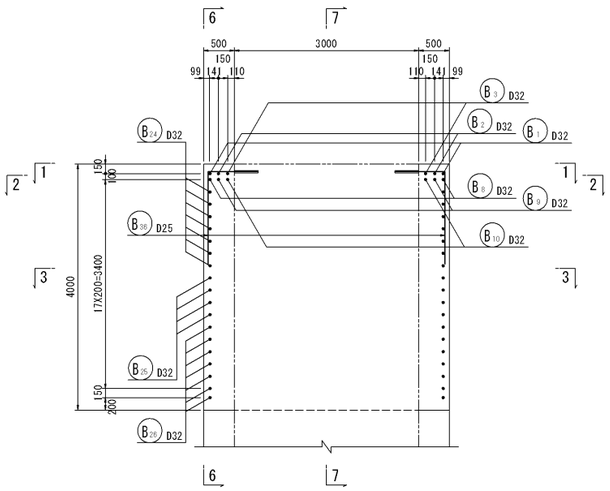
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	24 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その１）	番号	1 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ５橋脚補強配筋図（その1）　S=1:50

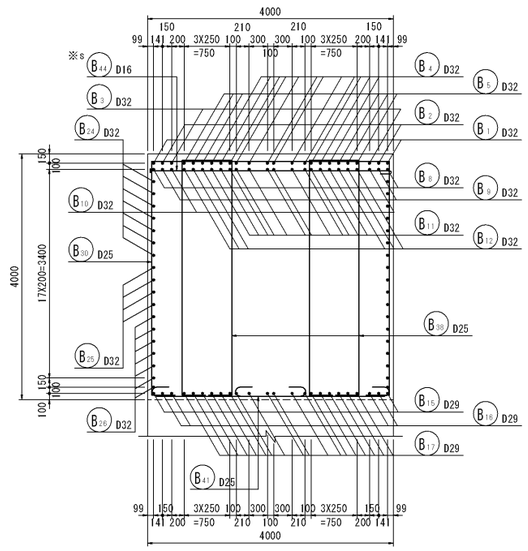
1 － 1



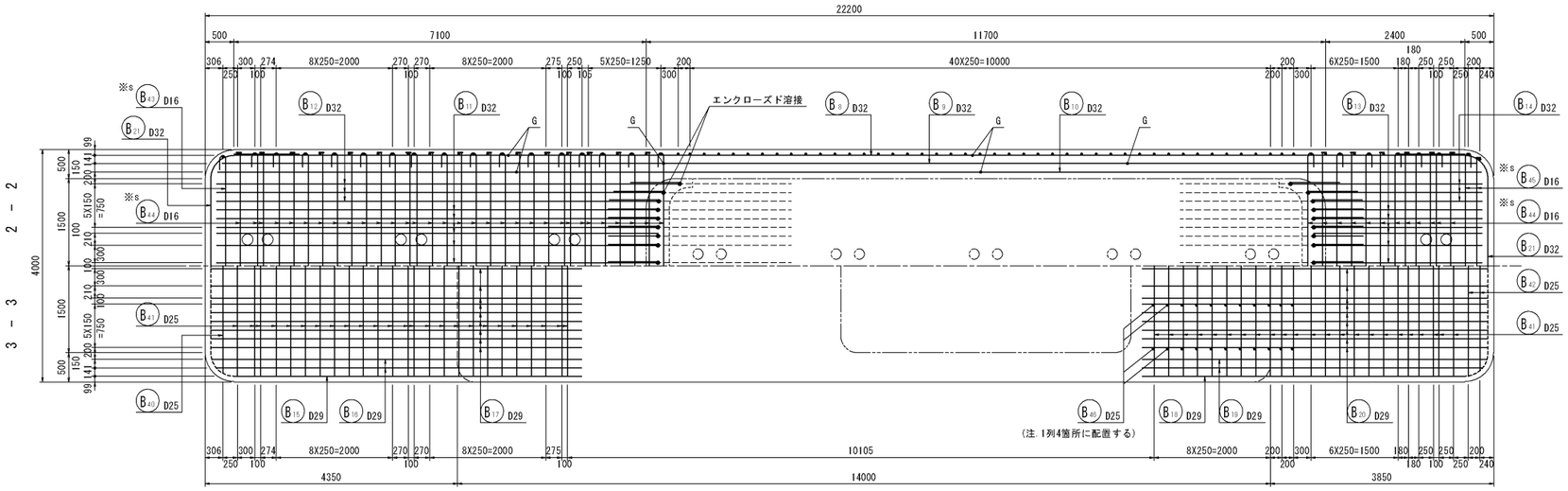
4 － 4



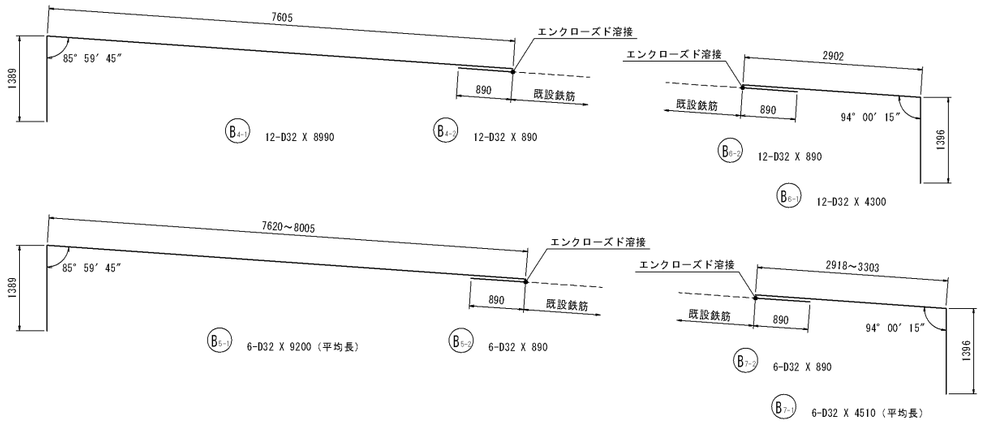
5 － 5

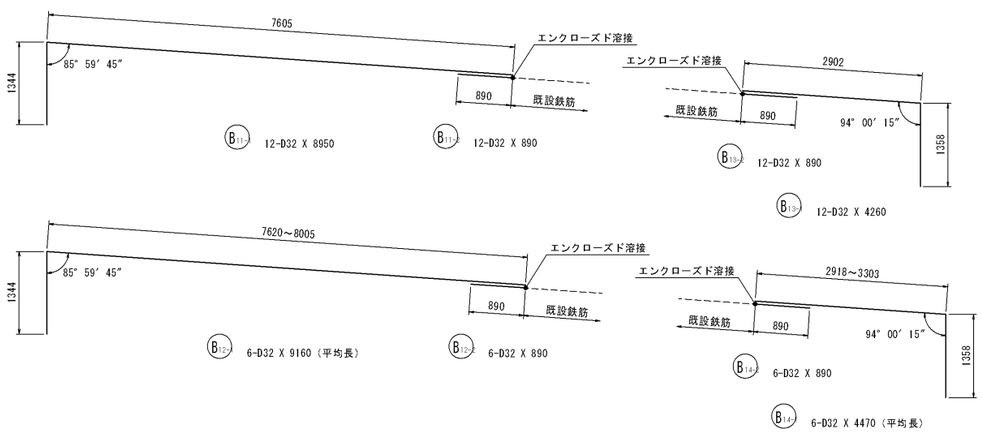


2 － 2



3 － 3





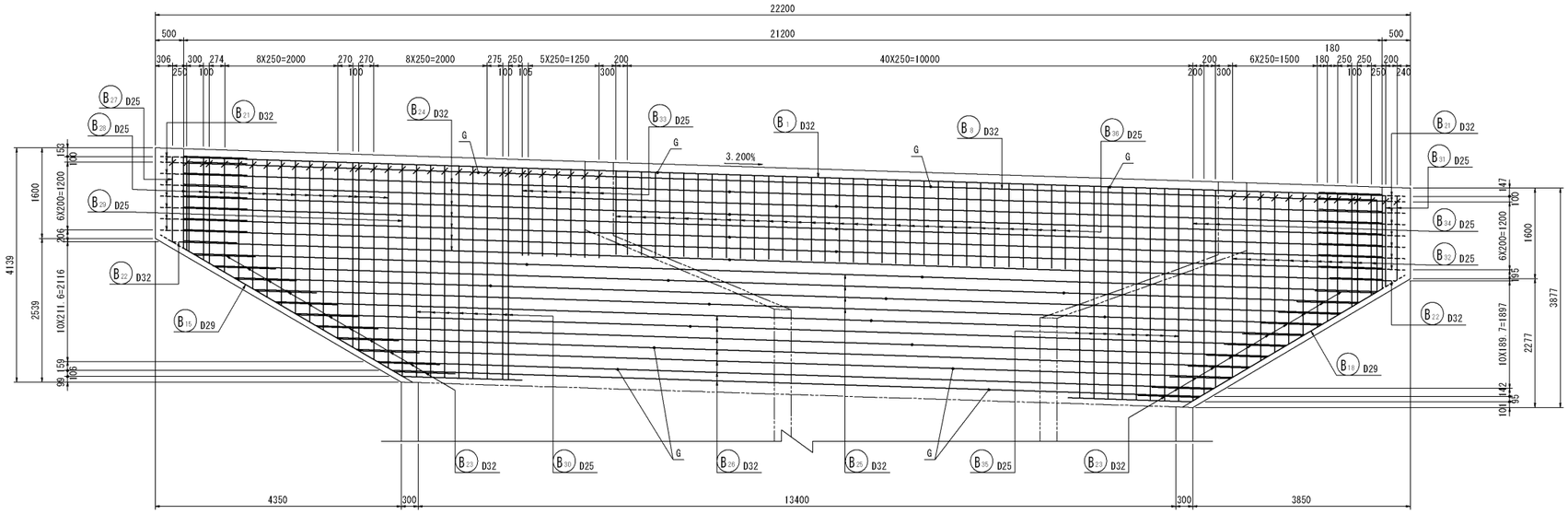
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

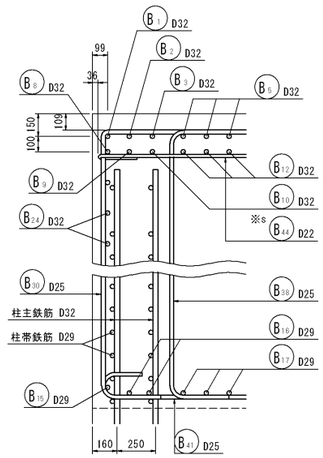
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	25 ／ 110	縮尺	図示
図名	P5橋脚 補強配筋図（その2）	番号	2 ／ 11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

P5橋脚補強配筋図（その2） S=1:50

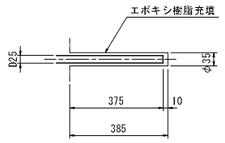
6 － 6



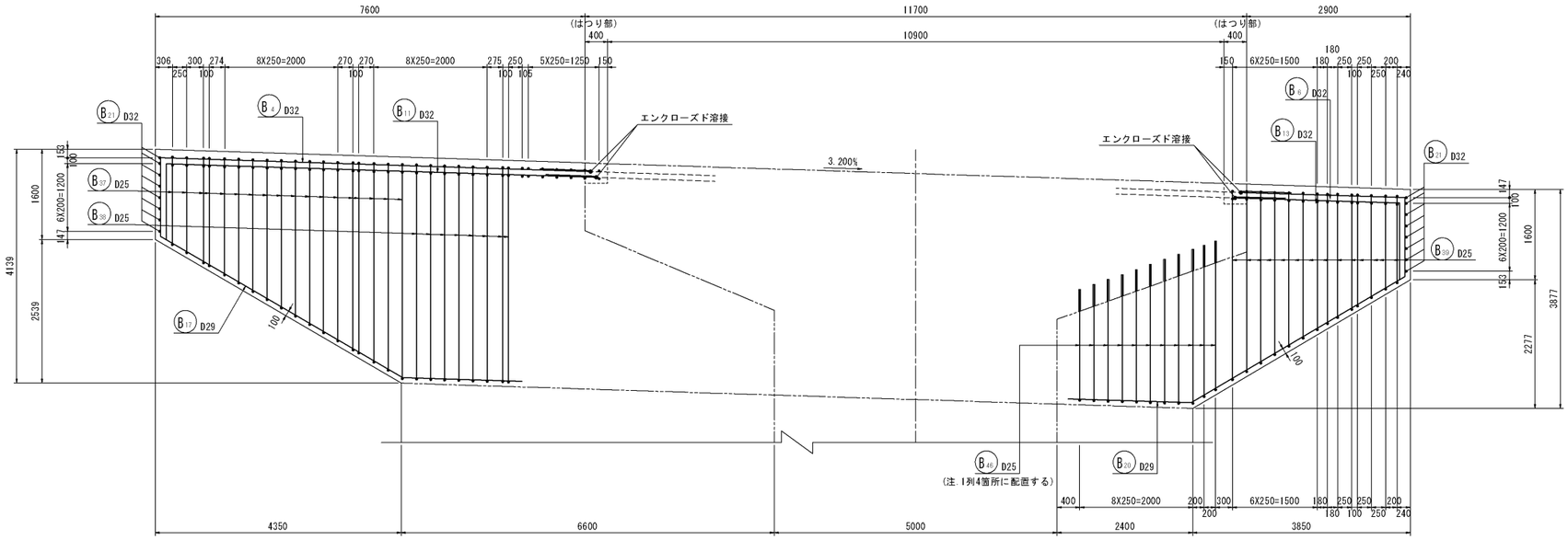
梁かぶり詳細図 S=1:20



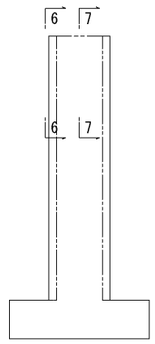
樹脂アンカー詳細図



7 － 7



位置図



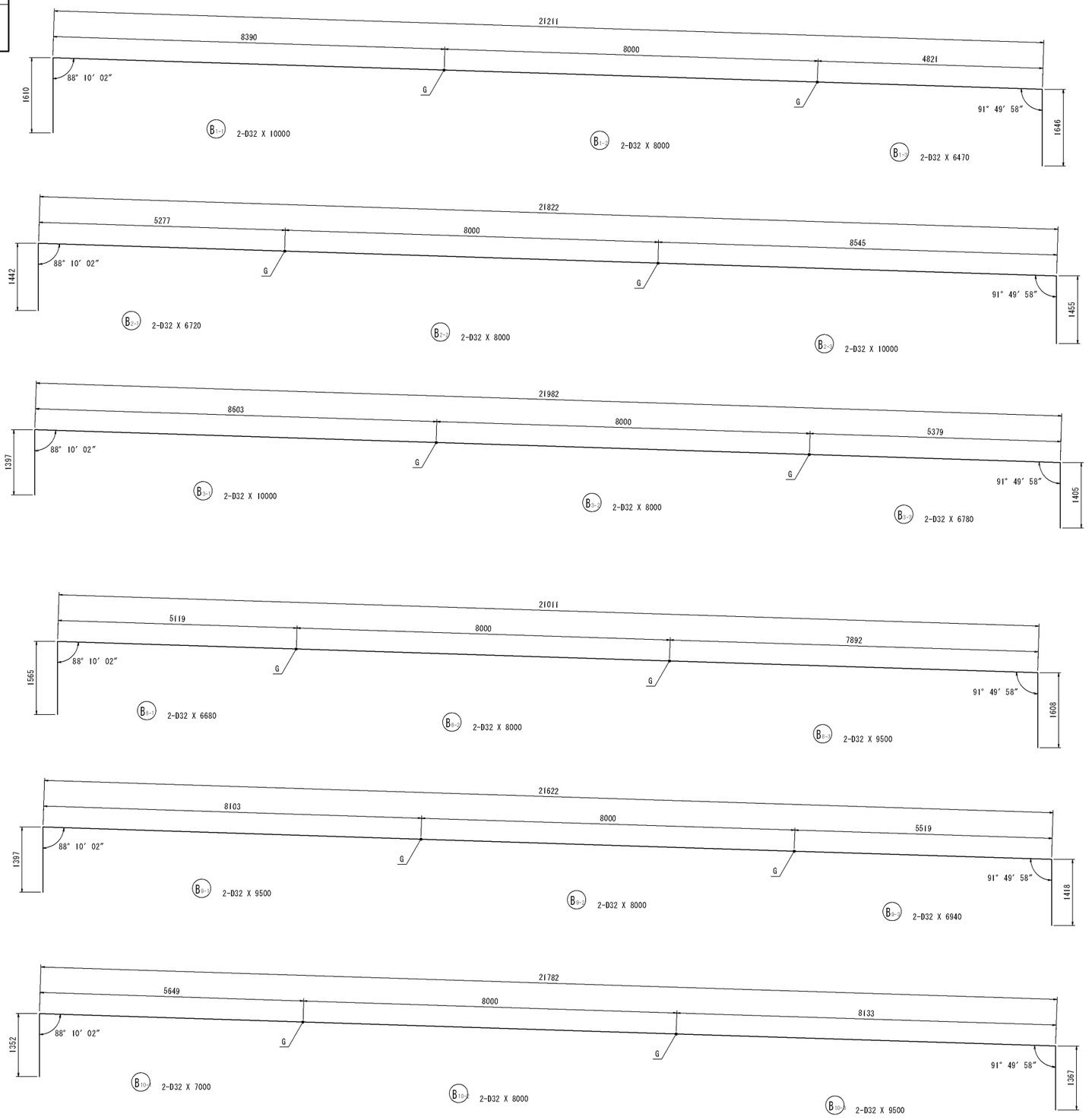
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	26 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その３）	番号	3 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

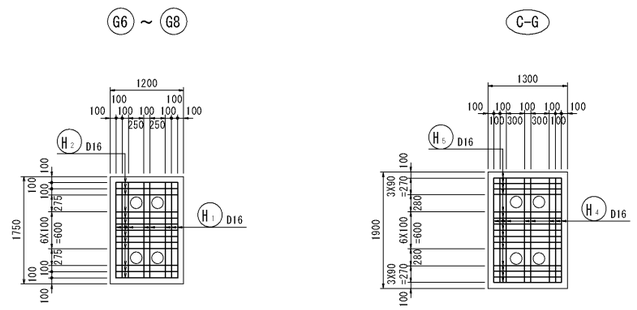
Ｐ５橋脚補強配筋図（その3）

S=1:50

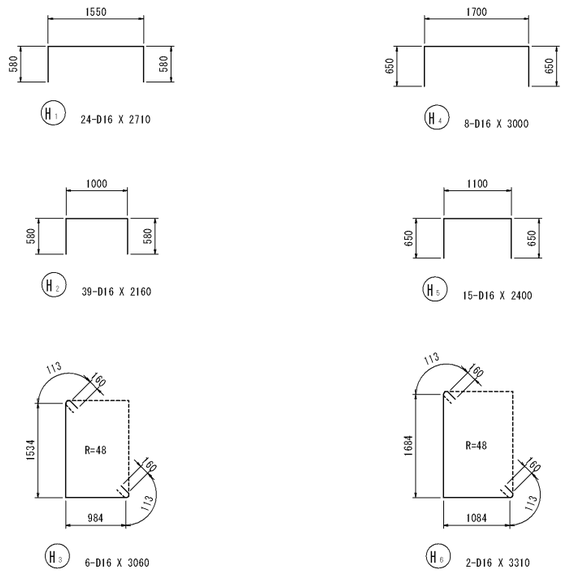


台座コンクリート配筋図

平面図



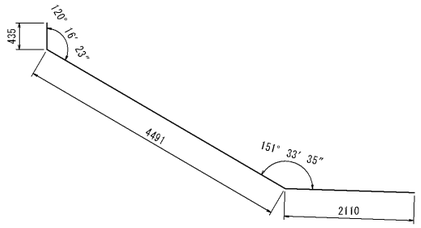
断面図
(A － A)



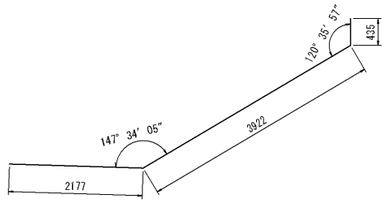
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	27 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その４）	番号	4 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ５橋脚補強配筋図（その4）

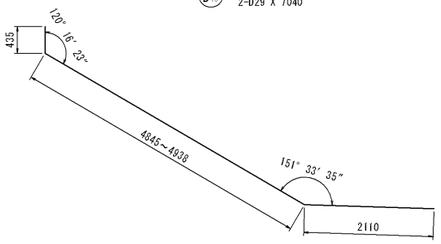
S=1:50



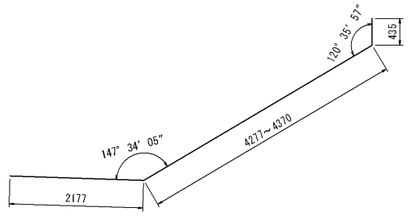
B15 2-D29 X 7040



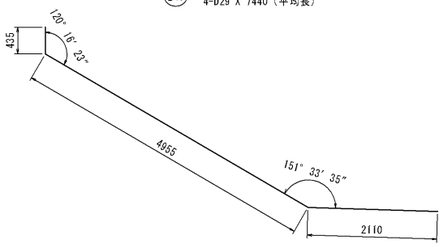
B16 2-D29 X 6530



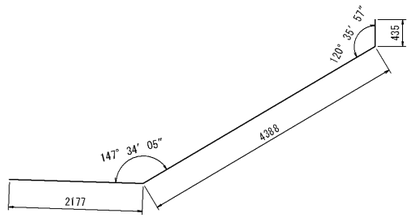
B18 4-D29 X 7440（平均長）



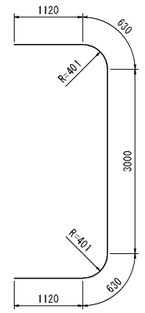
B19 4-D29 X 6940（平均長）



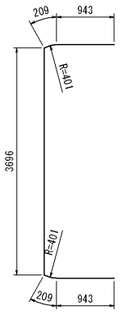
B17 18-D29 X 7500



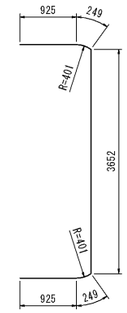
B20 18-D29 X 7000



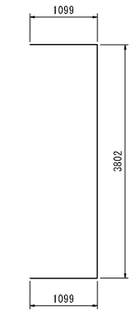
B21 16-D32 X 6500



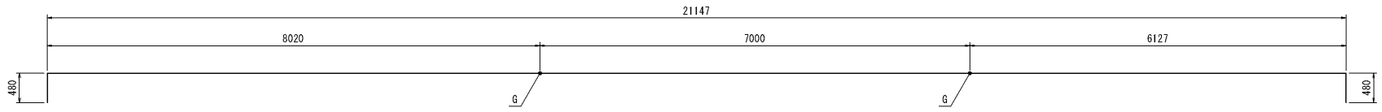
B22 1-D32 X 6000



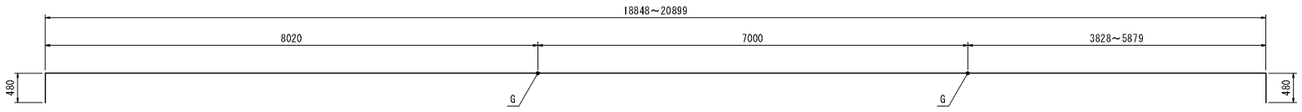
B25 1-D32 X 6000



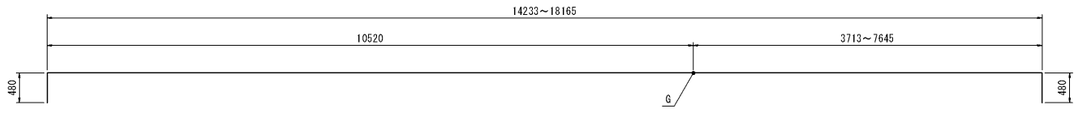
B23 22-D32 X 6000



B24 14-D32 X 8500　　B24 14-D32 X 7000　　B24 14-D32 X 6610

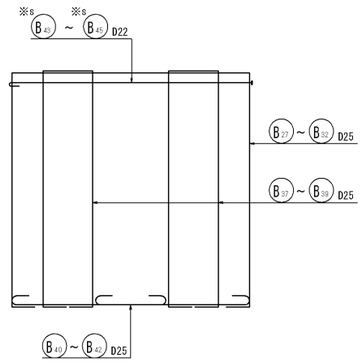


B26 8-D32 X 8500　　B26 8-D32 X 7000　　B26 8-D32 X 5330（平均長）



B28 14-D32 X 11000　　B28 14-D32 X 6160（平均長）

鉄筋組立図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

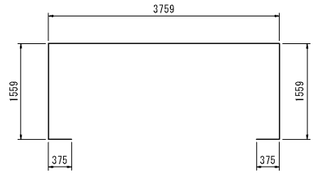
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

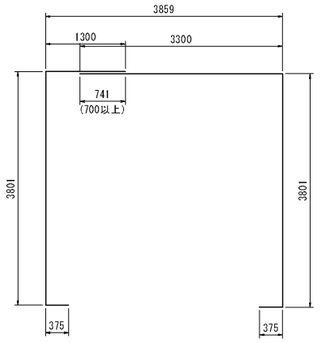
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	28 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	P5橋脚 補強配筋図（その5）	番号	5 ／ 11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

P5橋脚補強配筋図（その5）

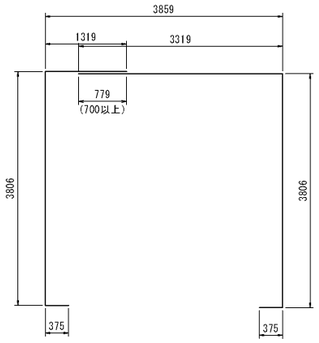
S=1:50



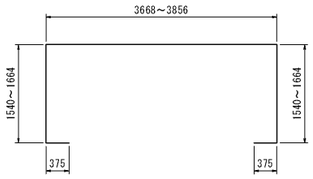
B27 1-D25 X 7630



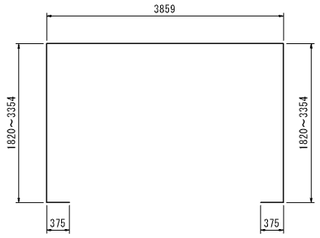
B29 1-D25 X 5480　B28 1-D25 X 7480



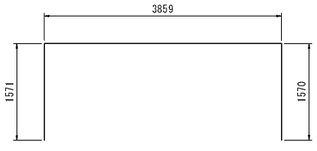
B30 8-D25 X 5500　B30 8-D25 X 7500



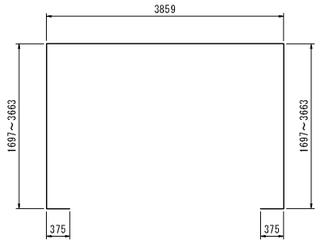
B31 2-D25 X 7720（平均長）



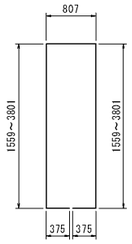
B32 12-D25 X 9780（平均長）



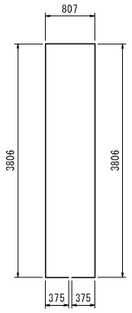
B33 7-D25 X 7000



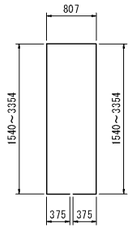
B28 16-D25 X 9970（平均長）



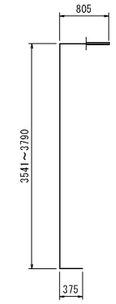
B37 36-D25 X 6920（平均長）



B39 16-D25 X 9170

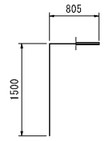


B39 32-D25 X 6450（平均長）

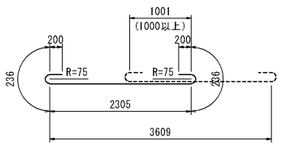


B34 6-D25 X 4850（平均長）

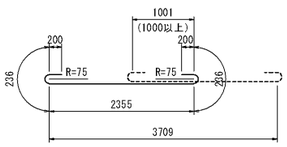
B36 16-D25 X 4990



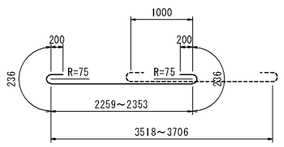
B36 66-D25 X 2310



B40 2-D25 X 3180



B41 96-D25 X 3230



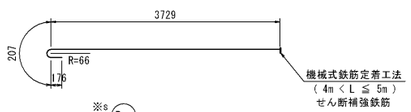
B42 4-D25 X 3180（平均長）

B40 44-D25 X 2720（平均長）

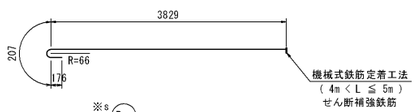
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

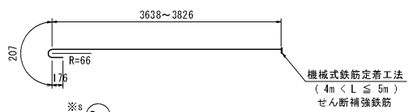
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。



※s B43 1-D22 X 4110



※s B44 44-D22 X 4210

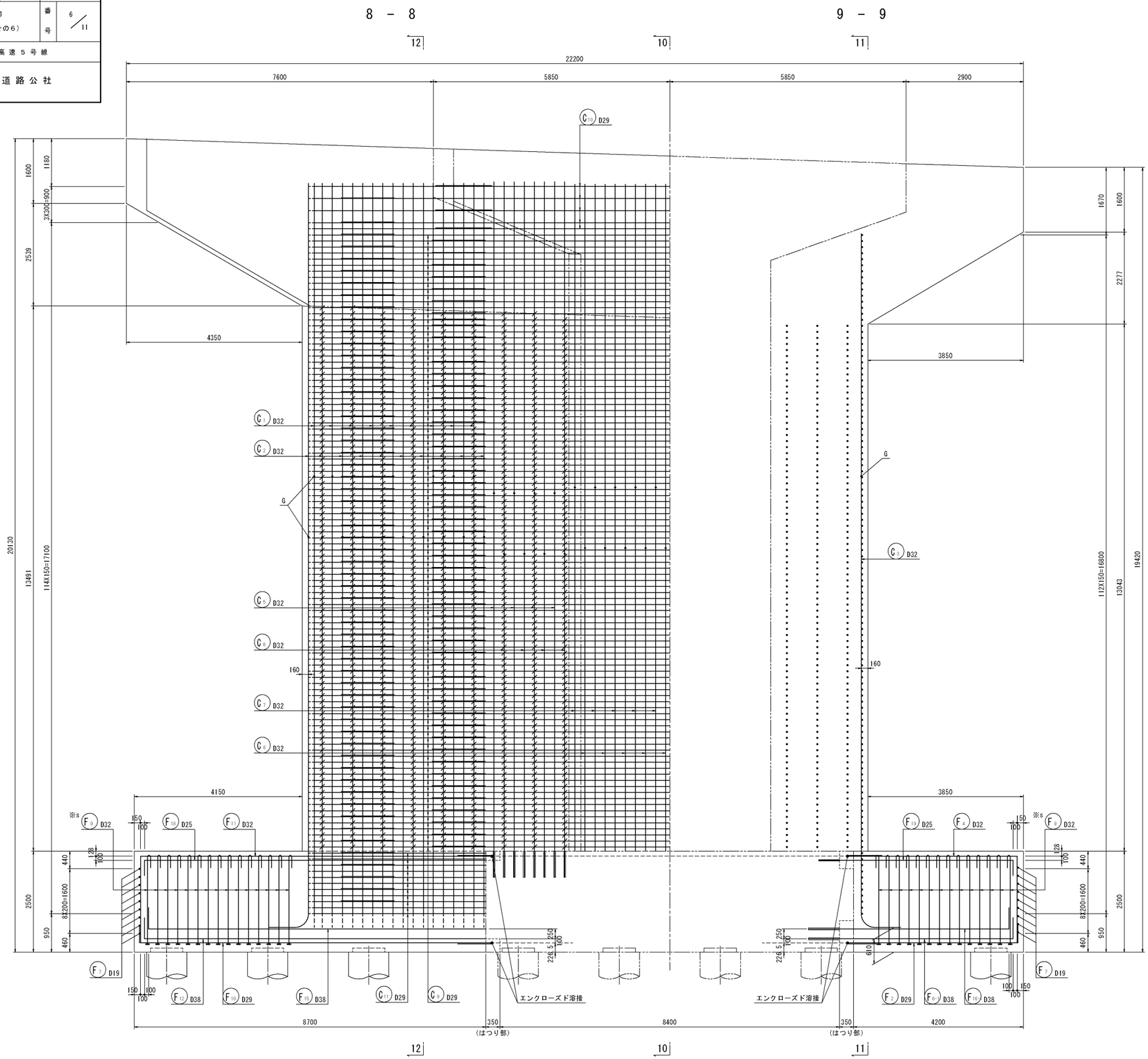


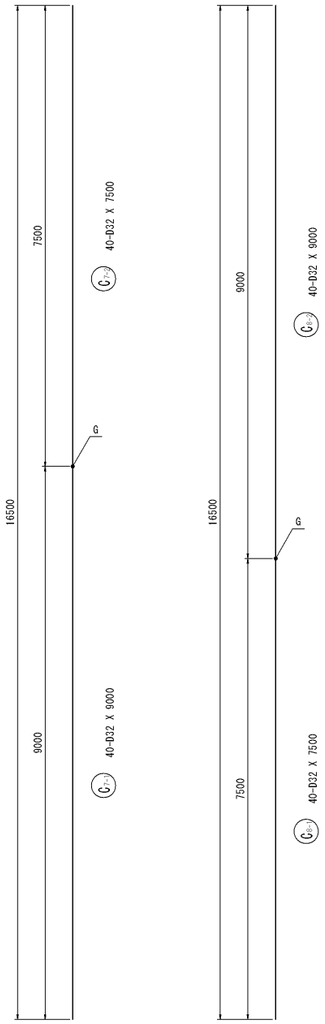
※s B45 2-D22 X 4120（平均長）

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	29 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その６）	番号	6 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

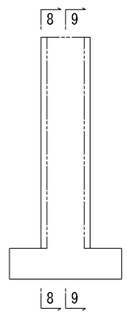
Ｐ５橋脚補強配筋図（その6）

S=1:50





位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

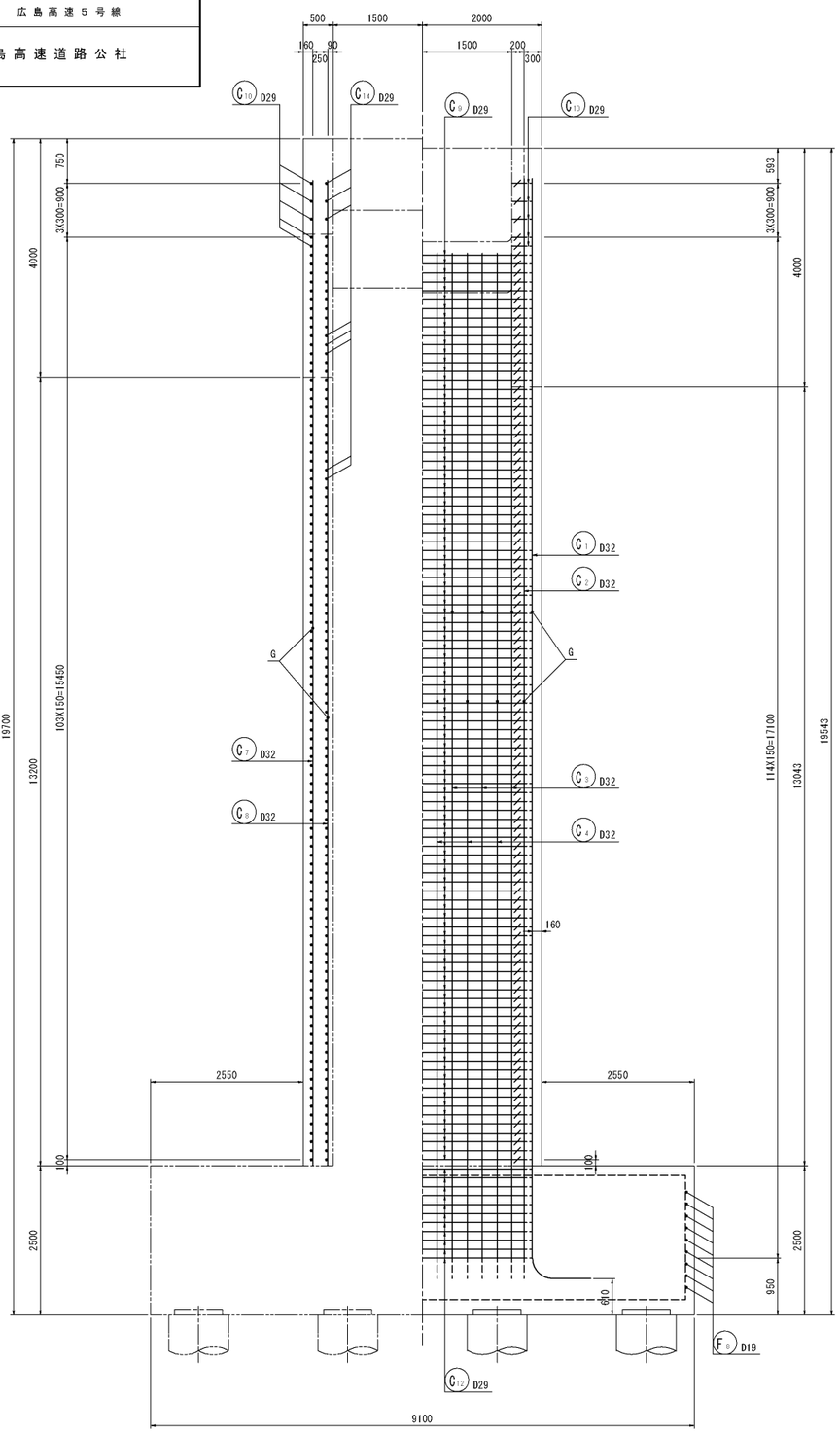
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	30 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	P5橋脚 補強配筋図（その7）	番号	7／11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

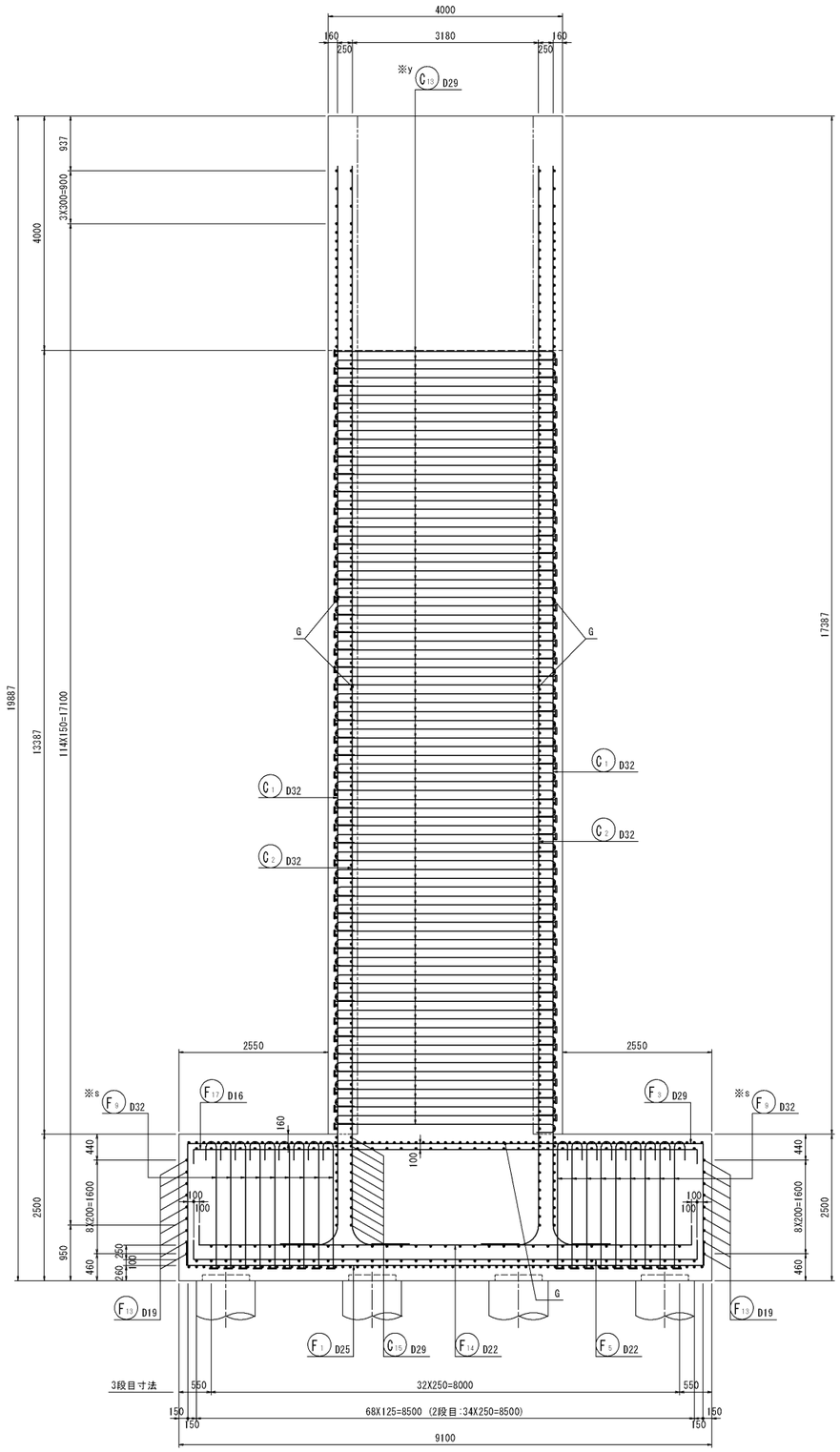
P5橋脚補強配筋図（その7）

S=1:50

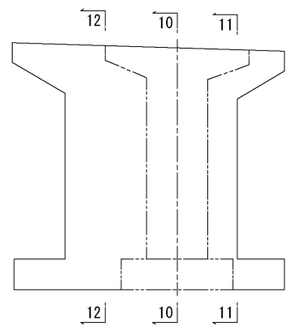
10 － 10　11 － 11



12 － 12



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

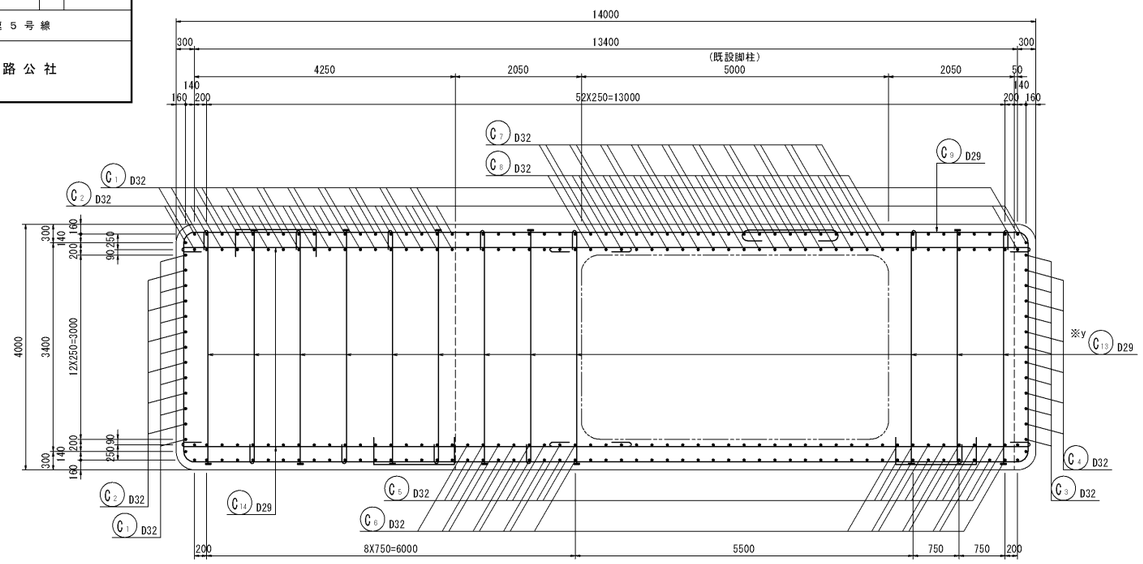
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	31 ／ 100	縮尺	図示
図名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その８）	番号	8 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ５橋脚補強配筋図（その8）

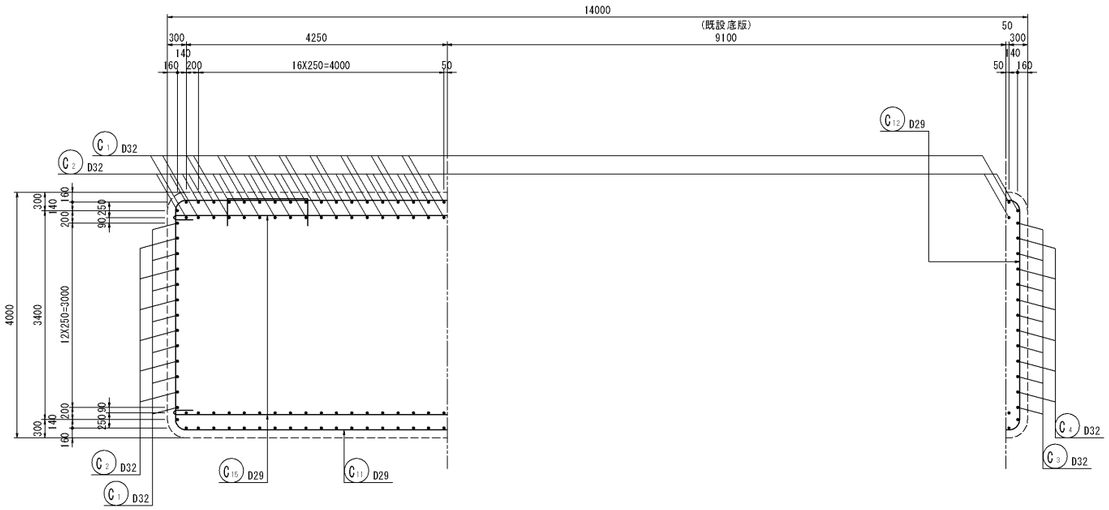
S=1:50

13 － 13



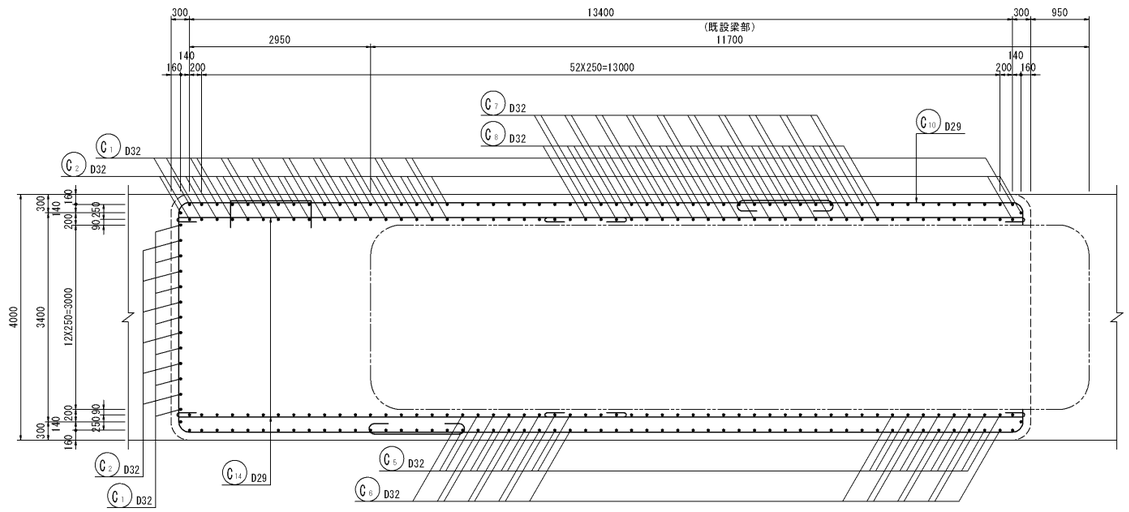
15 － 15

（底版内部）



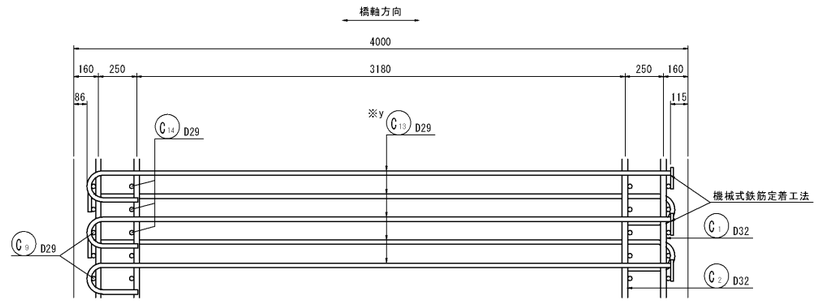
14 － 14

（梁内部）



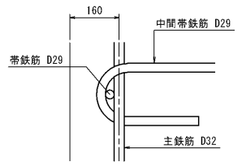
柱かぶり詳細図

S=1:20

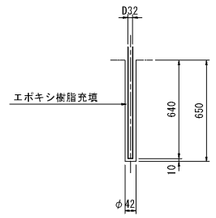


中間帯鉄筋詳細図

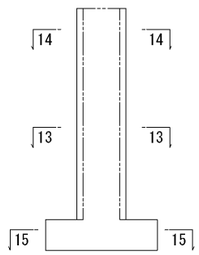
S=1:10



樹脂アンカー詳細図



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

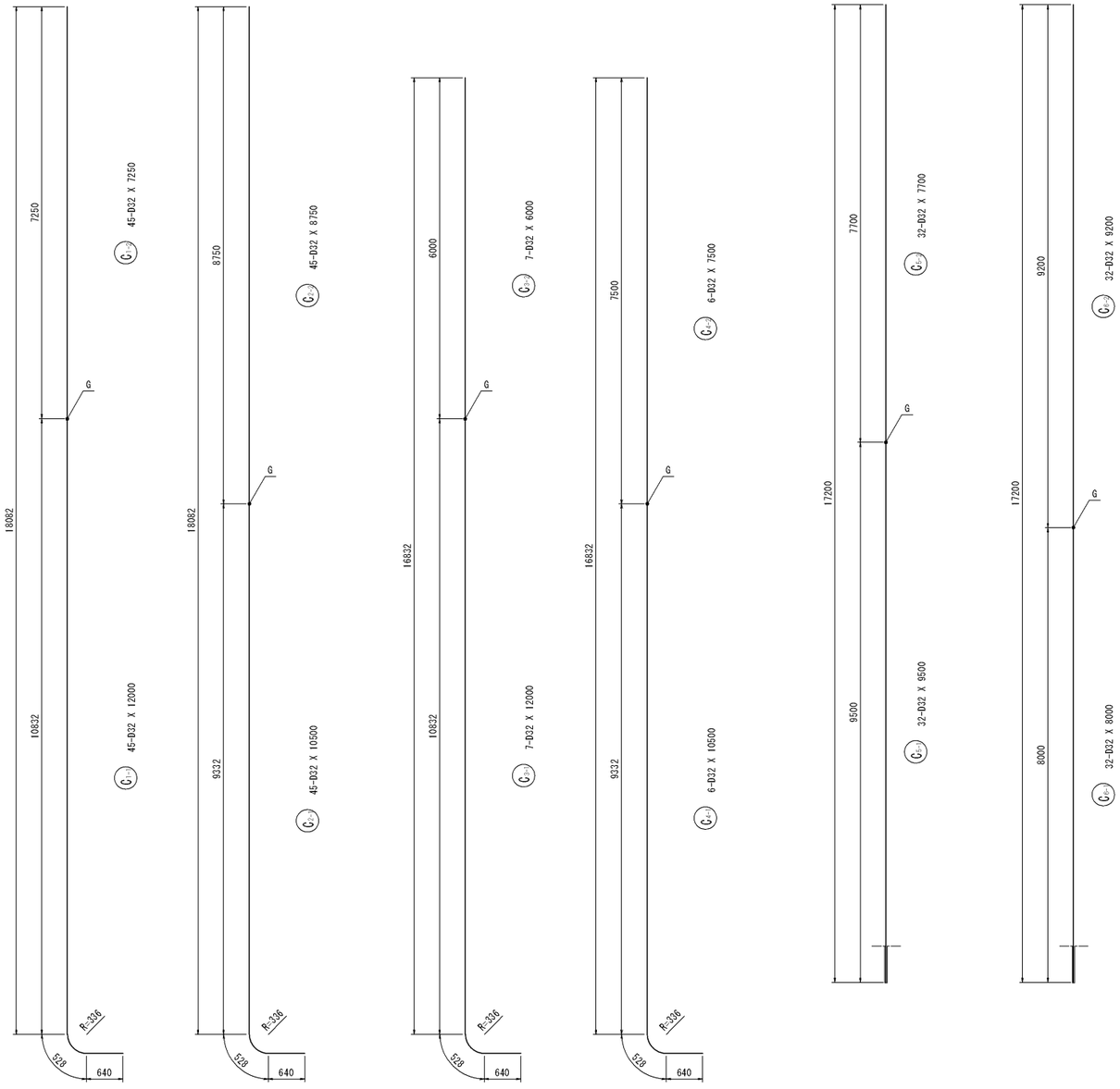
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

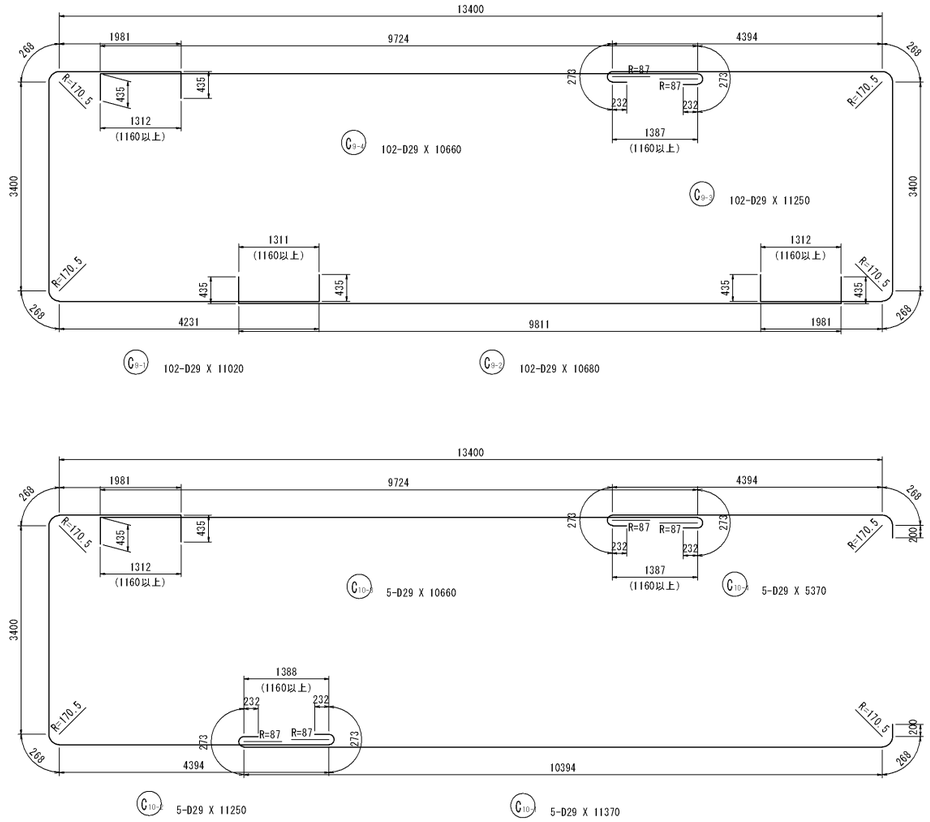
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

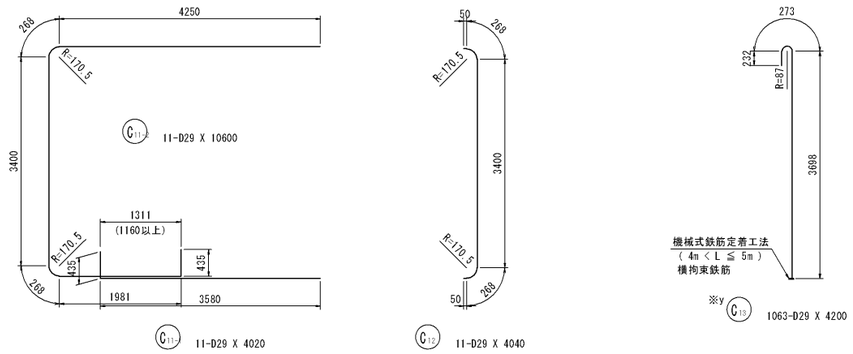
工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	32 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その９）	番号	9 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

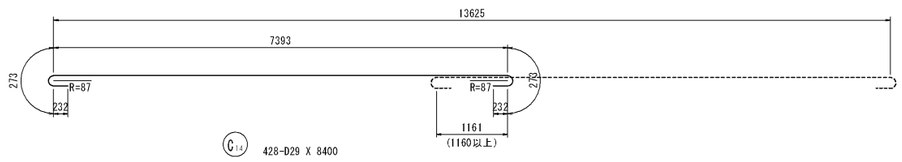
Ｐ５橋脚補強配筋図（その9）

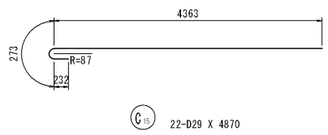
S=1:50











注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

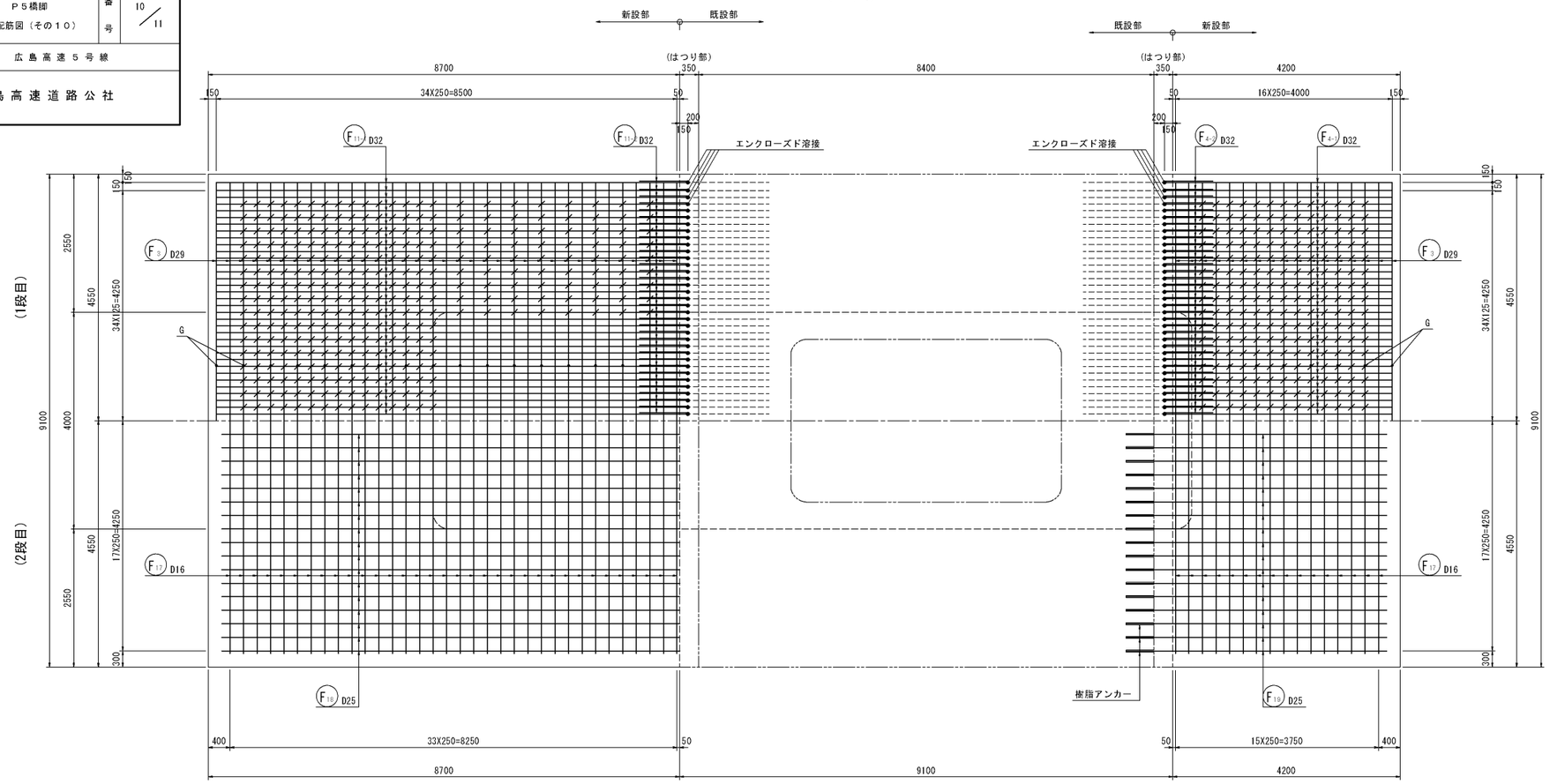
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

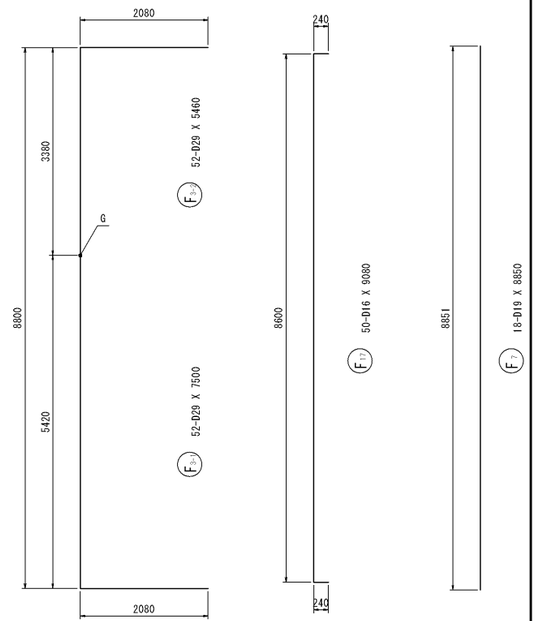
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	33 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その１０）	番号	10／11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

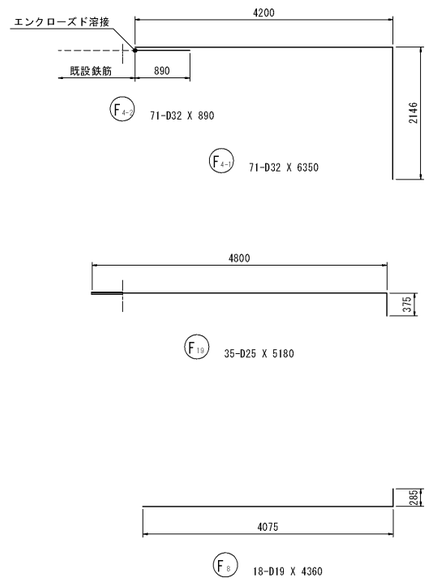
Ｐ５橋脚補強配筋図（その10）　S=1:50

16 － 16（上面）



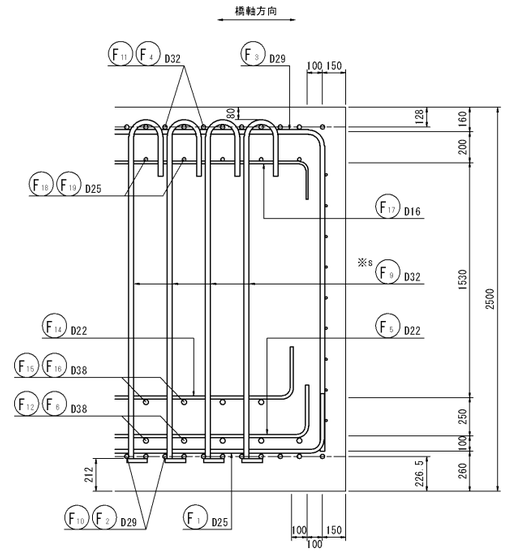
位置図

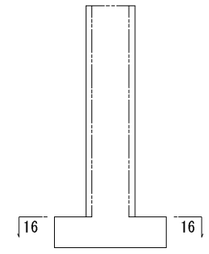




かぶり詳細図　S=1:20

（底版）





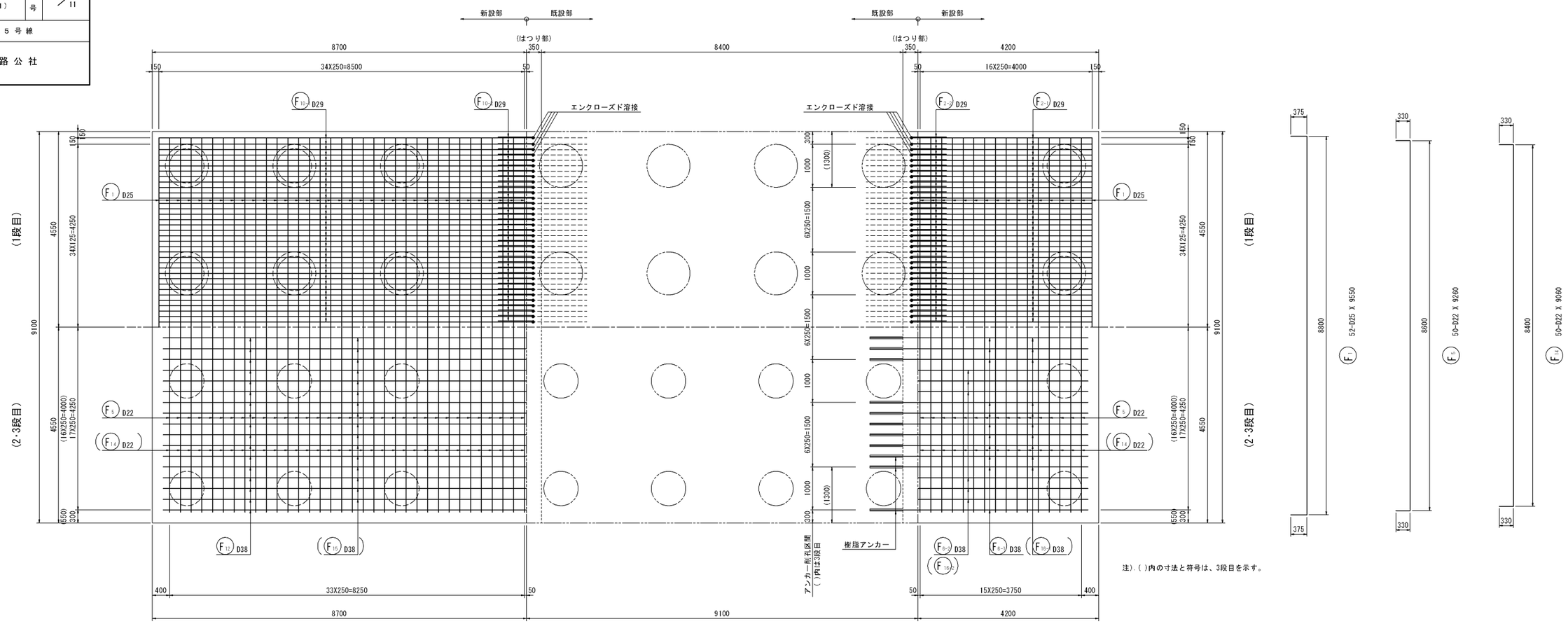
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

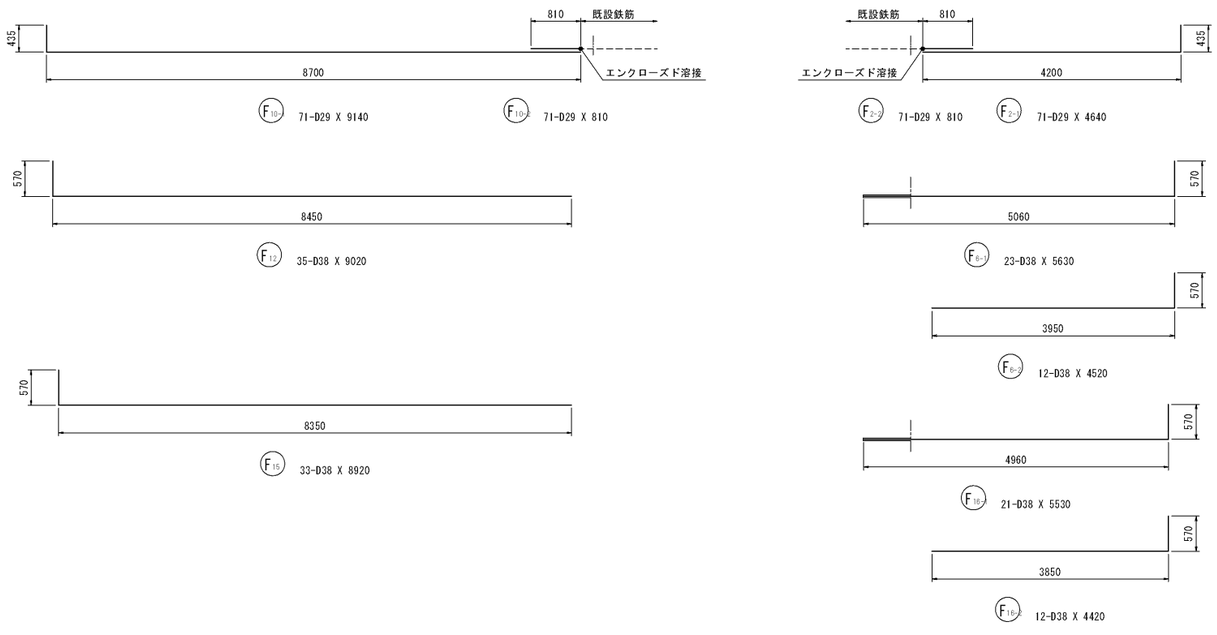
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	34 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ５橋脚 補強配筋図（その１１）	番号	11 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

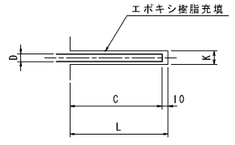
Ｐ５橋脚補強配筋図（その11） S=1:50

17 － 17（下面）



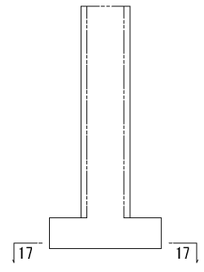


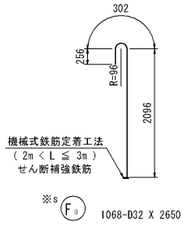
樹脂アンカー詳細図



鉄筋径(D)	削孔長(L)	埋込長(C)	削孔径(K)
D25	510	500	φ35
D38	770	760	φ48

位置図





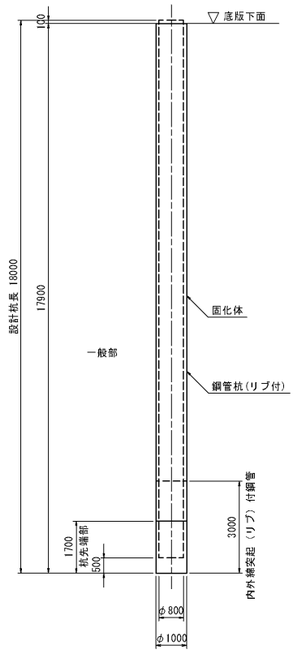
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

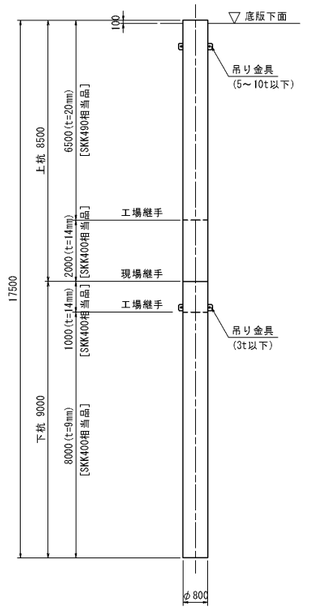
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	35 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その１）	番号	1／3
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

P5橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1）

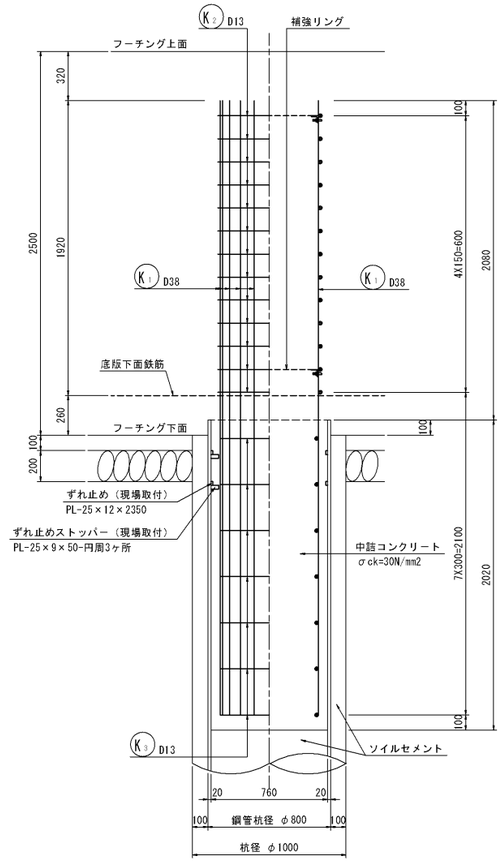
杭構成図 S=1:100

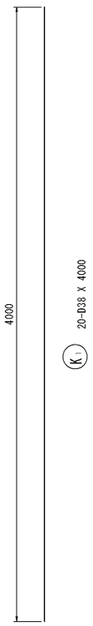


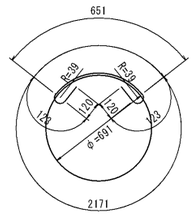
鋼管杭構成図 S=1:100



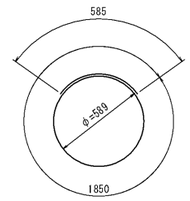
杭頭部詳細図 S=1:20





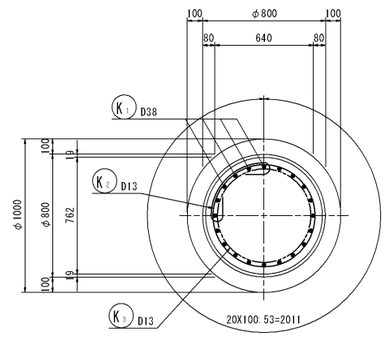


K2 13-D13 X 3310



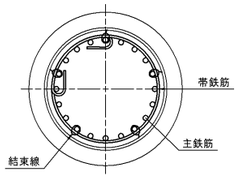
K3 6-D13 X 2440

杭頭部断面図 S=1:20



主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図 S=1:20

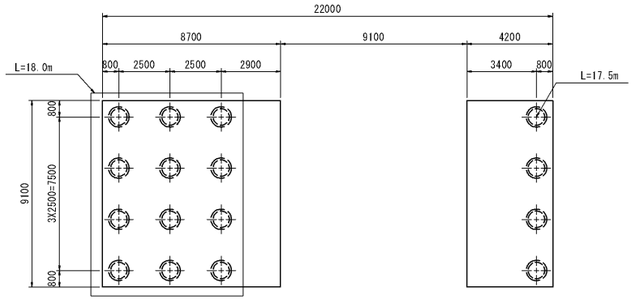
注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



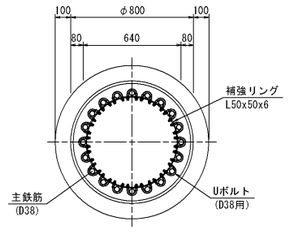
主鉄筋と帯鉄筋は番線結束とする。

P5橋脚杭配置図 S=1:150

左側 n=12本
右側 n= 4本

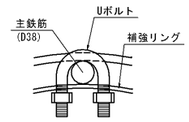


補強リングと主筋金具詳細図 S=1:20



固定金具詳細図

S=1:5



Uボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

※1. Uボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

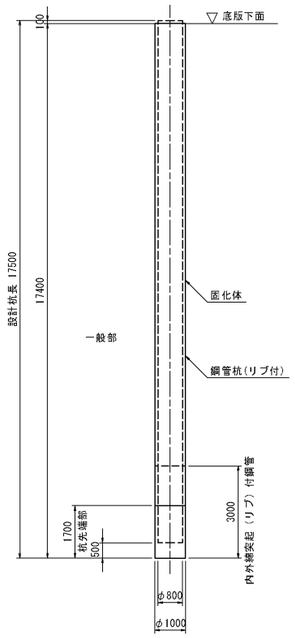
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1000(φ800)
鋼　管		SKK400, 490
コンクリート	底　版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄　筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

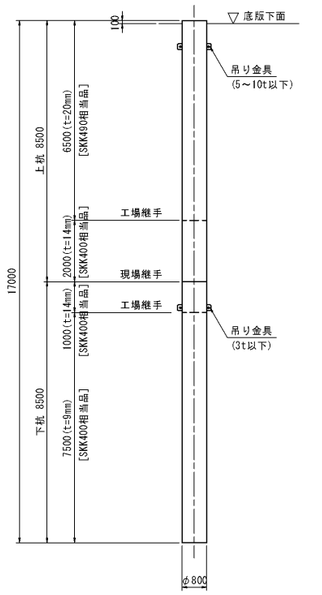
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	36 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ５橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その２）	番号	2／3
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

P5橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2）

杭構成図 S=1:100

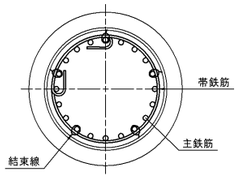


鋼管杭構成図 S=1:100



主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図 S=1:20

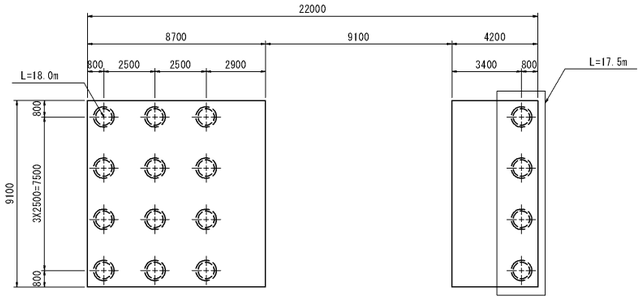
注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。

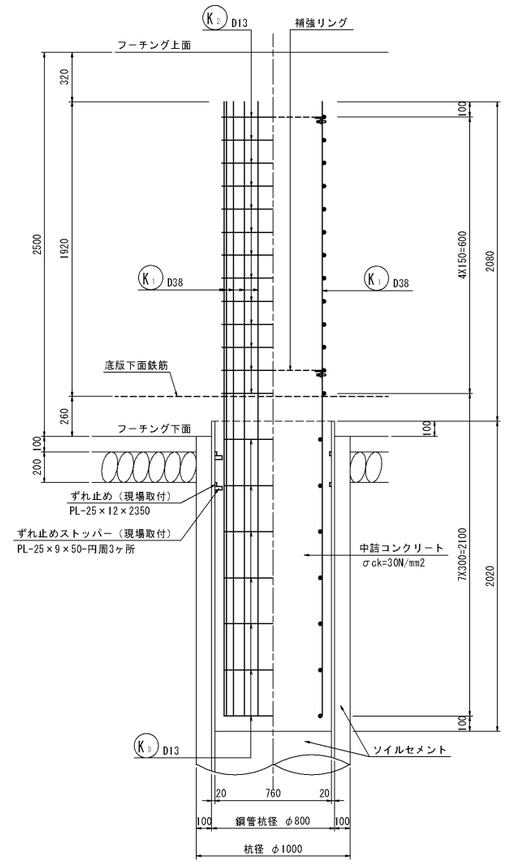


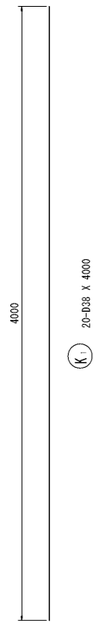
主鉄筋と帯鉄筋は番線結束とする。

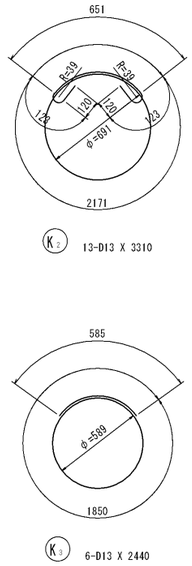
P5橋脚杭配置図 S=1:150

左側 n=12本
右側 n= 4本

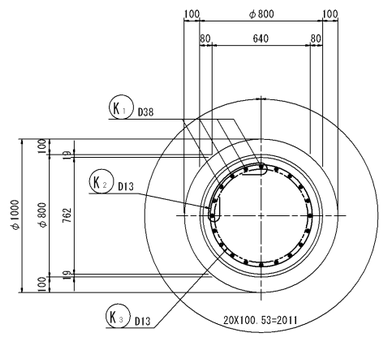




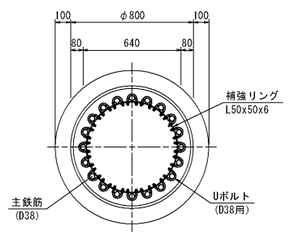




杭頭部断面図 S=1:20

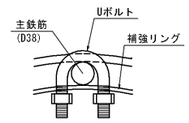


補強リングと主筋金具詳細図 S=1:20



固定金具詳細図

S=1:5



Uボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

※1. Uボルト規格
D38用,SS400,変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

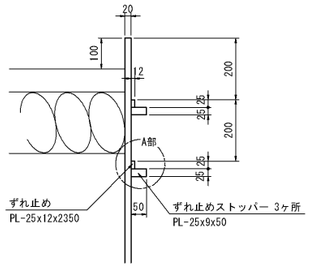
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1000(φ800)
鋼　管		SKK400, 490
コンクリート	底　版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄　筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

P5橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その3）

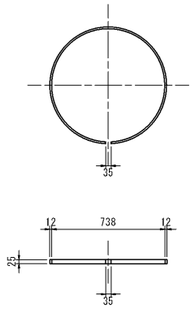
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	37 ／ 110	縮尺	図示
図名	P5橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その3）	番号	3／3
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

ずれ止め詳細図 S=1:10

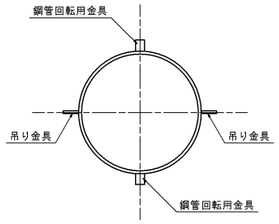


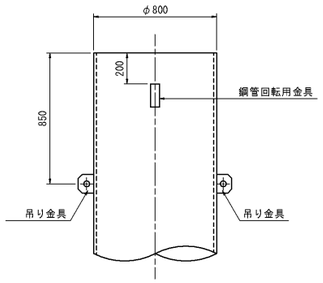
ずれ止め取付詳細図 S=1:20

（ニュートラルライン）

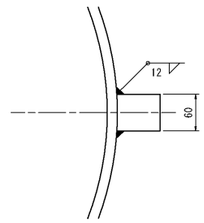


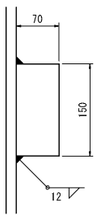
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図 S=1:20



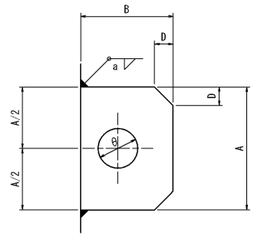


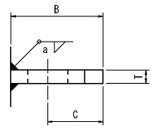
鋼管回転用金具詳細図 S=1:5





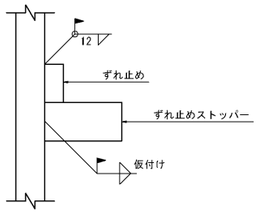
吊金具詳細図 S=1:5





種別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/箇	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2
10～20t以下	300	250	22	80	15	150	50	17	2

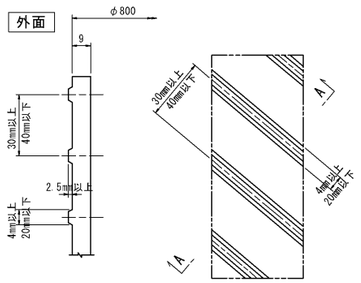
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

A － A　　正面図

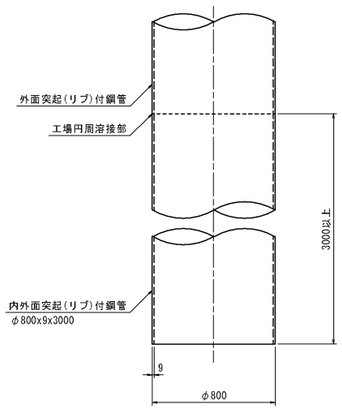


特記事項

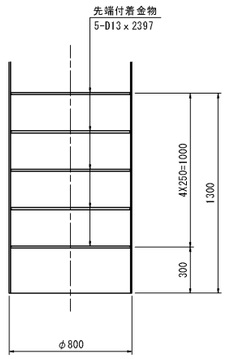
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

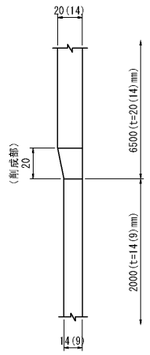
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付



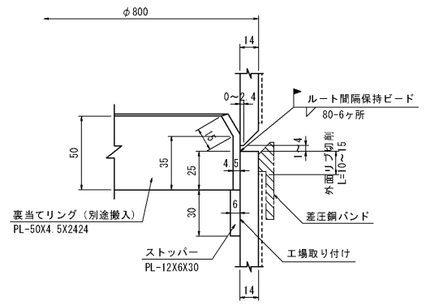
工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

（差厚鋼バンド使用時）

t=14mmの場合



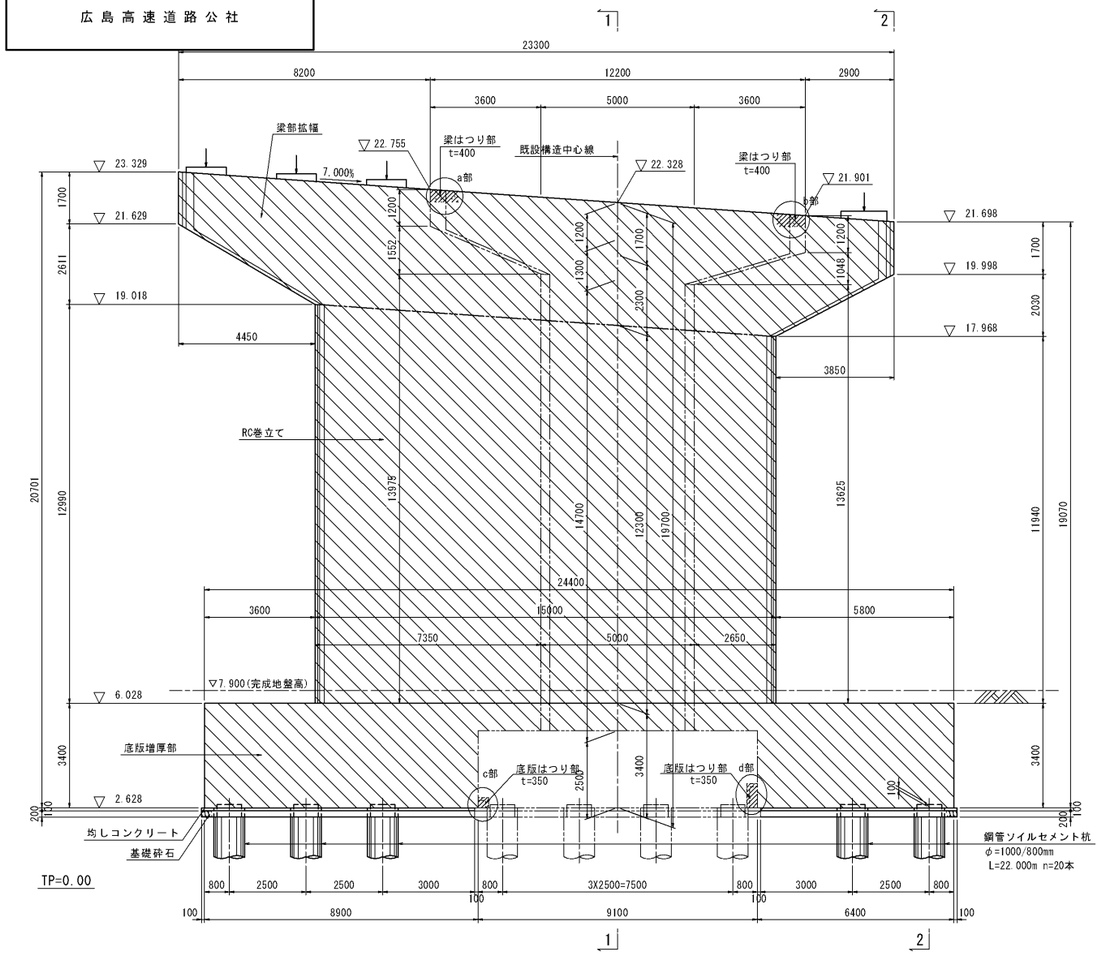
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	38 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ４橋脚 補強構造図（その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		

広島高速道路公社

Ｐ４橋脚補強構造図（その1）

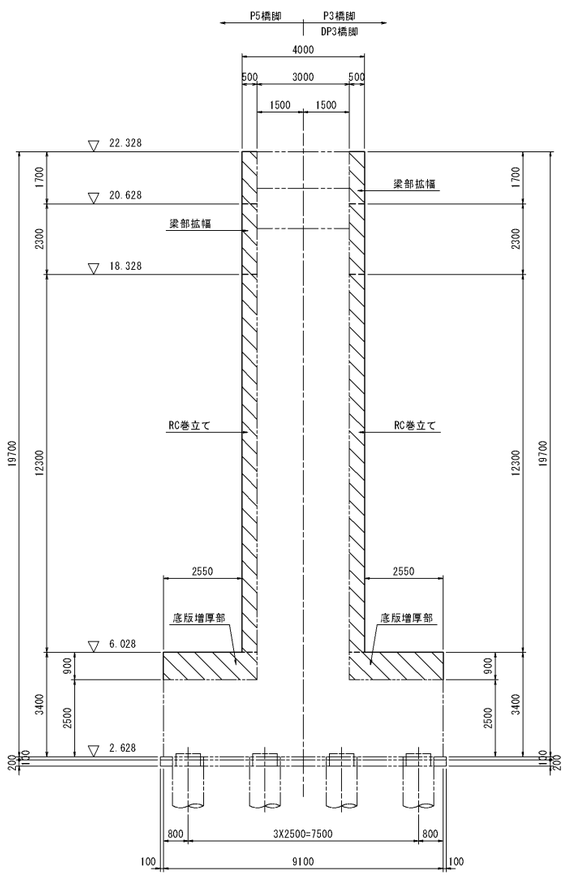
S=1:100

正面図

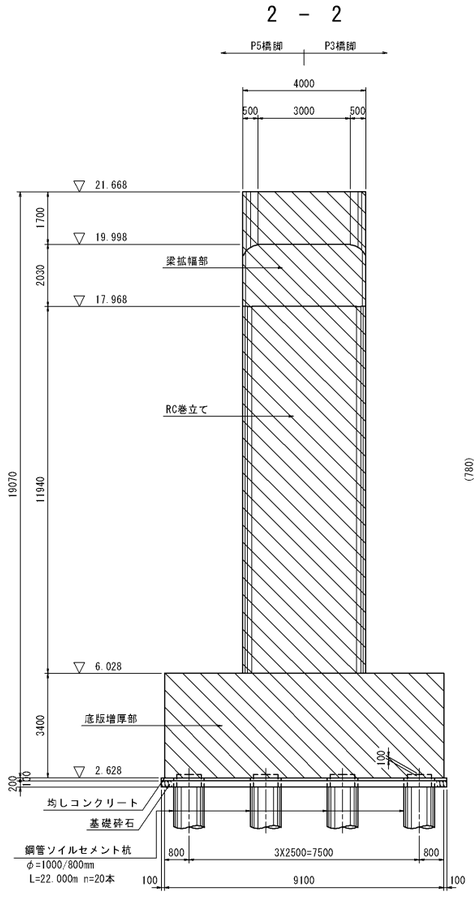


側面図

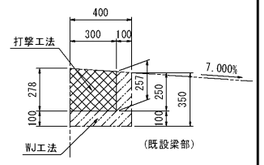
1 － 1



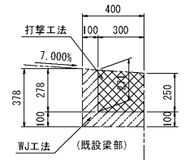
2 － 2



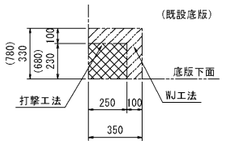
a部詳細図 S=1:20



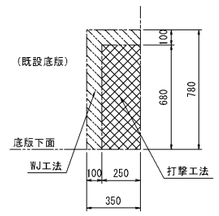
b部詳細図 S=1:20



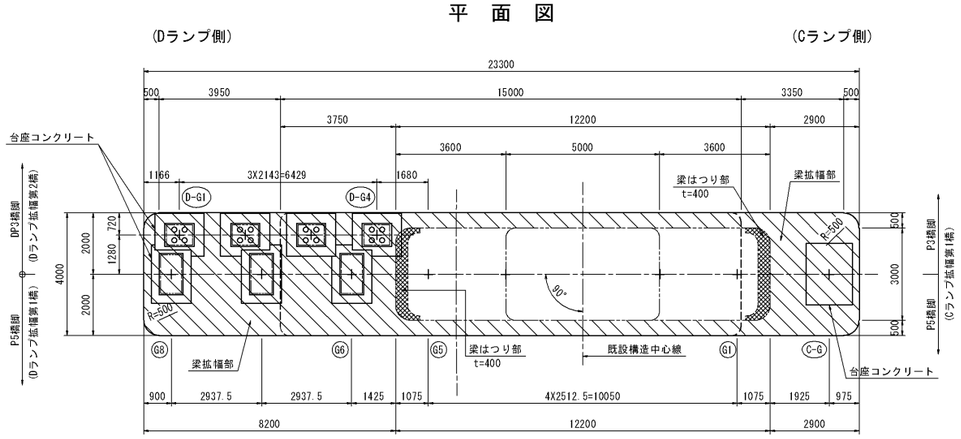
c部詳細図 S=1:20



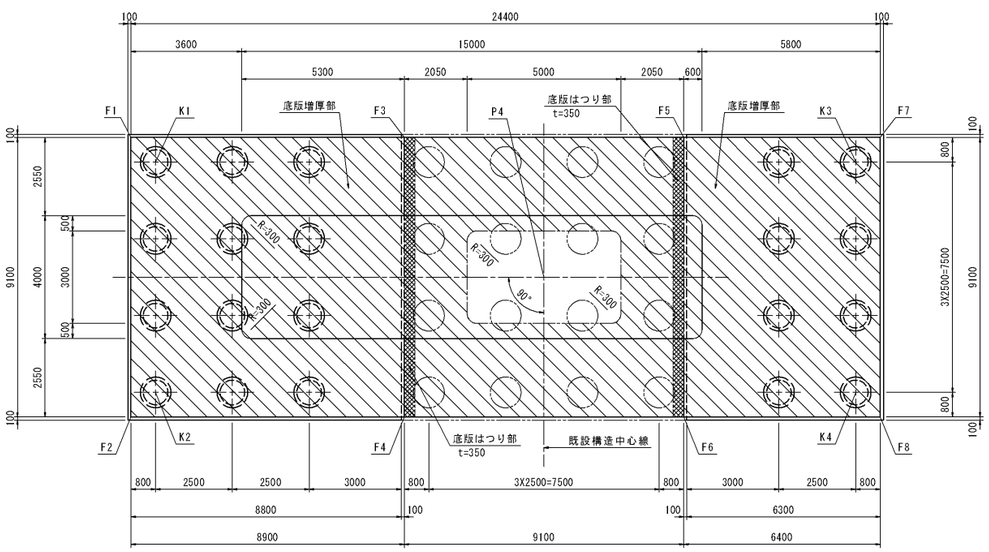
d部詳細図 S=1:20



平面図



底版



下部工座標

		X	Y
躯体	P4	-177018.0468	31245.9333
	F1	-177009.1922	31257.0328
	F2	-177004.2721	31249.3775
	F3	-177016.6792	31252.2209
	F4	-177011.7592	31244.5657
	F5	-177024.3345	31247.3009
	F6	-177019.4145	31239.6456
	F7	-177029.7184	31243.8407
	F8	-177024.7984	31236.1854
杭	K1	-177009.4326	31255.9273
	K2	-177005.3777	31249.6180
	K3	-177028.6129	31243.6002
	K4	-177024.5579	31237.2909

設計条件

躯体コンクリート		σck=30N/mm²
均しコンクリート		σck=18N/mm²
鉄筋材質	躯　体	SD345
	杭頭鉄筋	SD490

注）1. ▨ 部は、補強部（梁部拡幅・RC巻立て・底版増厚）を示す。
2. ▩ 部は、配筋時のはつり部を示す。

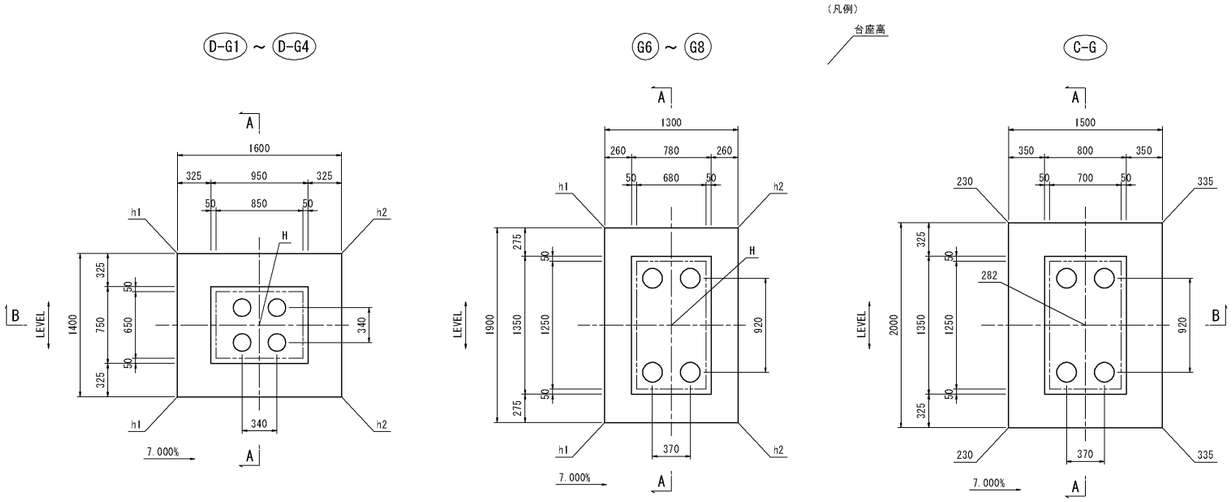
※施工上の留意点
- 細部寸法は現地調査実施の上、最終確認を行うこと。
- 既設構脚にアンカーを施工する際は、鉄筋探査を行って鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないものとすること。（ただし、既設沓座補強筋は切断可とする）
- 既設部と新設部の接合面には、十分な下地処理（チッピング）を行うこと。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	39 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ４橋脚 補強構造図（その２）	番号	2／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

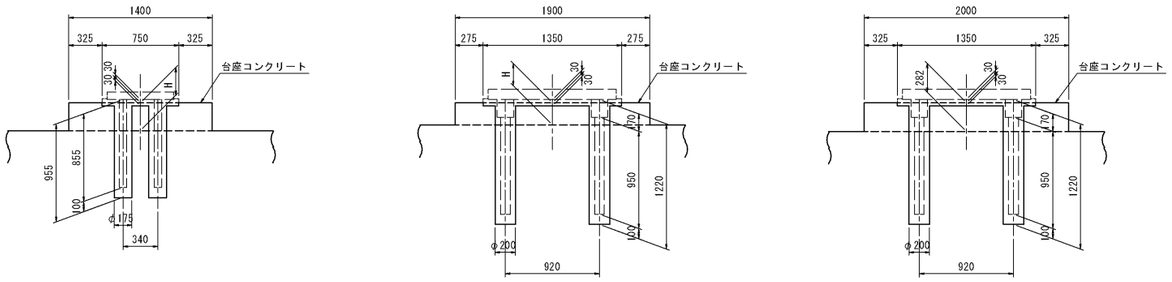
Ｐ４橋脚補強構造図（その2）　S=1:30

台座コンクリート詳細図

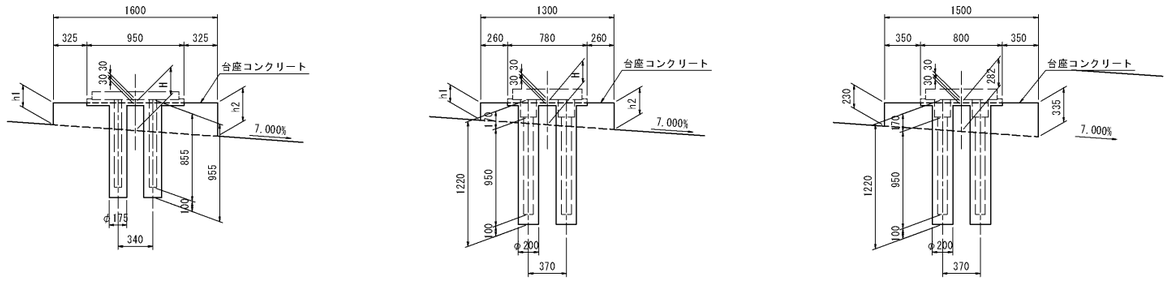
（凡例）　台座高



A － A（橋軸方向）



B － B（橋軸直角方向）



台座コンクリート高表

	D-G1	D-G2	D-G3	D-G4
H	266	271	273	269
h1	210	215	217	213
h2	322	327	329	325

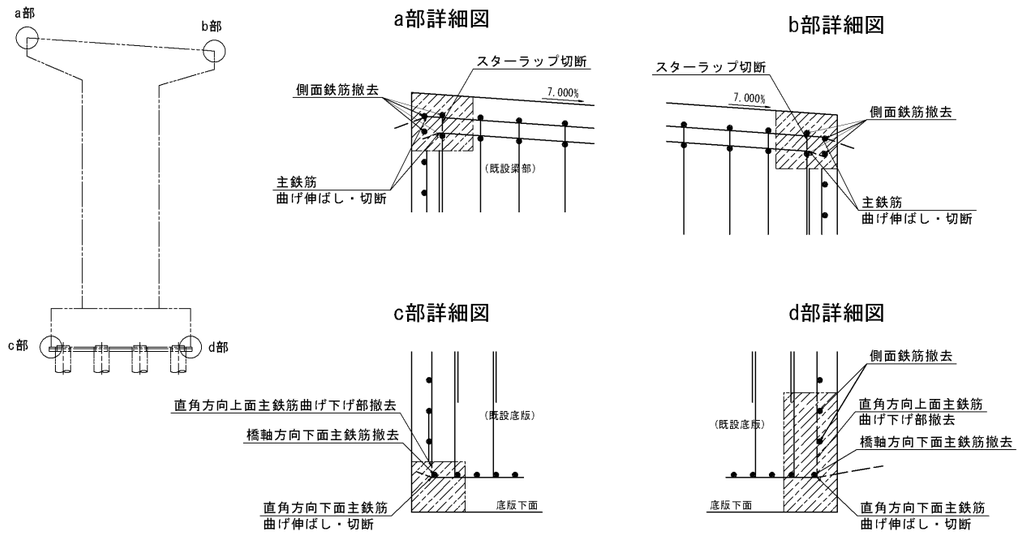
台座コンクリート高表

	G8	G7	G6
H	215	211	217
h1	170	166	172
h2	261	257	263

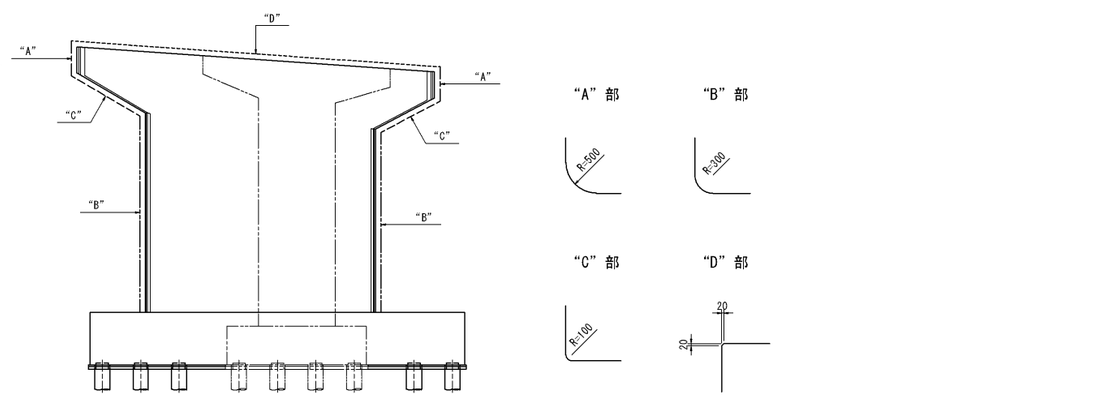
構造高表（支点上）

	C･Dランプ拡幅第1橋(Dランプ側)									Dランプ拡幅第2橋			
	新設桁			既設桁					新設桁	新設桁			
	G8	G7	G6	G5	G4	G3	G2	G1	C-G	D-G1	D-G2	D-G3	D-G4
計画高	26.279	26.074	25.868	25.693	25.517	25.341	25.165	24.989	24.779	26.266	26.116	25.966	25.816
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.070	0.070	0.070	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
床版上面高	26.129	25.924	25.718	25.543	25.437	25.261	25.085	24.909	24.699	26.186	26.036	25.886	25.736
床版厚	0.230	0.230	0.230	0.210	0.210	0.210	0.210	0.210	0.230	0.240	0.240	0.240	0.240
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.100	0.100	0.100	0.100
桁高	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000
下フランジ厚	0.020	0.024	0.018	0.037	0.035	0.033	0.045	0.042	0.019	0.025	0.019	0.019	0.022
ソールプレート厚	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	0.029	0.030	0.028	0.029
支承高	0.245	0.245	0.245	0.327	0.327	0.327	0.327	0.327	0.249	0.249	0.249	0.249	0.249
支承下面標高	23.511	23.302	23.102	22.846	22.742	22.568	22.380	22.207	22.078	23.543	23.398	23.250	23.096
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.215	0.211	0.217	0.136	0.208	0.210	0.198	0.201	0.282	0.266	0.271	0.273	0.269
下部工高	23.266	23.061	22.855	22.680	22.504	22.328	22.152	21.976	21.766	23.247	23.097	22.947	22.797

既設橋脚はつり部鉄筋切断概要図　S=1:20



面取り形状詳細図

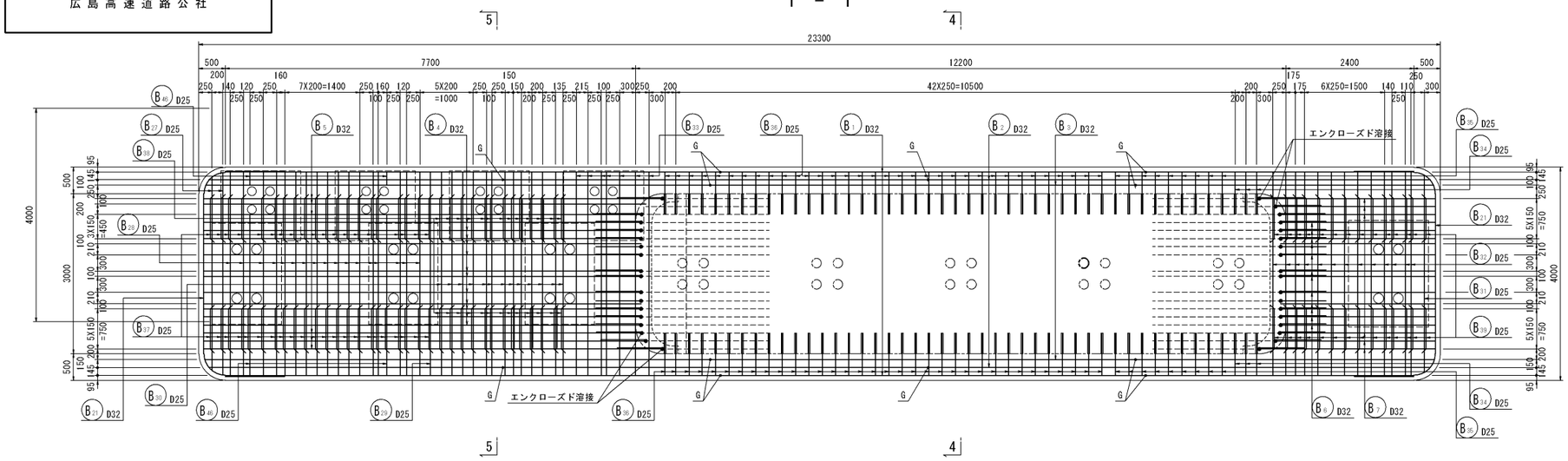


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	40 ／ 110	縮尺	図示
図名	P4橋脚 補強配筋図（その1）	番号	1 ／ 13
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

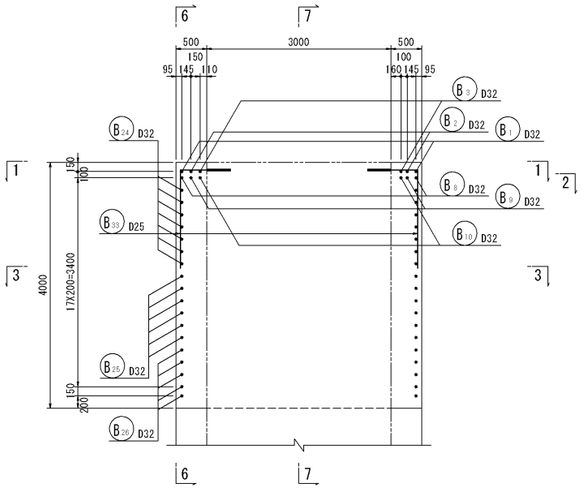
P4橋脚補強配筋図（その1）

S=1:50

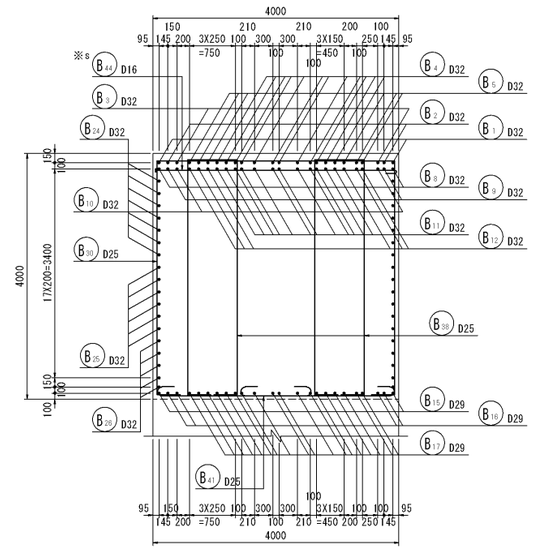
1 － 1



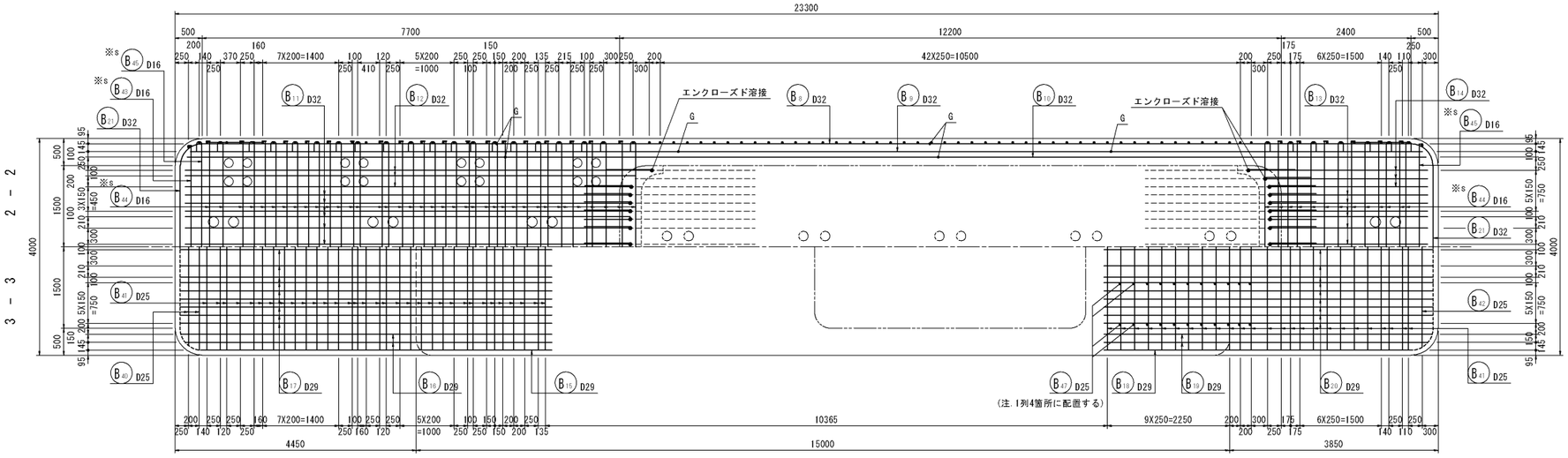
4 － 4

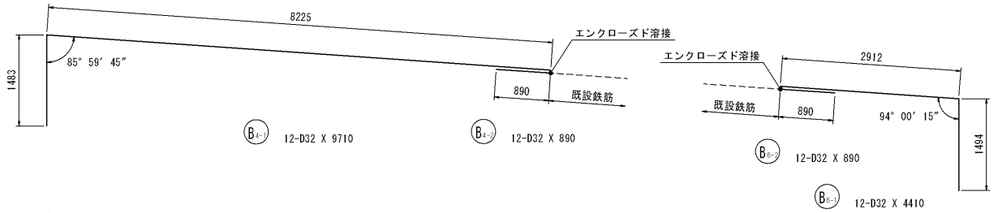


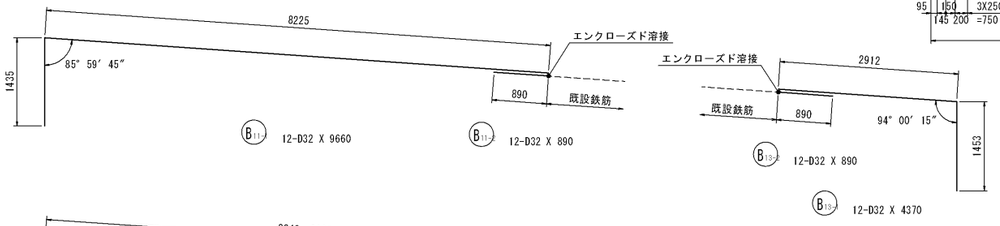
5 － 5

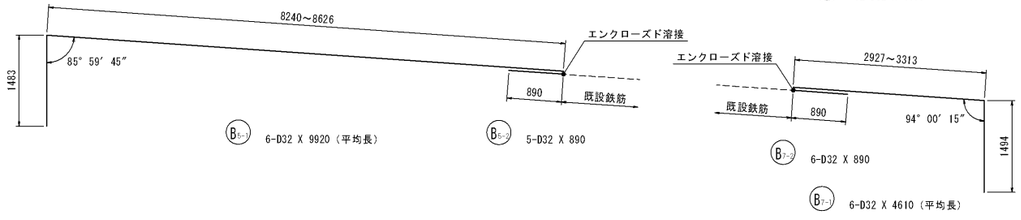


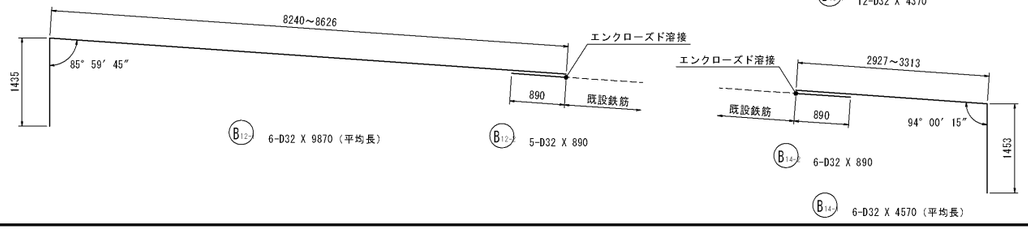
2 － 2　3 － 3











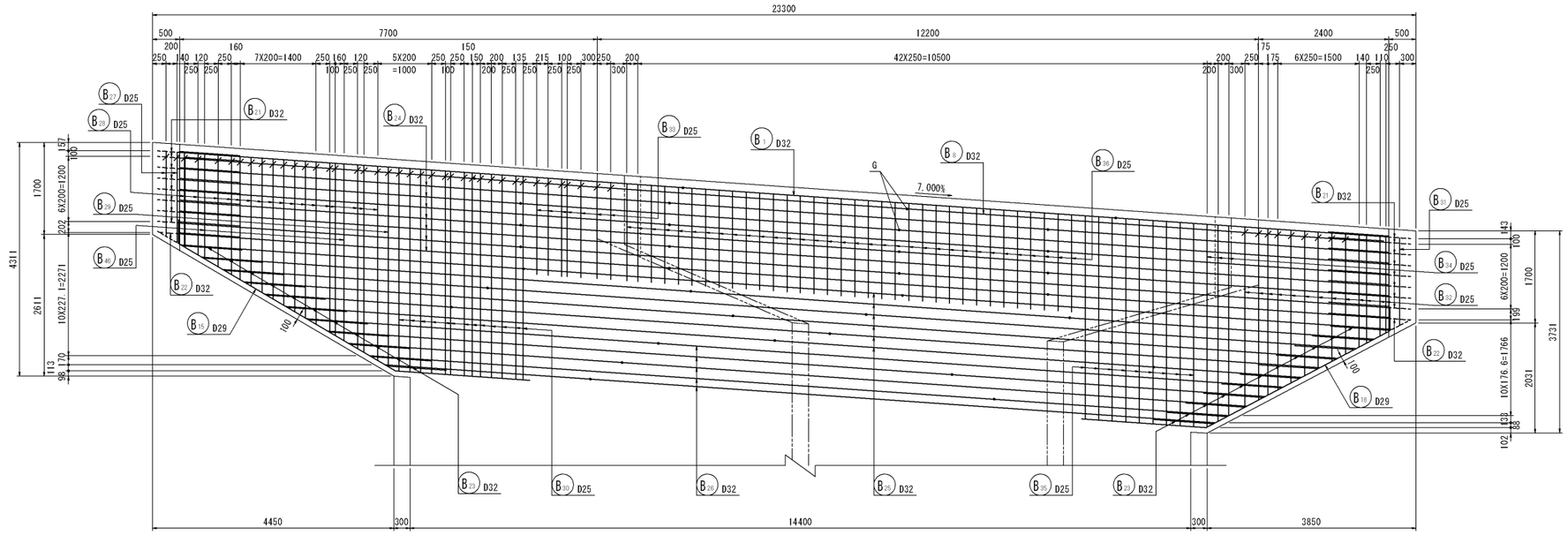
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

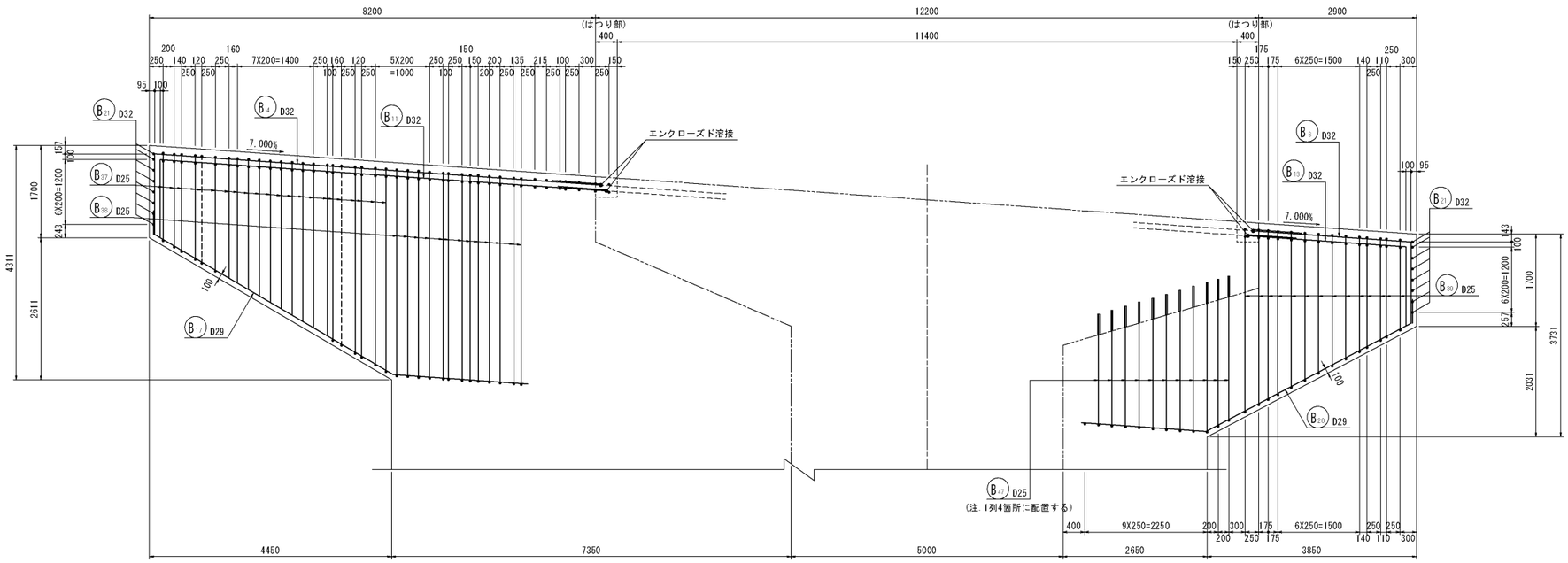
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	41 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その２）	番号	2 ／ 13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ４橋脚補強配筋図（その2）　S=1:50

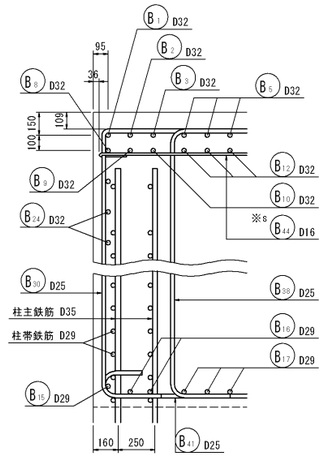
6 － 6



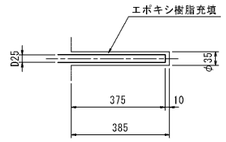
7 － 7



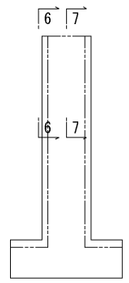
梁かぶり詳細図　S=1:20



樹脂アンカー詳細図



位置図



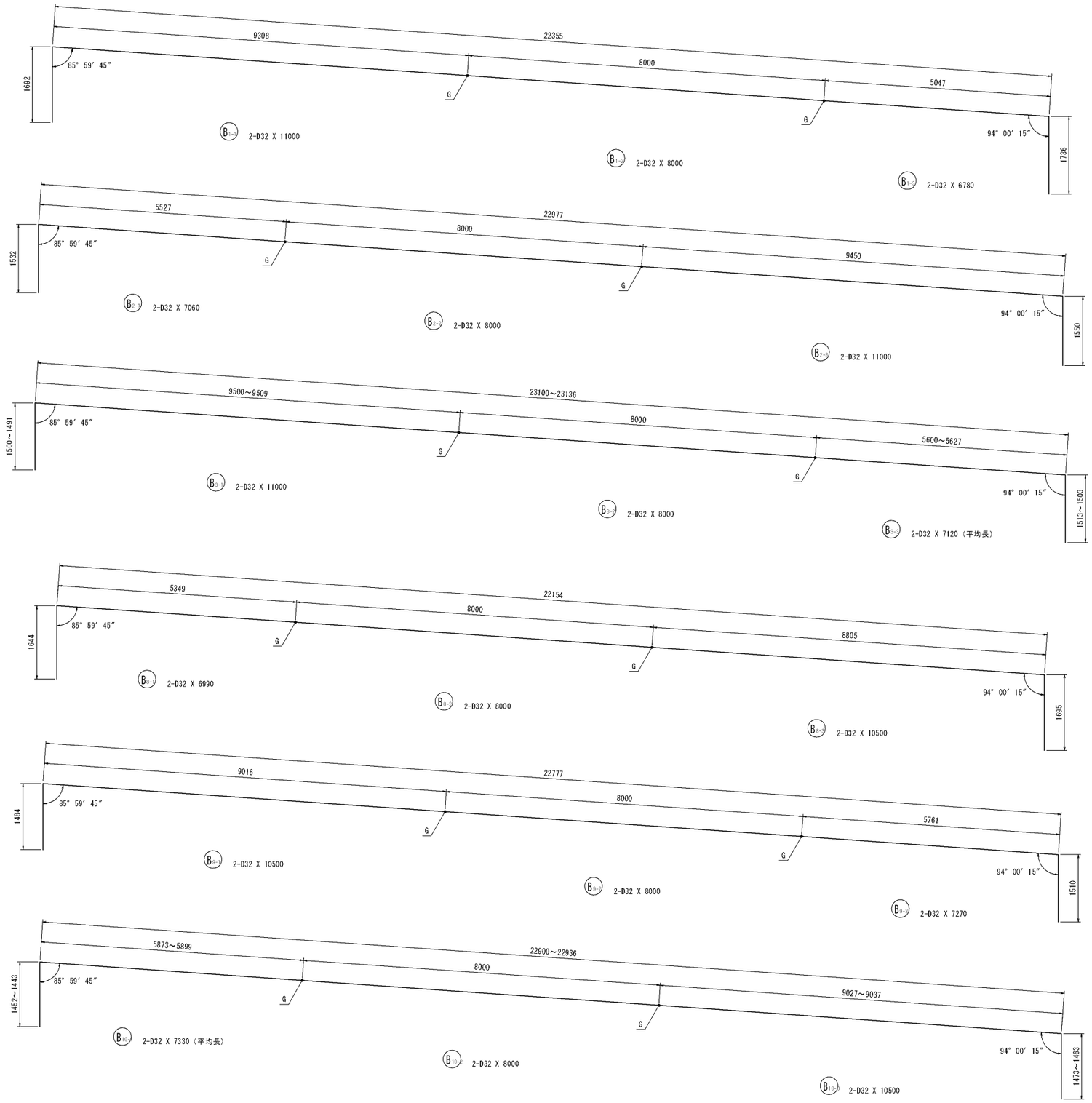
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	42 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	P4橋脚 補強配筋図（その3）	番号	3 ／ 13
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

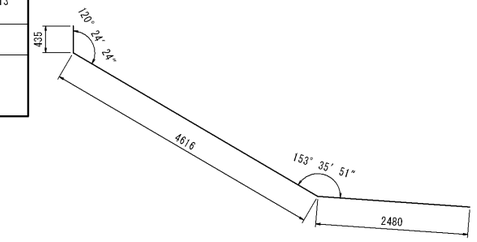
P4橋脚補強配筋図（その3）　S=1:50



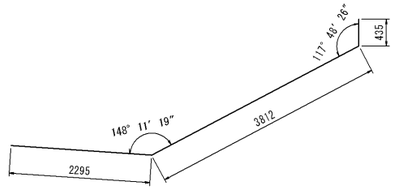
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	43 ／ 110	縮尺	図示
図名	P4橋脚 補強配筋図（その4）	番号	4 ／ 13
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

P4橋脚補強配筋図（その4）

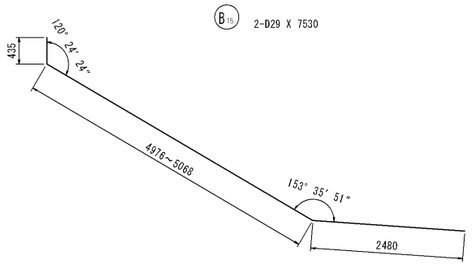
S=1:50



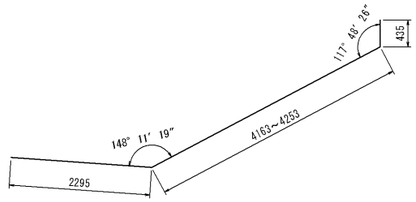
B15 2-D29 X 7530



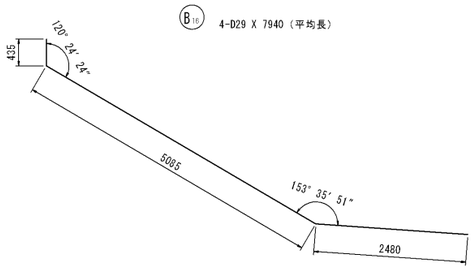
B18 2-D29 X 6540



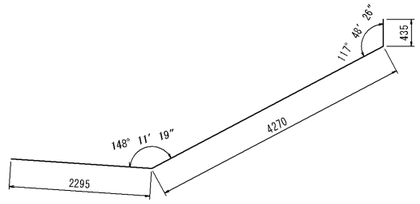
B16 4-D29 X 7940（平均長）



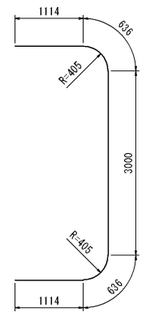
B19 4-D29 X 6940（平均長）



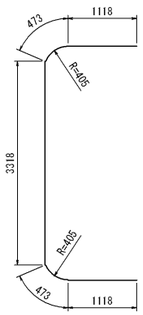
B17 18-D29 X 8000



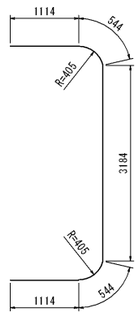
B20 18-D29 X 7000



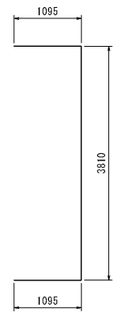
B21 16-D32 X 6500



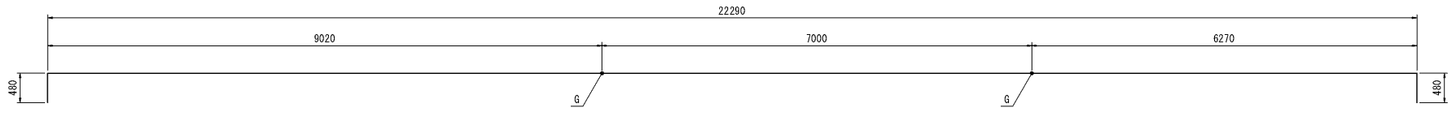
B22 1-D32 X 6500



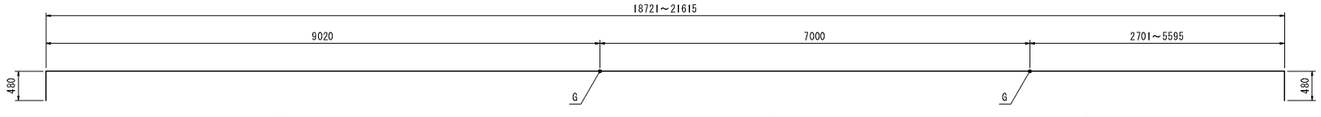
B22 1-D32 X 6500



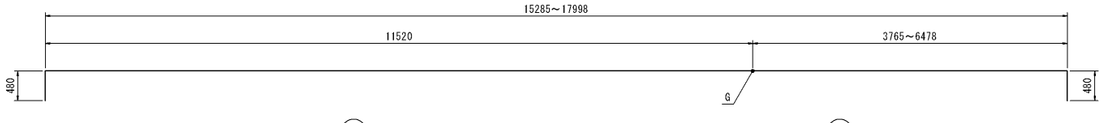
B23 22-D32 X 6000



B24 14-D32 X 9500　B24 14-D32 X 7000　B24 14-D32 X 6750

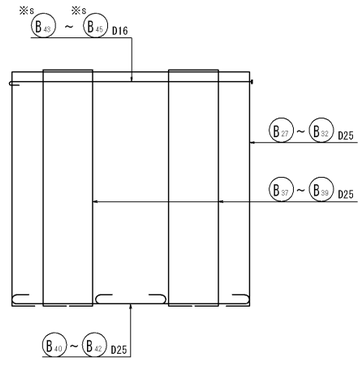


B25 12-D32 X 9500　B25 12-D32 X 7000　B25 12-D32 X 4630（平均長）



B26 10-D32 X 12000　B26 10-D32 X 5600（平均長）

鉄筋組立図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

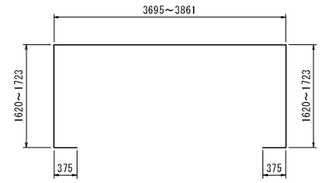
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

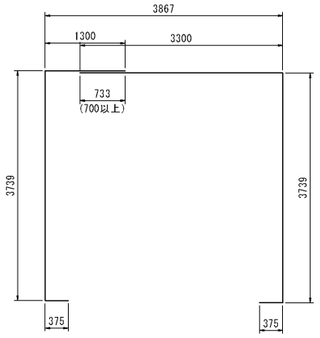
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	44 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その５）	番号	5／13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ４橋脚補強配筋図（その5）

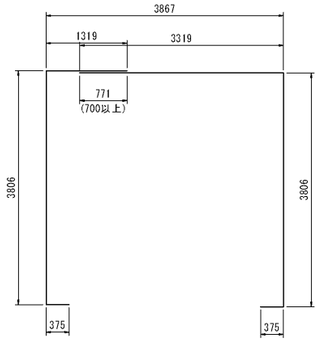
S=1:50



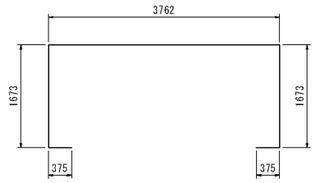
B27 2-D25 X 7870（平均長）



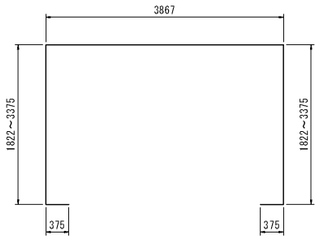
B28 1-D25 X 5410　B29 1-D25 X 7410



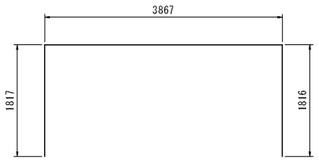
B30 13-D25 X 5500　B30 13-D25 X 7500



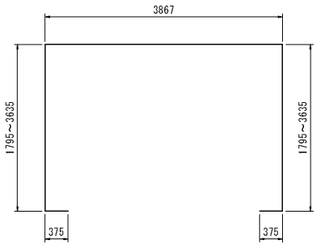
B31 1-D25 X 7860



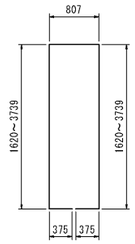
B32 13-D25 X 9810（平均長）



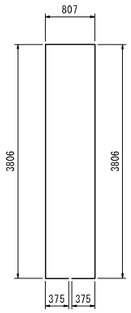
B33 7-D25 X 7500



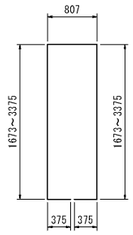
B28 17-D25 X 10050（平均長）



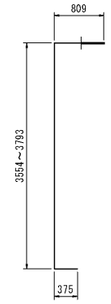
B37 42-D25 X 6920（平均長）



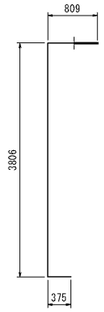
B38 26-D25 X 9170



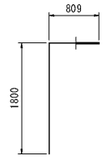
B39 28-D25 X 6610（平均長）



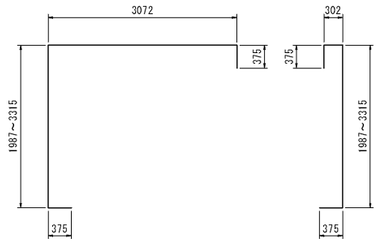
B34 6-D25 X 4860（平均長）



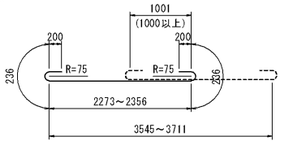
B35 18-D25 X 4990



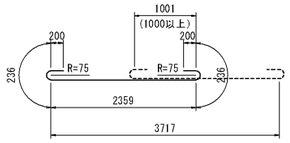
B36 68-D25 X 2610



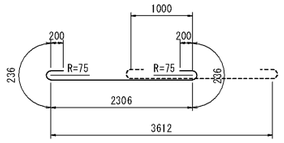
B46 2-D25 X 6470（平均長）　B46 2-D25 X 3700（平均長）



B40 4-D25 X 3190（平均長）



B41 116-D25 X 3230



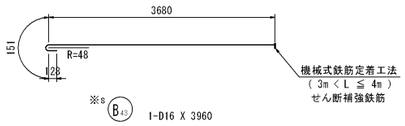
B42 2-D25 X 3180

B47 44-D25 X 2770（平均長）

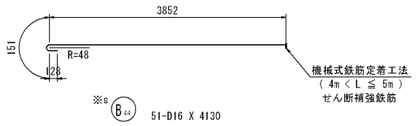
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

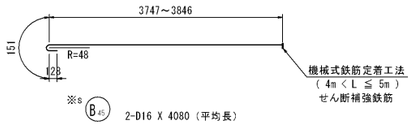
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。



※8 B43 1-D16 X 3960



※8 B44 51-D16 X 4130

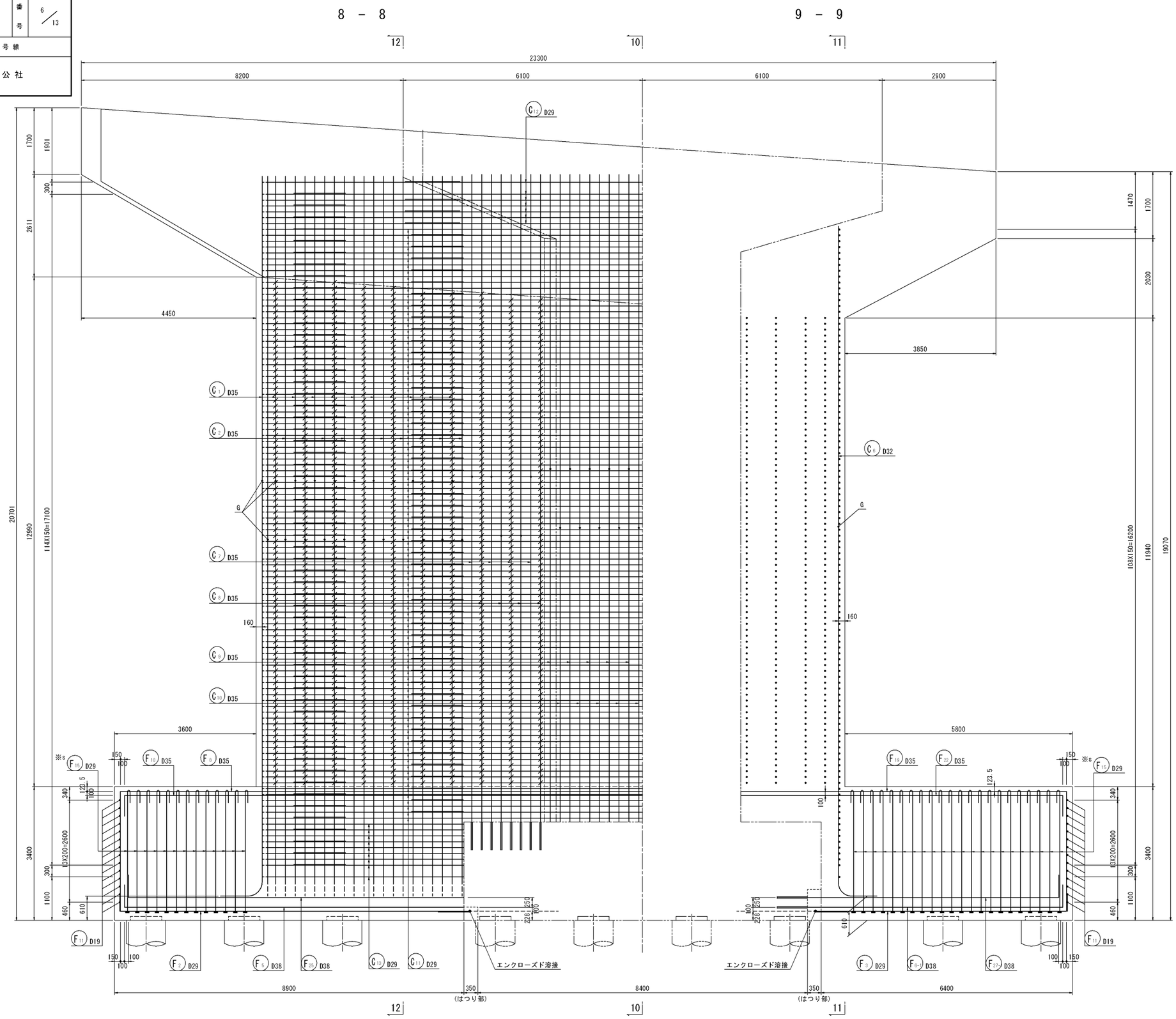


※8 B45 2-D16 X 4080（平均長）

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	45 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その６）	番号	6／13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ４橋脚補強配筋図（その6）

S=1:50

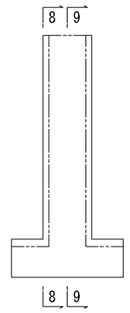


注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

位置図

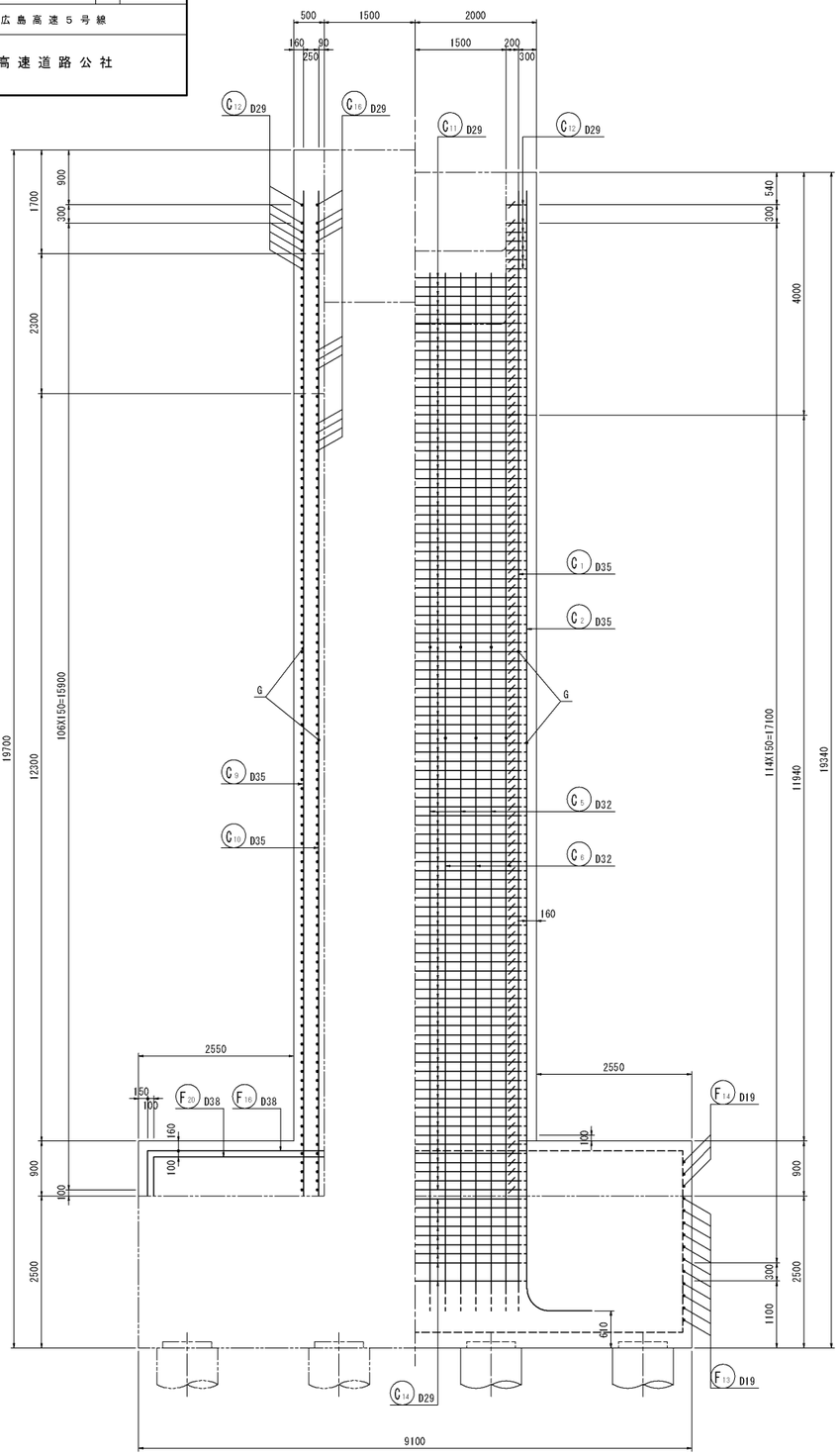


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	46 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その７）	番号	7／13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

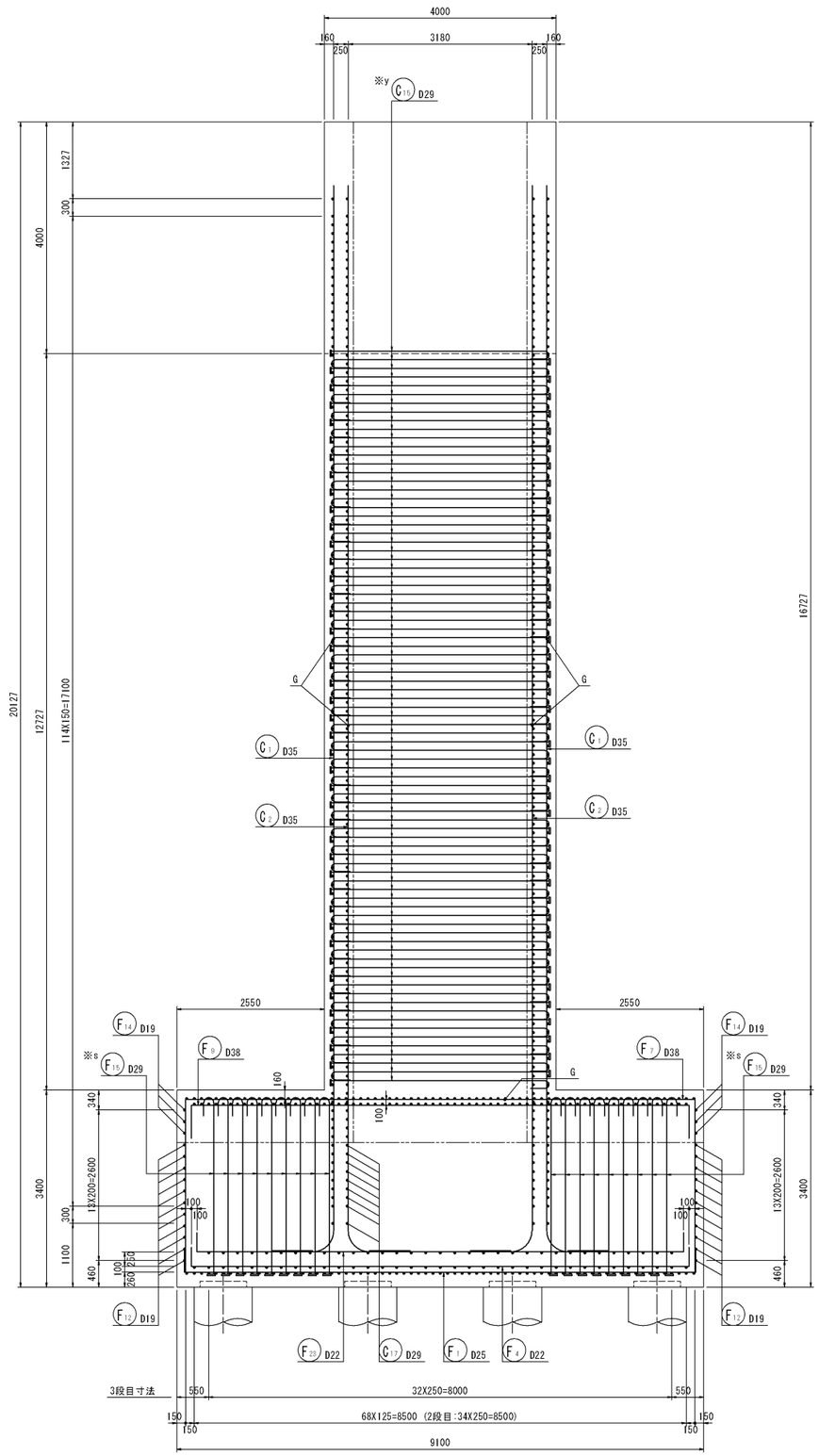
Ｐ４橋脚補強配筋図（その7）

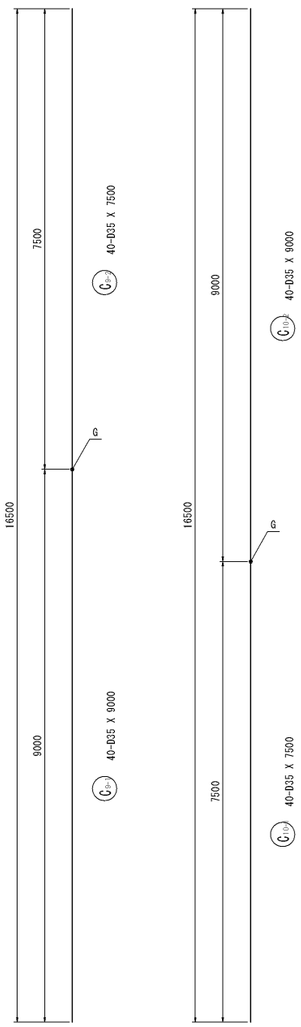
S=1:50

10 － 10　11 － 11



12 － 12





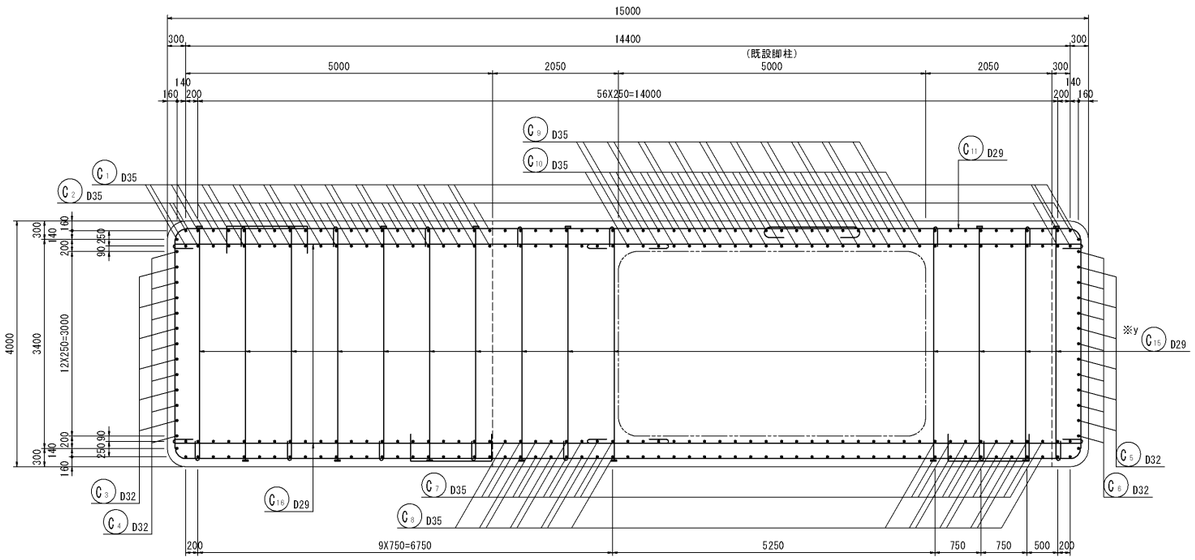
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事			
図面番号	47 ／ 110	縮尺	図示	
図名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その８）	番号	8 ／ 13	
路線名	広島高速５号線			
広島高速道路公社				

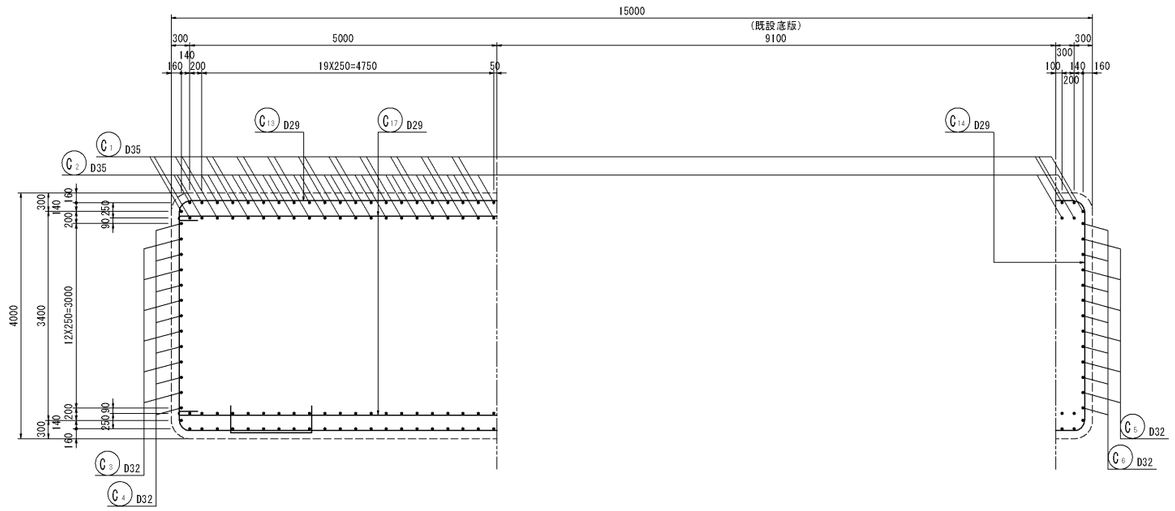
Ｐ４橋脚補強配筋図（その8）　S=1:50

13 － 13



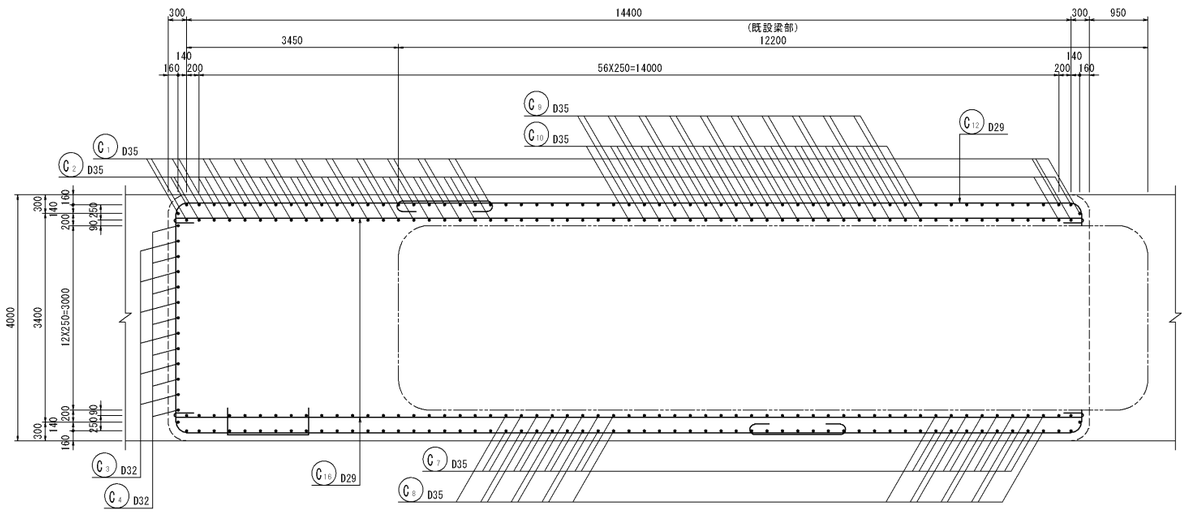
15 － 15

（底版内部）

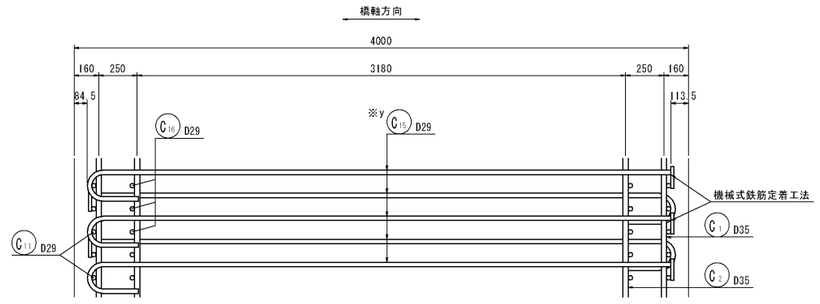


14 － 14

（梁内部）



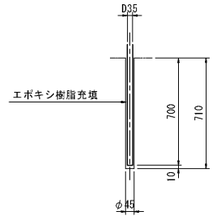
柱かぶり詳細図　S=1:20



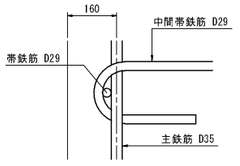
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

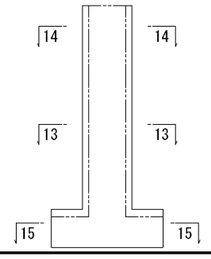
樹脂アンカー詳細図



中間帯鉄筋詳細図　S=1:10

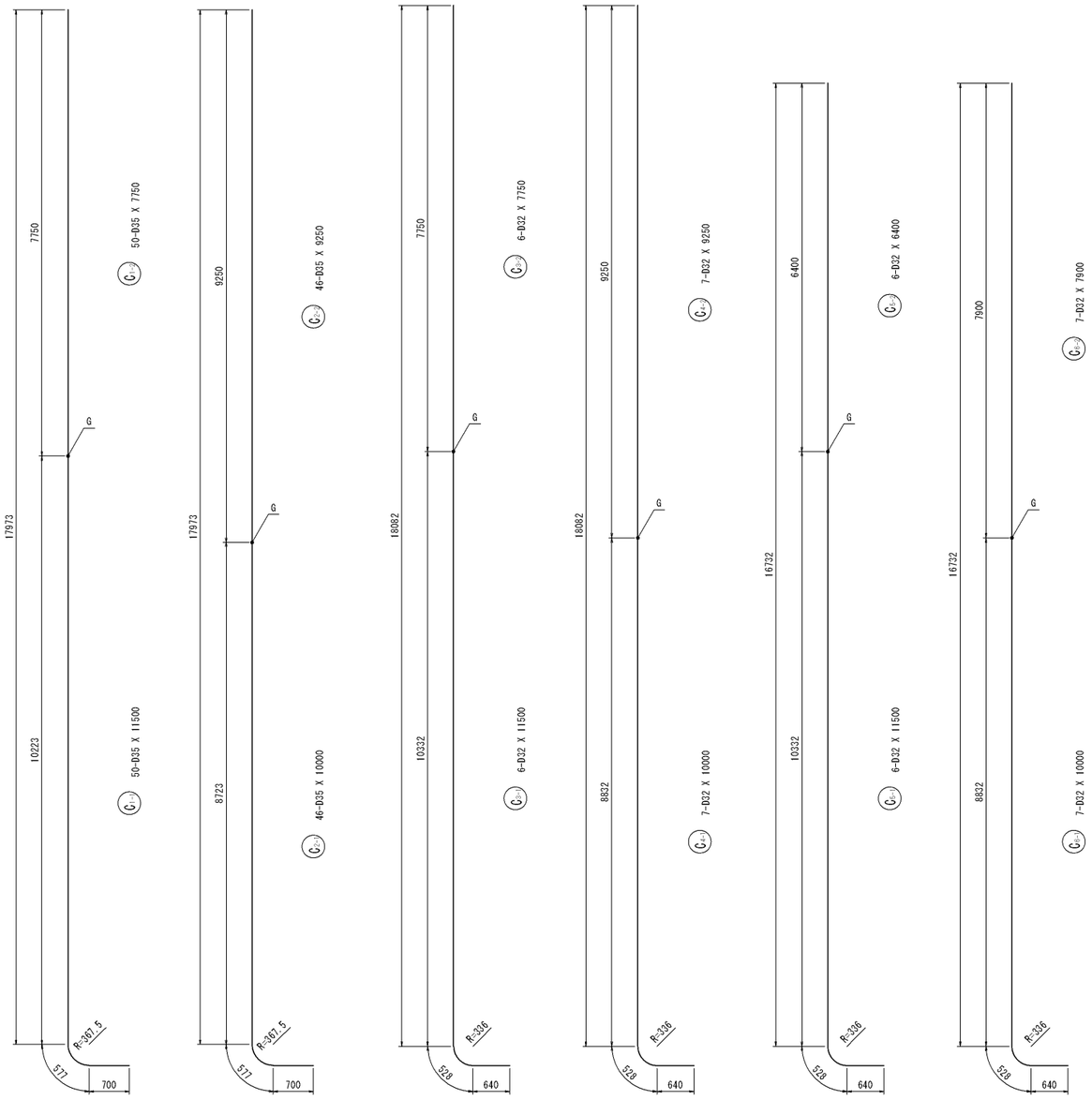


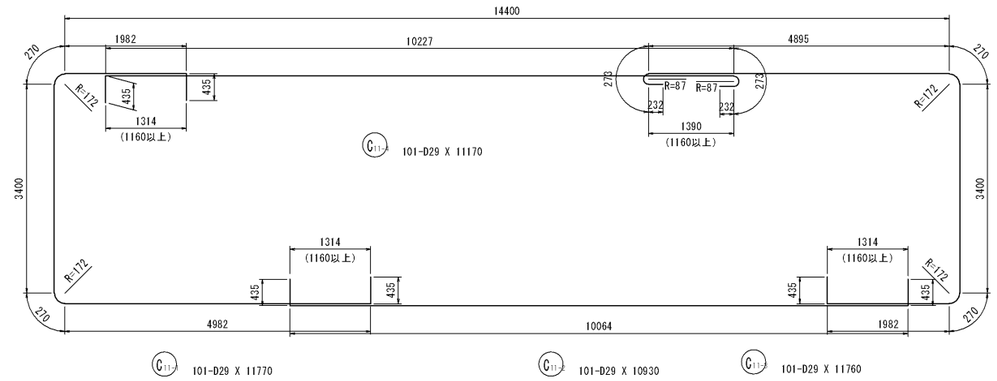
位置図

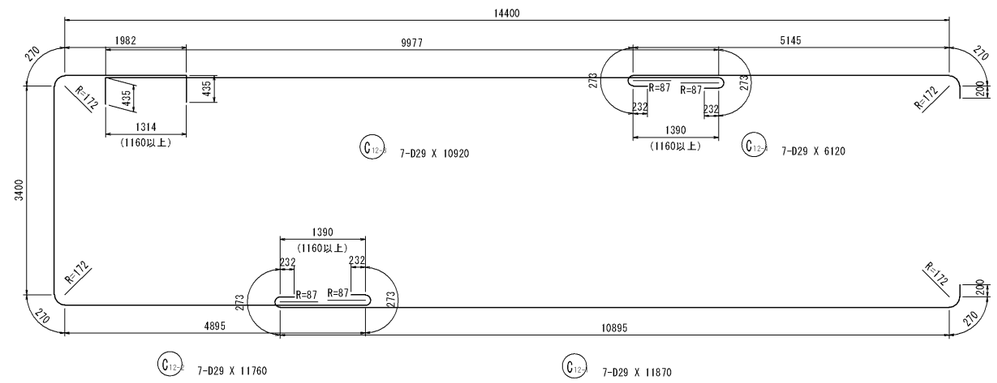


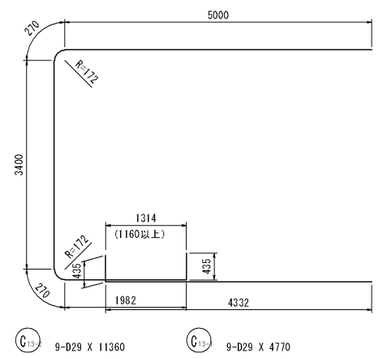
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	48 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その９）	番号	9 ／ 13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

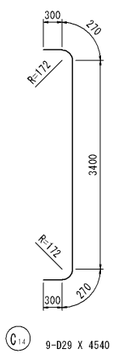
Ｐ４橋脚補強配筋図（その9）　S=1:50

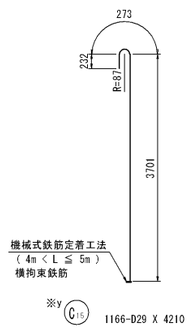


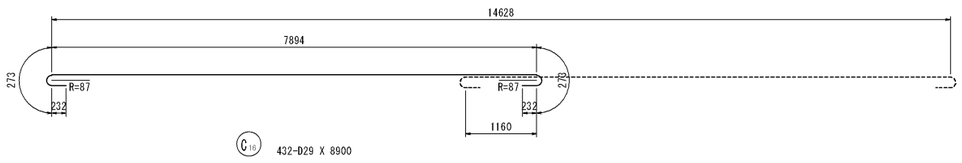


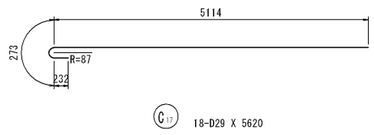












注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

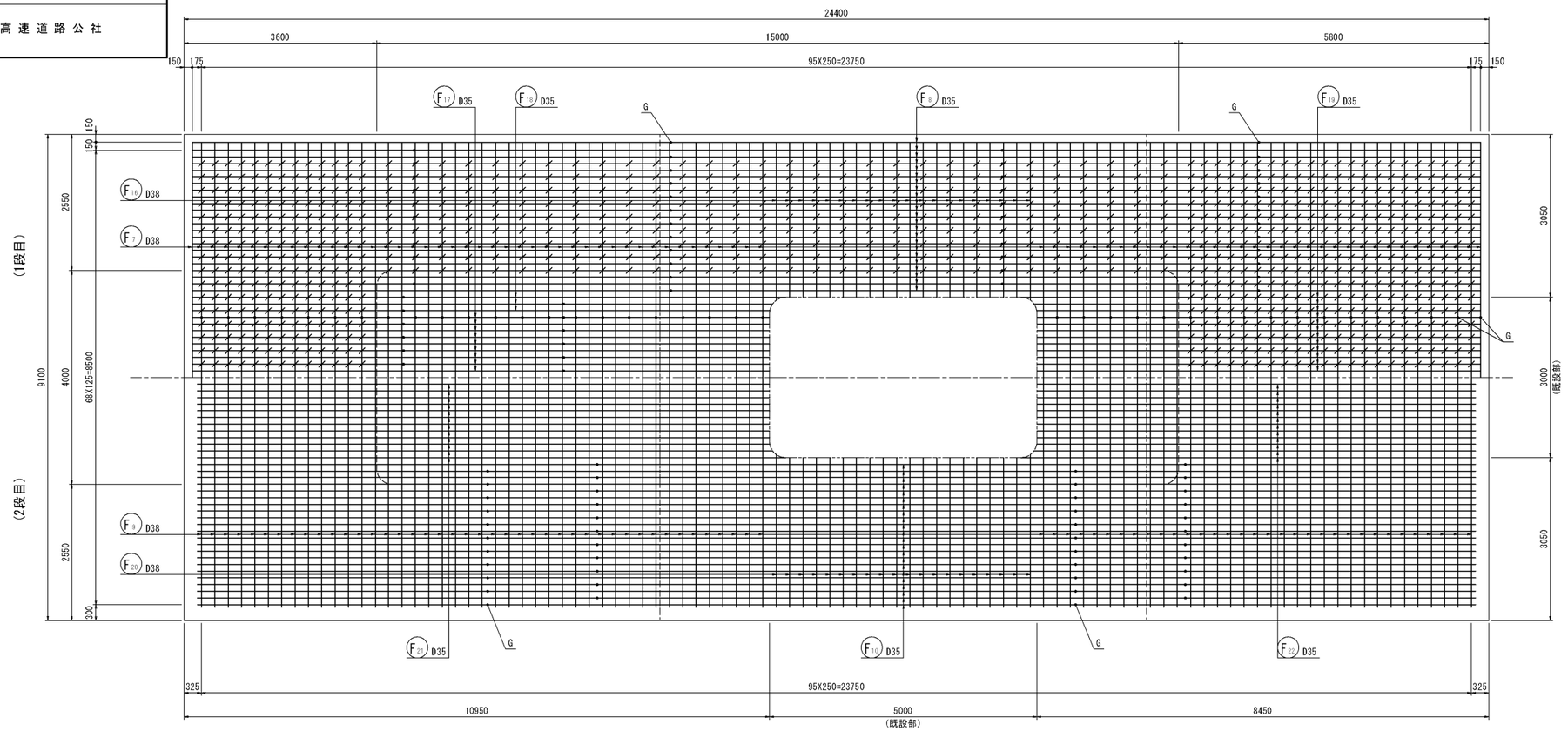
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

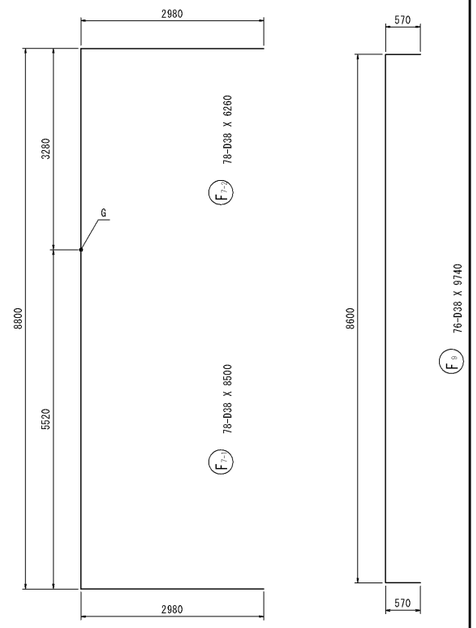
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

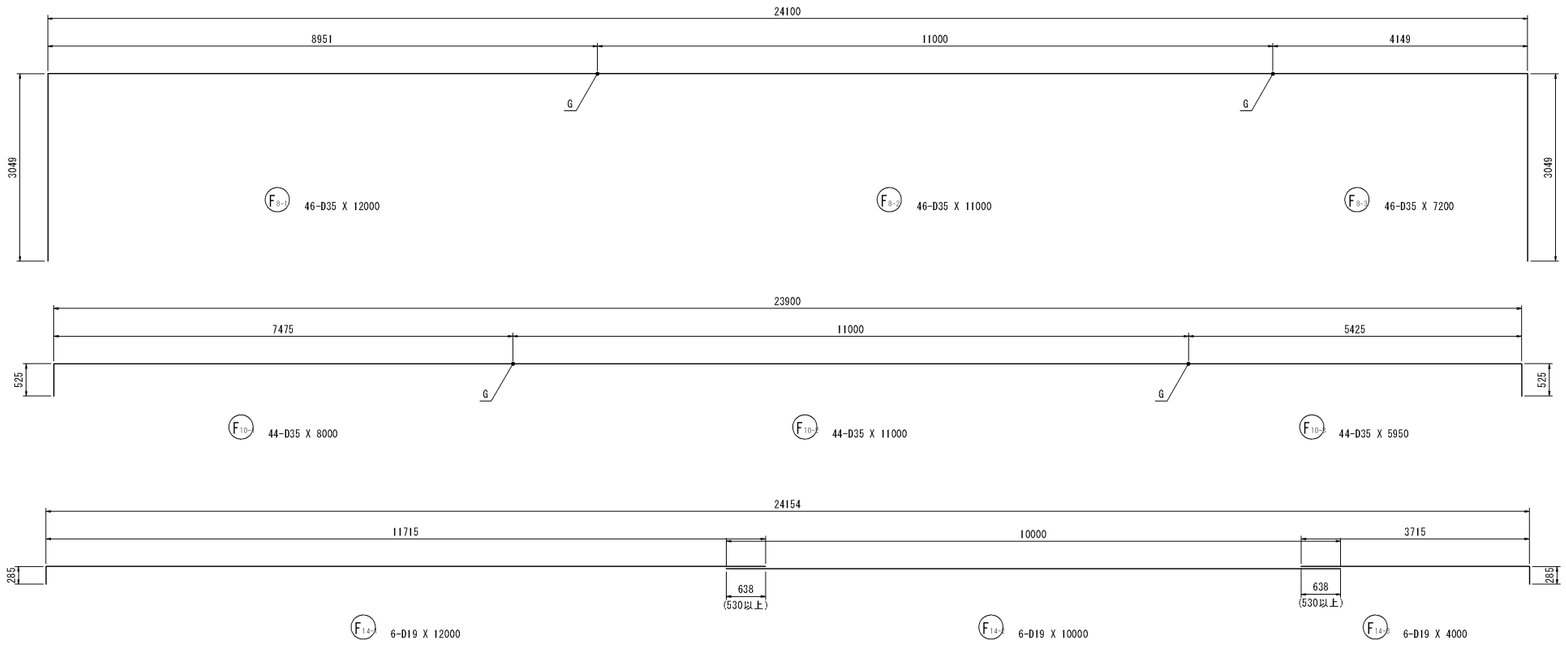
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	49 ／ 110	縮尺	図示
図名	P4橋脚 補強配筋図（その10）	番号	10 ／ 13
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

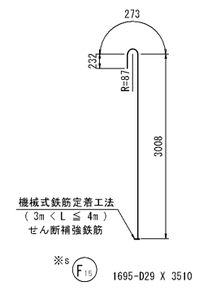
P4橋脚補強配筋図（その10） S=1:50

16 － 16（上面）

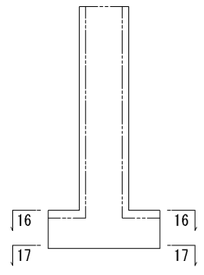








位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

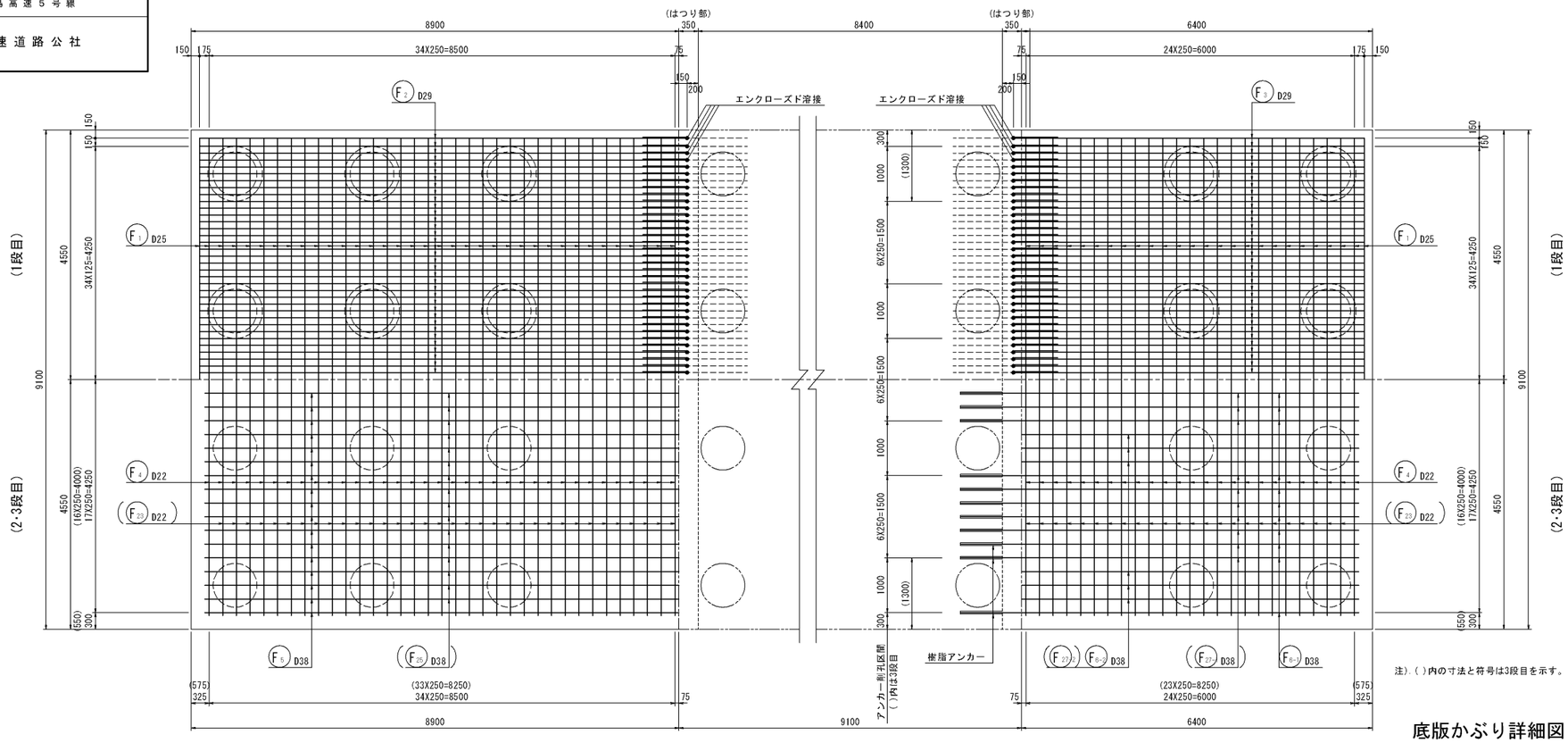
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

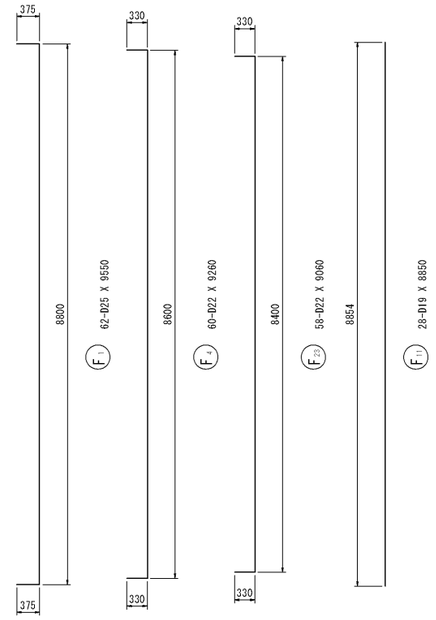
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	50 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その１１）	番号	11／13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ４橋脚補強配筋図（その11）　S=1:50

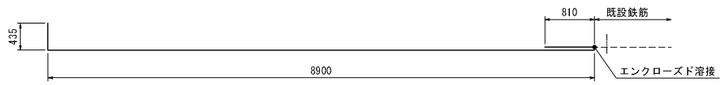
17 － 17（下面）



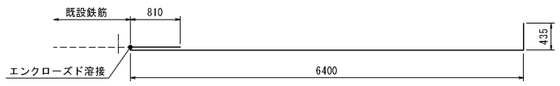
注).（ ）内の寸法と符号は3段目を示す。



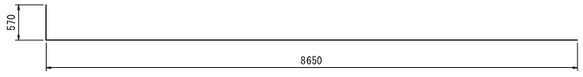
底版かぶり詳細図　S=1:20



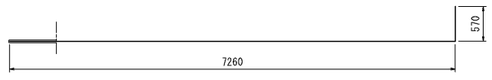
71-D29 X 9340　　71-D29 X 810



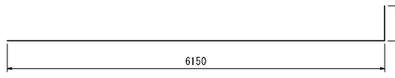
71-D29 X 810　　71-D29 X 6840



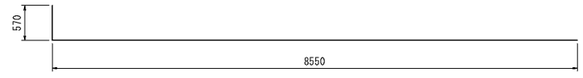
35-D38 X 9220



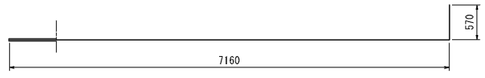
23-D38 X 7830



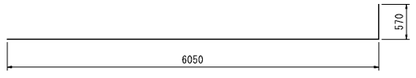
12-D38 X 6720



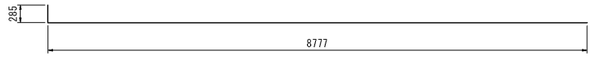
33-D38 X 9120



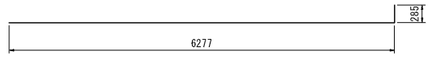
21-D38 X 7730



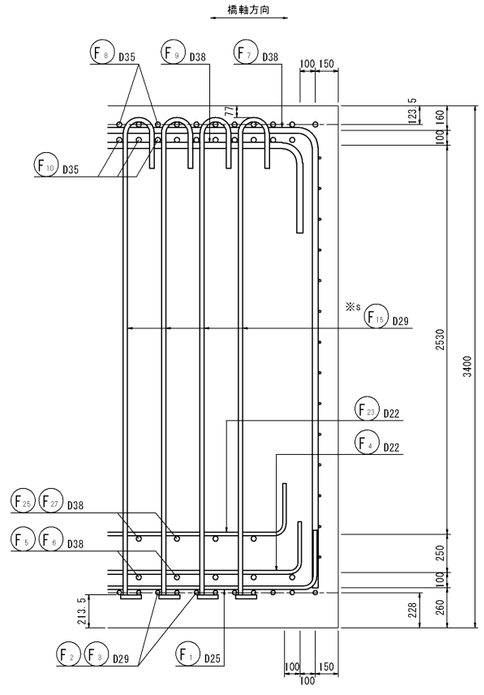
12-D38 X 6620



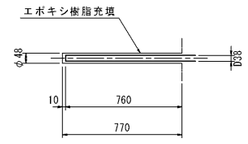
22-D19 X 9060



22-D19 X 6560



樹脂アンカー詳細図



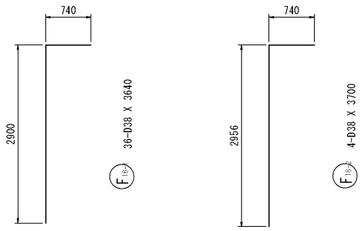
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

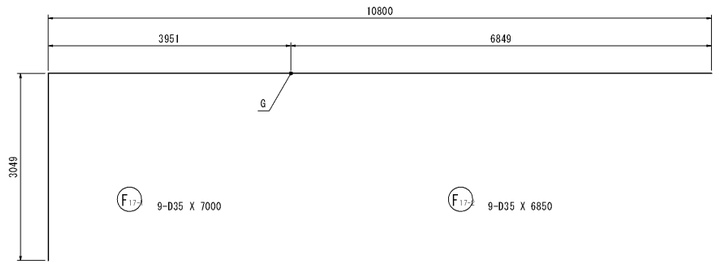
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

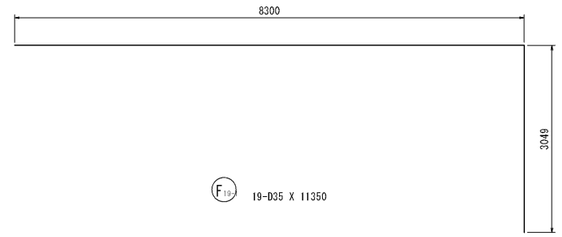
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

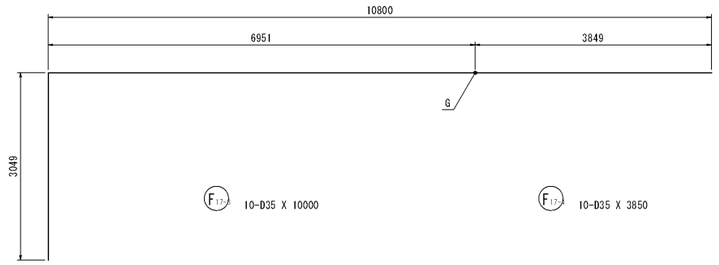
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	51 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その１２）	番号	12／13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

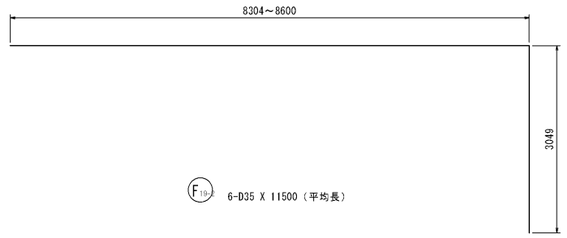
Ｐ４橋脚補強配筋図（その12） S=1:50

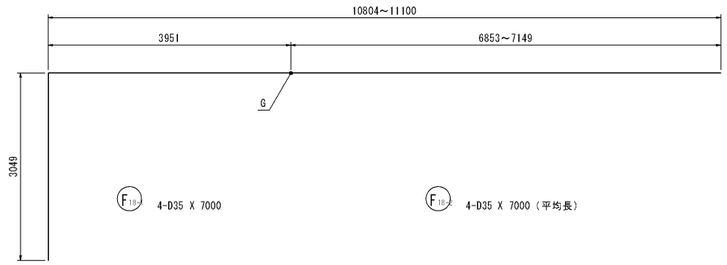


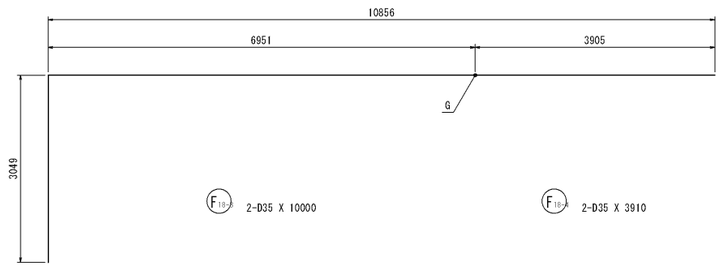


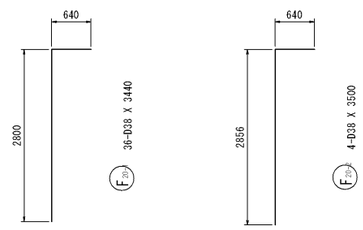


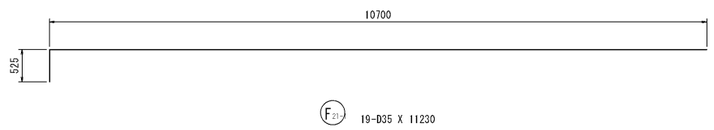


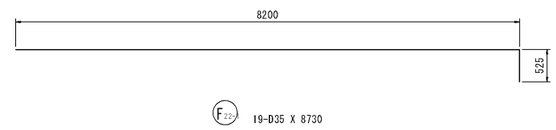


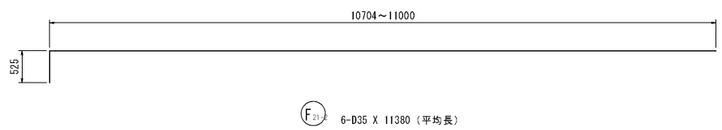


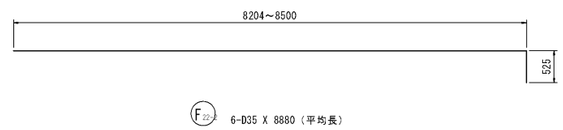












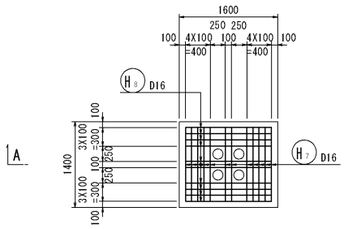
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	52 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 補強配筋図（その１３）	番号	13 ／ 13
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ４橋脚補強配筋図（その13）　S=1:50

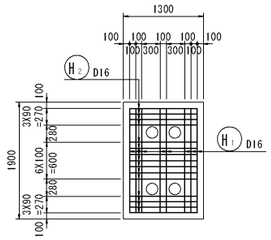
台座コンクリート配筋図

平面図

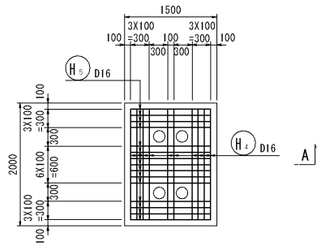
D-G1 ～ D-G4



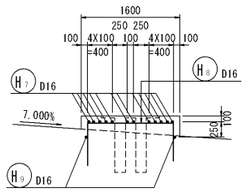
G6 ～ G8

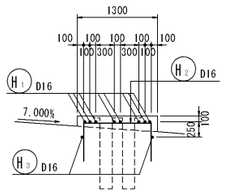


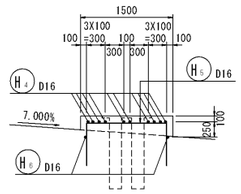
C-G

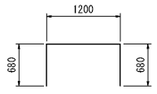


断面図
(A － A)

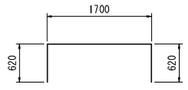




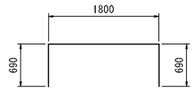




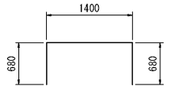
H7 48-D16 X 2560



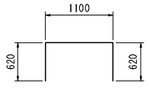
H1 24-D16 X 2940



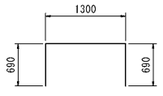
H4 10-D16 X 3180



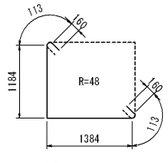
H8 40-D16 X 2760



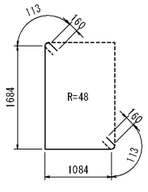
H2 45-D16 X 2340



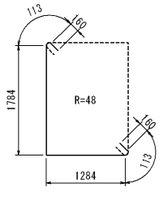
H5 15-D16 X 2680



H9 8-D16 X 3110



H3 6-D16 X 3310

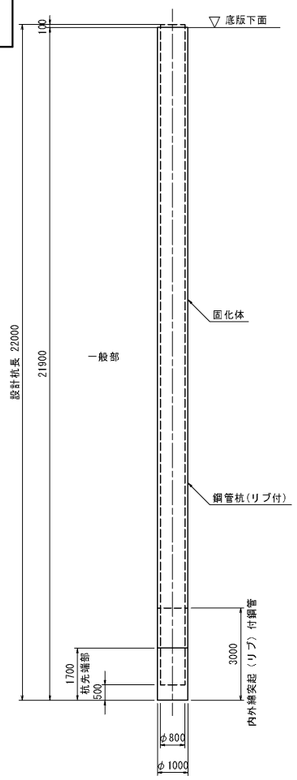


H6 2-D16 X 3610

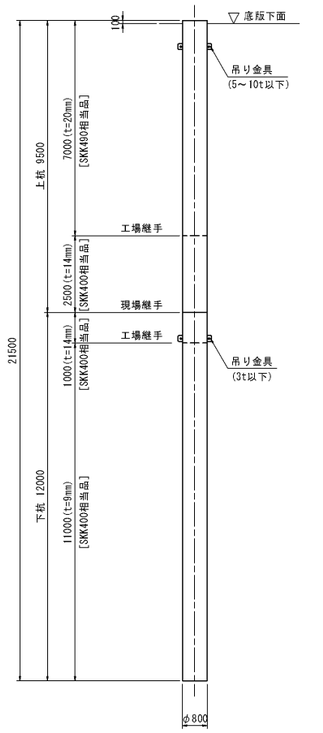
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	53 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ４橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

P4橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1）

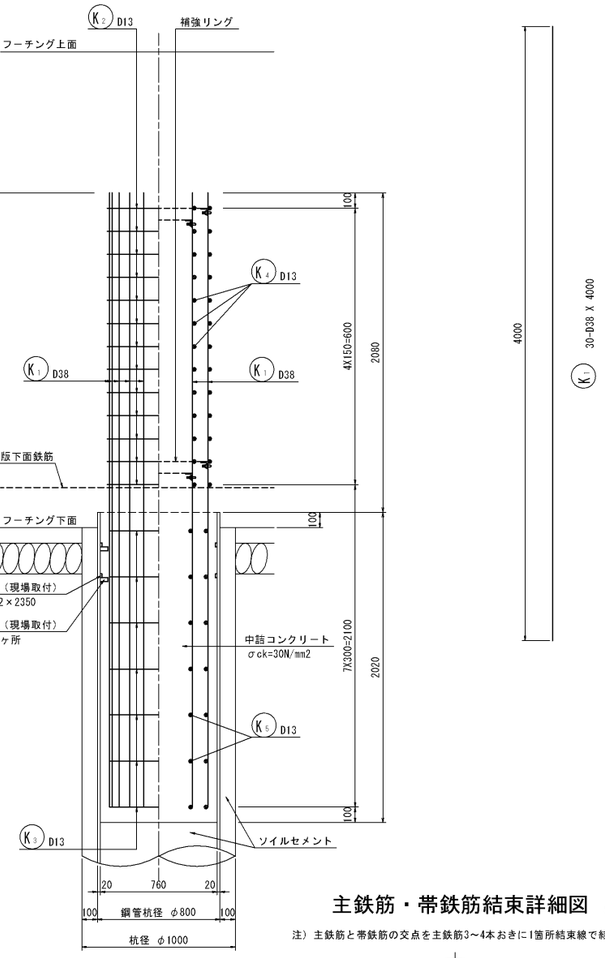
杭構成図 S=1:100

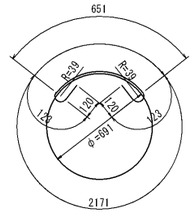


鋼管杭構成図 S=1:100

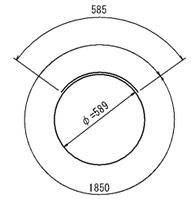


杭頭部詳細図 S=1:20

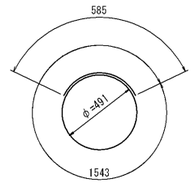




K2 13-D13 X 3310

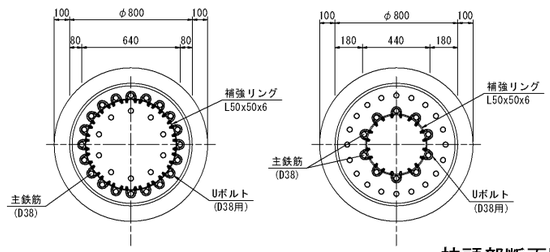


K3 6-D13 X 2440



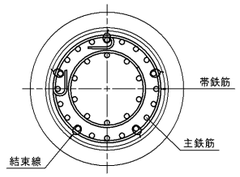
K4 13-D13 X 2130

補強リングと主筋金具詳細図 S=1:20

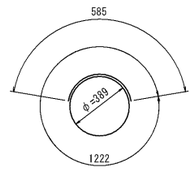


主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図 S=1:20

注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



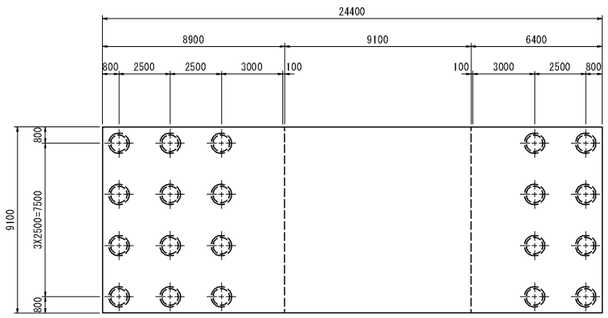
主鉄筋と帯鉄筋は番線結束とする。



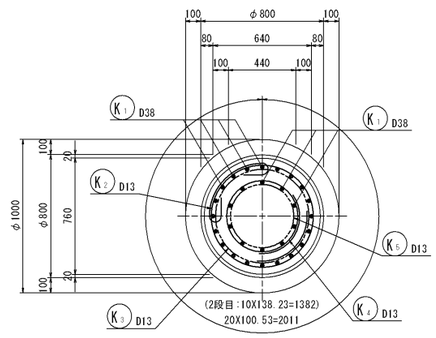
K5 7-D13 X 1810

P4橋脚杭配置図 S=1:150

n=20本

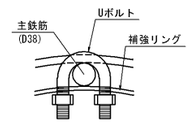


杭頭部断面図 S=1:20



固定金具詳細図

S=1:5



Uボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

※1. Uボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

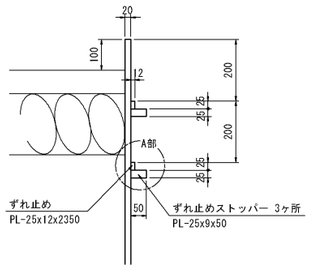
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1000(φ800)
鋼　管		SKK400, 490
コンクリート	底　版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄　筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事			
図面番号	54 ／ 110	縮尺	図示	
図名	Ｐ４橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その２）	番号	2／2	
路線名	広島高速５号線			
広島高速道路公社				

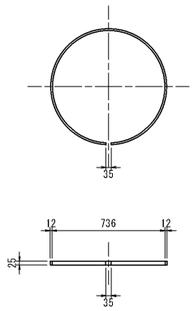
P4橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2）

ずれ止め詳細図 S=1:10

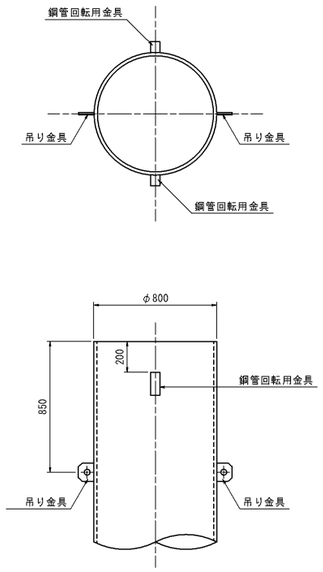


ずれ止め取付詳細図 S=1:20

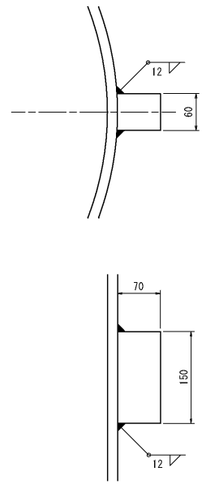
（ニュートラルライン）



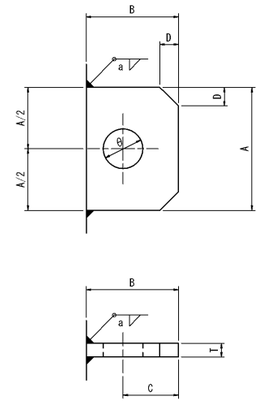
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図 S=1:20



鋼管回転用金具詳細図 S=1:5

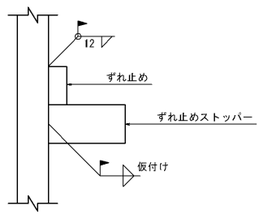


吊金具詳細図 S=1:5



種別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/箇	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2
10～20t以下	300	250	22	80	15	150	50	17	2

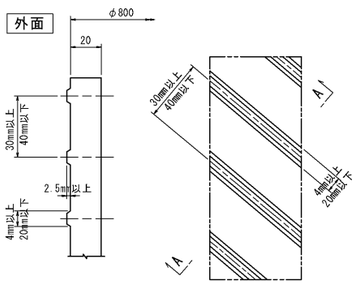
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

A － A　　正面図

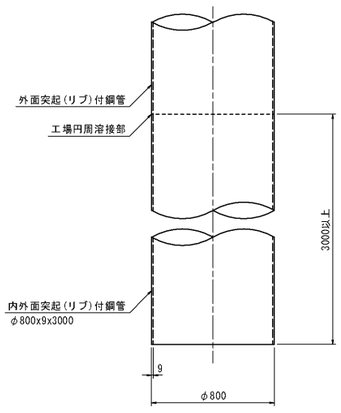


特記事項

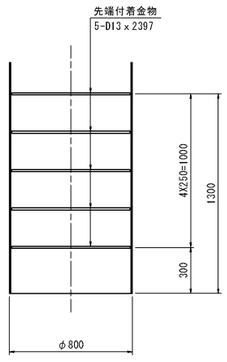
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

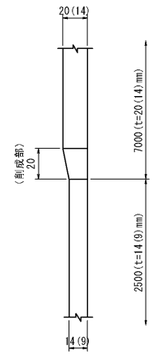
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付



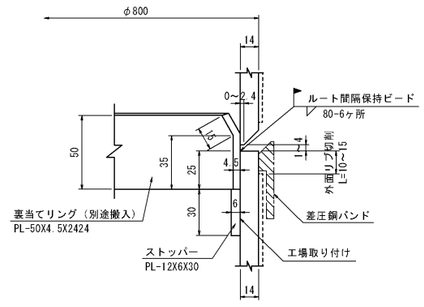
工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

（差厚鋼バンド使用時）

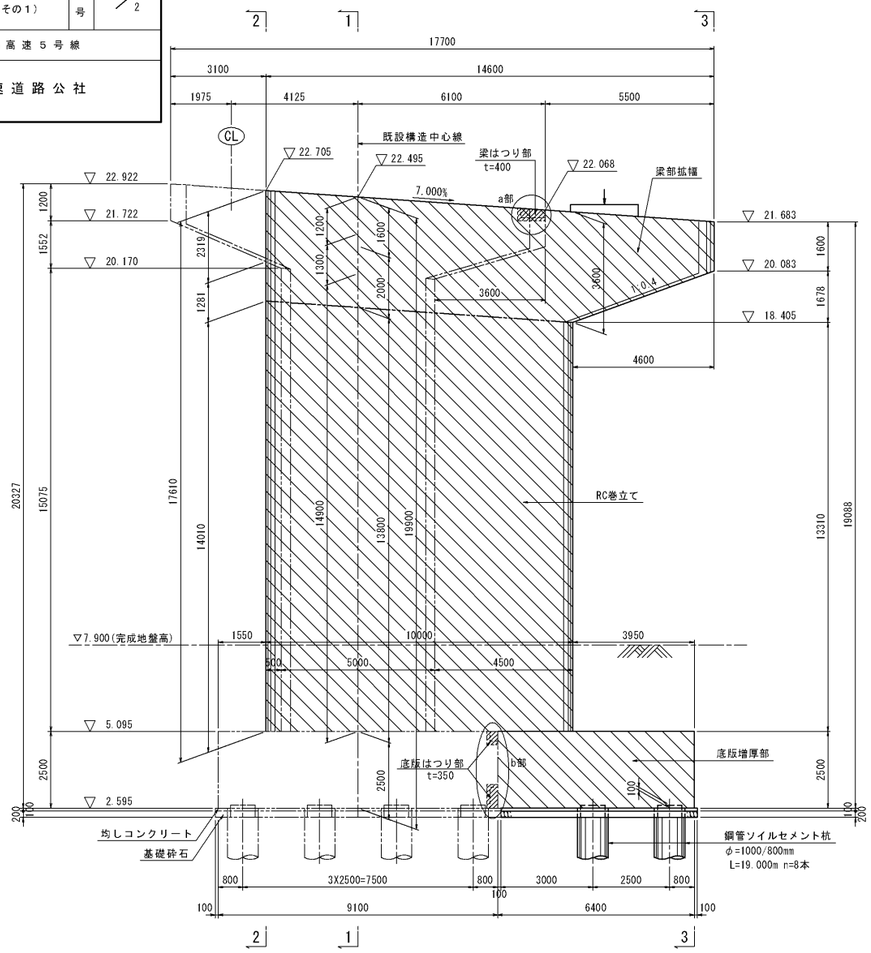
t=14mmの場合



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	55 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	P3橋脚 補強構造図（その1）	番号	1／2
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

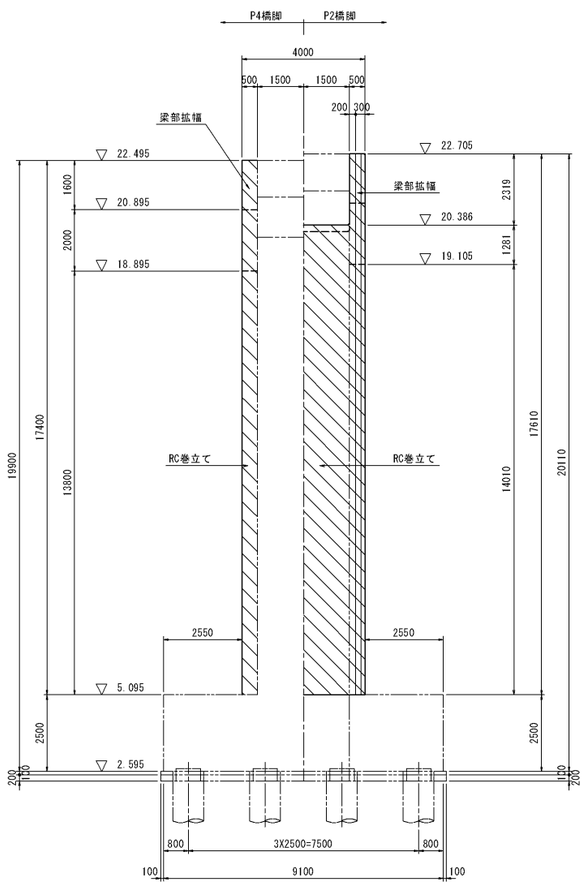
P3橋脚補強構造図（その1）　S=1:100

正面図

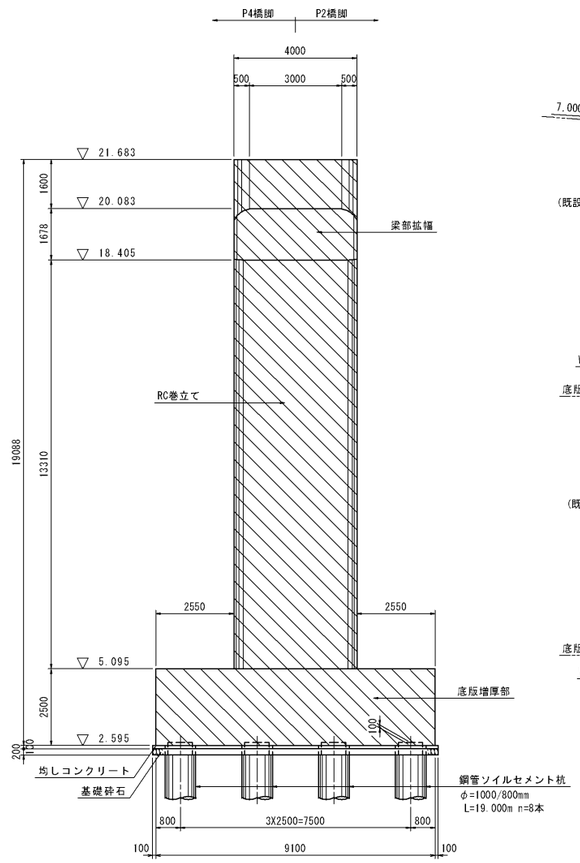


側面図

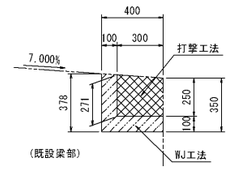
1－1　2－2



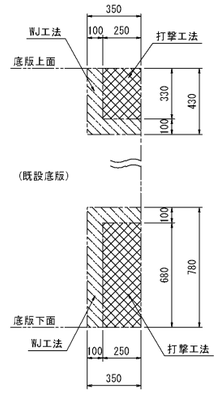
3－3



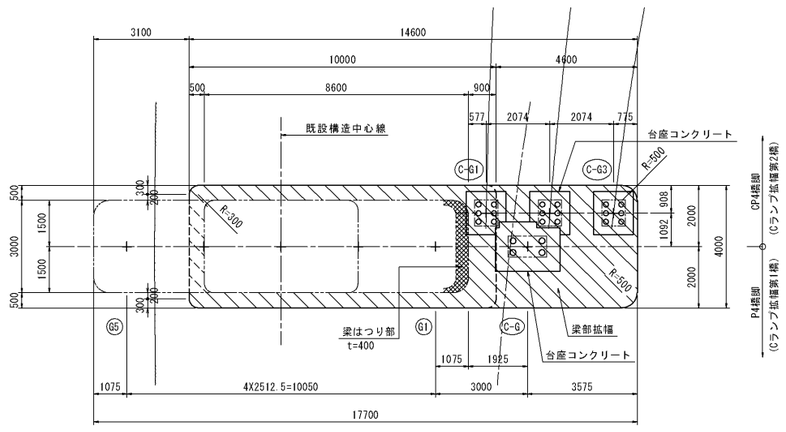
a部詳細図　S=1:20



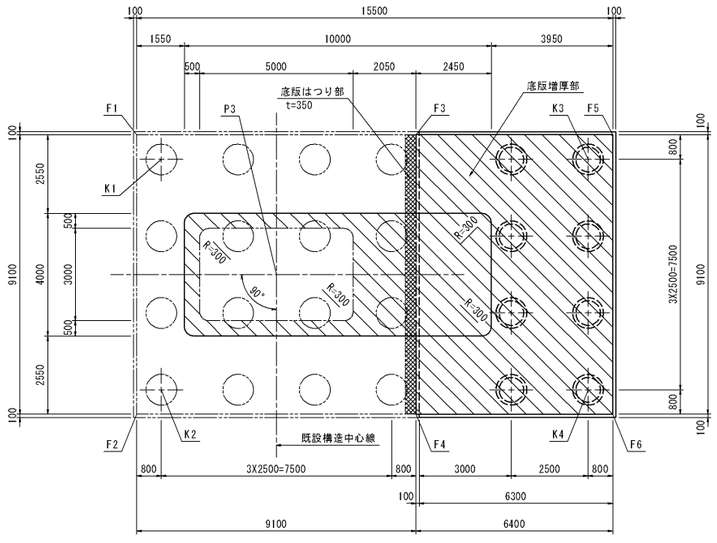
b部詳細図　S=1:20



平面図



底版



下部工座標

		X	Y
躯体	P3	93.5342	18.7584
	F1	97.3392	26.6689
	F2	90.3444	26.9364
	F3	96.9380	16.1766
	F4	89.9431	16.2440
	F5	96.7469	11.1802
	F6	89.7521	11.4477
杭	K1	96.3018	25.7078
	K2	91.3054	25.8988
	K3	95.7859	12.2177
	K4	90.7892	12.4088

設計条件

躯体コンクリート		$\sigma ck=30N/mm^2$
均しコンクリート		$\sigma ck=18N/mm^2$
鉄筋材質	躯　体	SD345
	杭頭鉄筋	SD490

注）1. ▨ 部は、補強部（梁部拡幅・RC巻立て・底版増厚）を示す。
　　2. ▩ 部は、配筋時のはつり部を示す。

※施工上の留意点
- 細部寸法は現地調査実施の上、最終確認を行うこと。
- 既設橋脚にアンカーを施工する際は、鉄筋探査を行って鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないものとすること。
  （ただし、既設沓座補強筋は切断可とする）
- 既設部と新設部の接合面には、十分な下地処理（チッピング）を行うこと。

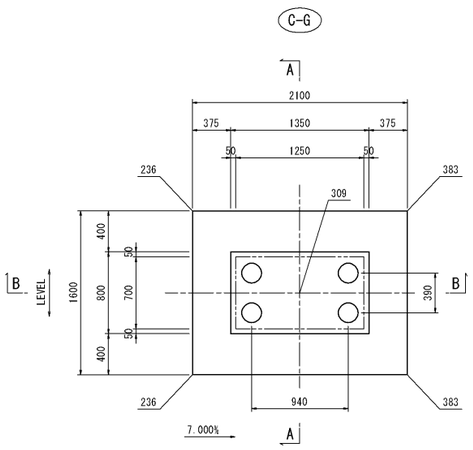
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	56 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ３橋脚 補強構造図（その２）	番号	2／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

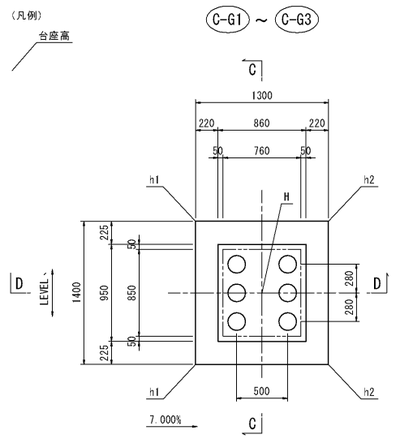
Ｐ３橋脚補強構造図（その2）　S=1:30

構造高表（支点上）

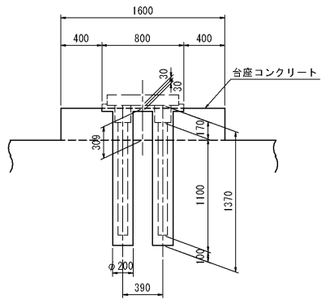
	C-Dランプ拡幅第1橋(Cランプ側)						Cランプ拡幅第2橋		
	既設桁					新設桁	新設桁		
	G5	G4	G3	G2	G1	C-G	C-G1	C-G2	C-G3
計画高	25.869	25.693	25.517	25.341	25.165	24.955	25.054	24.909	24.764
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
床版上面高	25.719	25.613	25.437	25.261	25.085	24.875	24.974	24.829	24.684
床版厚	0.210	0.210	0.210	0.210	0.210	0.230	0.260	0.260	0.260
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.100	0.100	0.100
桁高	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000
下フランジ厚	0.041	0.039	0.036	0.049	0.045	0.019	0.027	0.020	0.020
ソールプレート厚	0.044	0.044	0.044	0.044	0.044	0.044	0.025	0.025	0.024
支承高	0.327	0.327	0.327	0.327	0.327	0.230	0.324	0.324	0.324
支承下面標高	23.017	22.913	22.740	22.551	22.379	22.272	22.238	22.100	21.956
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.140	0.212	0.215	0.202	0.206	0.309	0.181	0.188	0.189
下部工高	22.847	22.671	22.495	22.319	22.143	21.933	22.027	21.882	21.737

台座コンクリート

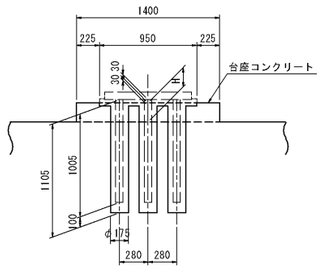




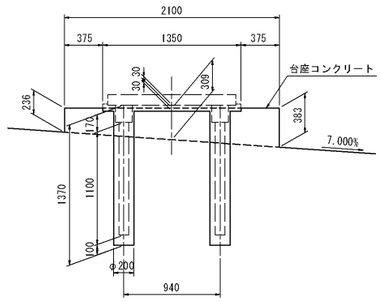
A － A



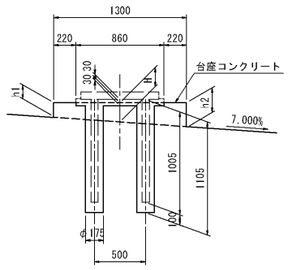
C － C



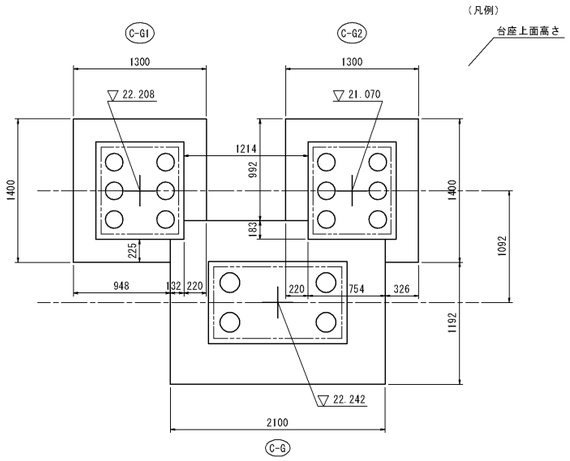
B － B



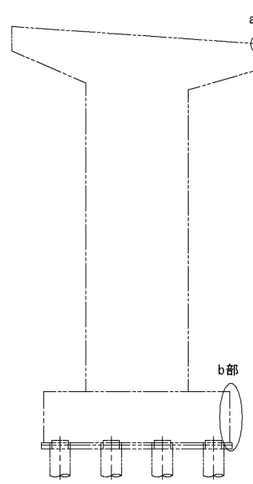
D － D



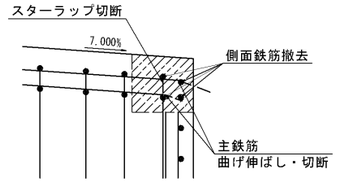
台座コンクリート詳細図



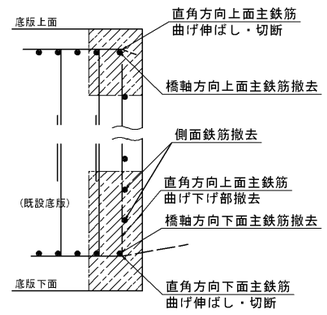
既設橋脚はつり部鉄筋切断概要図　S=1:20



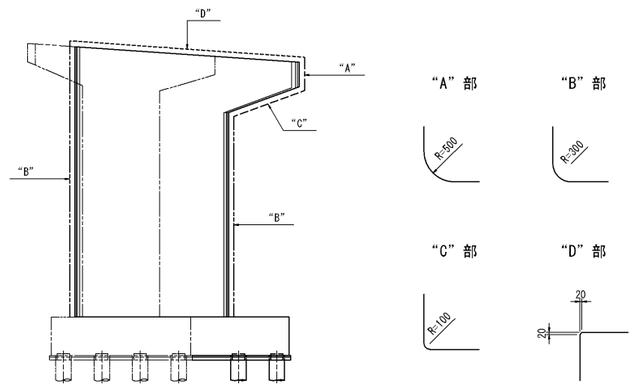
a部詳細図



b部詳細図



面取り形状詳細図



台座コンクリート高表

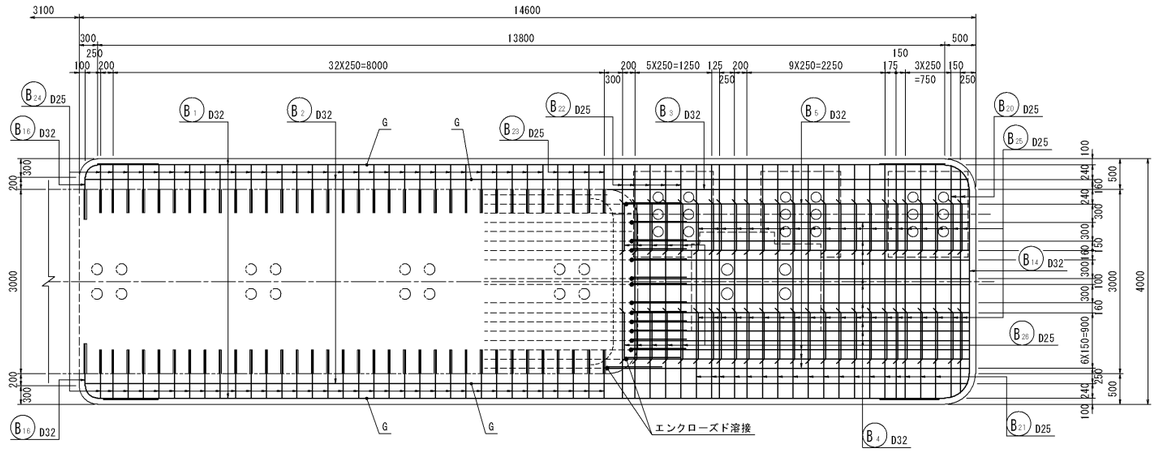
	CG-1	CG-2	CG-3
H	181	188	189
h1	136	143	144
h2	227	234	235

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	57 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その１）	番号	1／8
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

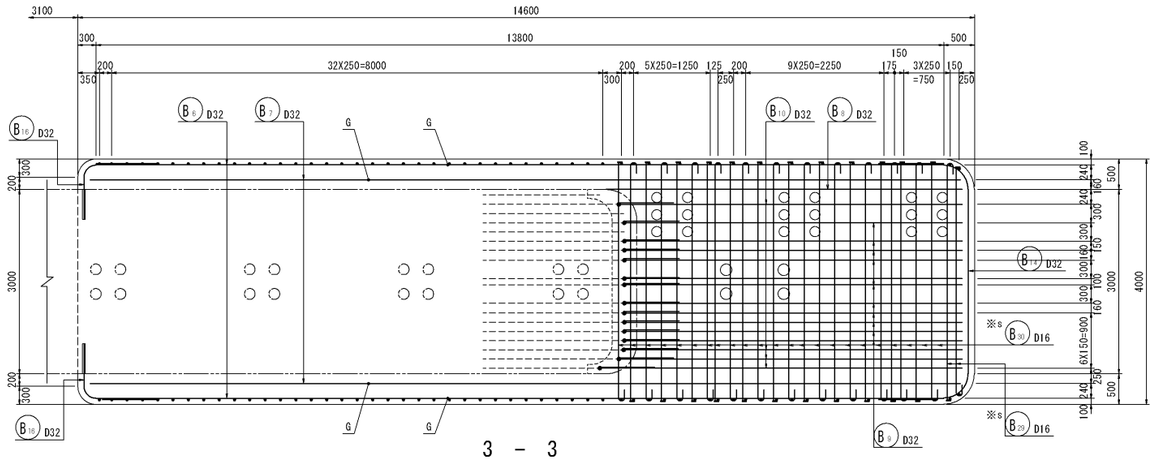
Ｐ３橋脚補強配筋図（その1）

S=1:50

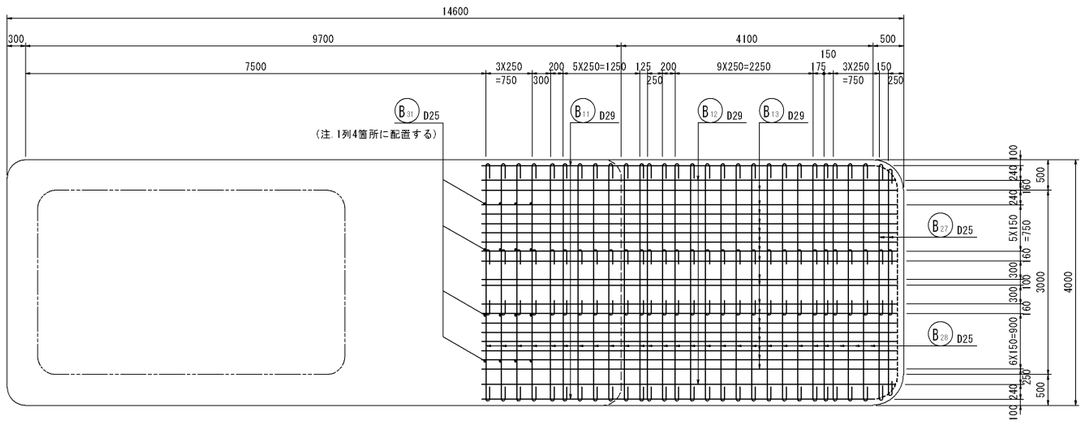
1 － 1



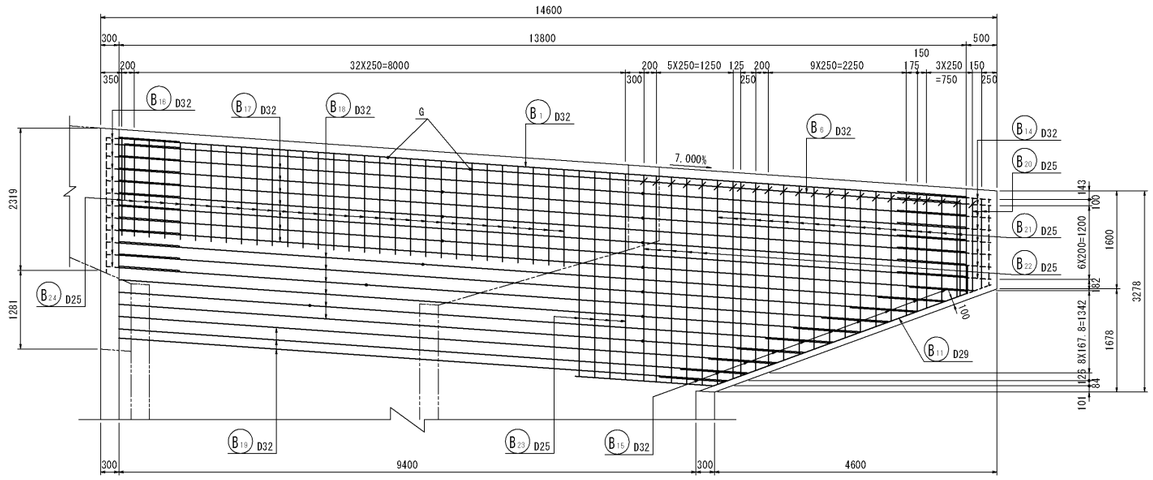
2 － 2



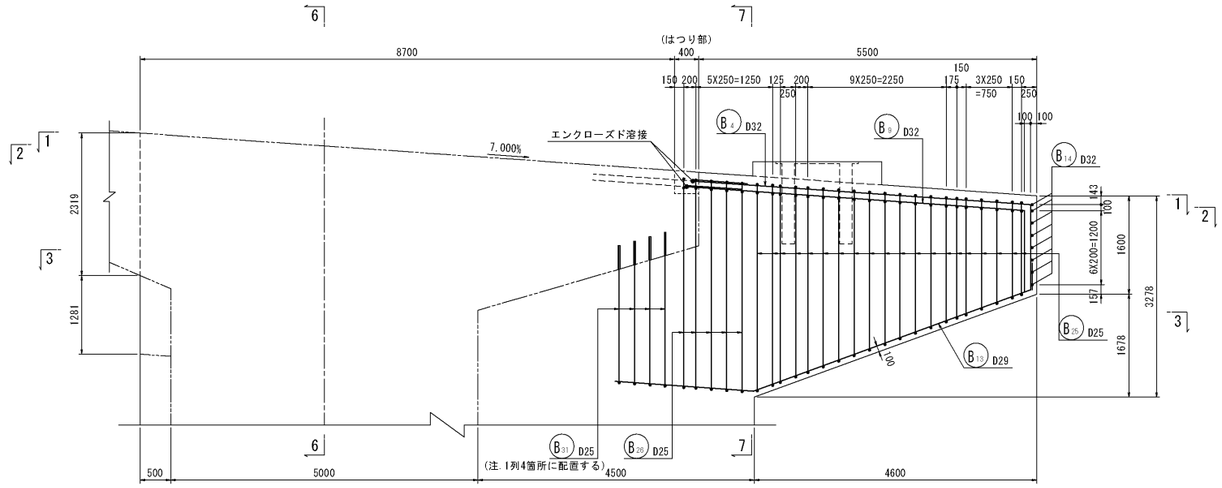
3 － 3



4 － 4

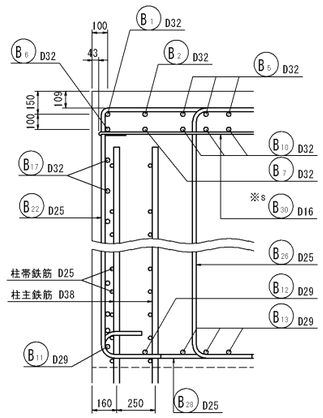


5 － 5

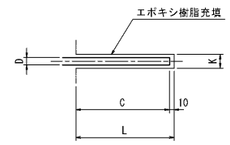


梁かぶり詳細図

S=1:20



樹脂アンカー詳細図



鉄筋径(D)	削孔長(L)	埋込長(C)	削孔径(K)
D25	385	375	φ35
D32	490	480	φ42

注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

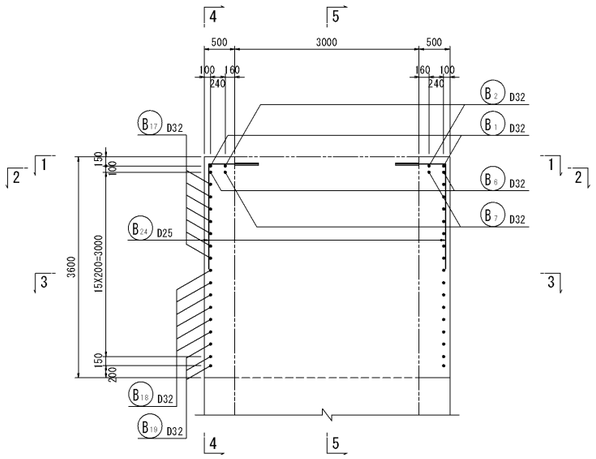
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	58 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その２）	番号	2／8
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

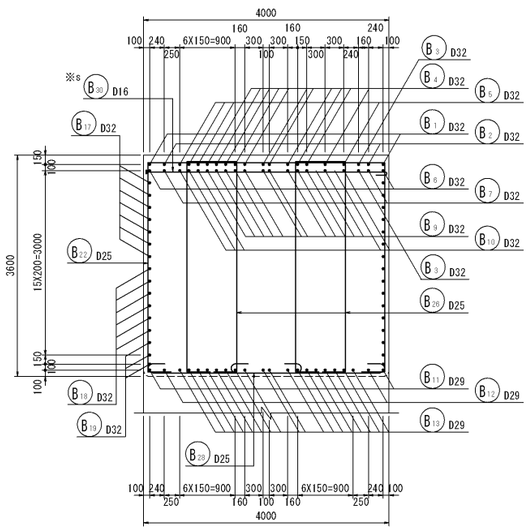
Ｐ３橋脚補強配筋図（その2）

S=1:50

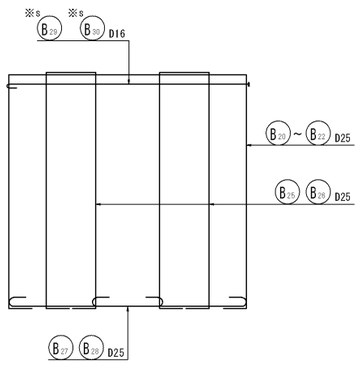
6 － 6

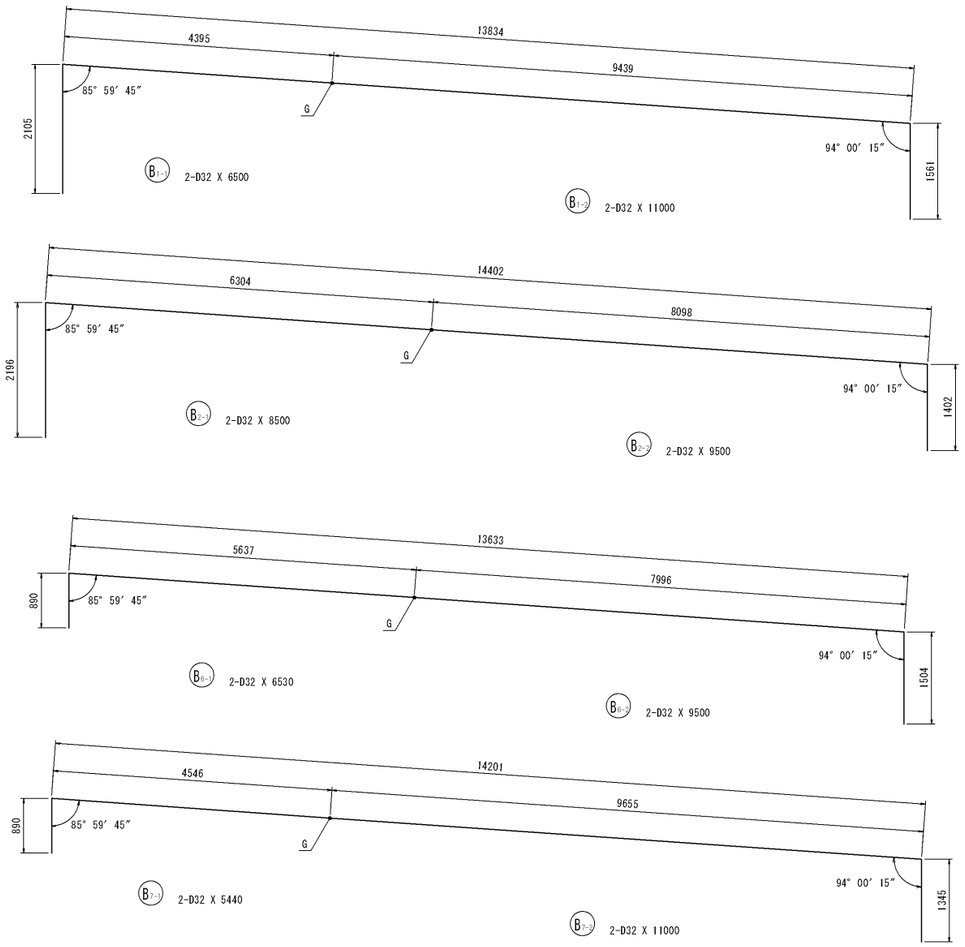


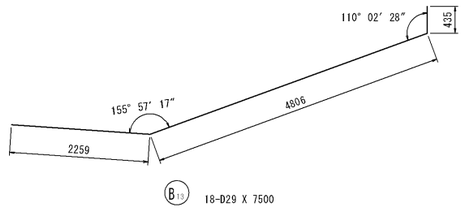
7 － 7

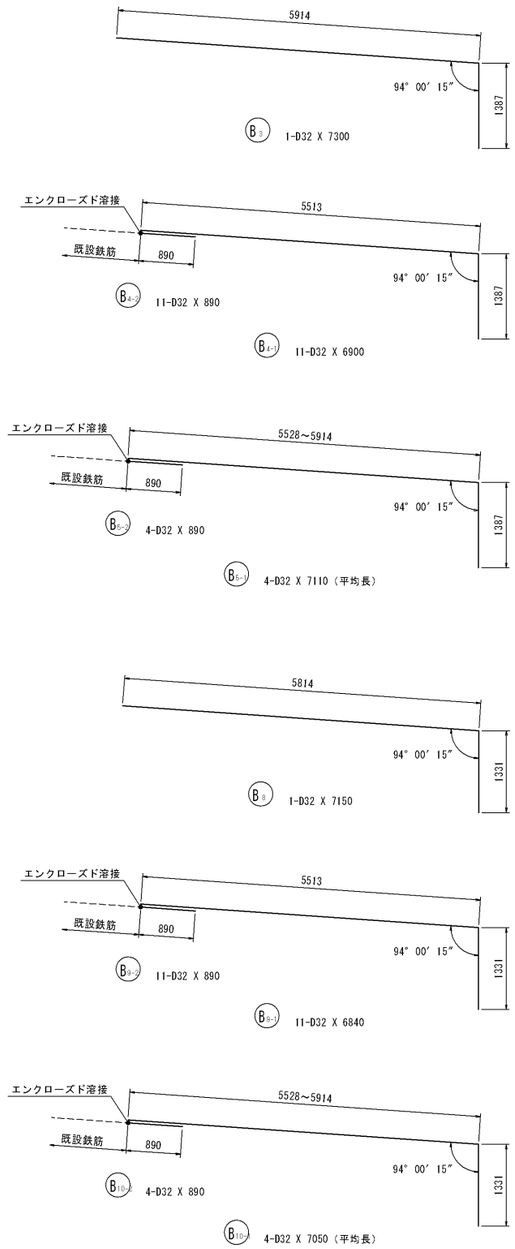


鉄筋組立図









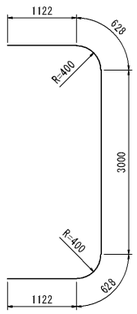
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

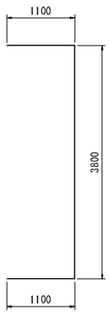
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

P 3 橋 脚 補 強 配 筋 図 （その3）　S=1:50

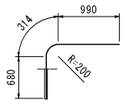
工 事 名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	59 ／ 110	縮　尺	図 示
図　　名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その３）	番号	3 ／ 8
路 線 名	広 島 高 速 ５ 号 線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



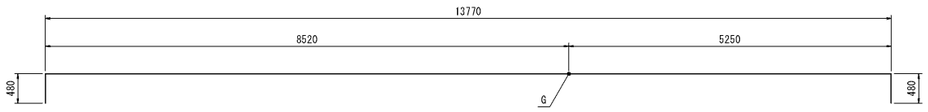
B14　8-D32 X 6500



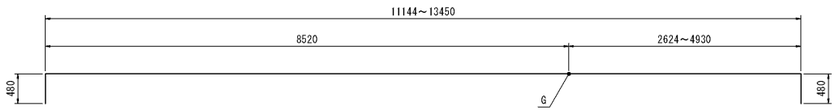
B15　10-D32 X 6000



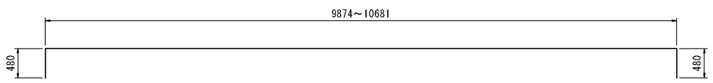
B16　24-D32 X 1980



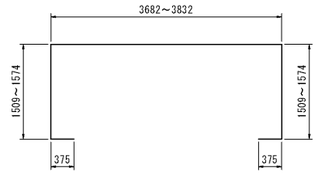
B17　14-D32 X 9000　　B17-2　14-D32 X 5730



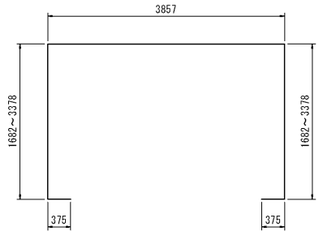
B18　12-D32 X 9000　　B18-2　12-D32 X 4260（平均長）



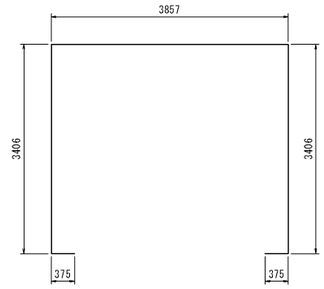
B19　6-D32 X 11240（平均長）



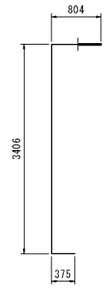
B20　2-D25 X 7590（平均長）



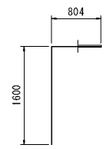
B21　18-D25 X 9670（平均長）



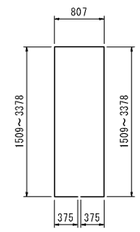
B22　5-D25 X 11420



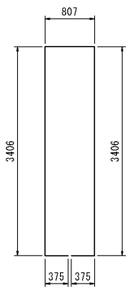
B23　8-D25 X 4590



B24　60-D25 X 2400

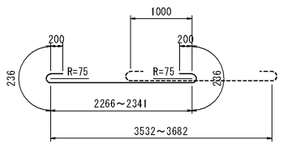


B25　40-D25 X 6450（平均長）

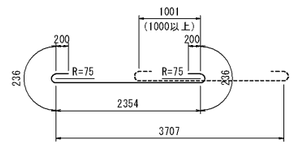


B26　10-D25 X 8370

B31　16-D25 X 2740（平均長）



B27　4-D25 X 3180（平均長）

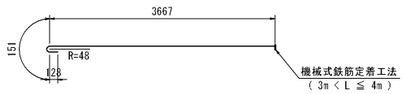


B28　54-D25 X 3230

注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

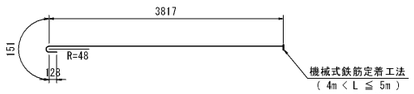
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。



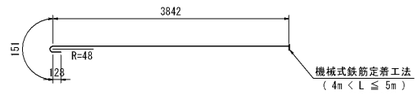
機械式鉄筋定着工法
（ 3m ＜ L ≦ 4m ）
せん断補強鉄筋

※s　B29　1-D16 X 3950



機械式鉄筋定着工法
（ 4m ＜ L ≦ 5m ）
せん断補強鉄筋

※s　B29-2　1-D16 X 4100



機械式鉄筋定着工法
（ 4m ＜ L ≦ 5m ）
せん断補強鉄筋

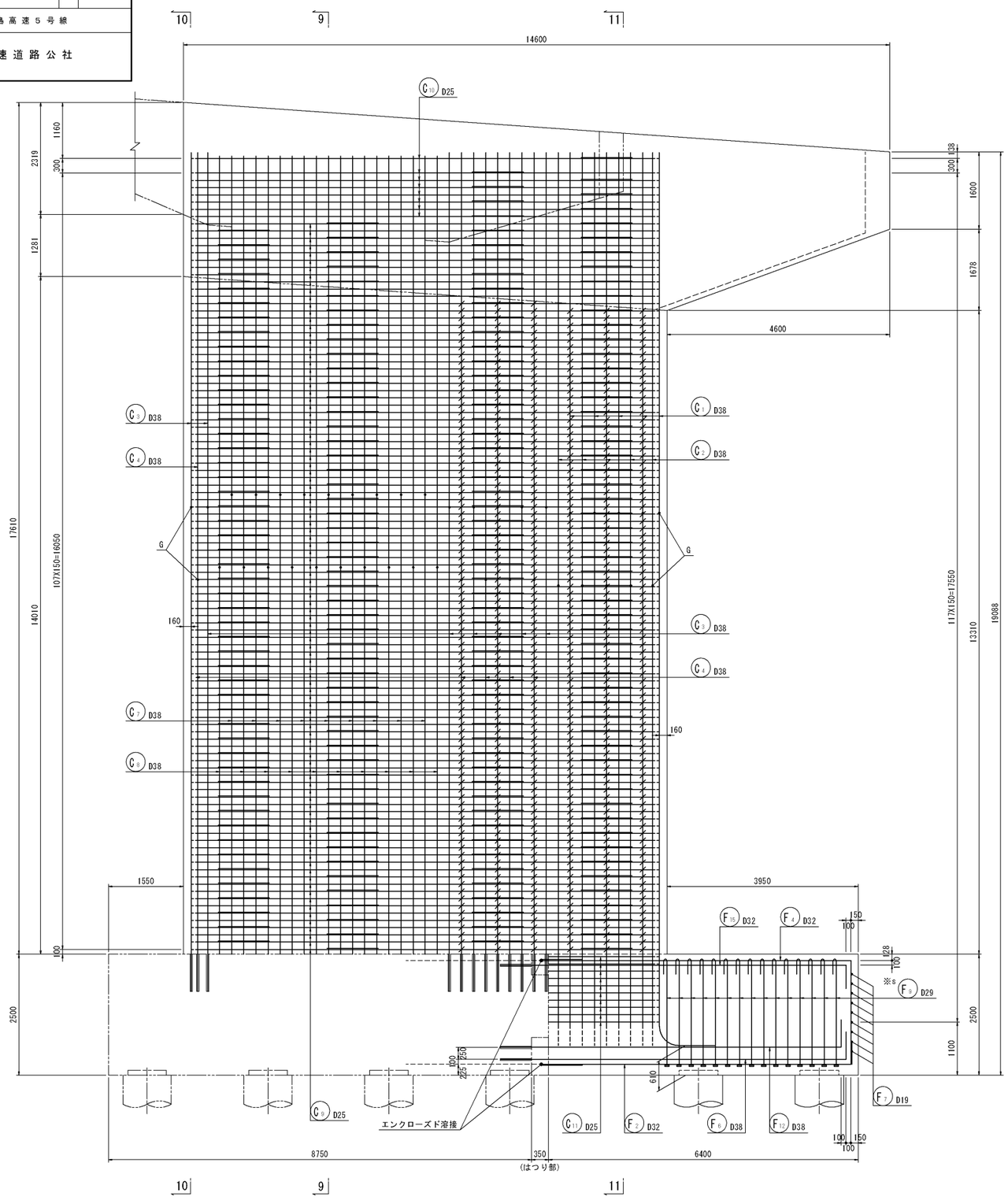
※s　B30　23-D16 X 4120

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	60 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	P3橋脚 補強配筋図（その4）	番号	4／8
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

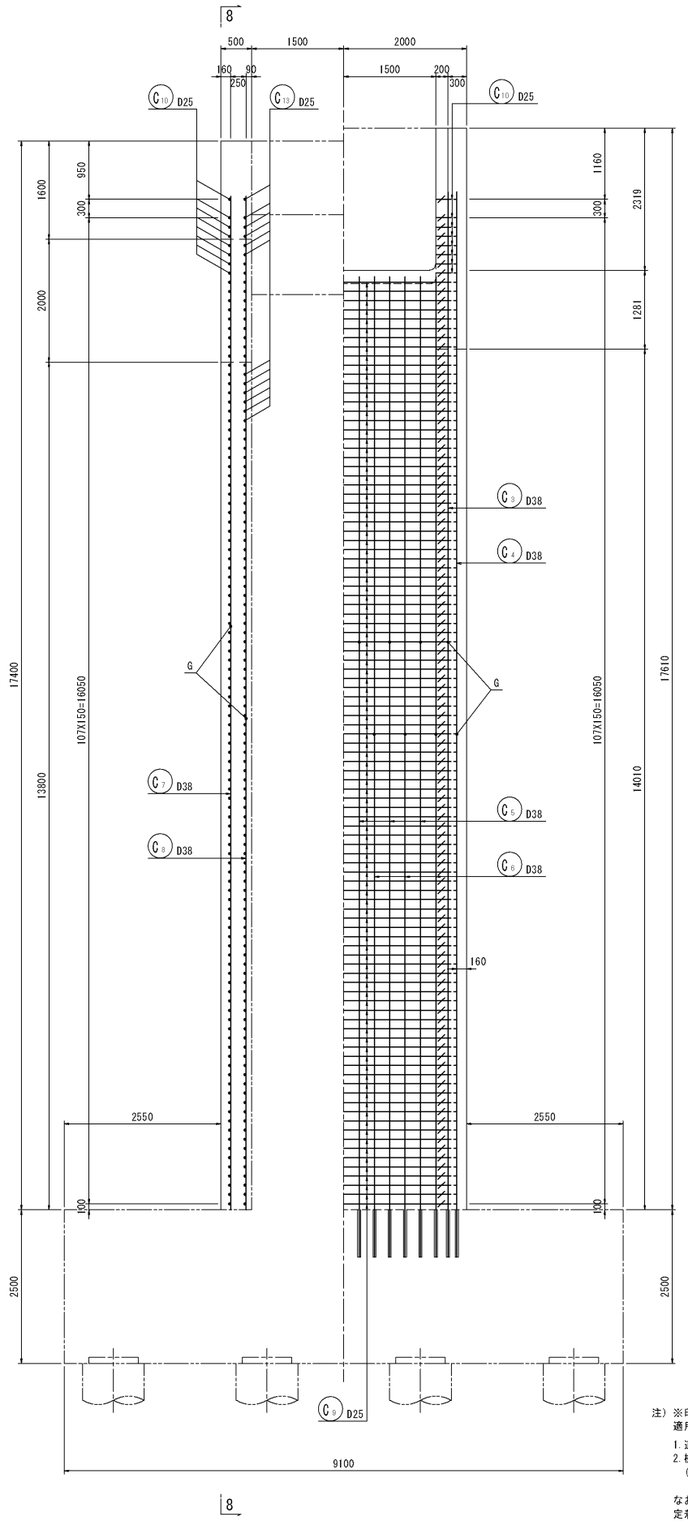
P3橋脚補強配筋図（その4）

S=1:50

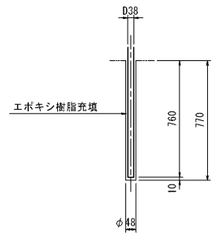
8 － 8



9 － 9　10 － 10



樹脂アンカー詳細図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

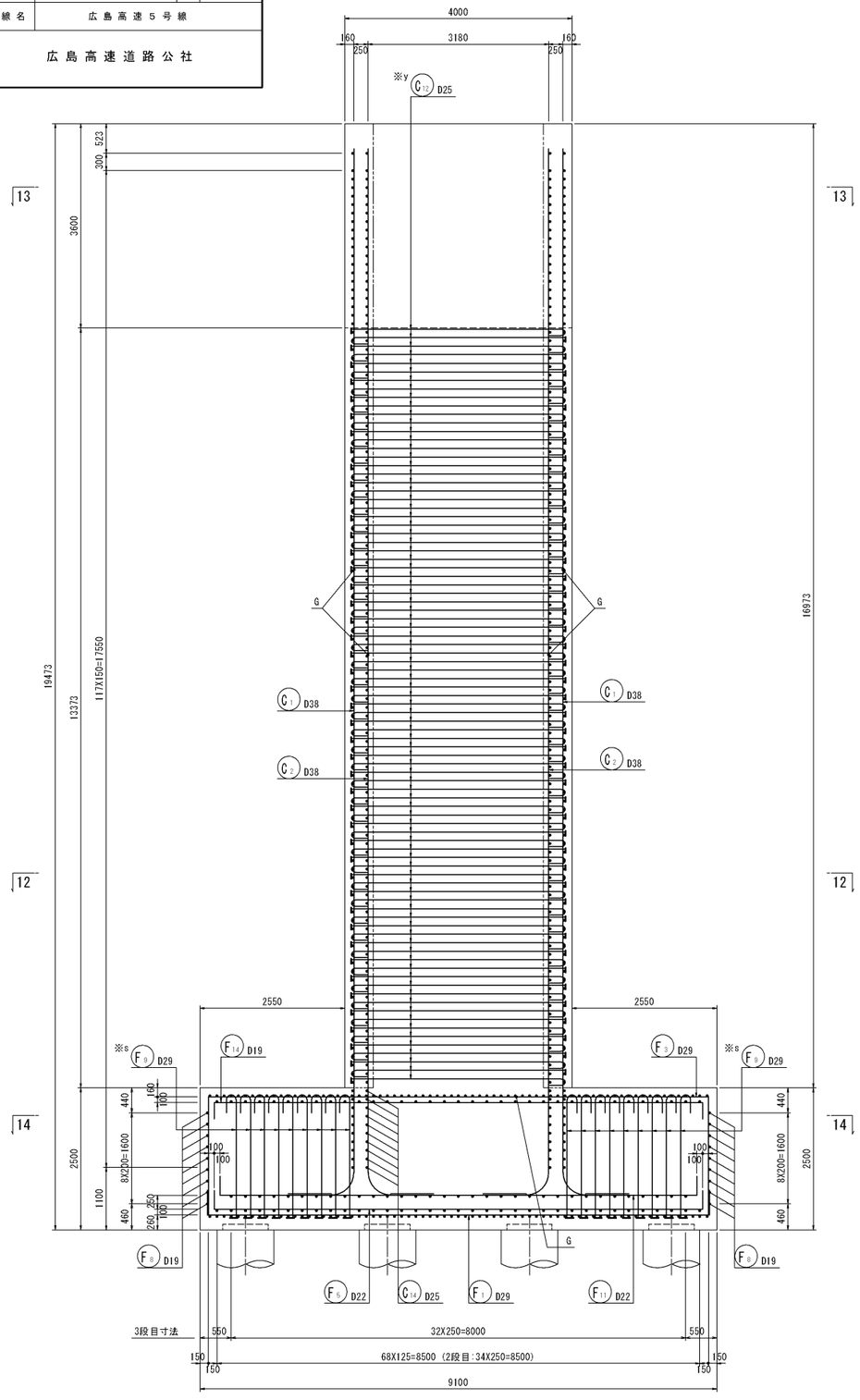
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

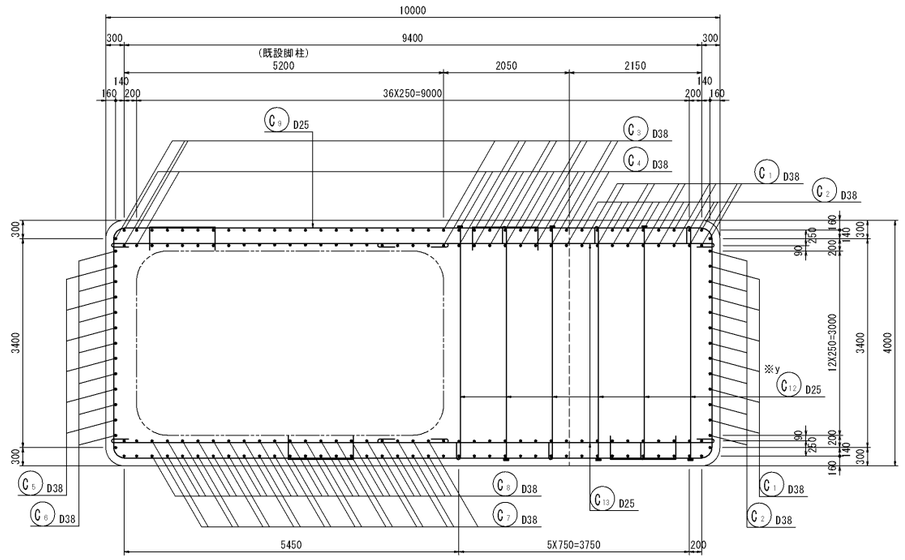
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	61 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その５）	番号	5／8
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ３橋脚補強配筋図（その5）　S=1:50

11 － 11

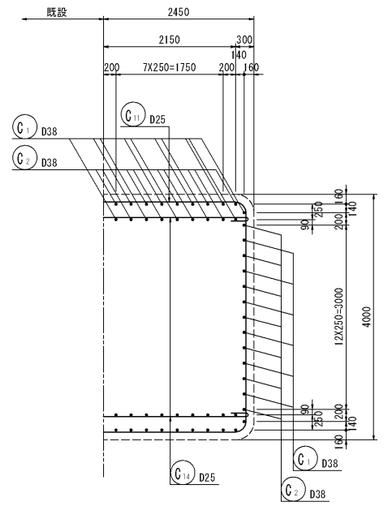


12 － 12



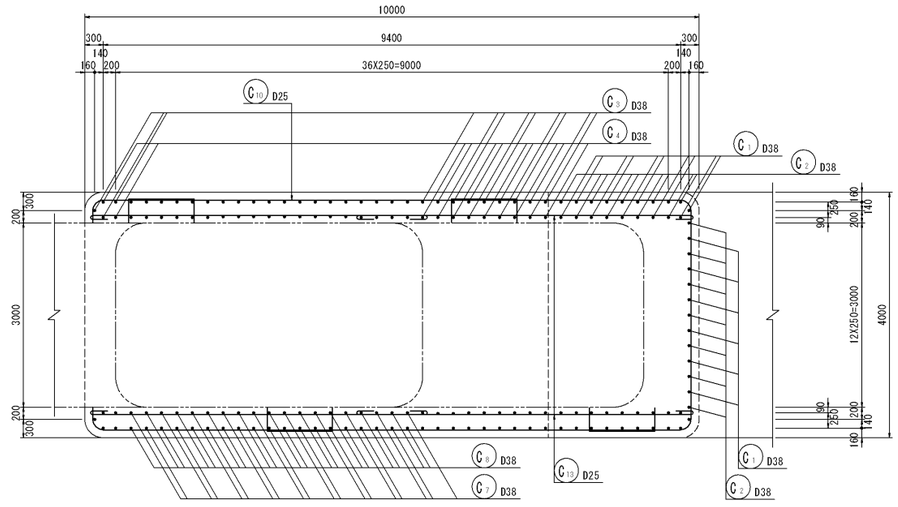
14 － 14

（底版内部）

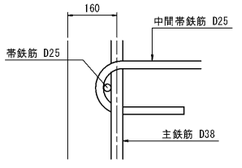


13 － 13

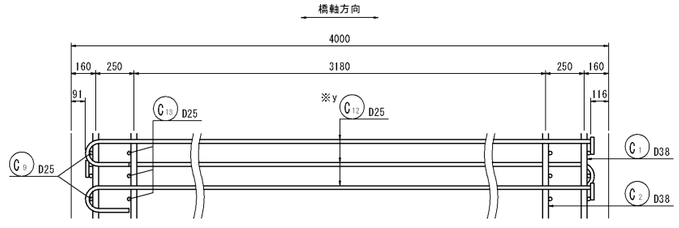
（梁内部）



中間帯鉄筋詳細図　S=1:10



柱かぶり詳細図　S=1:20

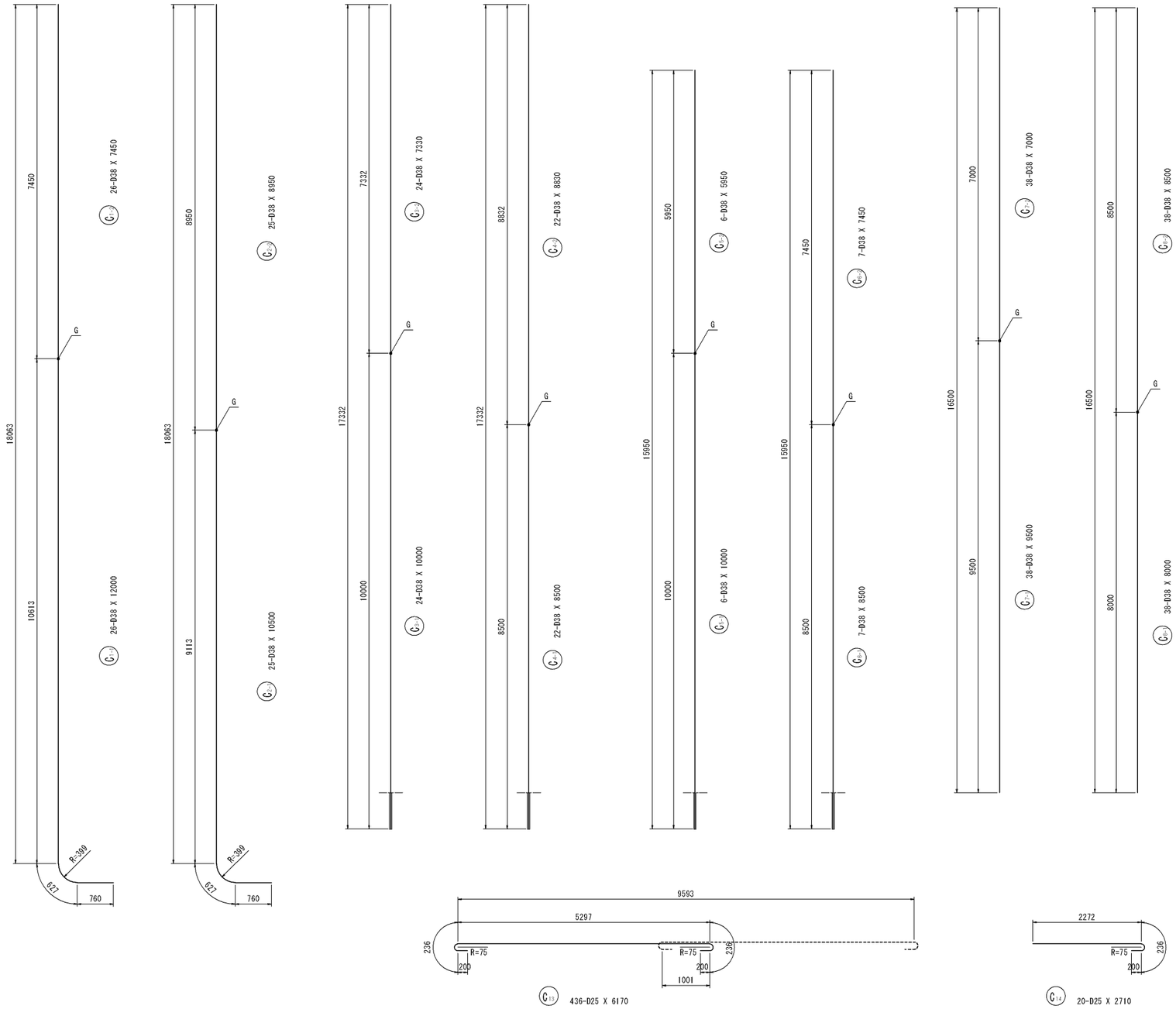


注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

P 3 橋 脚 補 強 配 筋 図 （その6）　S=1:50

工 事 名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	62 ／ 110	縮　尺	図　示
図　　名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その６）	番号	6／8
路 線 名	広 島 高 速 5 号 線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

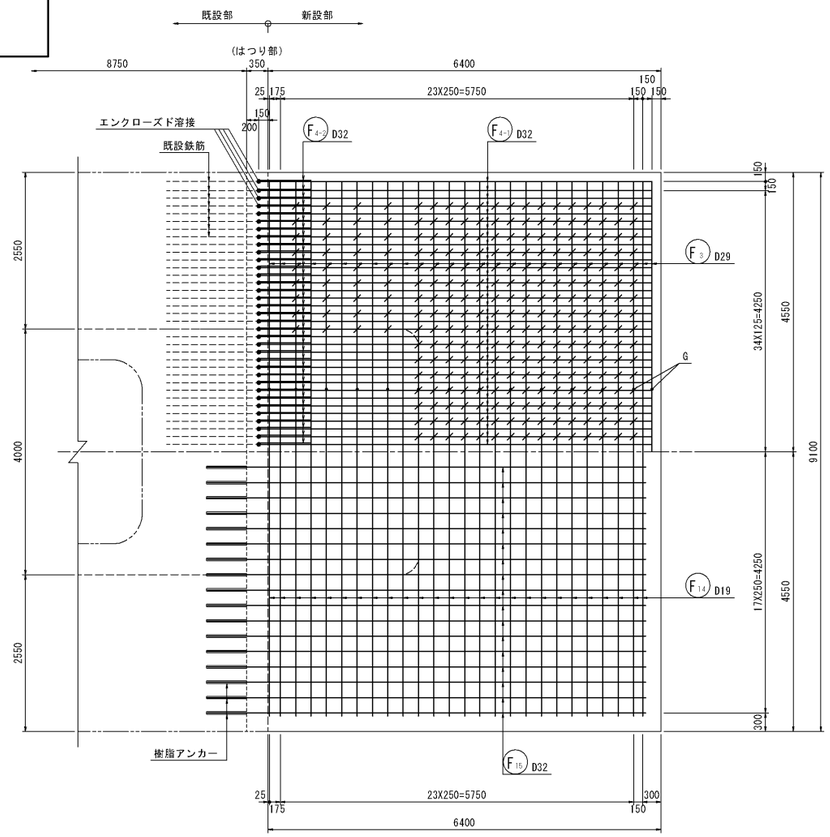
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

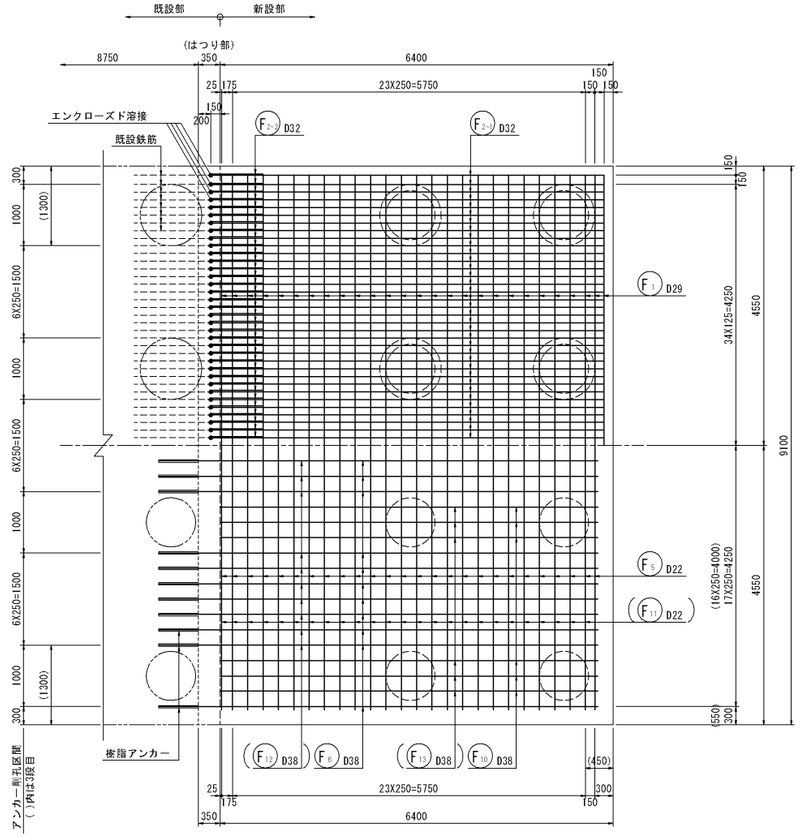
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	63 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その７）	番号	7／8
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ３橋脚補強配筋図（その7）　S=1:50

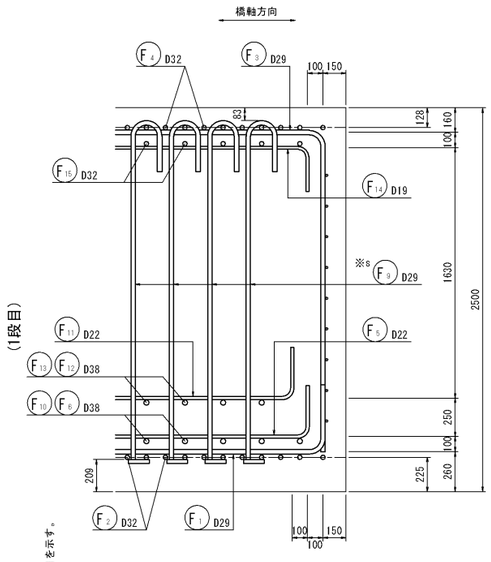
15 － 15（上面）



16 － 16（下面）

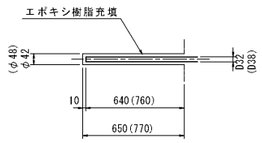


底版かぶり詳細図　S=1:20

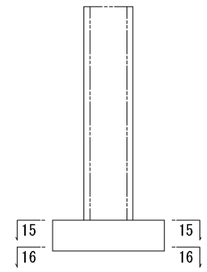


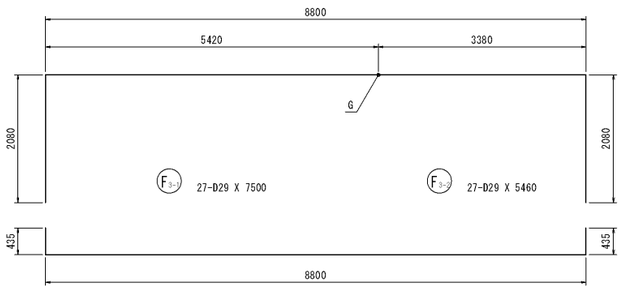
注）（ ）内の寸法・符号は3段目を示す。

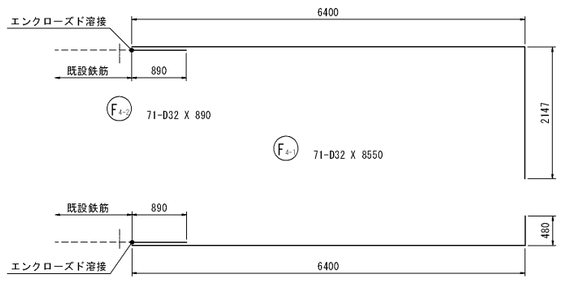
樹脂アンカー詳細図

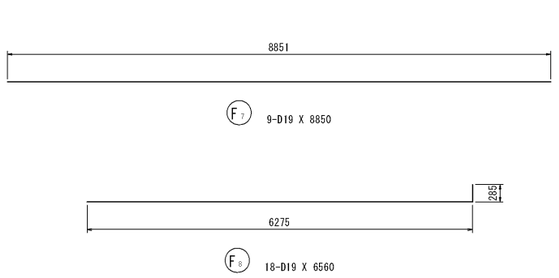


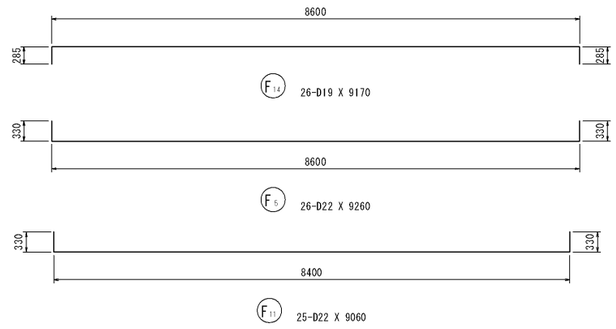
位置図

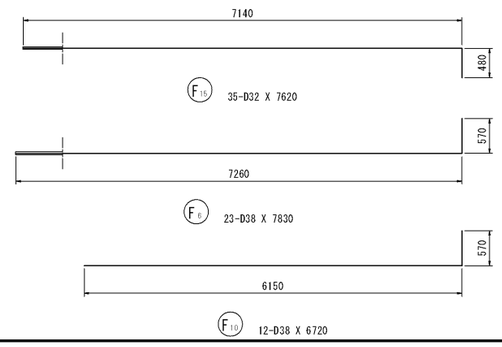


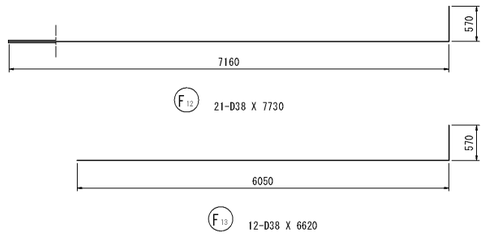


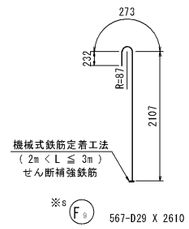












注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

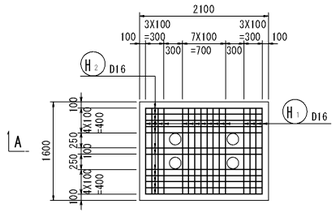
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	64 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	Ｐ３橋脚 補強配筋図（その８）	番号	8／8
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

Ｐ３橋脚補強配筋図（その8）　S=1:50

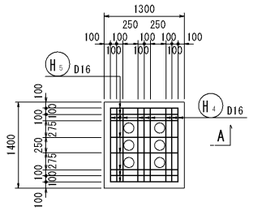
台座コンクリート配筋図

平面図

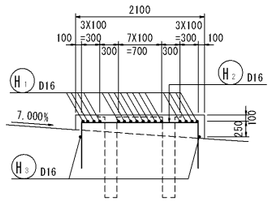
C-G

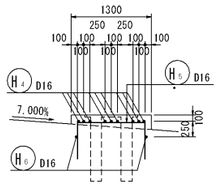


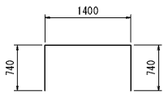
C-G1 ～ C-G3



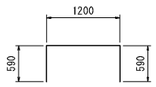
断面図
(A － A)



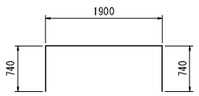




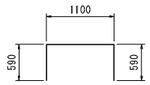
H1　16-D16 X 2880



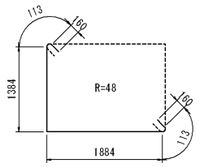
H4　27-D16 X 2380



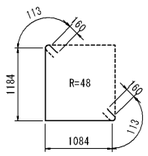
H2　12-D16 X 3380



H5　24-D16 X 2280



H3　2-D16 X 3810

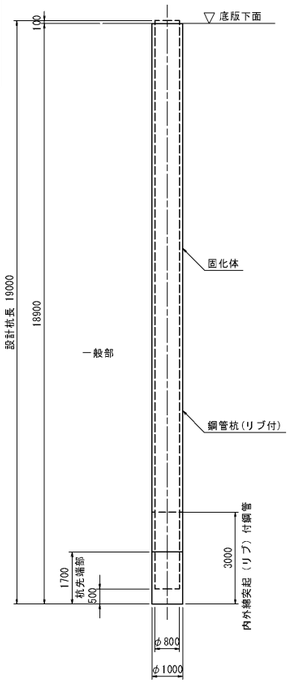


H6　6-D16 X 2810

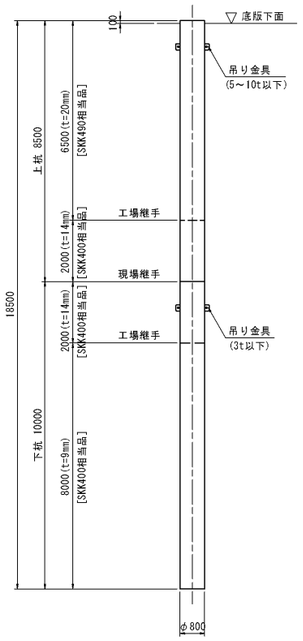
P3橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1）

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	65 ／ 110	縮尺	図示
図名	Ｐ３橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

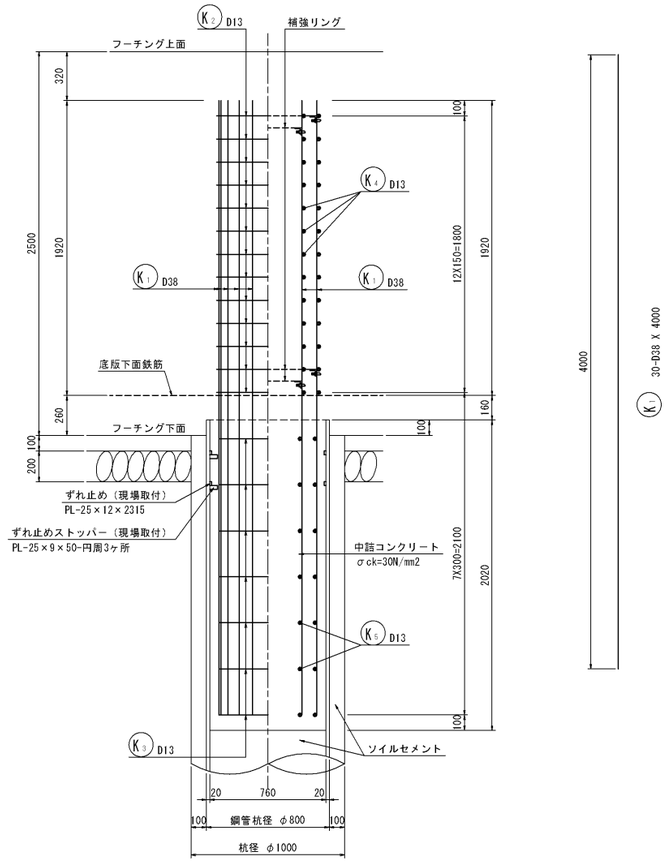
杭構成図 S=1:100

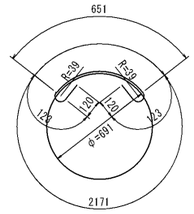


鋼管杭構成図 S=1:100

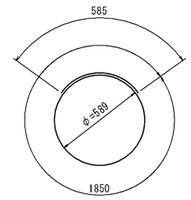


杭頭部詳細図 S=1:20

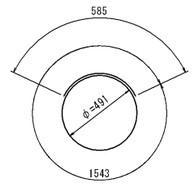




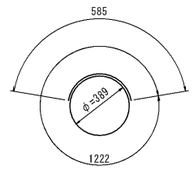
K2 13-D13 X 3310



K5 7-D13 X 2440



K4 13-D13 X 2130

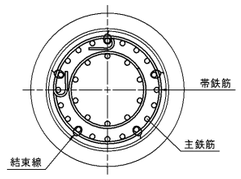


K5 7-D13 X 1810

※1. Uボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

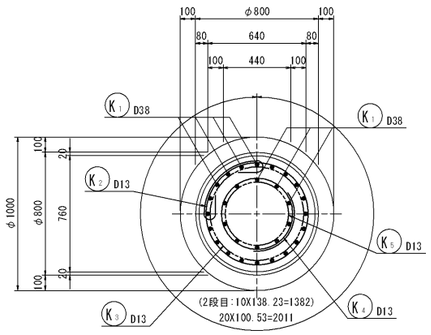
主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図 S=1:20

注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



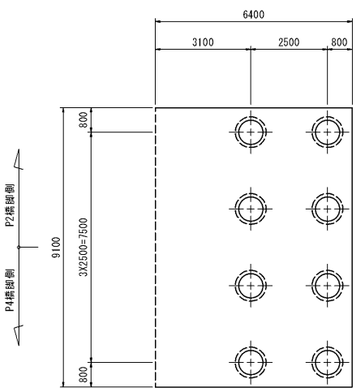
主鉄筋と帯鉄筋は番線結束とする。

杭頭部断面図 S=1:20

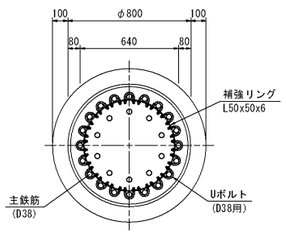


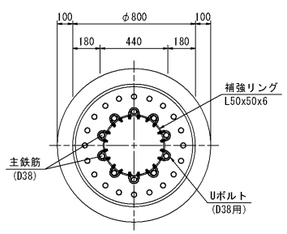
P3橋脚杭配置図 S=1:100

n=8本



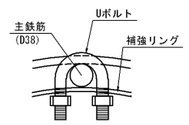
補強リングと主筋金具詳細図 S=1:20





固定金具詳細図

S=1:5



Ｕボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

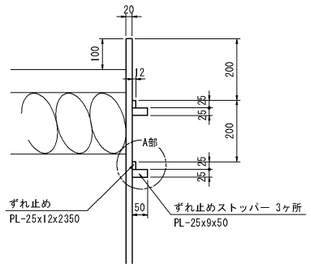
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1000(φ800)
鋼管		SKK400, 490
コンクリート	底版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	66 ／ 110	縮　尺	図　示	
図　名	P3橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その2）	番号	2／2	
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

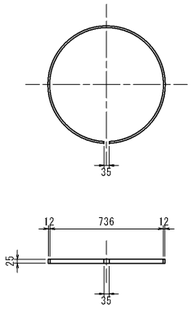
P3橋脚鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2）

ずれ止め詳細図 S=1:10

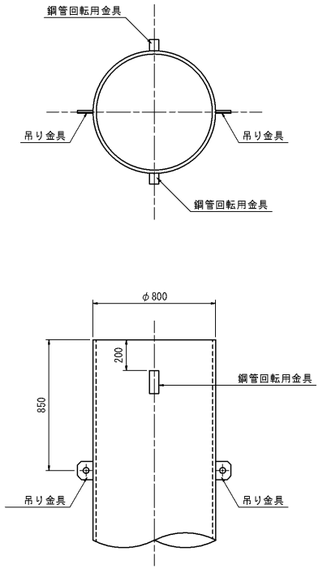


ずれ止め取付詳細図 S=1:20

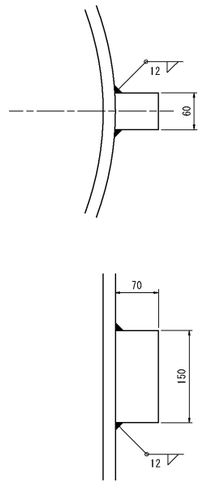
（ニュートラルライン）



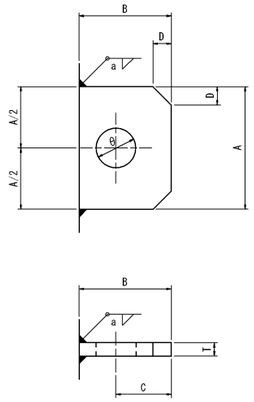
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図 S=1:20



鋼管回転用金具詳細図 S=1:5

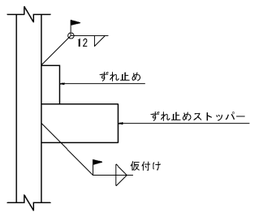


吊金具詳細図 S=1:5



種　別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/箇	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2
10～20t以下	300	250	22	80	15	150	50	17	2

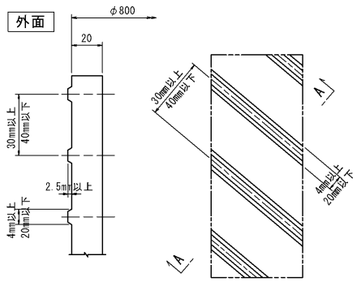
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

A － A　　正面図

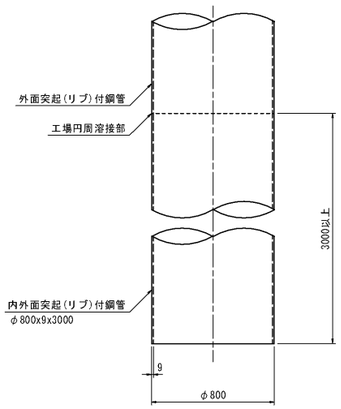


特記事項

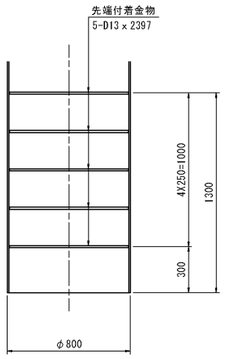
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

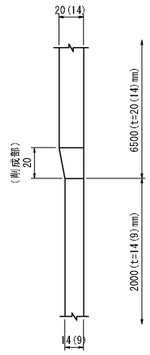
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付



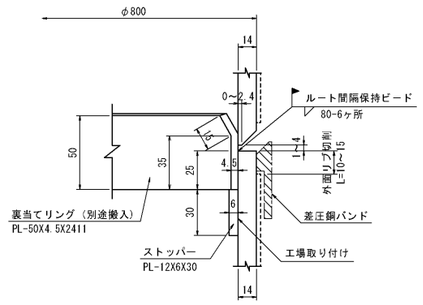
工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

（差厚鋼バンド使用時）

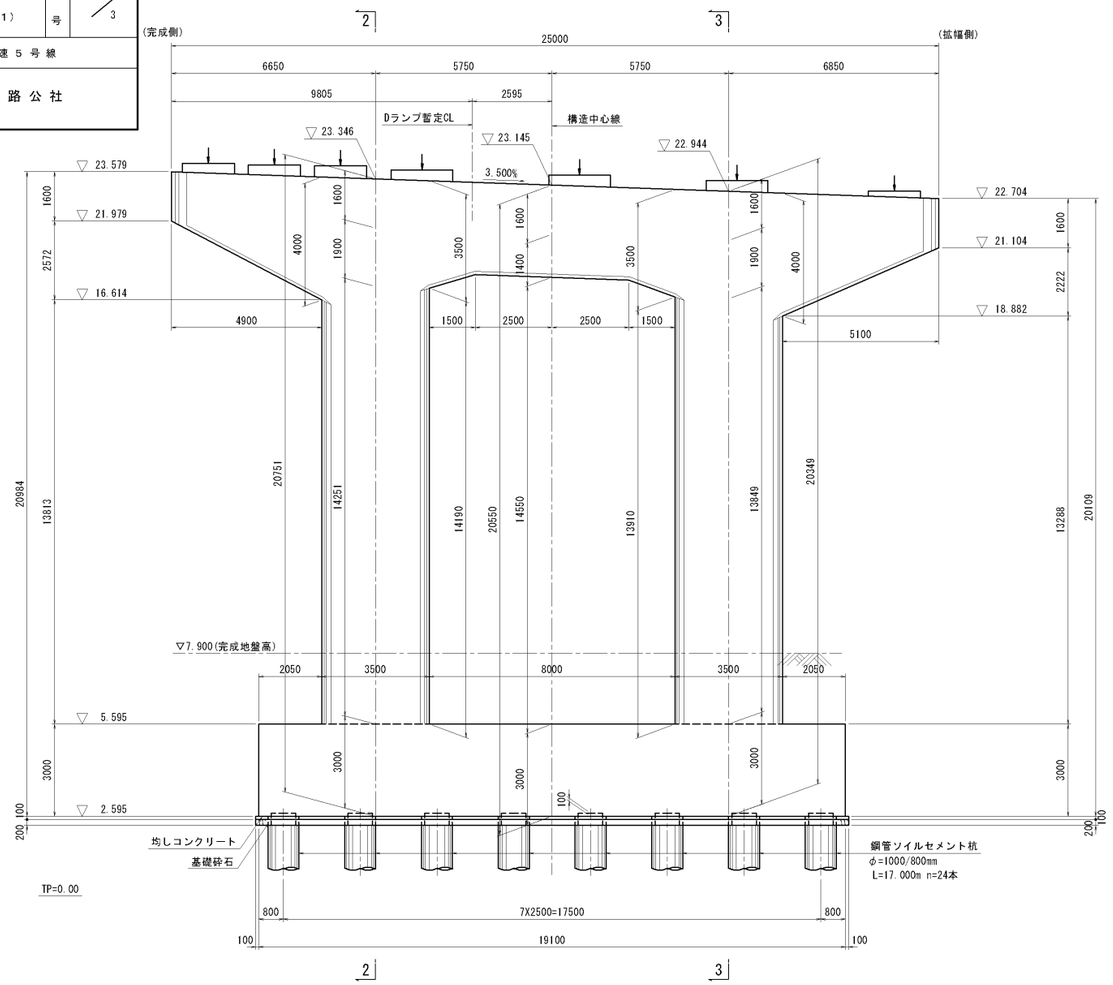
t=14mmの場合



工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	67 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 構造一般図（その１）	番号	1 ／ 3
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

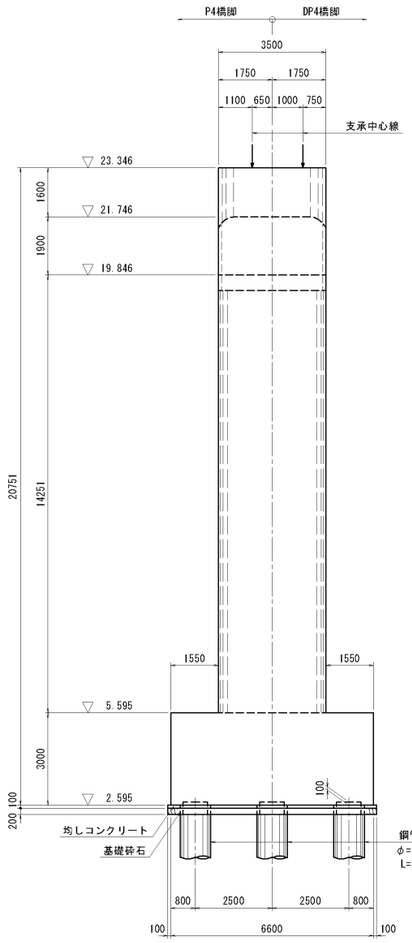
ＤＰ３橋脚構造一般図（その1）　S=1:100

正面図（1－1）

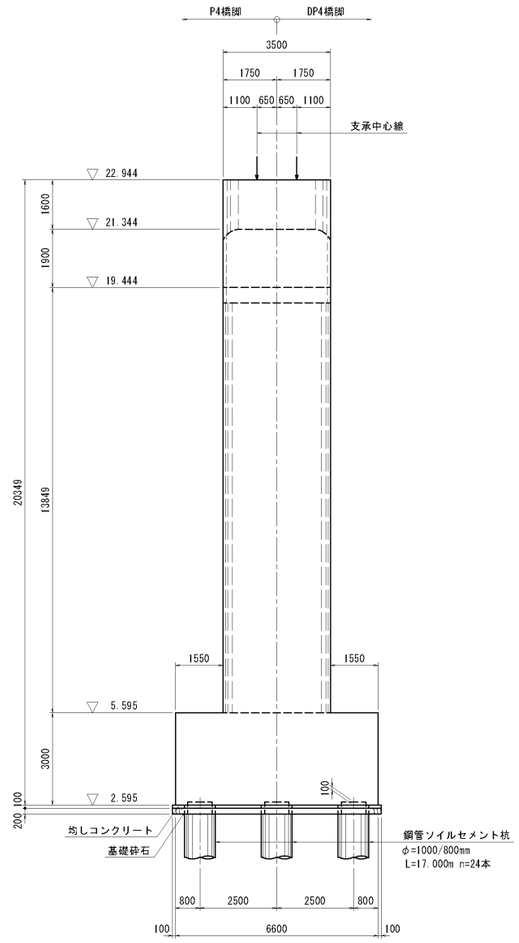


側面図

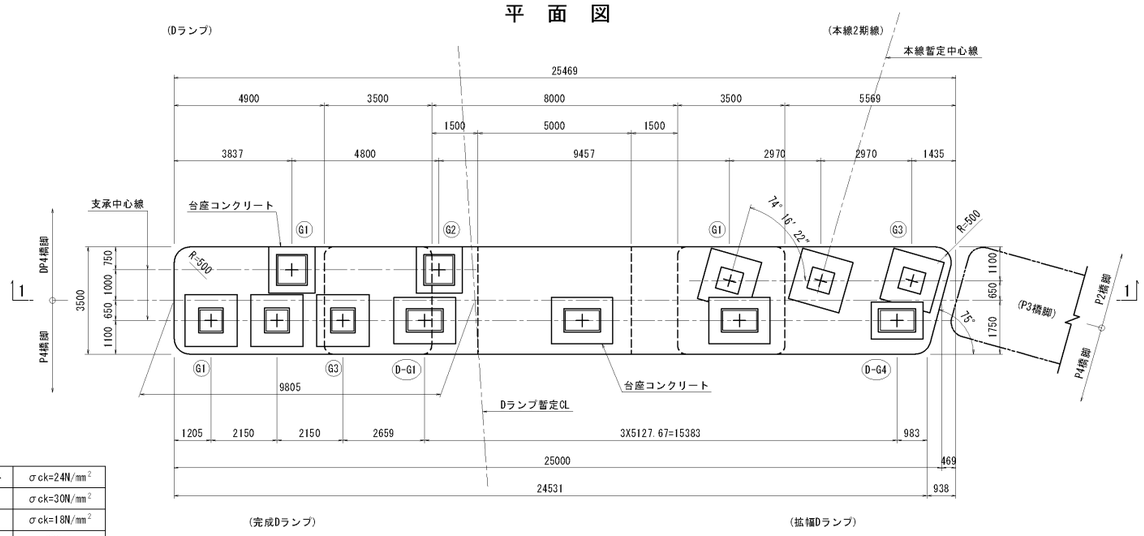
2－2



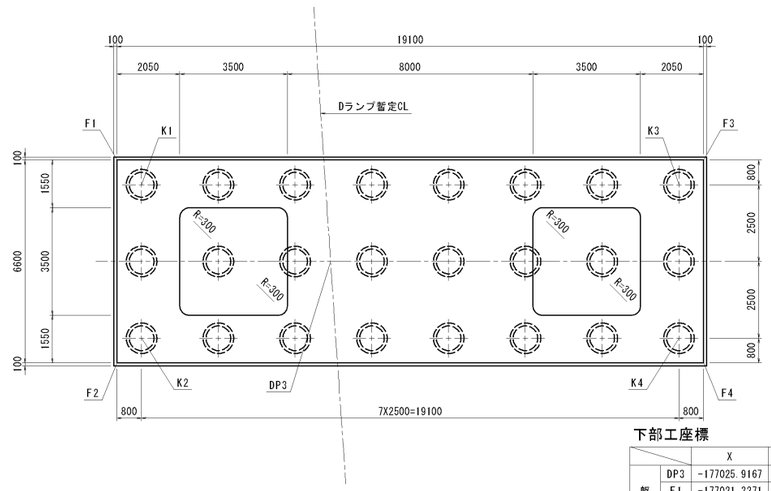
3－3



平面図



底版



設計条件

躯体コンクリート	底版以外	σck=24N/mm²
	底版	σck=30N/mm²
均しコンクリート		σck=18N/mm²
鉄筋材質	躯　体	SD345
	杭頭鉄筋	SD490

下部工座標

		X	Y			X	Y
躯体	DP3	-177025.9167	31291.2173	杭	K1	-177021.6728	31296.2049
	F1	-177021.3271	31297.2822		K2	-177019.3864	31291.7582
	F2	-177018.3092	31291.4126		K3	-177037.2361	31288.2028
	F3	-177038.3134	31288.5485		K4	-177034.9498	31283.7562
	F4	-177035.2954	31282.6789				

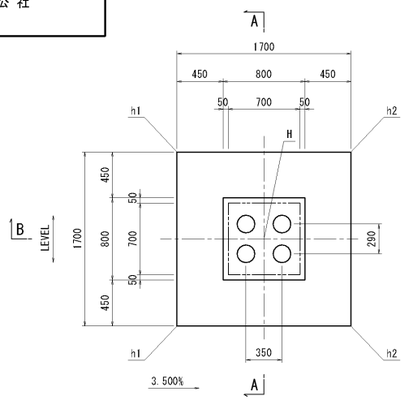
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	68 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 構造一般図（その２）	番号	2／3
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＤＰ３橋脚構造一般図（その2）　S=1:30

台座コンクリート

（完成Dランプ）

G1 ～ G3

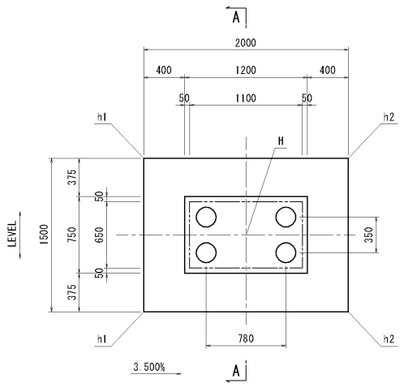


（凡例）

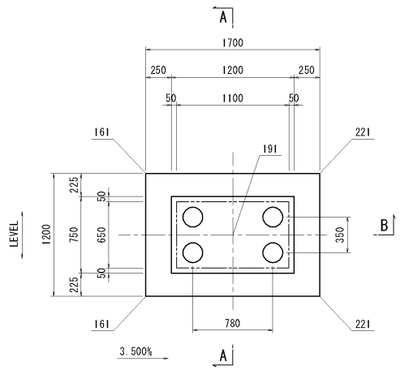
台座高

（拡幅Dランプ）

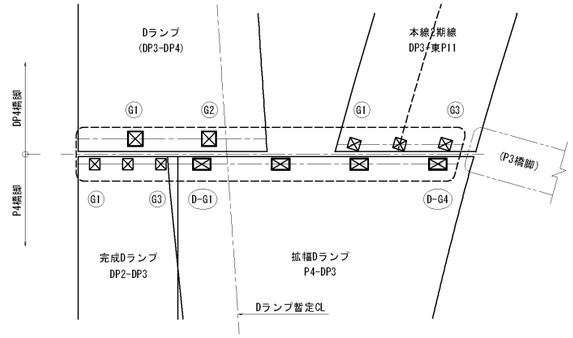
D-G1 ～ D-G3



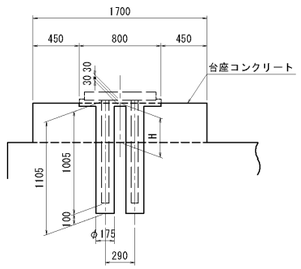
D-G4

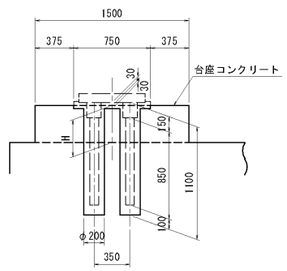


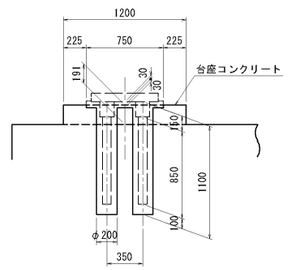
支承配置図



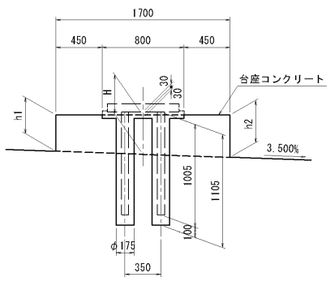
A － A（橋軸方向）

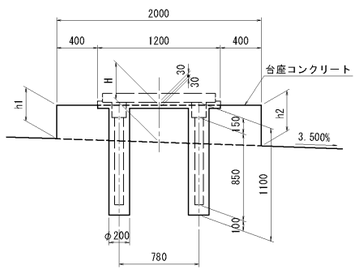


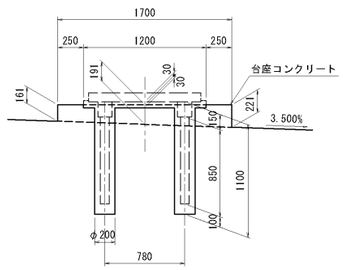




B － B（橋軸直角方向）







構造高表（支点上:S2）

	完成Dランプ			Dランプ拡幅第2橋			
	G1	G2	G3	D-G1	D-G2	D-G3	D-G4
計画高	25.693	25.517	25.341	26.794	26.689	26.398	26.057
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.070	0.000	0.000	0.032	0.106	0.000	0.000
床版上面高	25.543	25.437	25.261	26.682	26.503	26.318	25.977
床版厚	0.210	0.210	0.210	0.240	0.240	0.240	0.240
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.100	0.100	0.100	0.100
桁高	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
下フランジ厚	0.035	0.037	0.018	0.020	0.019	0.019	0.022
ソールプレート厚	0.030	0.030	0.030	0.025	0.025	0.025	0.025
支承高	0.229	0.229	0.229	0.214	0.214	0.214	0.214
支承下面標高	22.846	22.742	22.568	23.673	23.505	23.320	22.976
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.318	0.350	0.383	0.350	0.361	0.356	0.191
下部工高	22.680	22.504	22.328	23.293	23.114	22.934	22.755

台座コンクリート高表

	G1	G2	G3
H	318	350	383
h1	288	320	353
h2	348	380	413

台座コンクリート高表

	D-G1	D-G2	D-G3
H	350	361	356
h1	315	326	321
h2	385	396	391

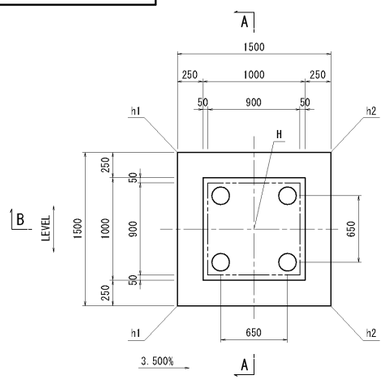
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	69 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 構造一般図（その3）	番号	3／3
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

DP3橋脚構造一般図（その3） S=1:30

台座コンクリート

(Dランプ)

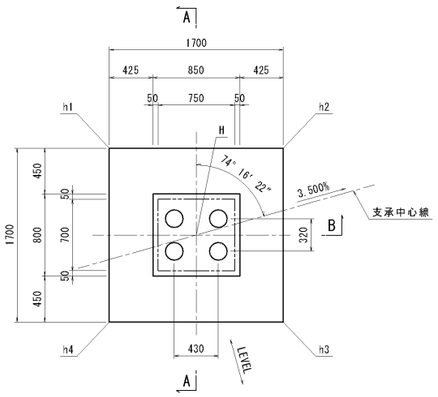
G1 G2



(本線2期線)

(凡例) 台座高

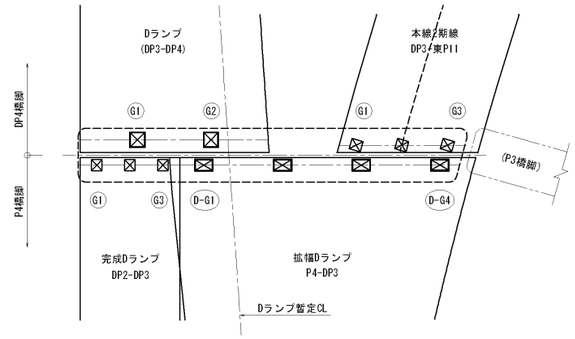
G1 ～ G3



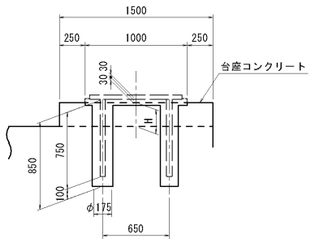
構造高表（支点上:S1）

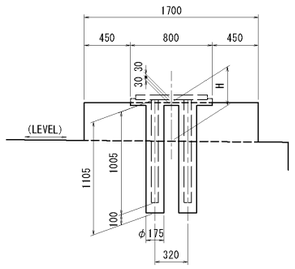
	Dランプ		本線Ⅱ期線		
	G1	G2	G1	G2	G3
計画高	25.165	24.989	25.693	25.517	25.341
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.000	0.000	0.070	0.000	0.000
床版上面高	25.085	24.909	25.543	25.437	25.261
床版厚	0.210	0.210	0.210	0.210	0.210
ハンチ高	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
桁高	2.500	2.500	2.400	2.400	2.400
下フランジ厚	0.012	0.012	0.050	0.038	0.035
ソールプレート厚	0.033	0.033	0.030	0.030	0.030
支承高	0.357	0.357	0.235	0.235	0.235
支承下面標高	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.163	0.235	0.377	0.285	0.191
下部工高	23.444	23.277	22.945	22.842	22.738

支承配置図

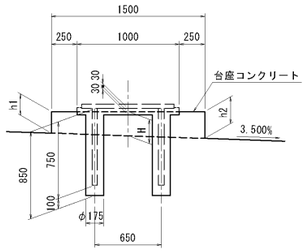


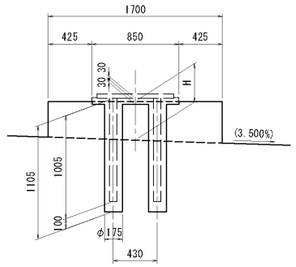
A － A





B － B





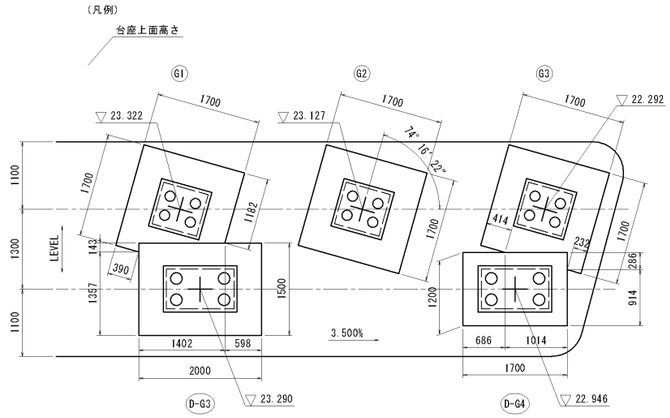
台座コンクリート高表

	G1	G2
H	163	235
h1	137	209
h2	189	261

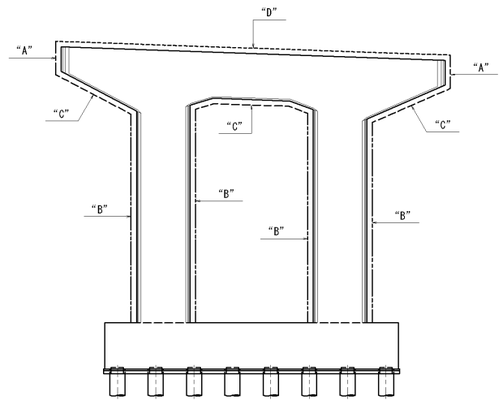
台座コンクリート高表

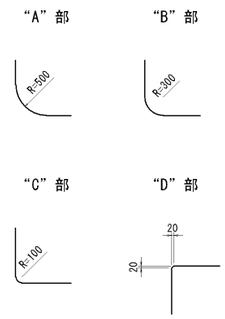
	G1	G2	G3
H	377	285	191
h1	356	264	170
h2	414	322	228
h3	398	306	212
h4	340	248	154

台座コンクリート詳細図 S=1:50



面取り形状詳細図

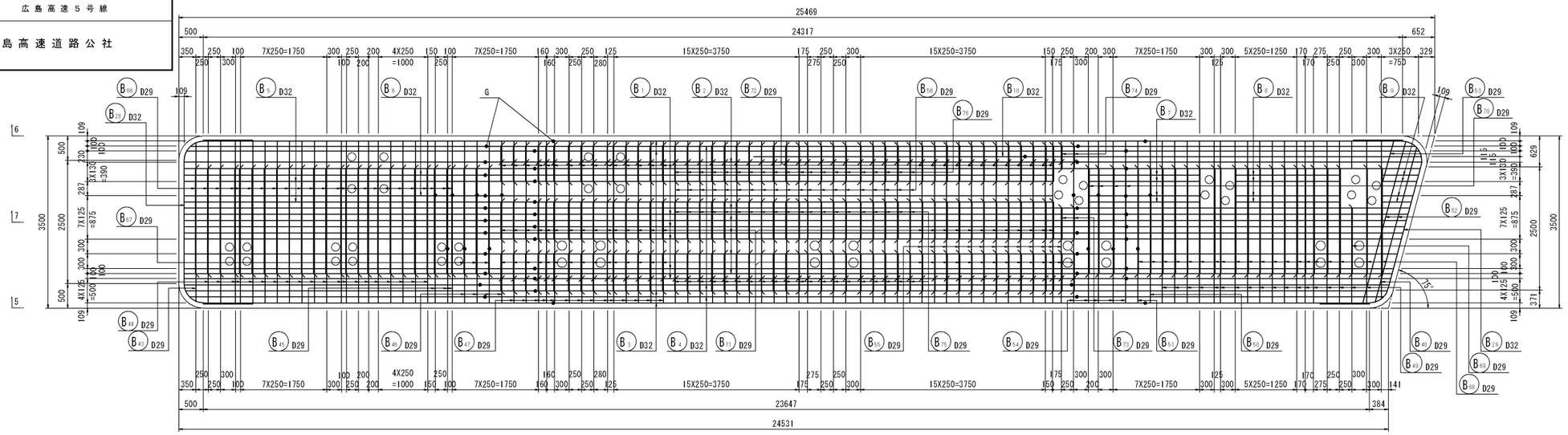




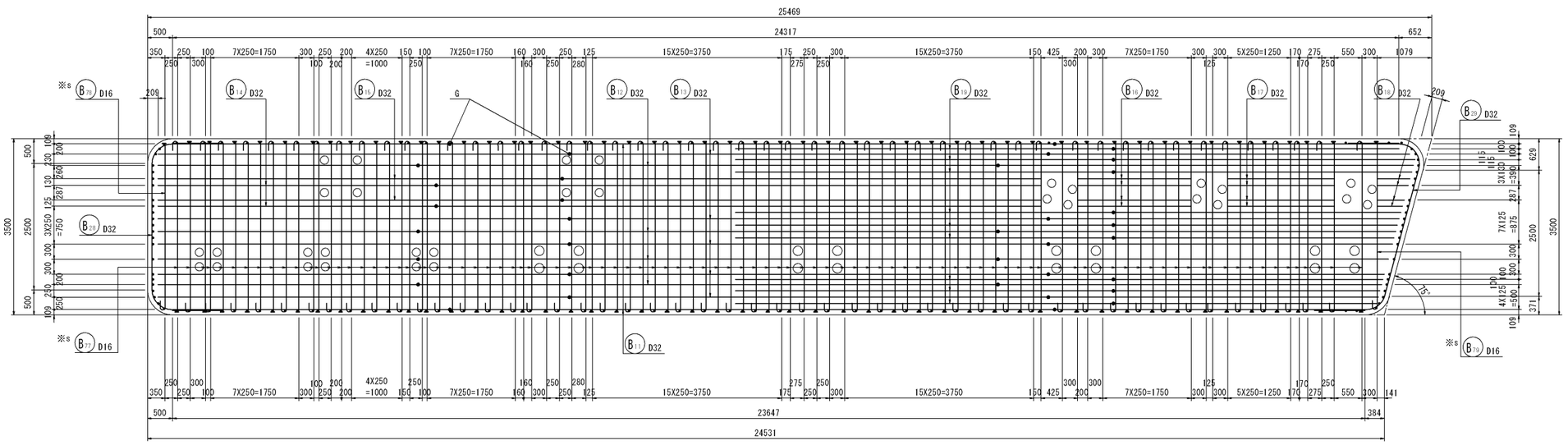
工事名	令和３年度 広島高速５号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	70 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その１）	番号	1 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＤＰ３橋脚配筋図（その1） S=1:50

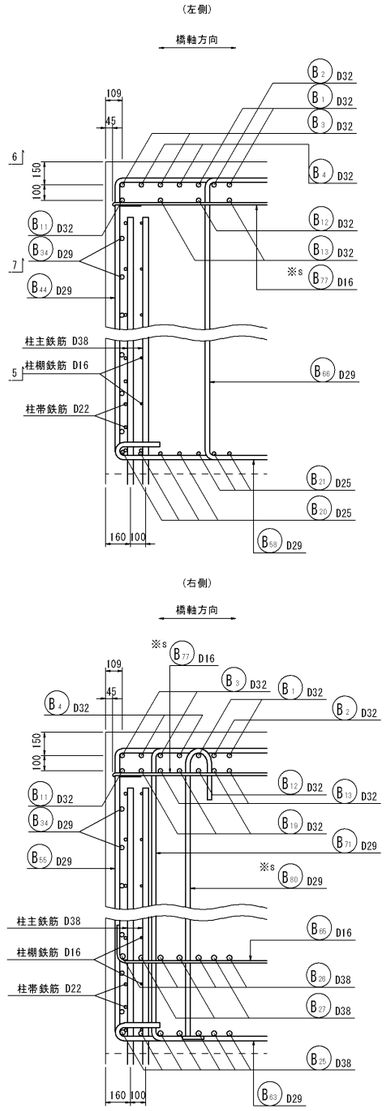
1－1

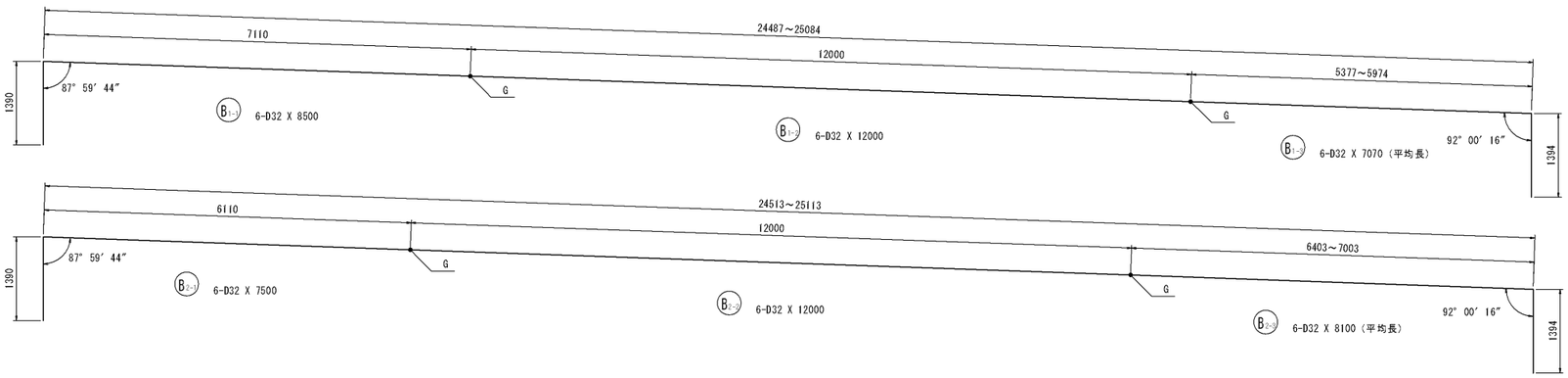


2－2

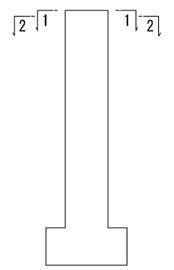


梁かぶり詳細図 S=1:20





位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

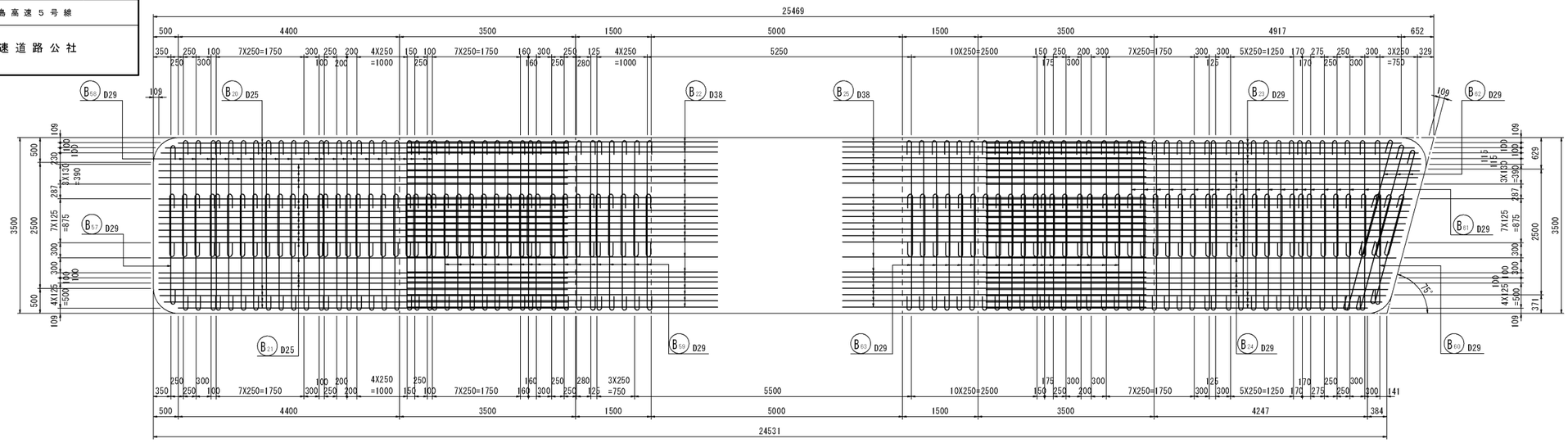
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	71 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 配筋図（その2）	番号	2／14
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

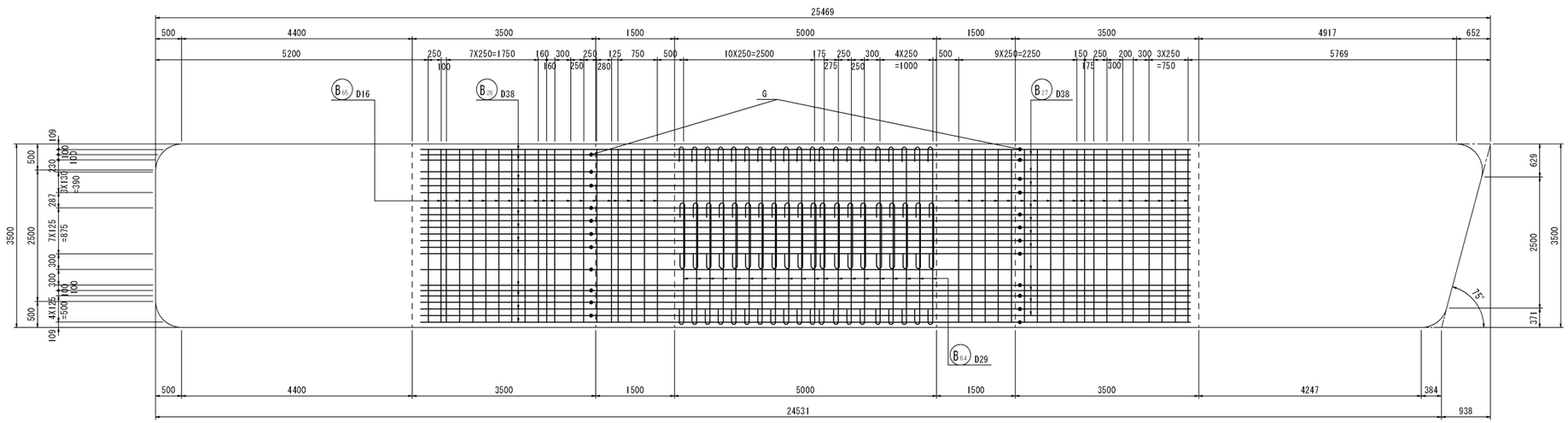
DP3橋脚配筋図（その2）

S=1:50

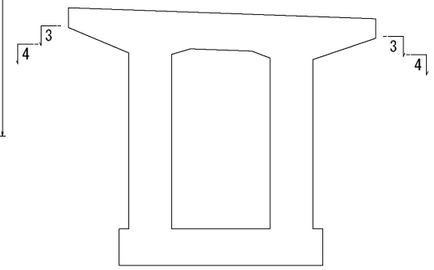
3－3

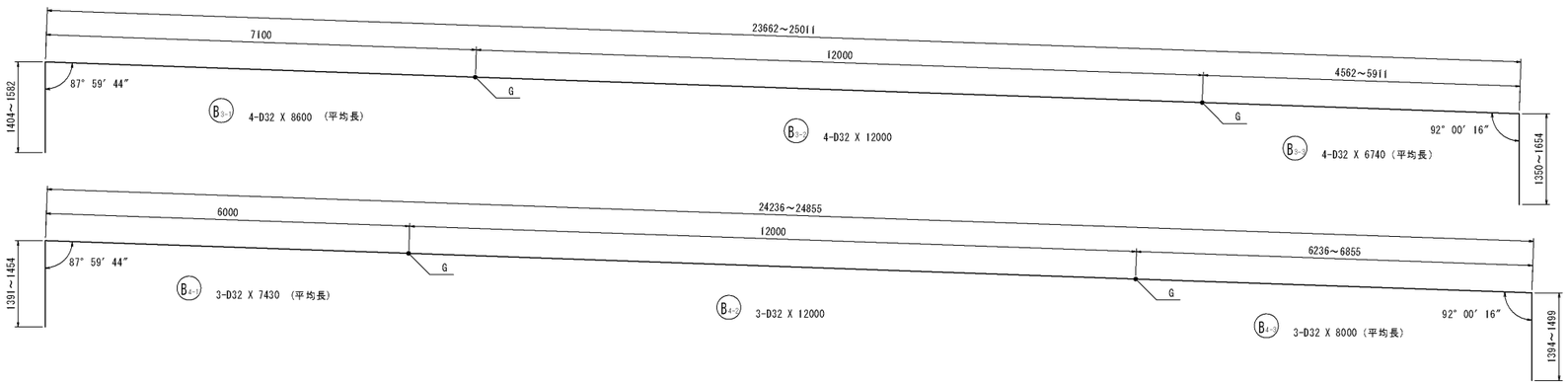


4－4



位置図





注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

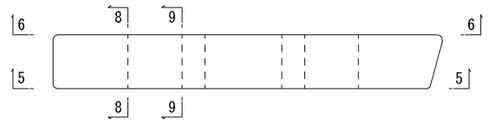
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事			
図面番号	72 ／ 110	縮尺	図示	
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その３）	番号	3 ／ 14	
路線名	広島高速５号線			
広島高速道路公社				

ＤＰ３橋脚配筋図（その3）

S=1:50

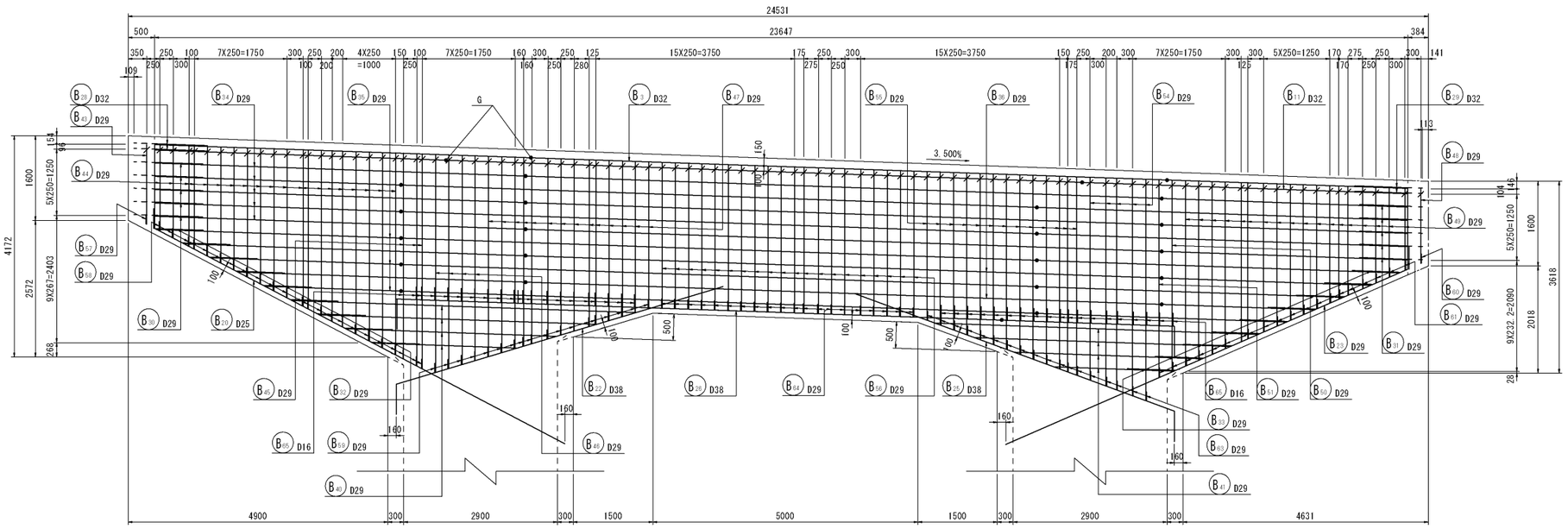
位置図



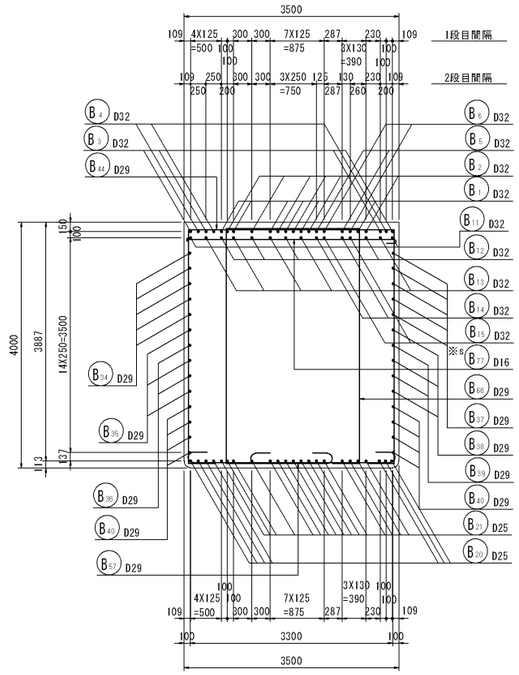
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

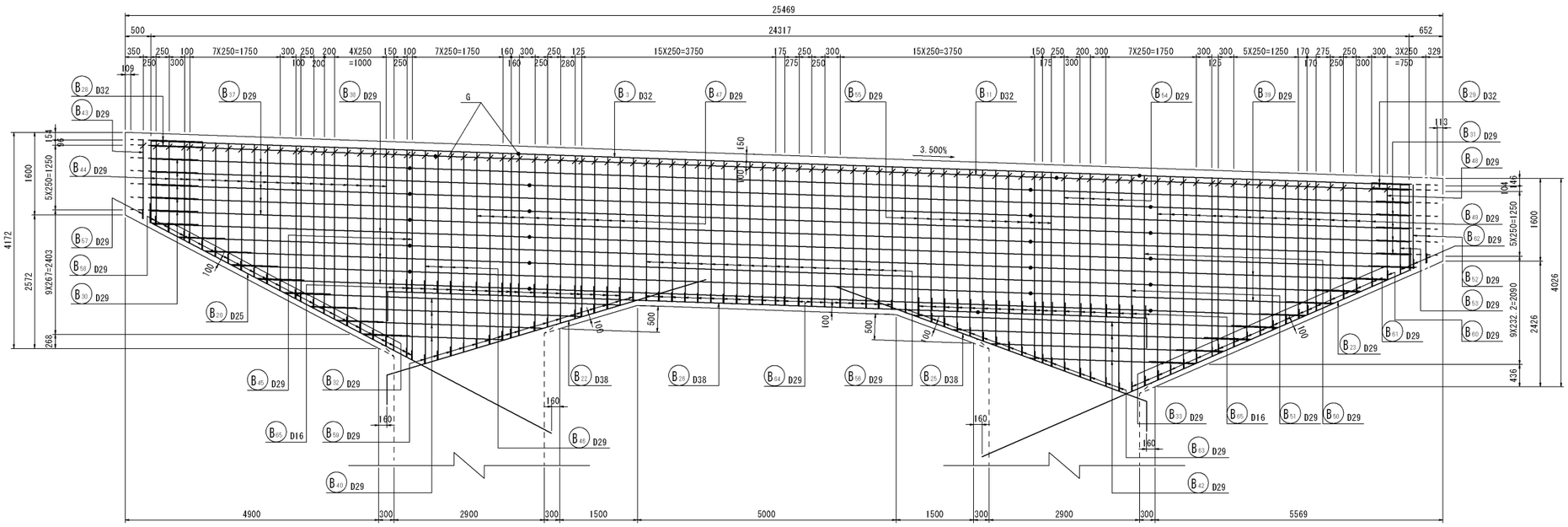
5 － 5



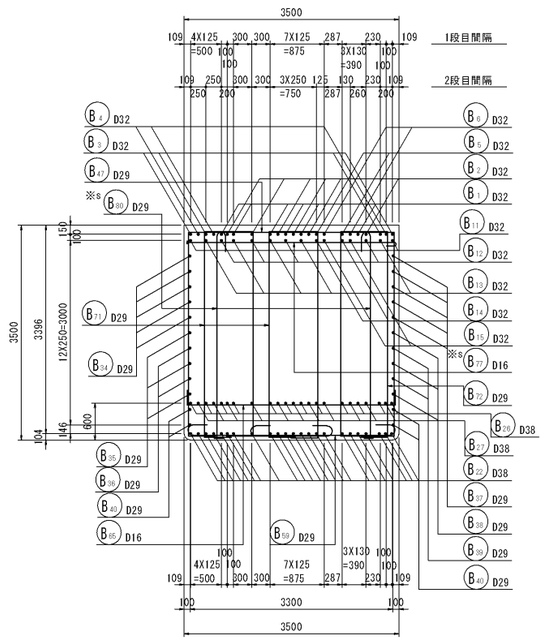
8 － 8（左張り出し部）



6 － 6



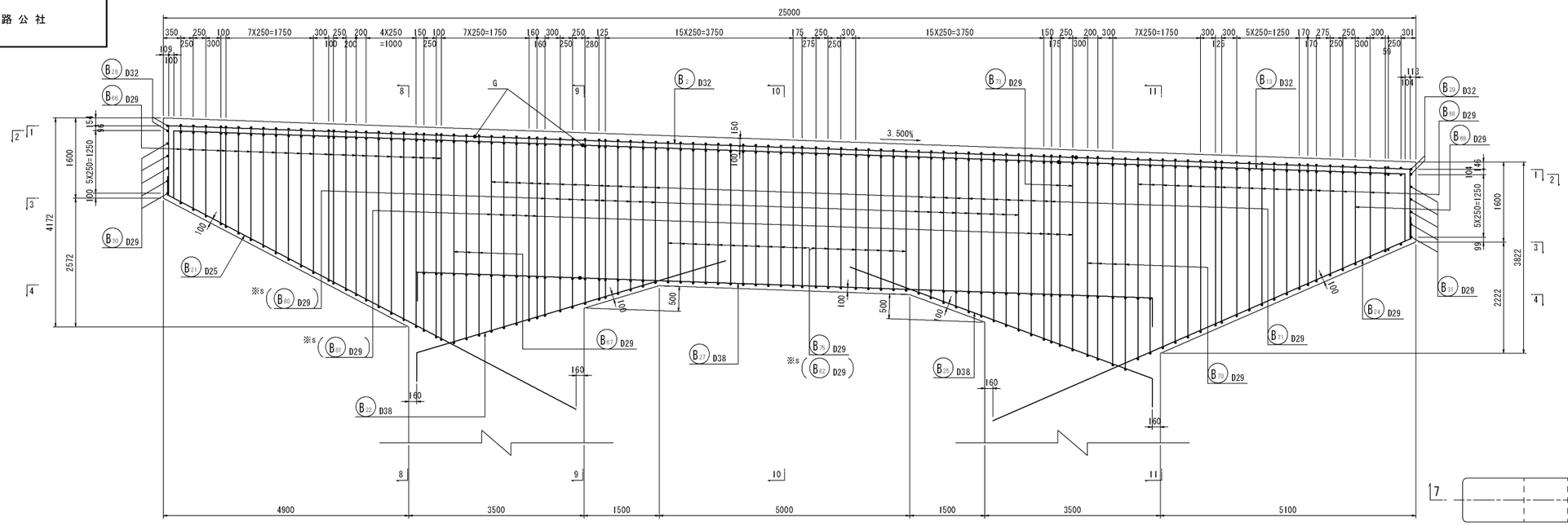
9 － 9（左側）



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	73 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その４）	番号	4 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

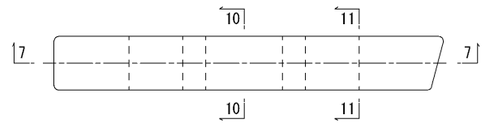
ＤＰ３橋脚配筋図（その4）　S=1:50

7 － 7

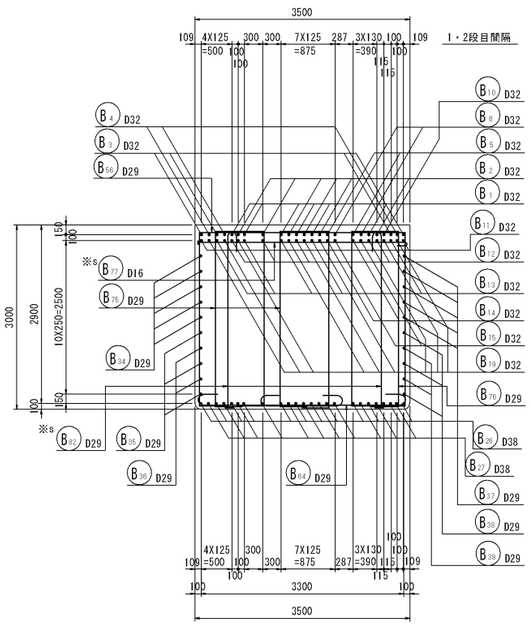


注.（ ）内符号は機械式定着のスターラップを示す。

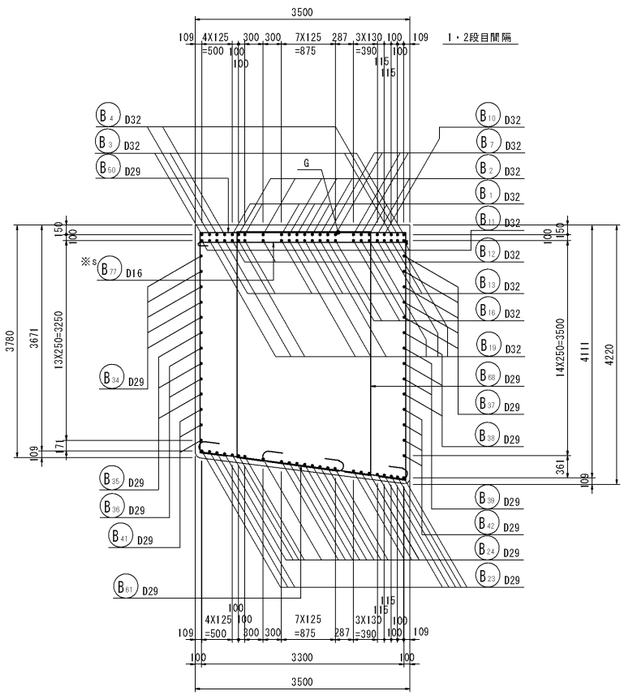
位置図



10 － 10（中間部）

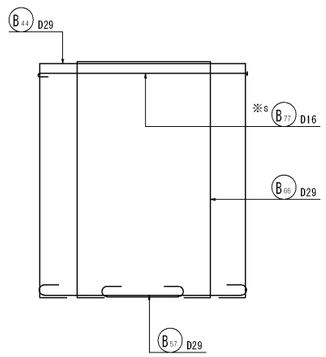


11 － 11（右張り出し部）

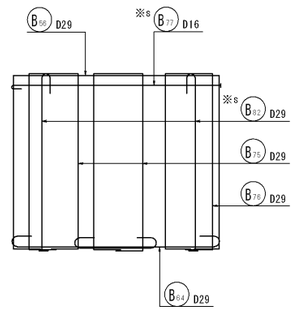


鉄筋組立図

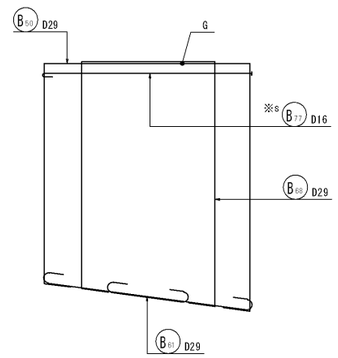
左張り出し部



中間部



右張り出し部



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

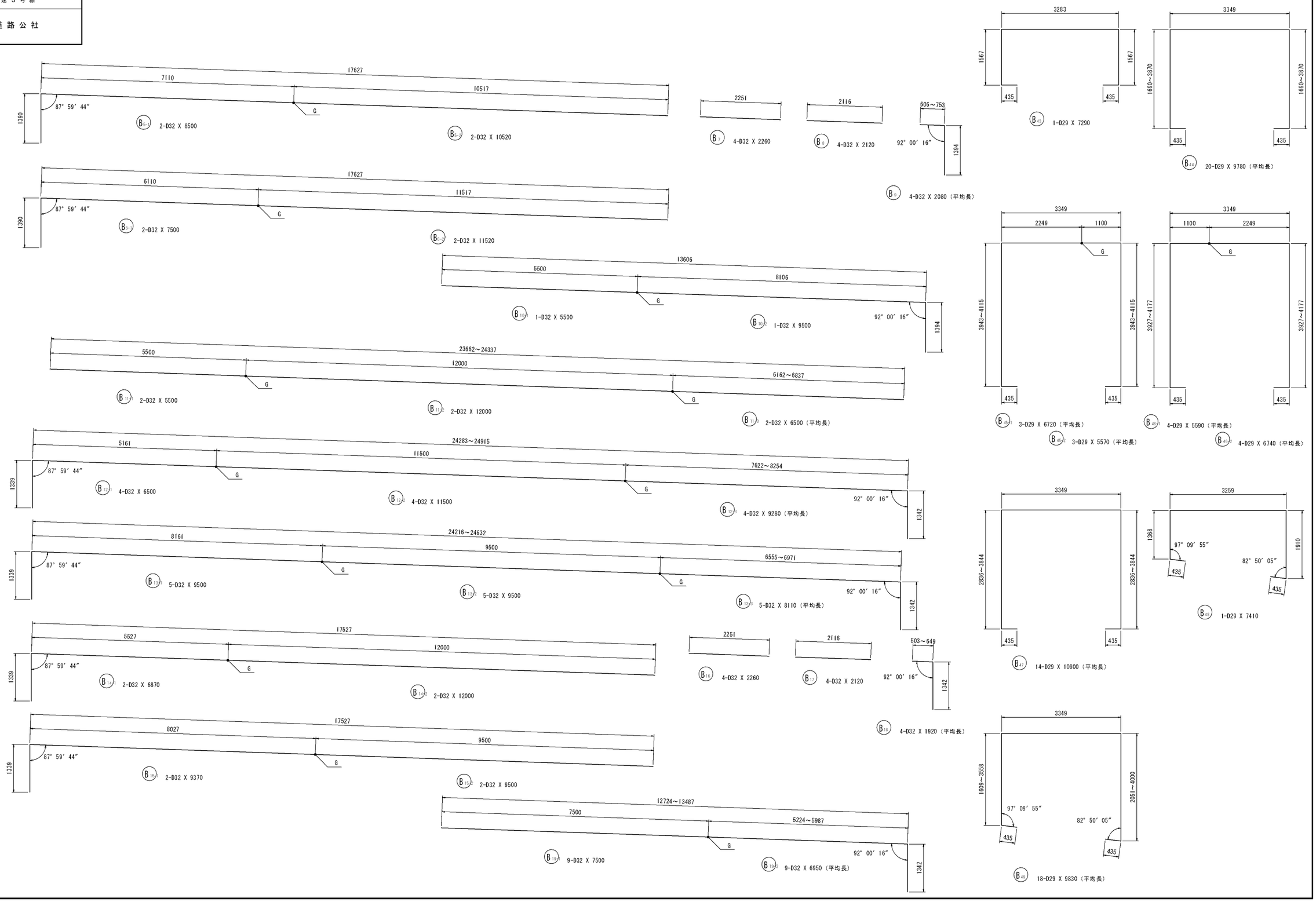
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	74 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 配筋図（その5）	番号	5／14
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

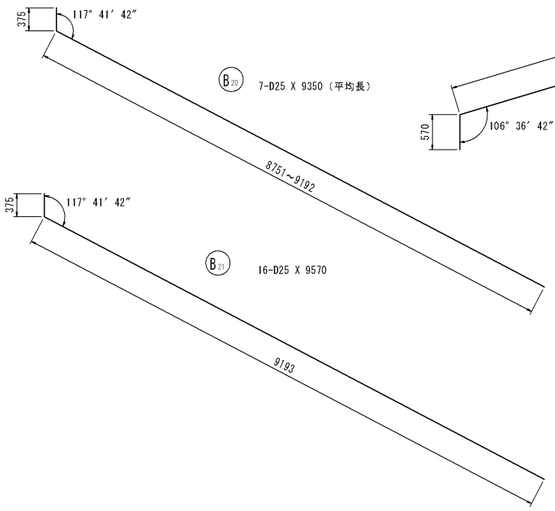
DP3橋脚配筋図（その5）

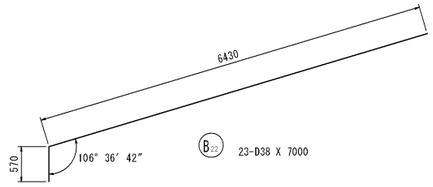
S=1:50

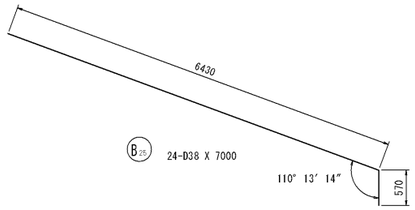


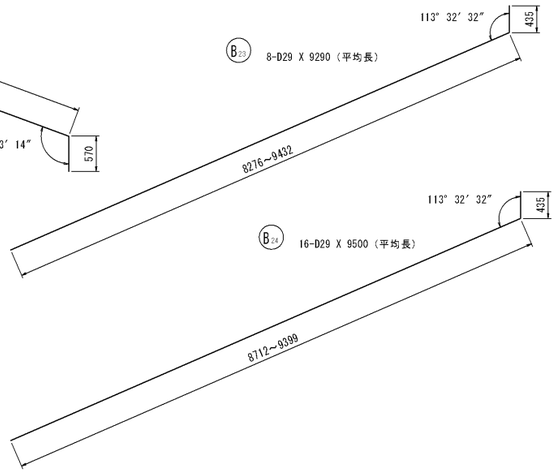
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	75 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 配筋図（その6）	番号	6 ／ 14
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

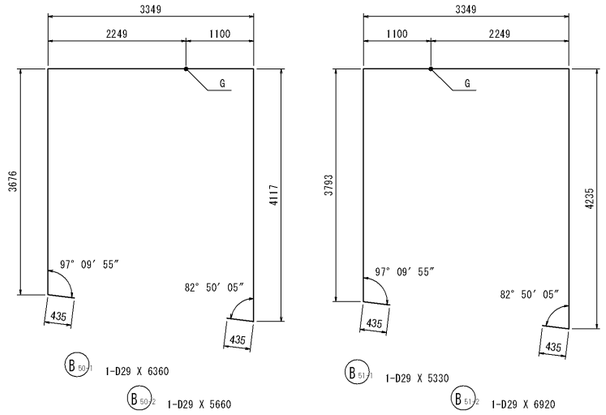
DP3橋脚配筋図（その6） S=1:50

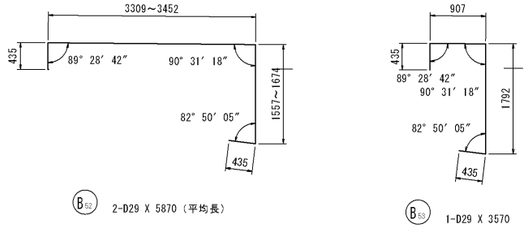


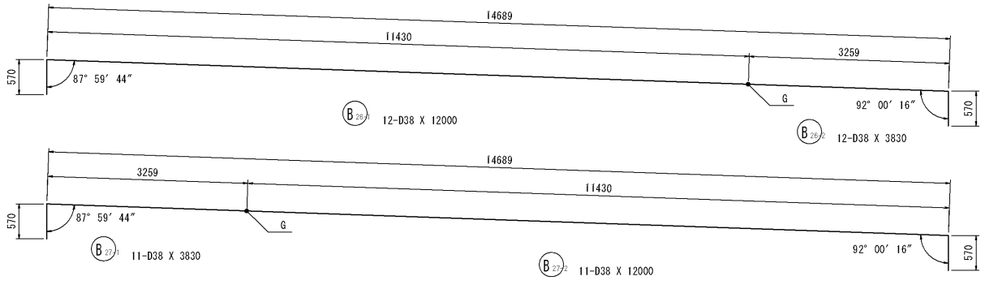


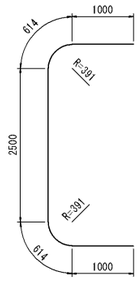


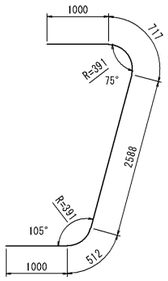


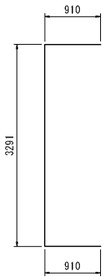


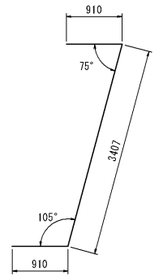


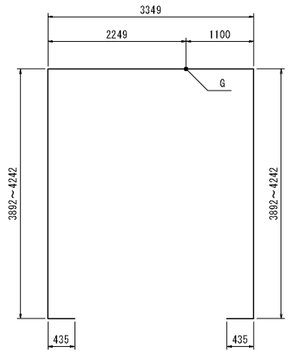


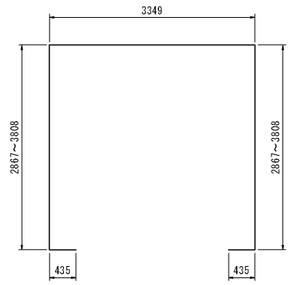


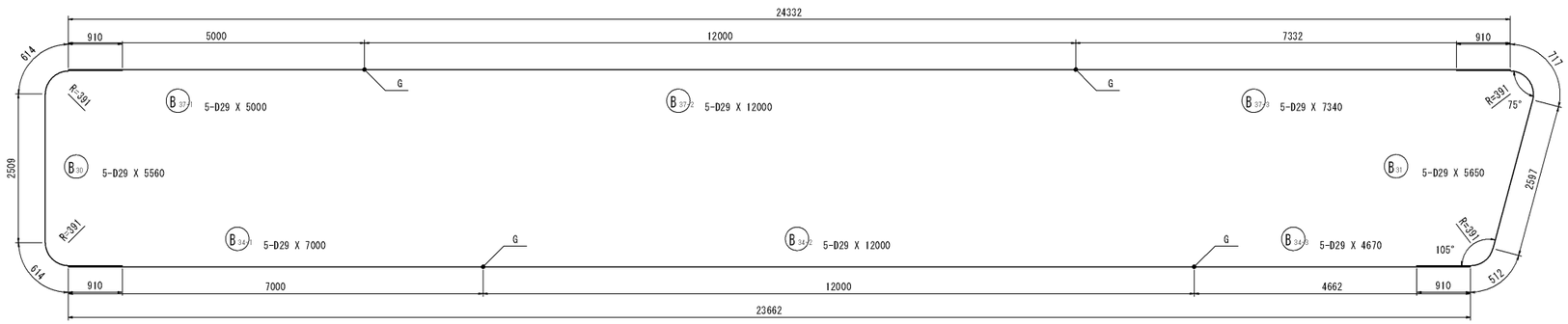


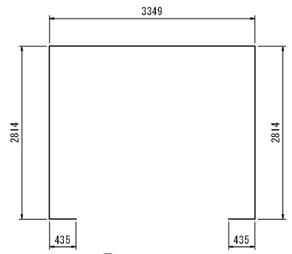


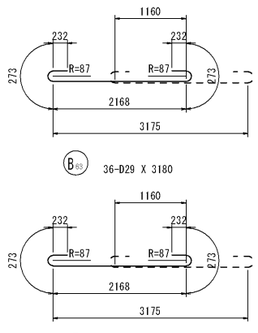


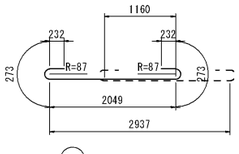


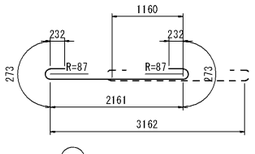


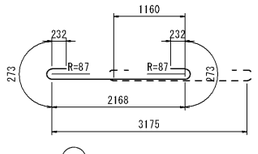


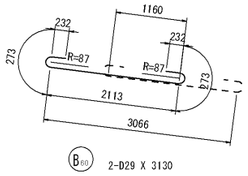


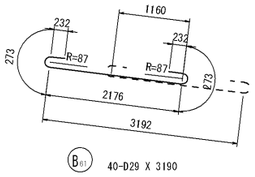


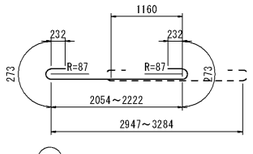


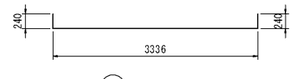








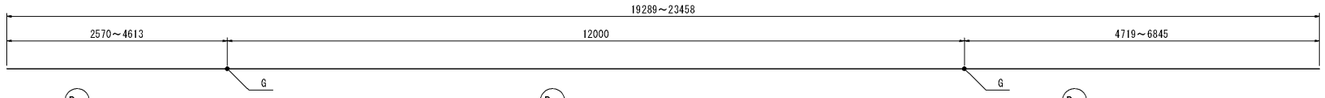




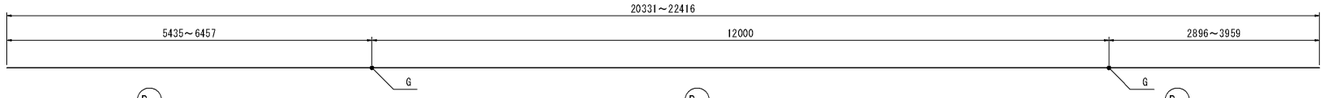
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	76 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その７）	番号	7 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＤＰ３橋脚配筋図（その7）

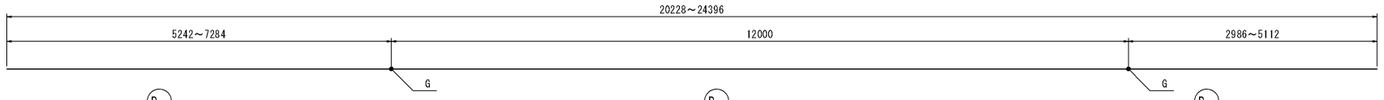
S=1:50



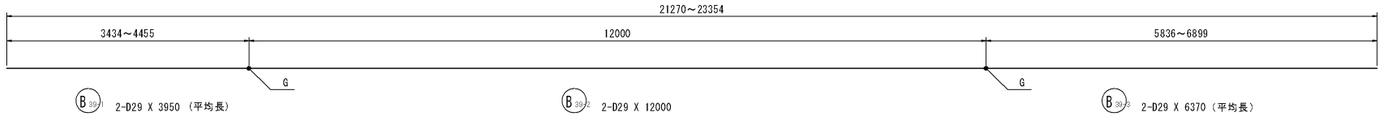
B35-1 3-D29 X 3600（平均長）　B35-2 3-D29 X 12000　B35-3 3-D29 X 5790（平均長）



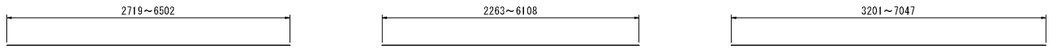
B36-1 2-D29 X 5950（平均長）　B36-2 2-D29 X 12000　B36-3 2-D29 X 3430（平均長）



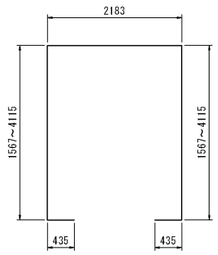
B37-1 3-D29 X 6270（平均長）　B37-2 3-D29 X 12000　B37-3 3-D29 X 4050（平均長）



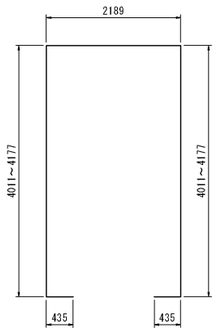
B38-1 2-D29 X 3950（平均長）　B38-2 2-D29 X 12000　B38-3 2-D29 X 6370（平均長）



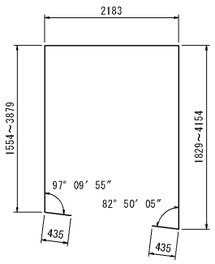
B40 8-D29 X 4620（平均長）　B41 4-D29 X 4190（平均長）　B42 4-D29 X 5130（平均長）



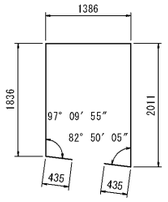
B66 24-D29 X 8740（平均長）



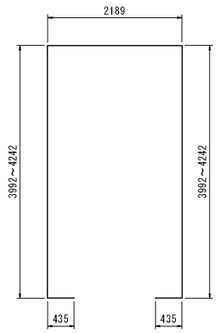
B67 3-D29 X 11250（平均長）



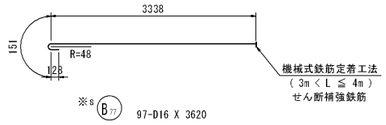
B68 20-D29 X 8770（平均長）



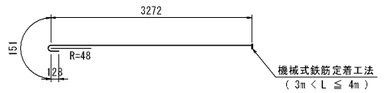
B69 1-D29 X 6110



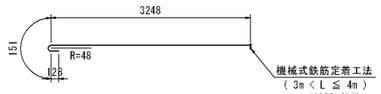
B70 4-D29 X 11300（平均長）



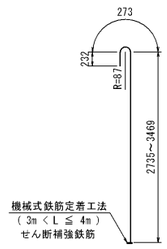
※s B77 97-D16 X 3620



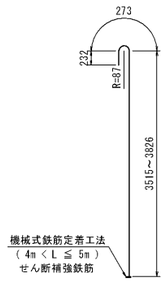
※s B78 1-D16 X 3560



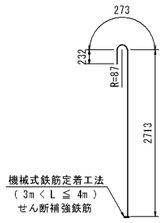
※s B79 1-D16 X 3530



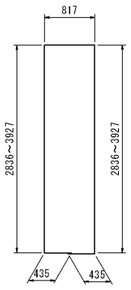
※s B80 38-D29 X 3610（平均長）



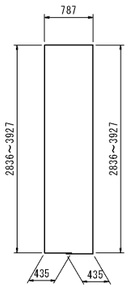
※s B81 20-D29 X 4180（平均長）



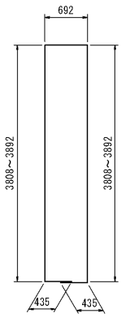
※s B82 40-D29 X 3220



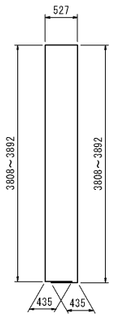
B71 56-D29 X 8460（平均長）



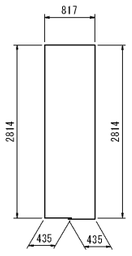
B72 27-D29 X 8430（平均長）



B73 2-D29 X 9270（平均長）



B74 2-D29 X 9100（平均長）



B75 40-D29 X 7320

B76 20-D29 X 7290

注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

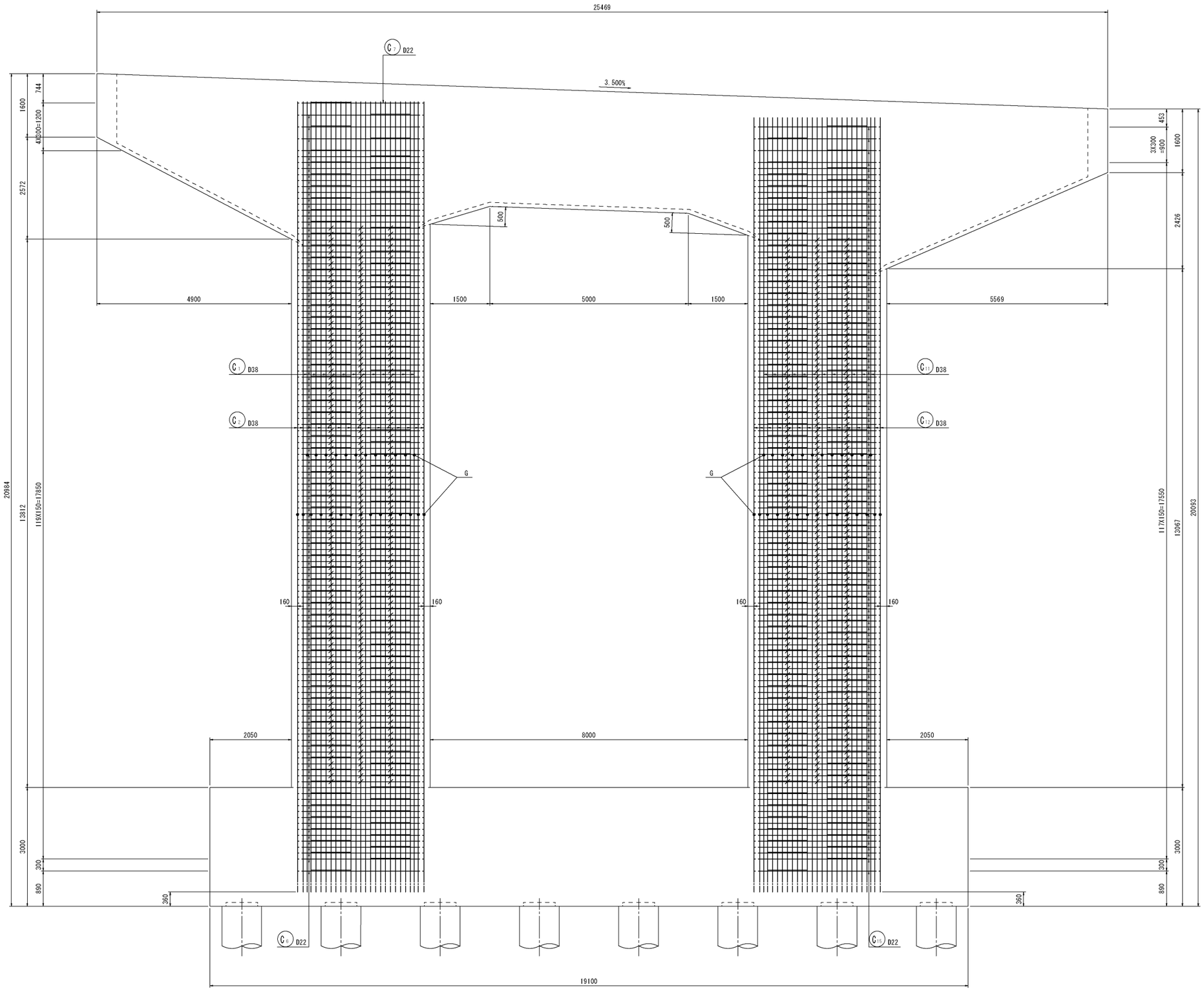
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

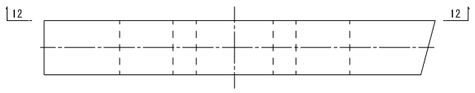
ＤＰ３橋脚配筋図（その8）　S=1:50

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	77 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その８）	番号	8／14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

12 － 12



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

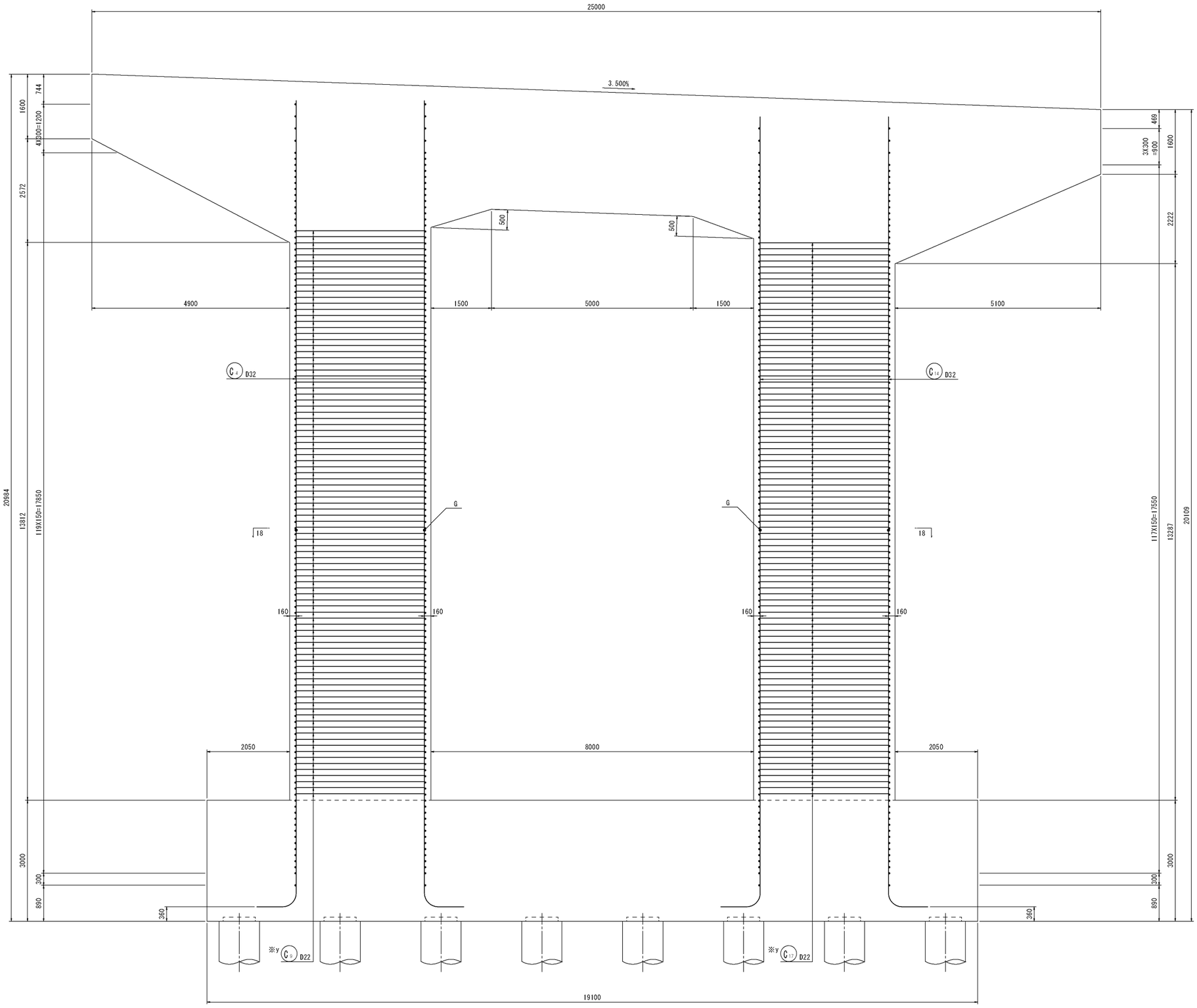
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	78 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その９）	番号	9 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

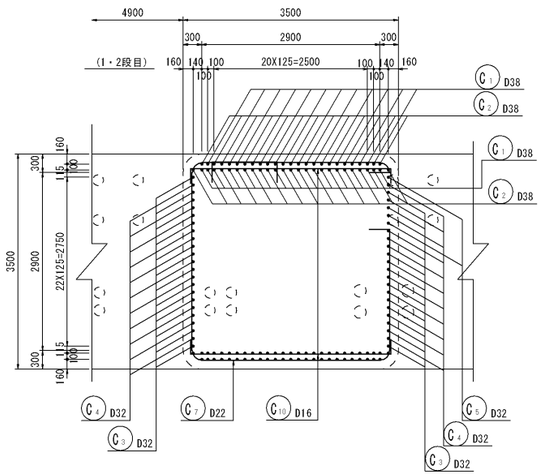
ＤＰ３橋脚配筋図（その9）　S=1:50

13 － 13

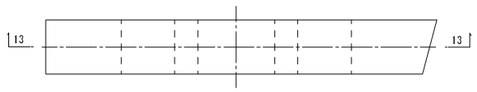


アンカー箱抜き部平面図

Dランプ(S1)　G2桁



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

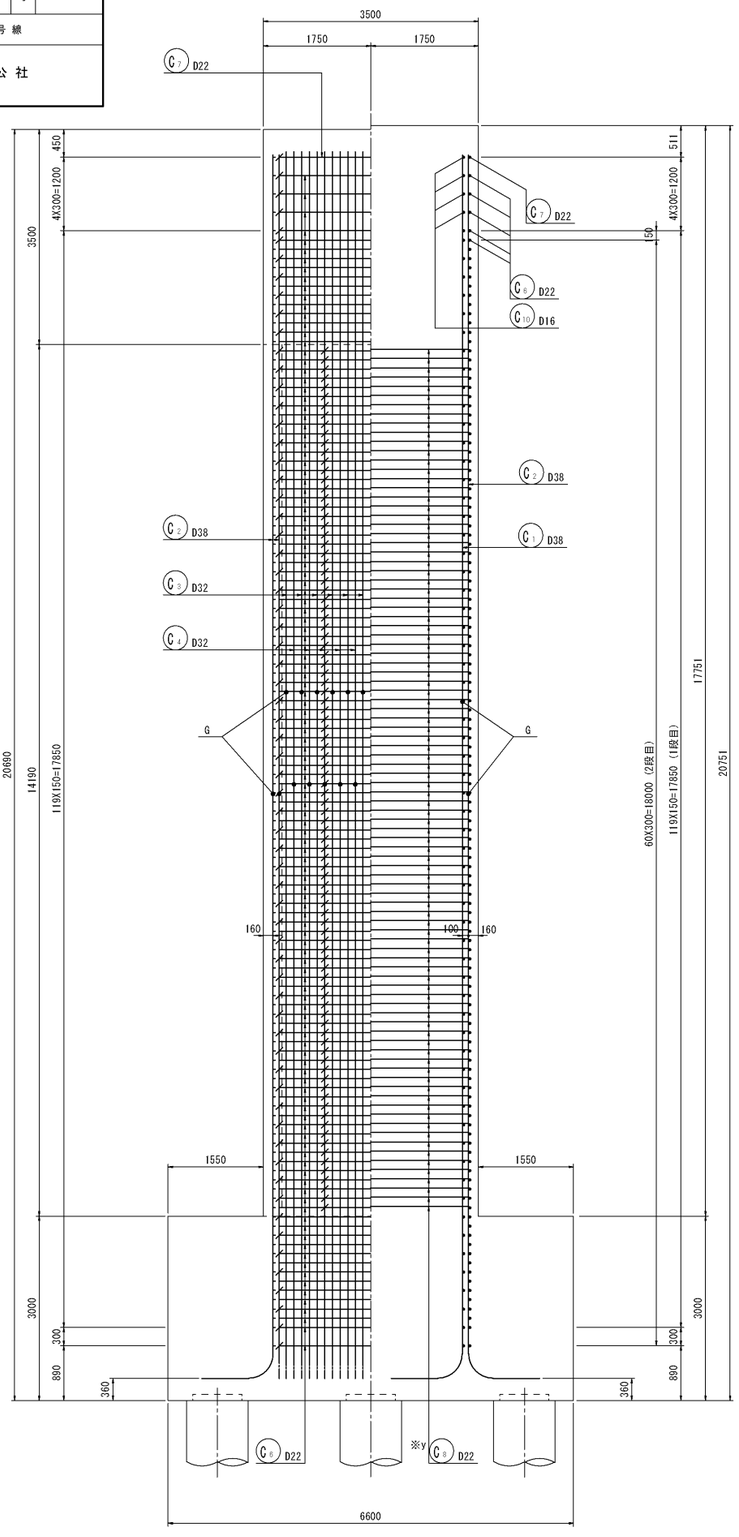
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

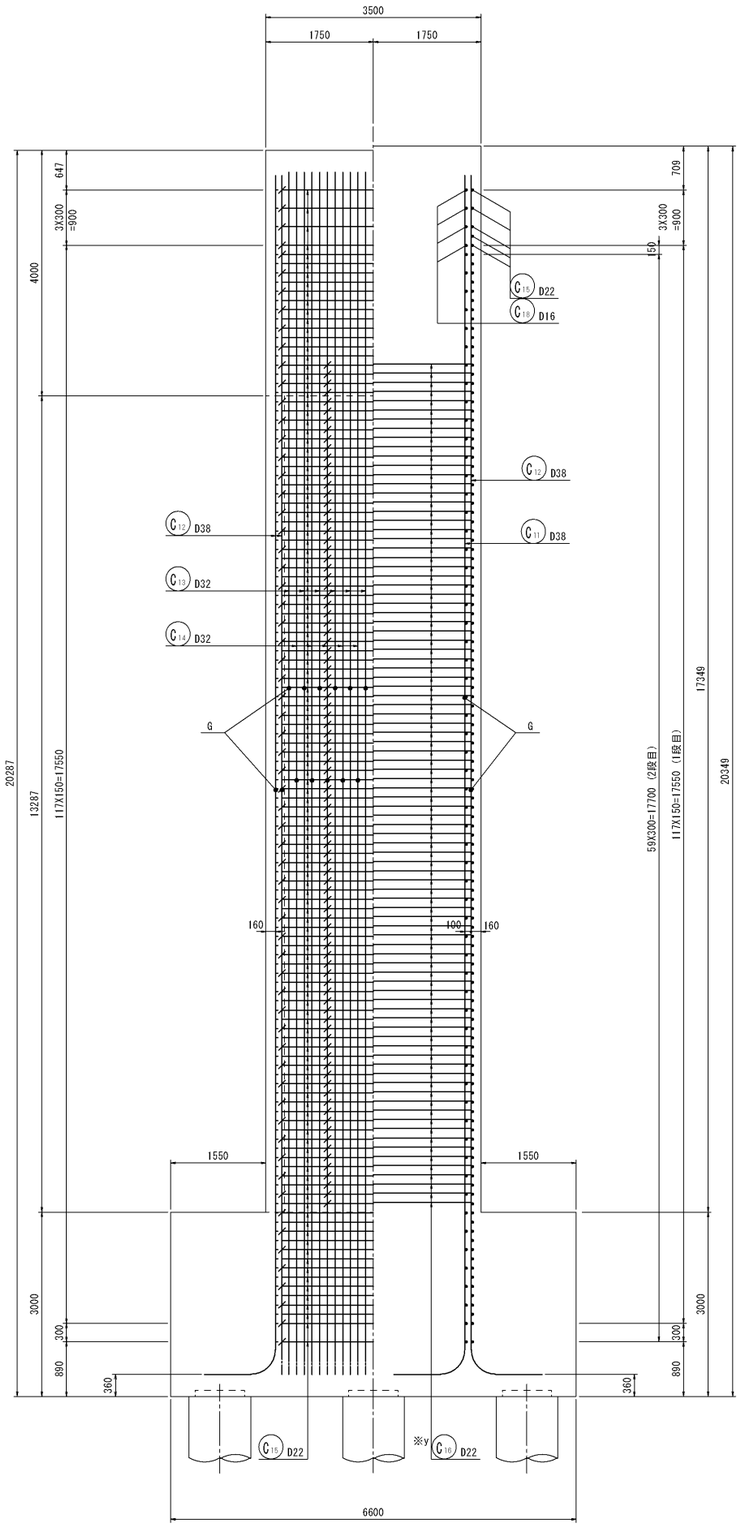
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	79 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 配筋図（その10）	番号	10／14
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

DP3橋脚配筋図（その10） S=1:50

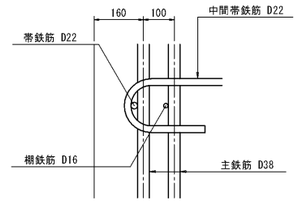
14 - 14　15 - 15



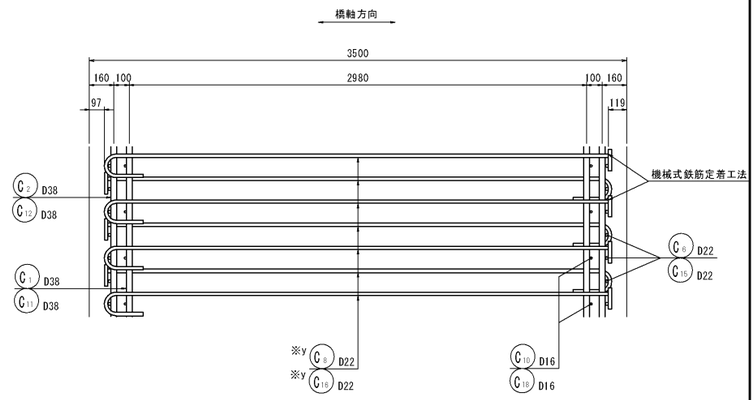
16 - 16　17 - 17



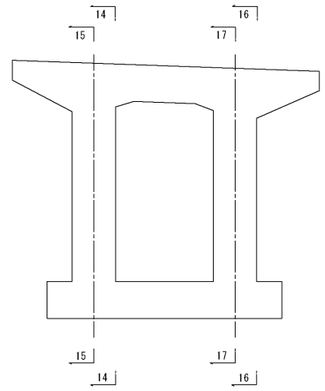
中間帯鉄筋詳細図



柱かぶり詳細図 S=1:20



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

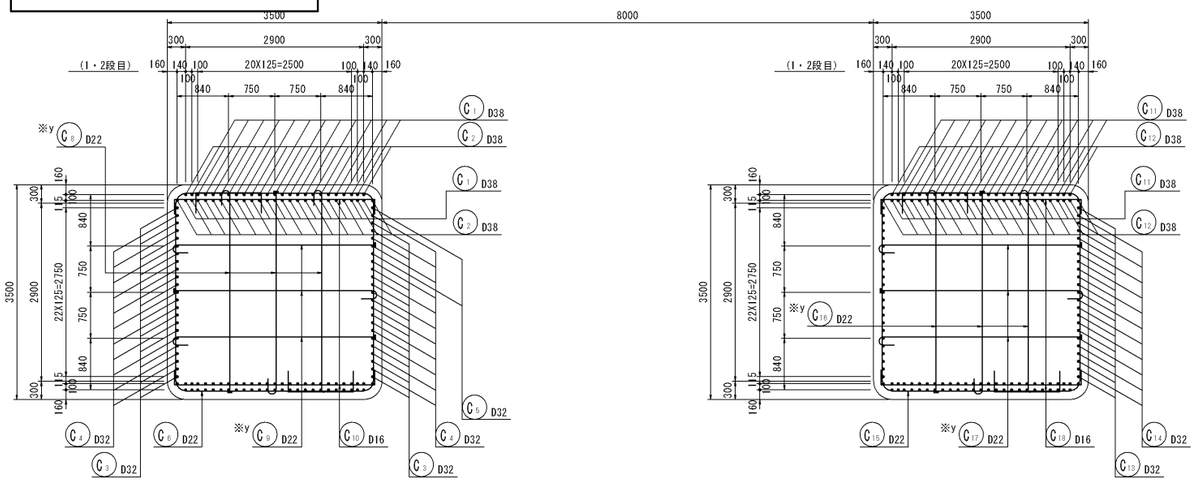
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

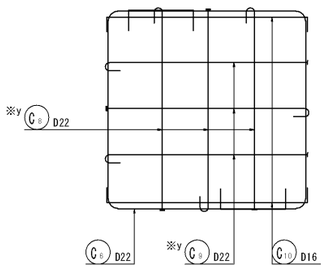
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	80 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その１１）	番号	11 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

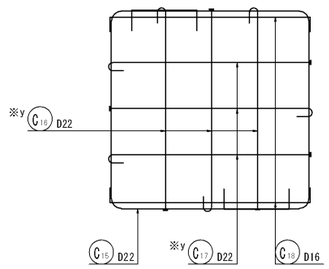
ＤＰ３橋脚配筋図（その11） S=1:50

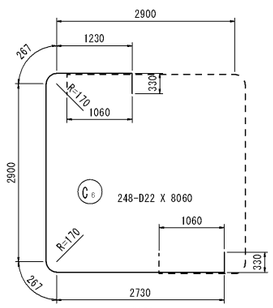
18 － 18

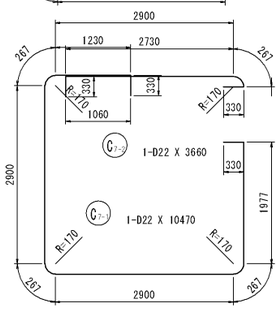


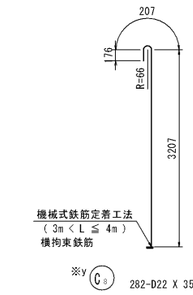
鉄筋組立図

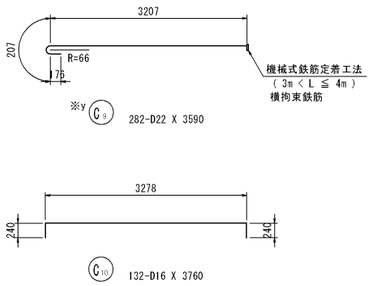


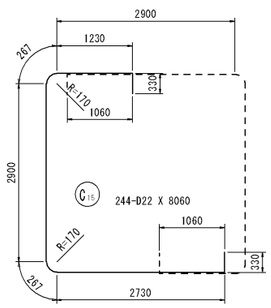


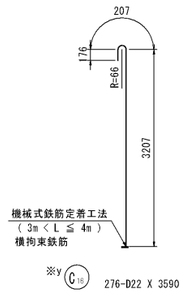


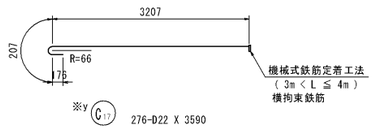


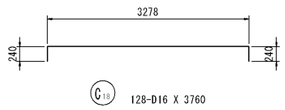


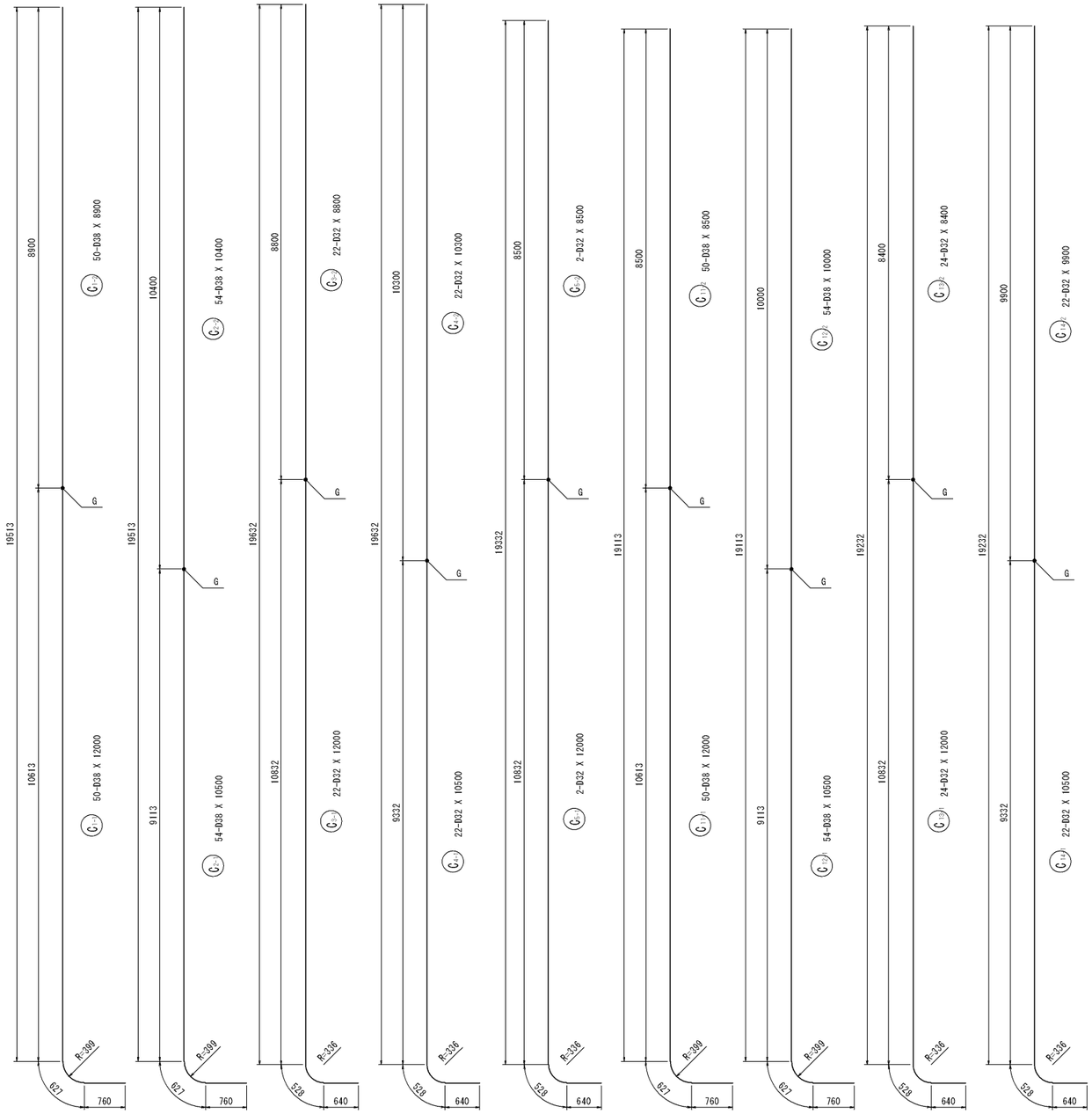












注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

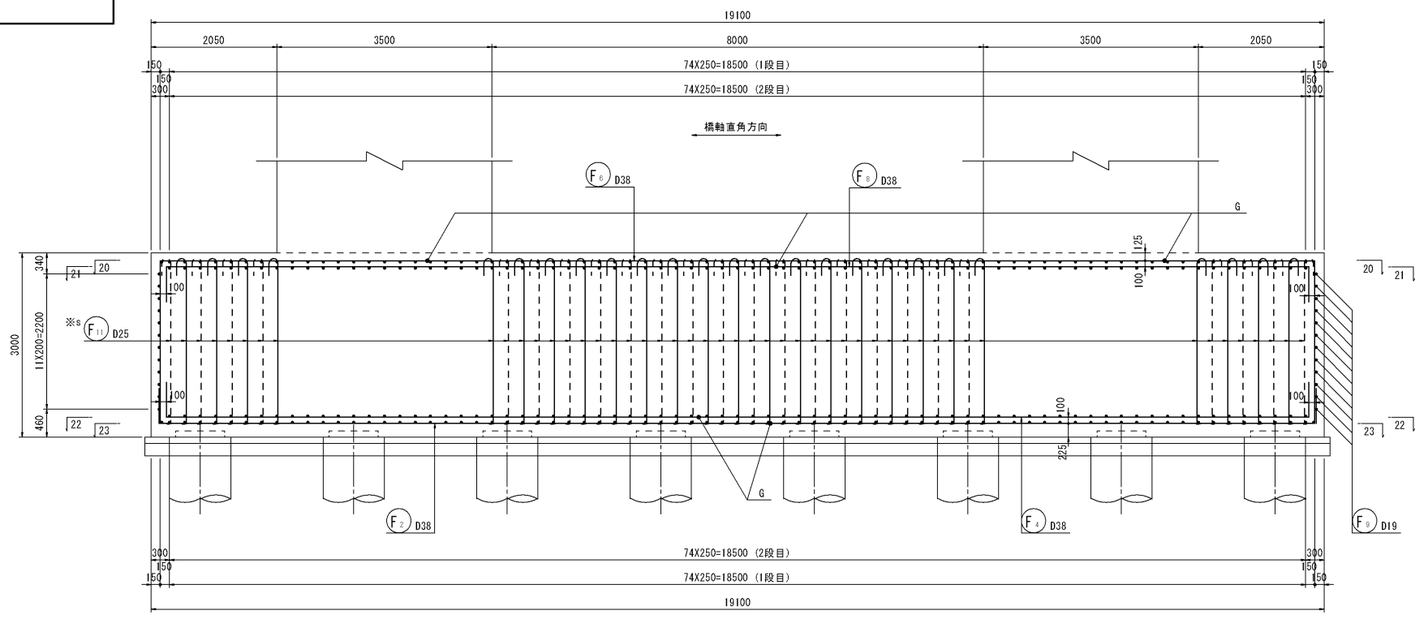
1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

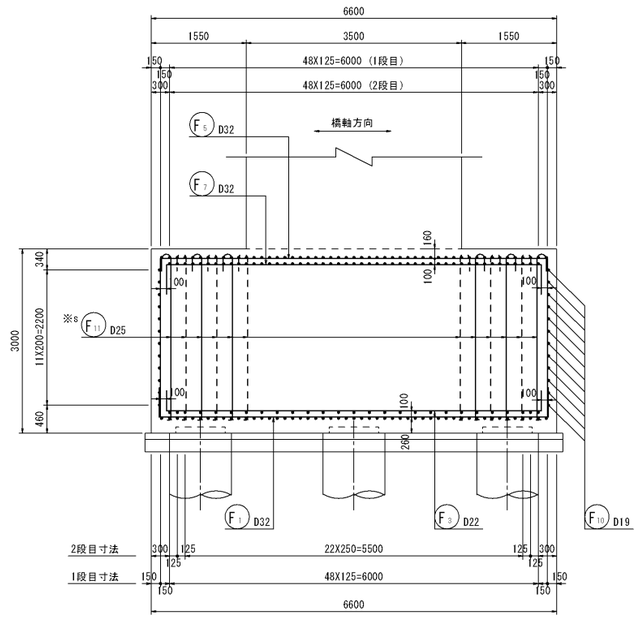
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	81 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その１２）	番号	12 ／ 14
路線名	広 島 高 速 ５ 号 線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

ＤＰ３橋脚配筋図（その12） S=1:50

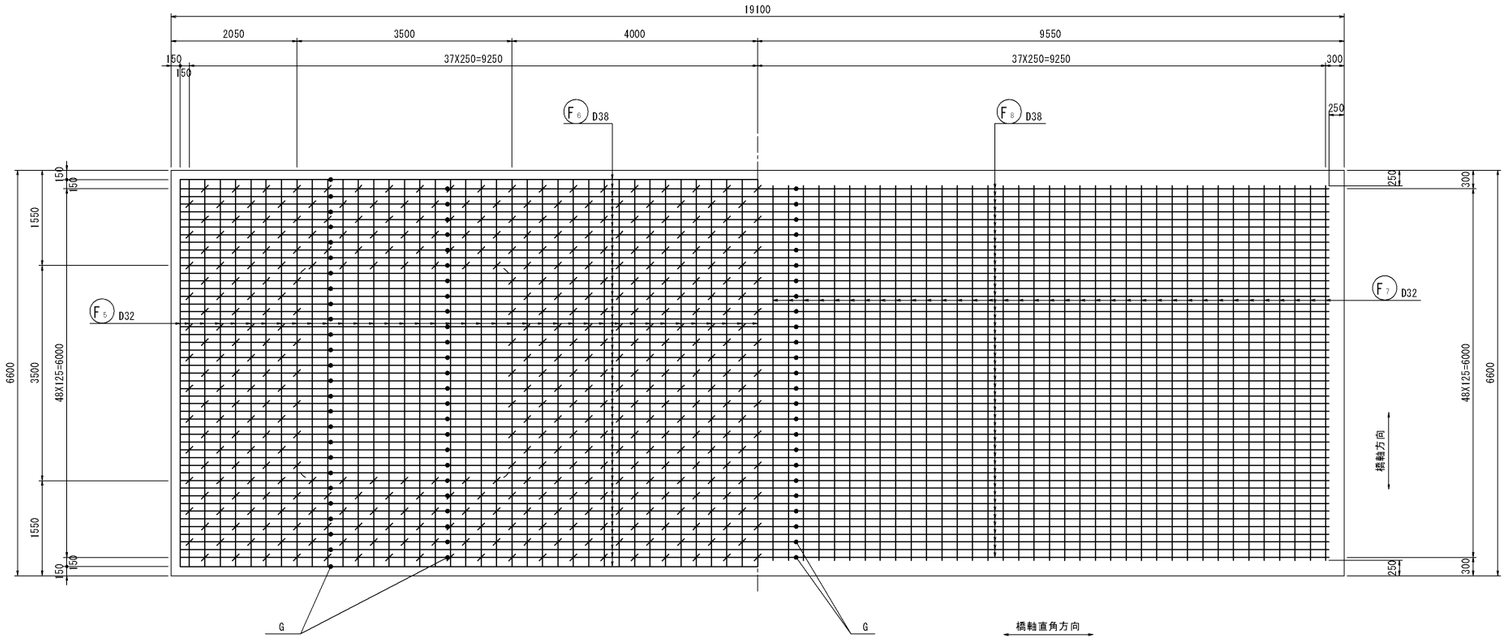
19 － 19



24 － 24

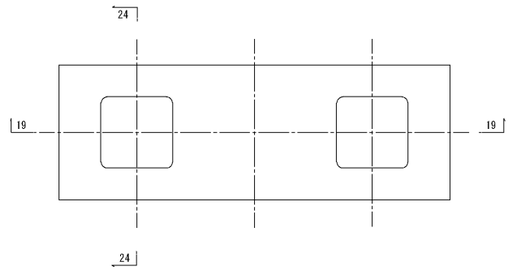


20 － 20
（上面：1段目）



21 － 21
（上面：2断目）

位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

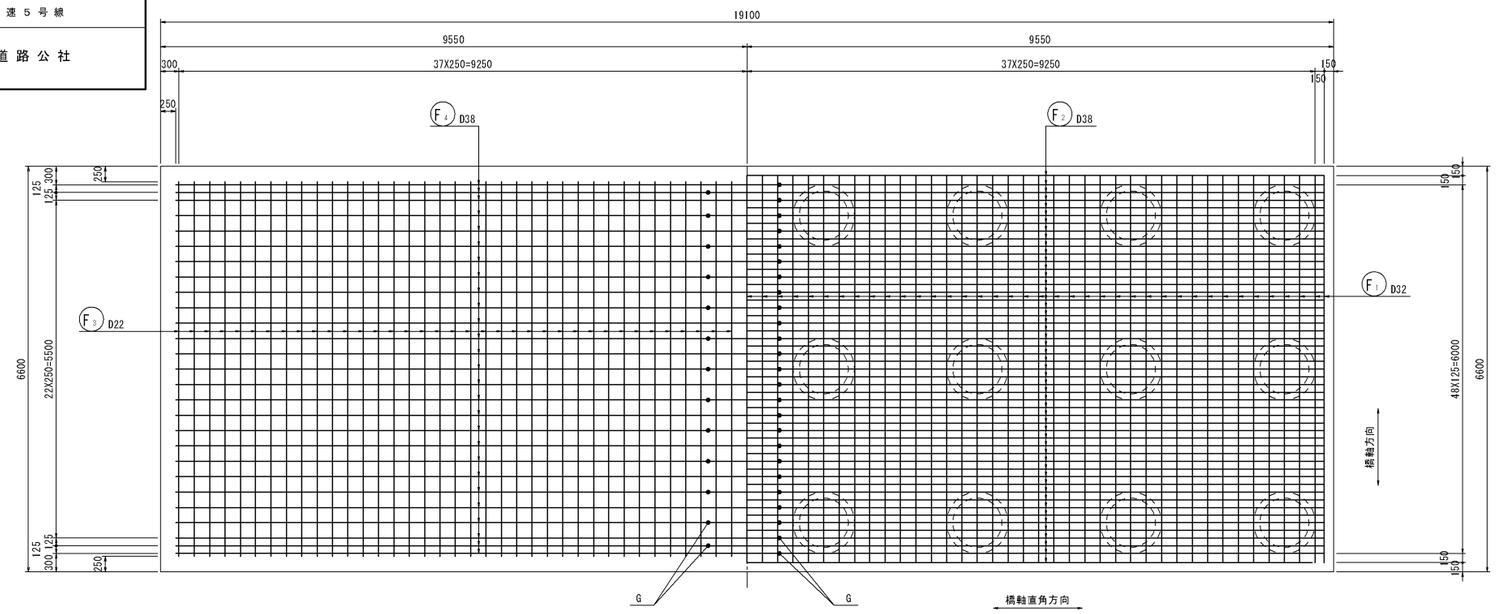
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

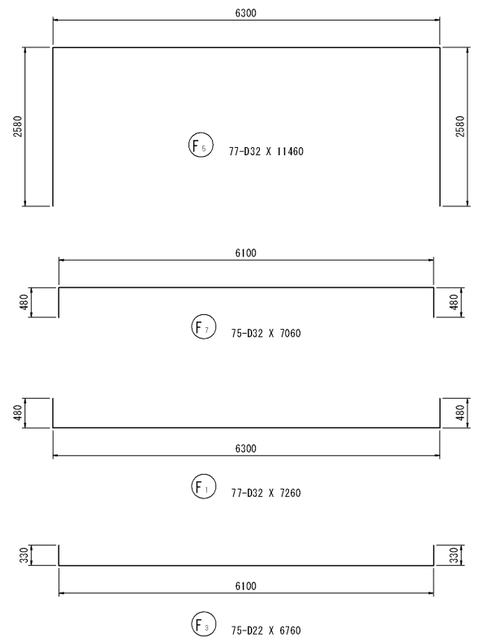
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	82 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その１３）	番号	13 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

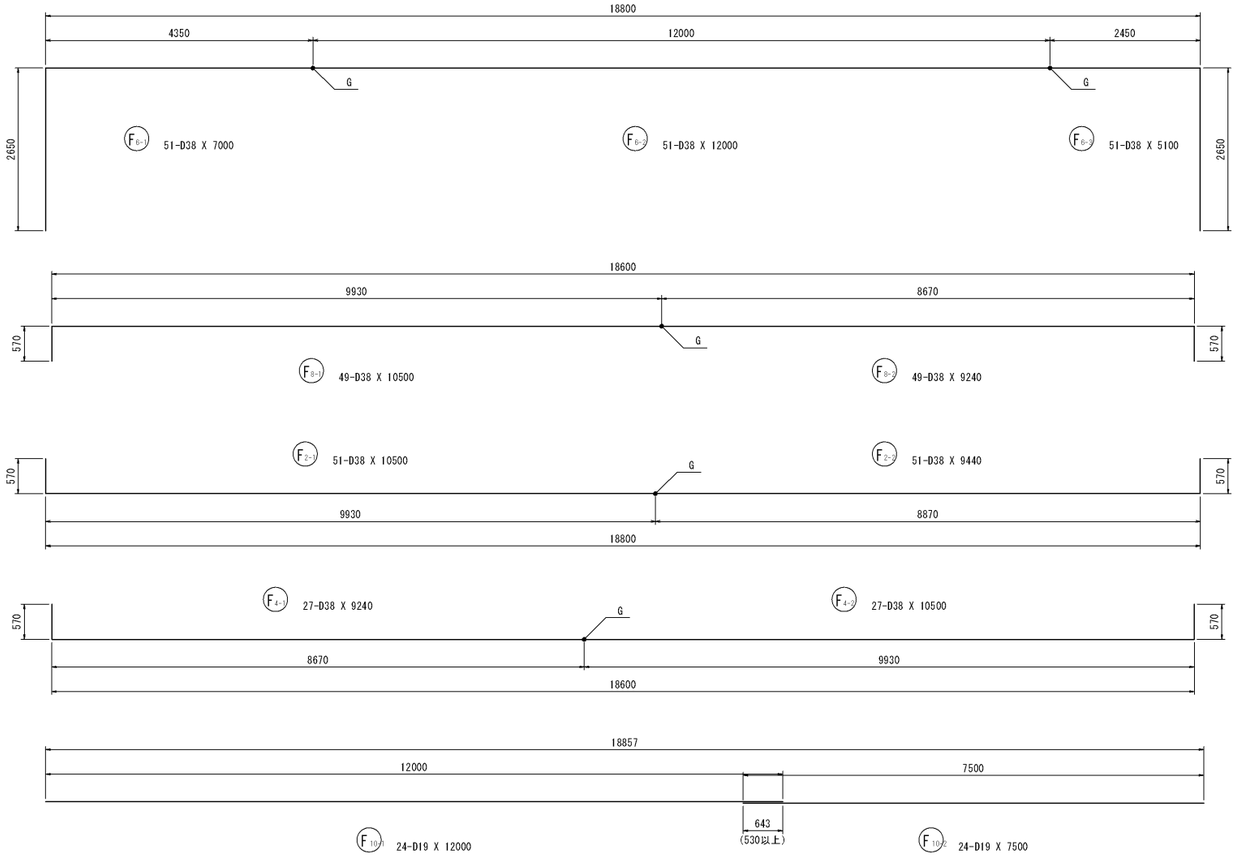
ＤＰ３橋脚配筋図（その13） S=1:50

22 － 22
（下面：2断目）

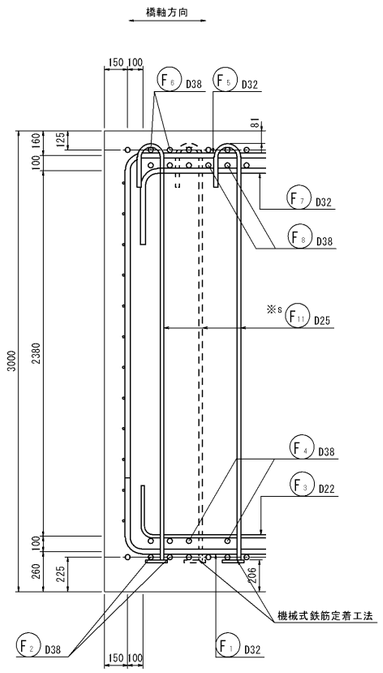
23 － 23
（下面：1断目）

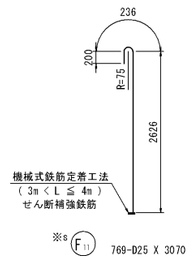






底版かぶり詳細図 S=1:20





注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

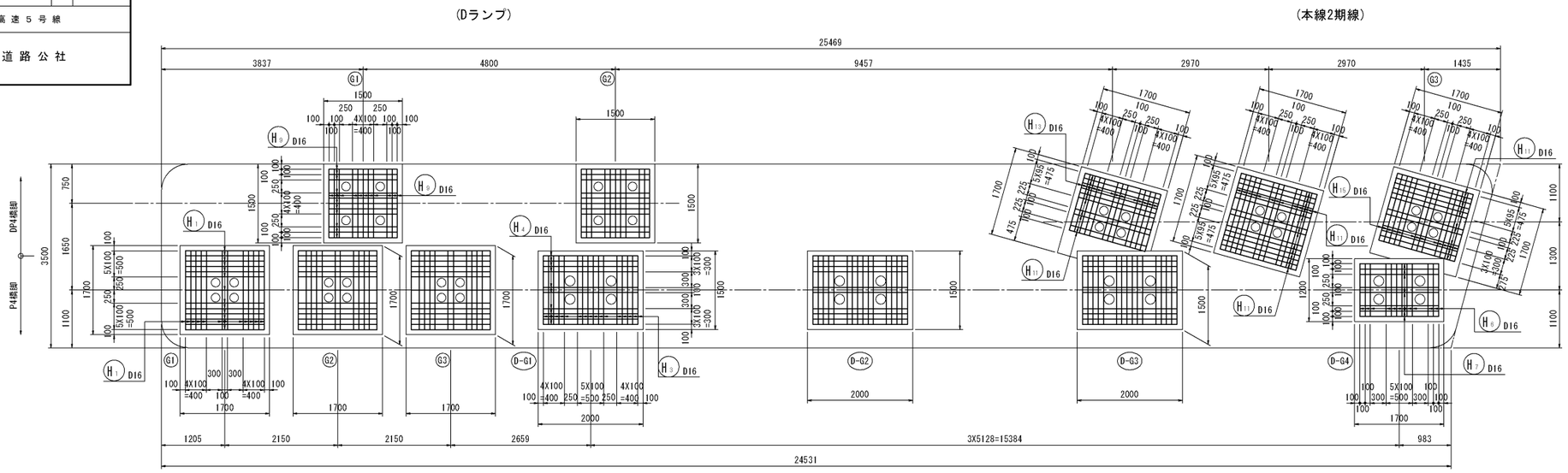
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

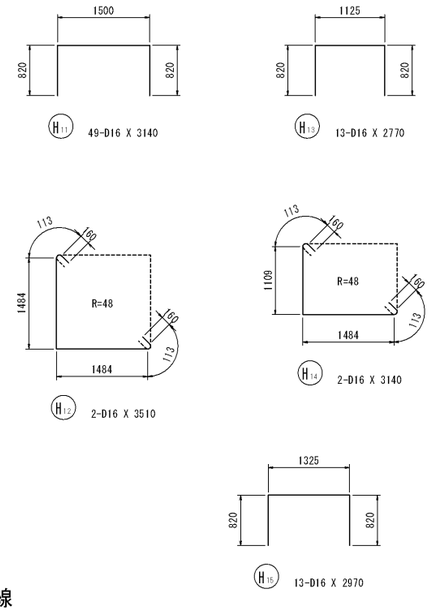
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	83 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＤＰ３橋脚 配筋図（その１４）	番号	14 ／ 14
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＤＰ３橋脚配筋図（その14）

S=1:50

台座コンクリート配筋図

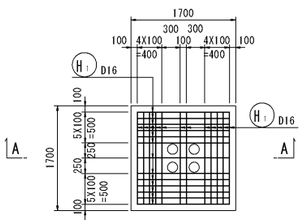




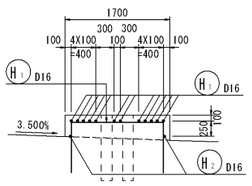
完成Dランプ

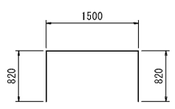
(3ヶ所)
G1,G2,G3桁

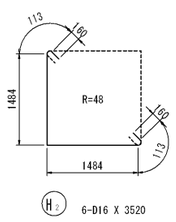
平面図



断面図 (A－A)



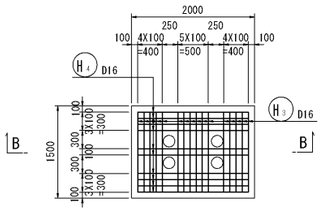




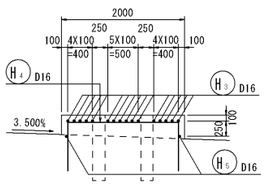
拡幅Dランプ

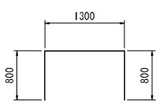
(3ヶ所)
D-G1～G3桁

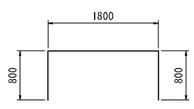
平面図



断面図 (B－B)

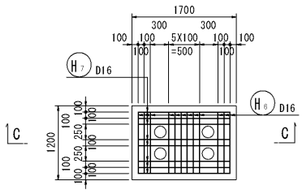




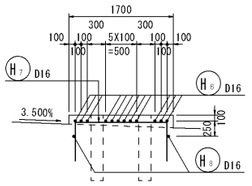


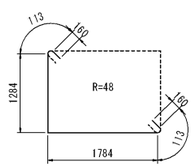
(1ヶ所)
D-G4桁

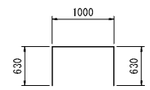
平面図

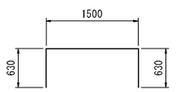


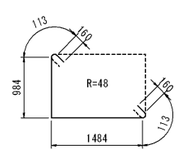
断面図 (C－C)







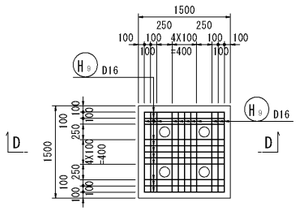




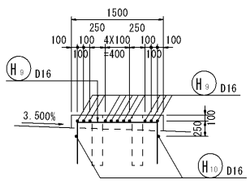
Dランプ

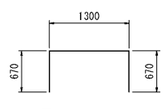
(2ヶ所)
G1,G2桁

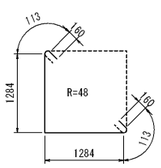
平面図



断面図 (D－D)



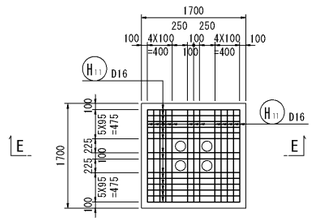




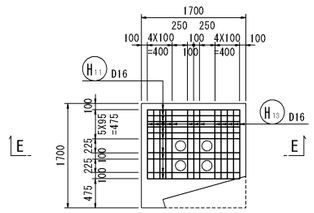
本線2期線

平面図

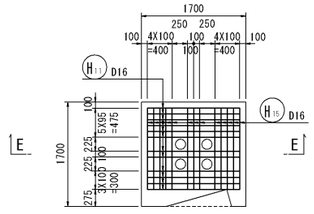
G2桁

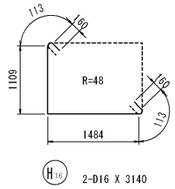


G1桁

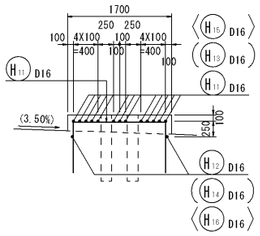


G3桁





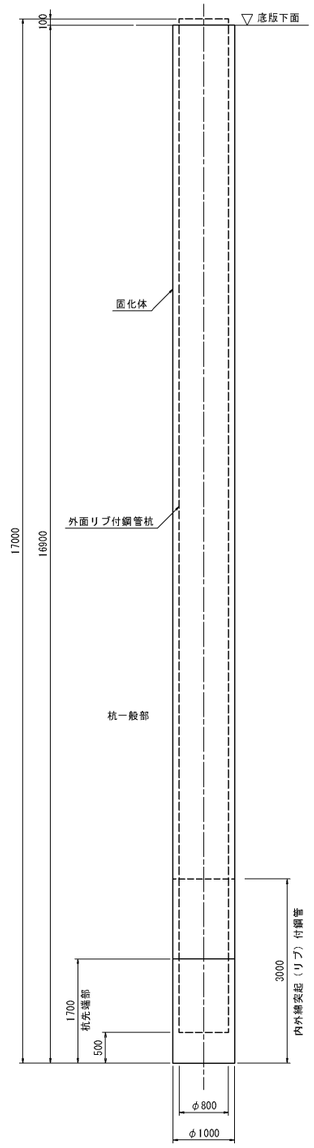
断面図 (E－E)



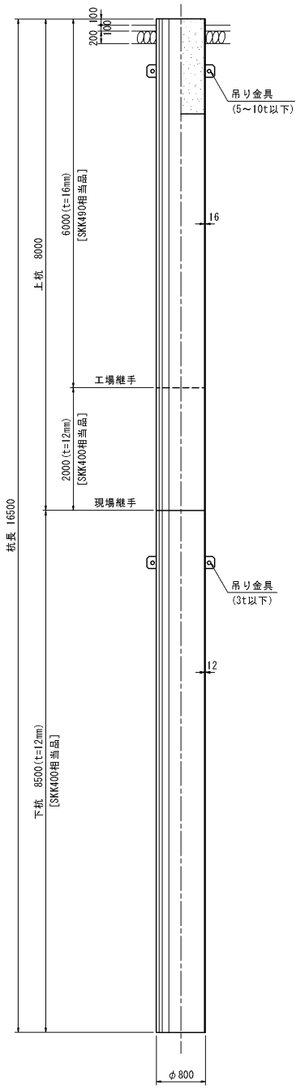
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	84 ／ 110	縮尺	図示
図名	DP3橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その1）	番号	1／2
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

DP3橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1） S=1:20

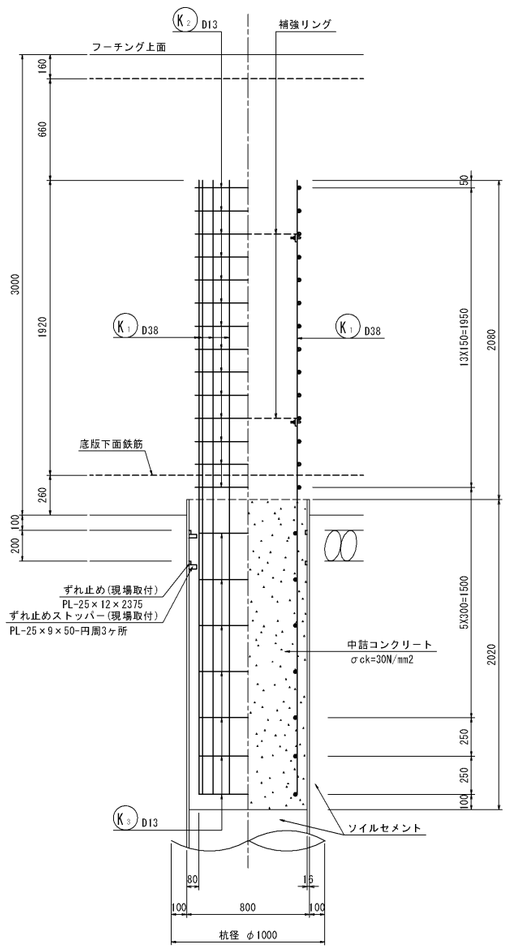
杭構成図 S=1:50

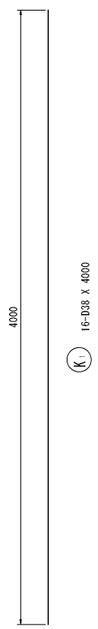


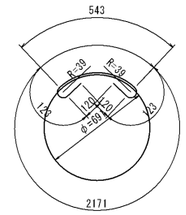
鋼管杭構成図 S=1:50



杭頭部詳細図

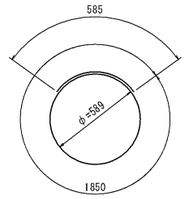






K2 14-D13 X 3200

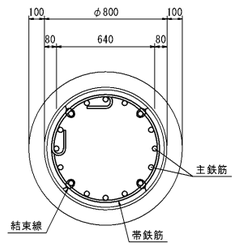
※ 継手部は高さ方向に千鳥状に配置すること



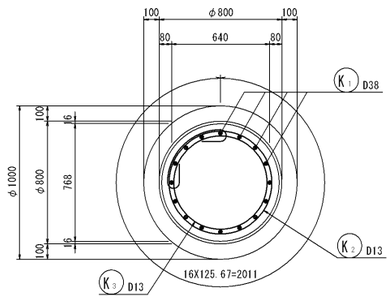
K3 7-D13 X 2440

主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図

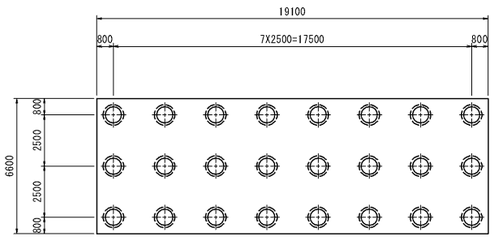
注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



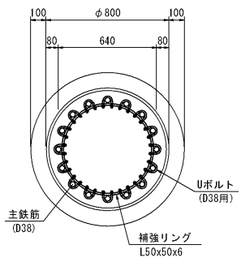
杭頭部断面図



杭配置図

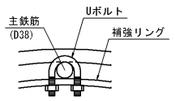


補強リングと主筋金具詳細図



固定金具詳細図

S=1:3



Uボルト又は同等品
主筋と補強リングは、全数金具で固定

※1. Uボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

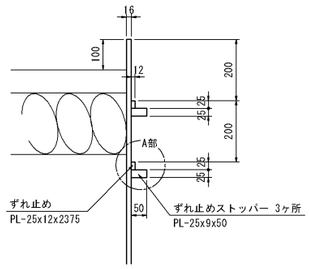
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1000(φ800)
鋼管		SKK400, 490
コンクリート	底版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	85 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	DP3橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その2）	番号	2／2
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

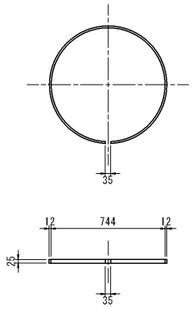
DP3橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2） S=1:20

ずれ止め詳細図 S=1:10

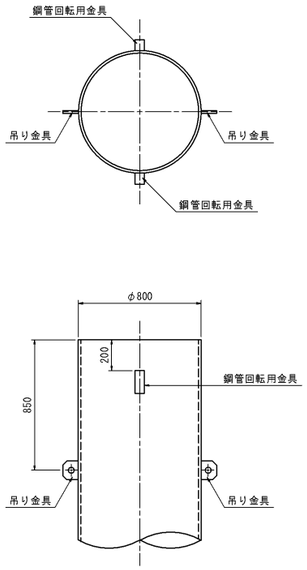


ずれ止め取付詳細図

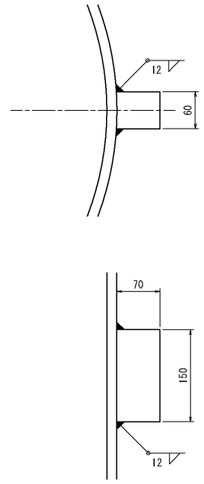
（ニュートラルライン）



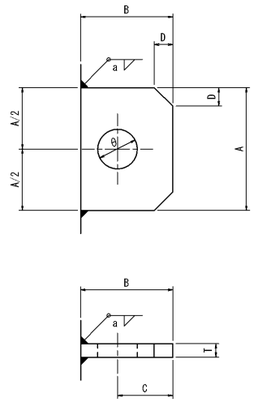
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図



鋼管回転用金具詳細図 S=1:5

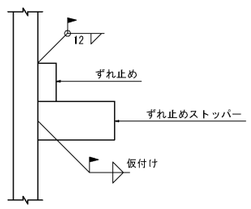


吊金具詳細図 S=1:5



種　別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/個	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2

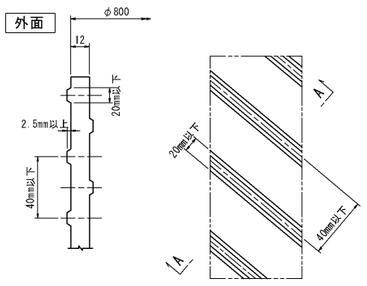
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

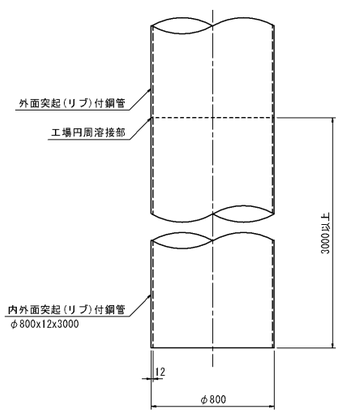
A － A　　正面図



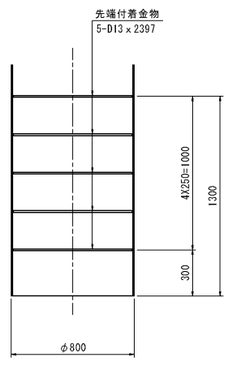
特記事項
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

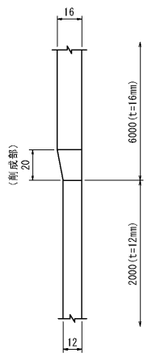
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付



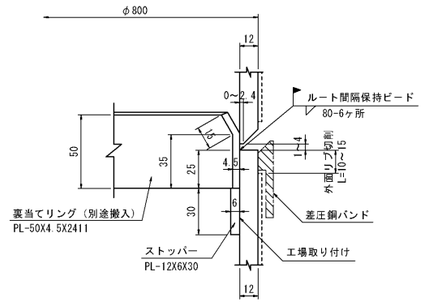
工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

（差厚鋼バンド使用時）

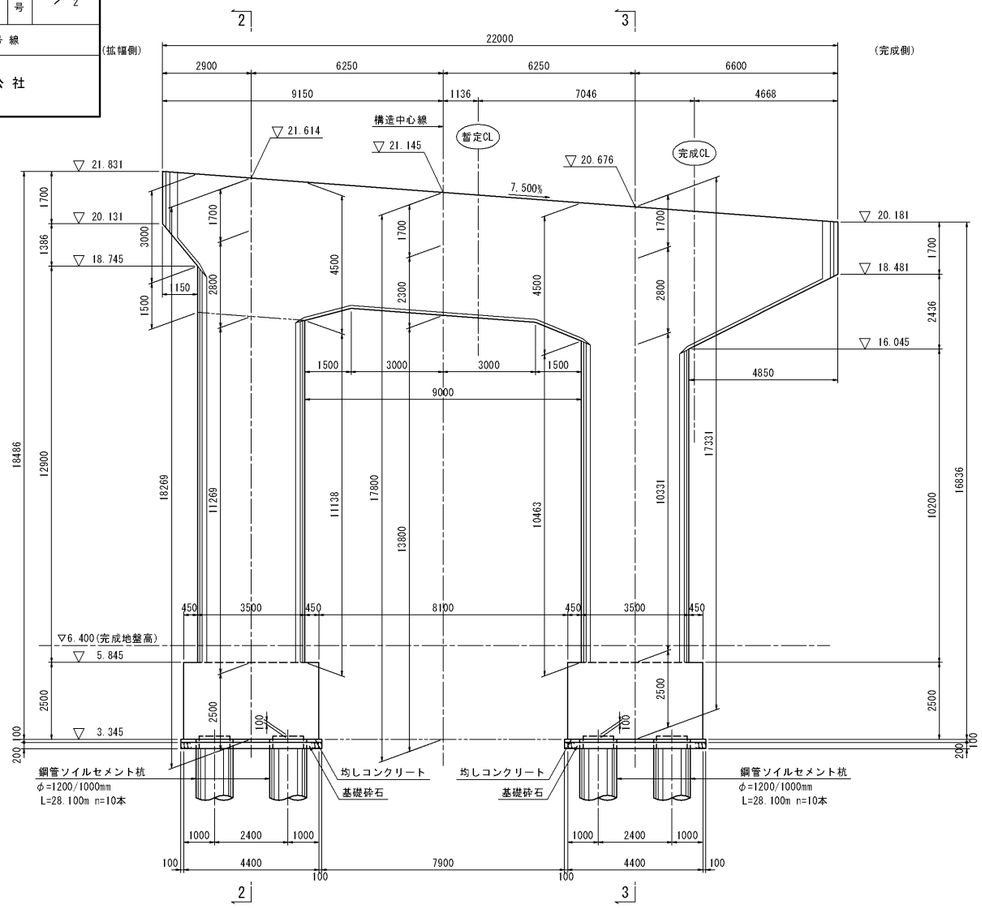
t=12mmの場合



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	86 ／ 110	縮尺	図示
図名	CP4橋脚 構造一般図（その1）	番号	1／2
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

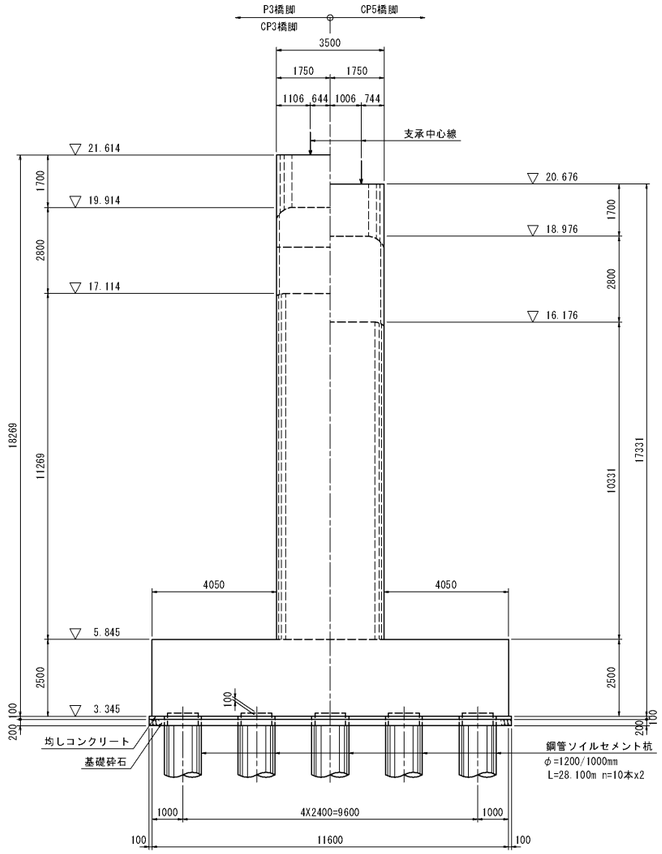
CP4橋脚構造一般図（その1） S=1:100

正面図（1－1）

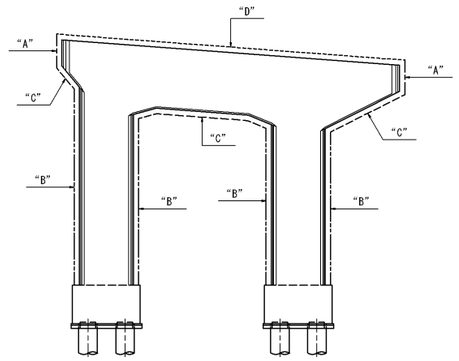


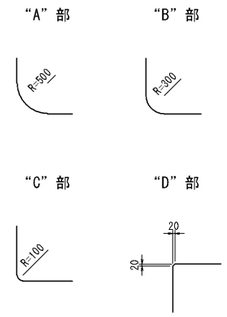
側面図

2－2　3－3

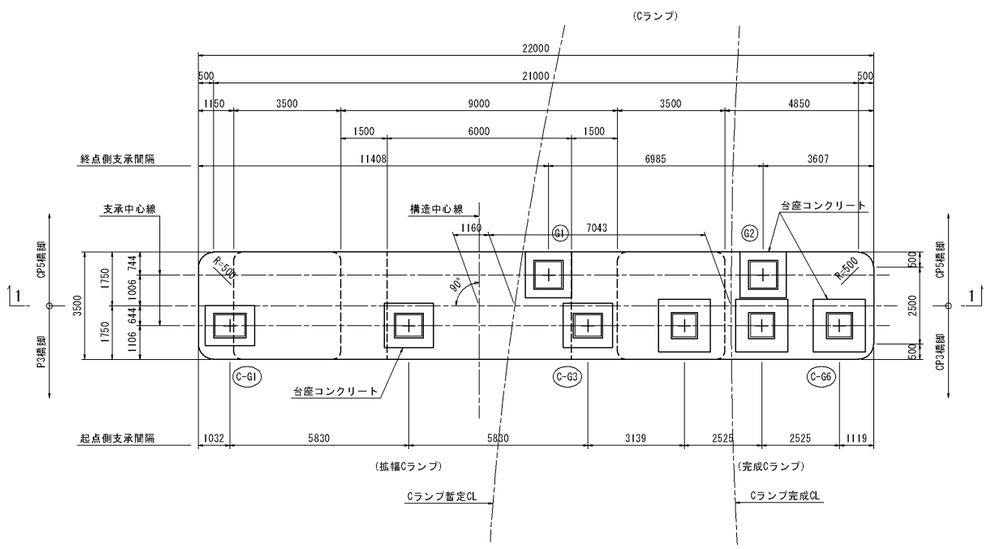


面取り形状詳細図

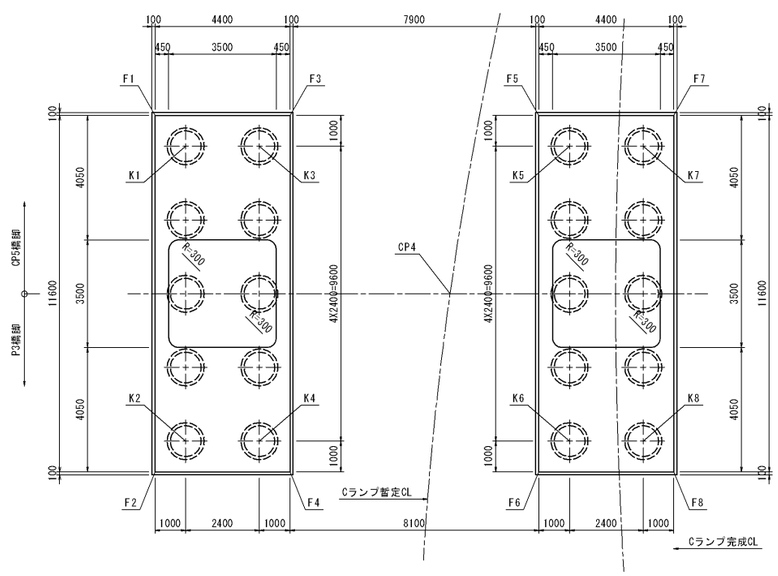




平面図



底版



下部工座標

		X	Y
躯体	CP4	-177086.2492	31294.9409
	F1	-177087.4244	31306.1053
	F2	-177076.9198	31301.1847
	F3	-177089.2908	31302.1207
	F4	-177078.7862	31297.2002
	F5	-177092.7268	31294.7856
	F6	-177082.2221	31289.8650
	F7	-177094.5932	31290.8011
	F8	-177084.0885	31285.8805
杭	K1	-177086.9430	31304.7755
	K2	-177078.2495	31300.7033
	K3	-177087.9611	31302.6021
	K4	-177079.2676	31298.5299
	K5	-177092.2454	31293.4558
	K6	-177083.5519	31289.3836
	K7	-177093.2634	31291.2824
	K8	-177084.5699	31287.2102

設計条件

躯体コンクリート		σck=30N/mm²
均しコンクリート		σck=18N/mm²
鉄筋材質	柱・梁主鉄筋（杭頭鉄筋含む）	SD490
	底版・その他	SD345

ＣＰ４橋脚構造一般図（その2）　S=1:100

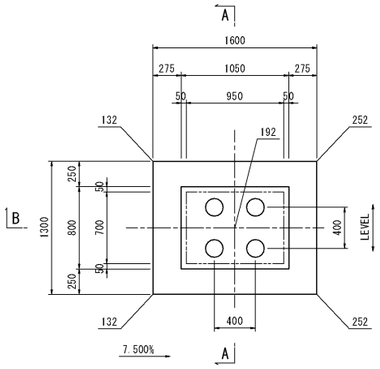
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	87 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＣＰ４橋脚 構造一般図（その２）	番号	2 ／ 2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

台座コンクリート

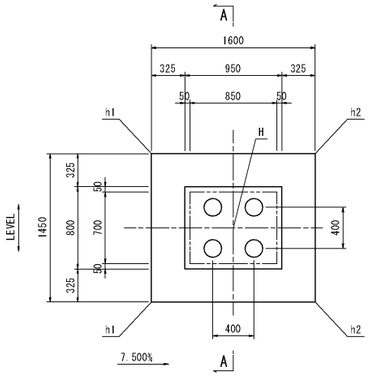
（凡例）
台座高

（Cランプ拡幅第2橋）

C-G1

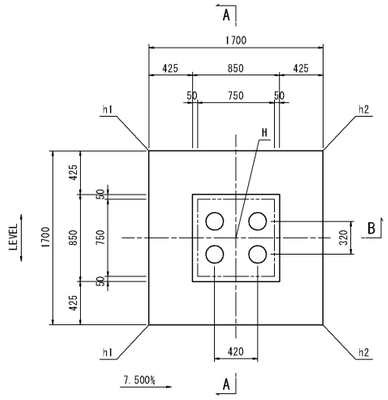


C-G2　C-G3



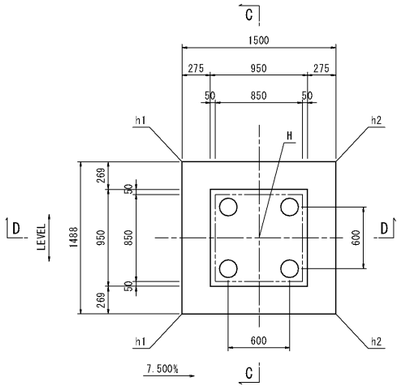
（Cランプ完成）

C-G4 ～ C-G6

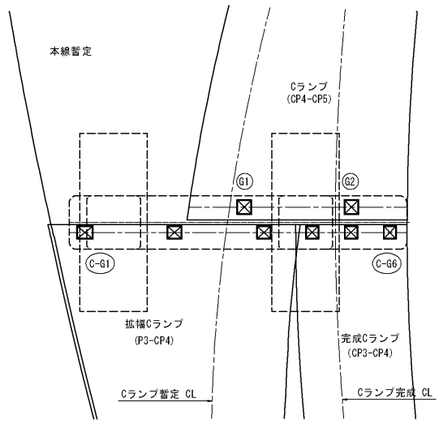


（Cランプ第1橋）

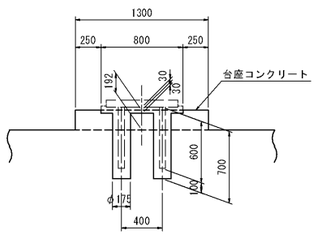
G1　G2

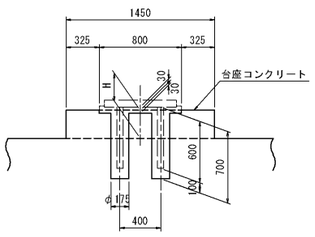


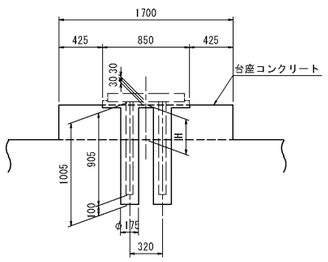
支承配置図



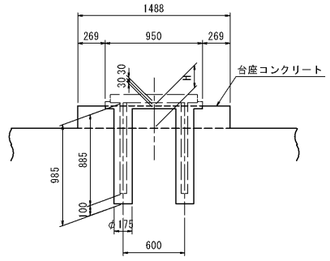
A － A（橋軸方向）



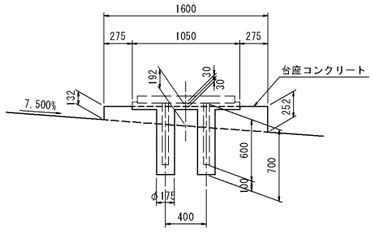


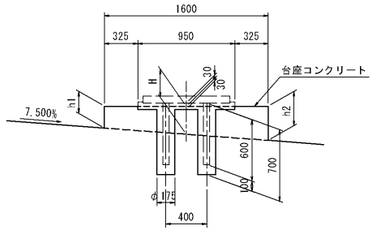


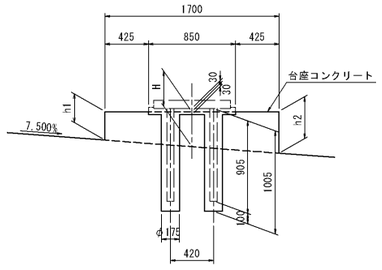
C － C



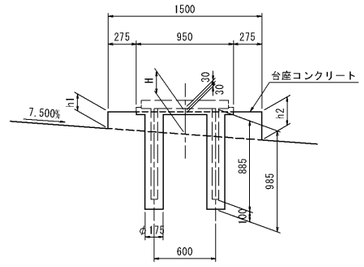
B － B（橋軸直角方向）







D － D



構造高表（支点上:S2）

	Cランプ拡幅第2橋			完成Cランプ		
	C-G1	C-G2	C-G3	C-G4	C-G5	C-G6
計画高	25.220	24.854	24.414	25.693	25.517	25.341
舗装厚	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.014	0.048	0.013	0.070	0.000	0.000
床版上面高	25.126	24.726	24.321	25.543	25.437	25.261
床版厚	0.260	0.260	0.260	0.210	0.210	0.210
ハンチ高	0.100	0.100	0.100	0.080	0.080	0.080
桁高	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500
下フランジ厚	0.027	0.020	0.020	0.022	0.020	0.013
ソールプレート厚	0.030	0.029	0.028	0.030	0.030	0.030
支承高	0.233	0.231	0.231	0.230	0.230	0.230
支承下面標高	21.976	21.586	21.182	22.471	22.367	22.198
沓座モルタル厚	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	0.192	0.240	0.273	1.797	1.883	1.903
下部工高	21.754	21.316	20.879	20.644	20.454	20.265

構造高表（支点上:S1）

	Cランプ第1橋	
	G1	G2
計画高	25.165	24.989
舗装厚	0.080	0.080
調整コンクリート厚	0.000	0.000
床版上面高	25.085	24.909
床版厚	0.210	0.210
ハンチ高	0.080	0.080
桁高	2.500	2.500
下フランジ厚	0.012	0.012
ソールプレート厚	0.037	0.033
支承高	0.367	0.367
支承下面標高	21.879	21.707
沓座モルタル厚	0.030	0.030
台座高	0.874	1.226
下部工高	20.975	20.451

台座コンクリート高表

	CG-2	CG-3
H	240	273
h1	180	213
h2	300	333

台座コンクリート高表

	C-G4	C-G5	C-G6
H	343	332	326
h1	279	268	262
h2	407	396	390

台座コンクリート高表

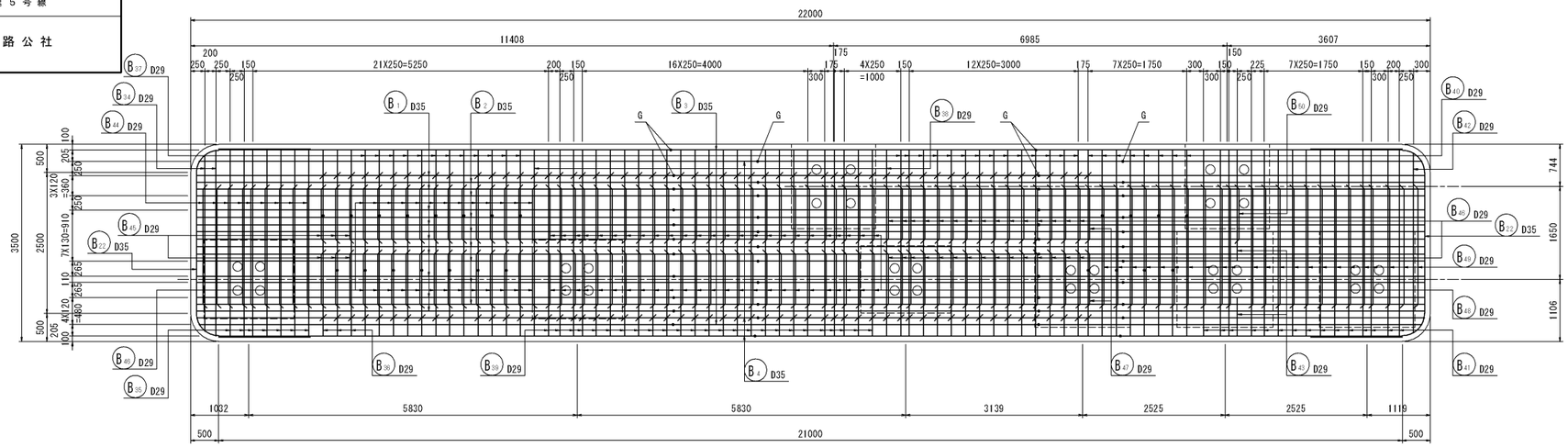
	G1	G2
H	221	189
h1	165	133
h2	277	245

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	88 ／ 110	縮尺	図示
図名	CP4橋脚 配筋図（その1）	番号	1／11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

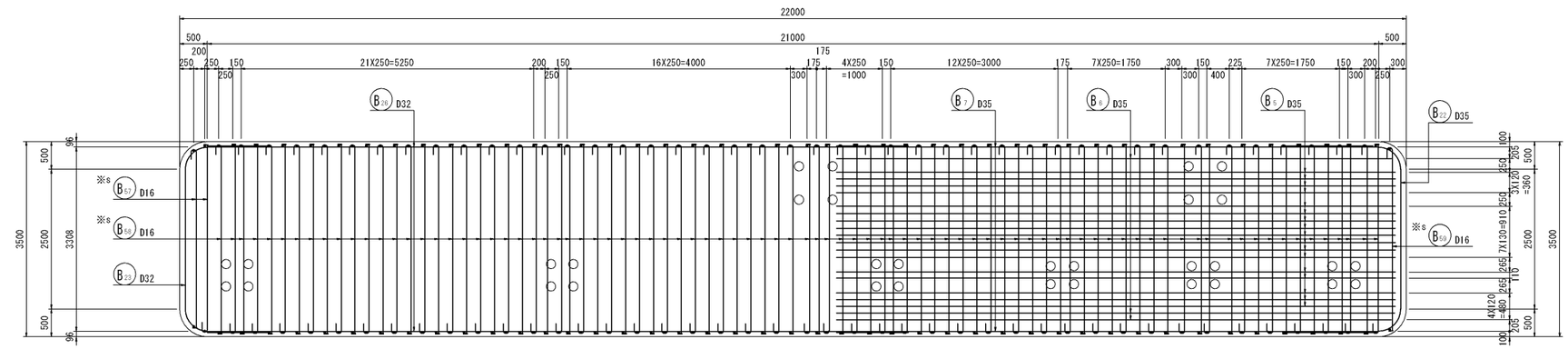
CP4橋脚配筋図（その1）

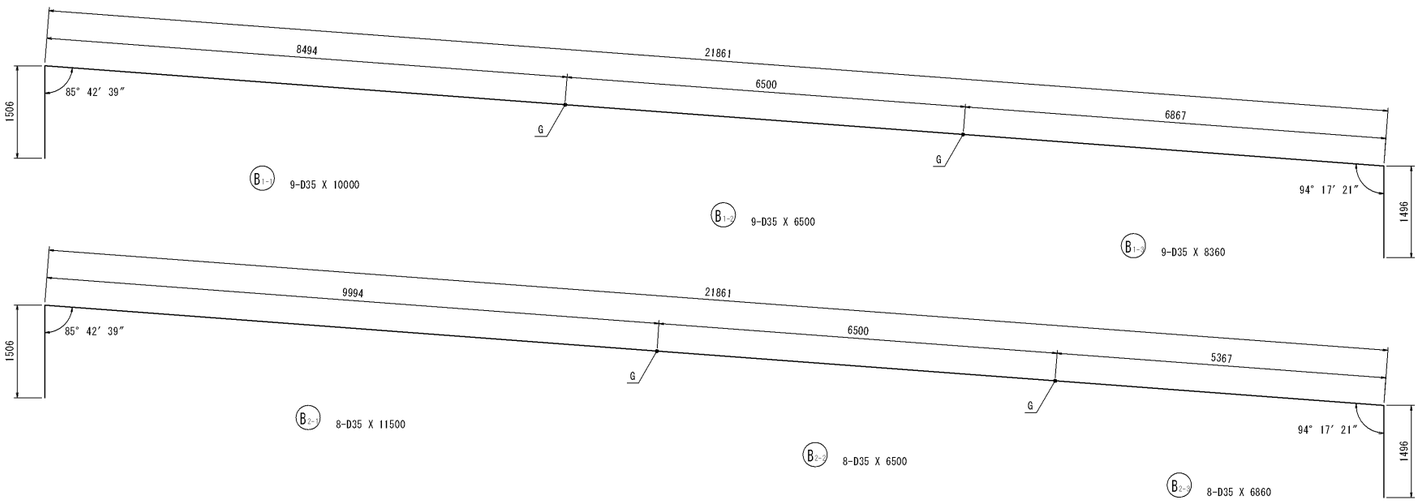
S=1:50

1 － 1



2 － 2

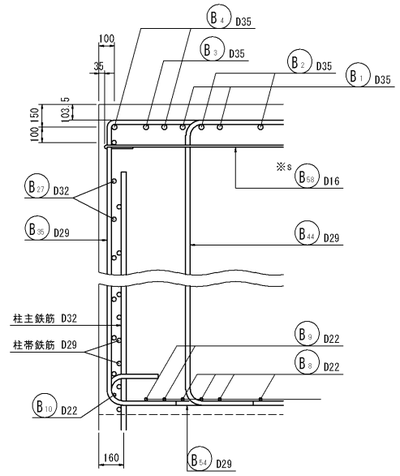




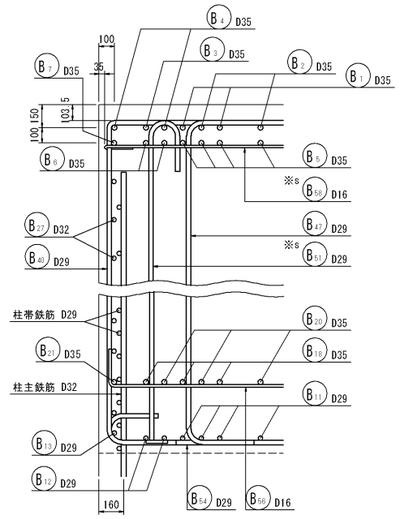
梁かぶり詳細図

S=1:20

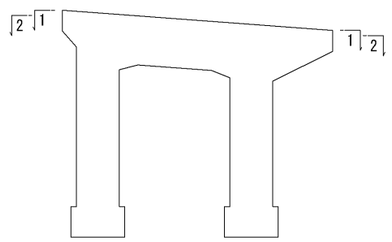
（左側）



（右側）



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

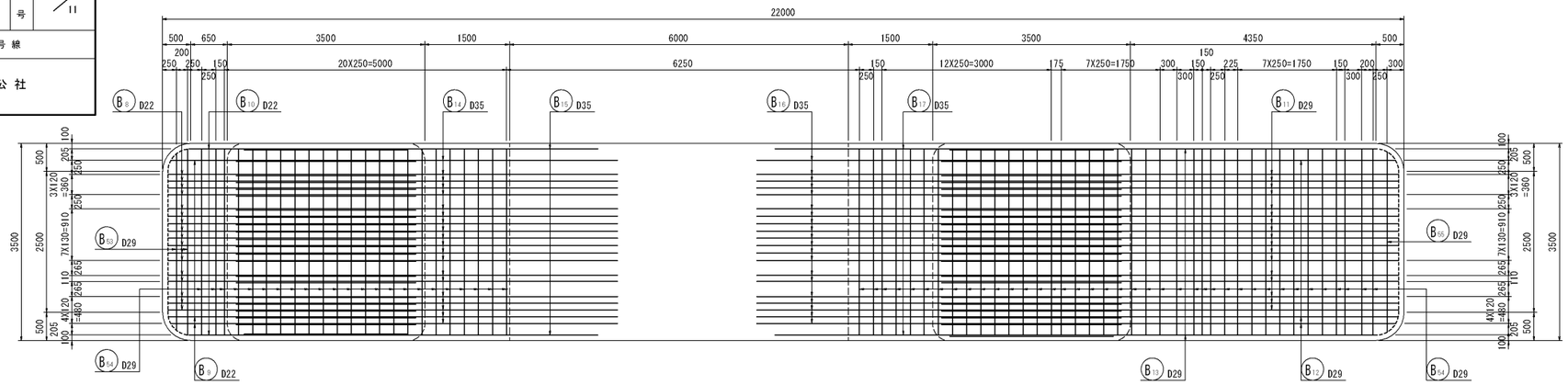
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	89 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その２）	番号	2 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＣＰ４橋脚配筋図（その2）

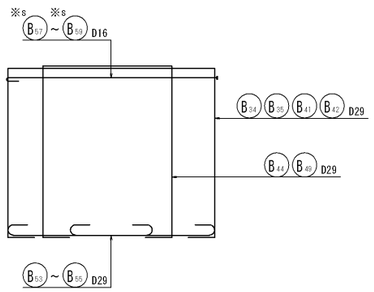
S=1:50

3 － 3

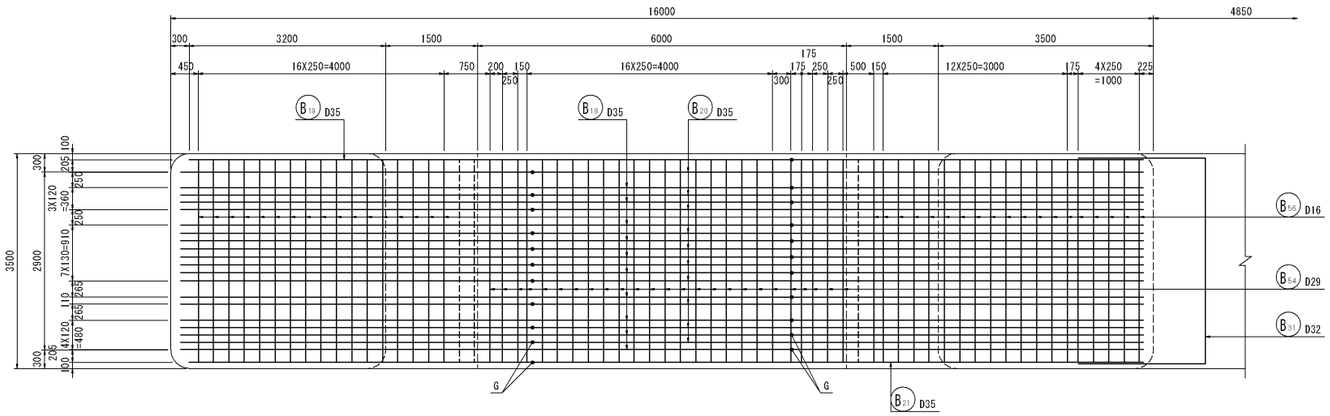


鉄筋組立図

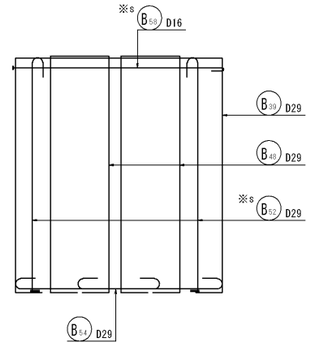
端　部



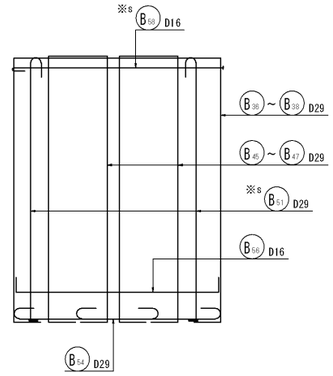
4 － 4



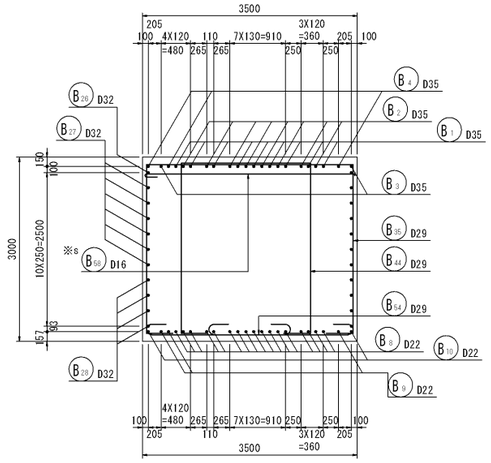
中間部



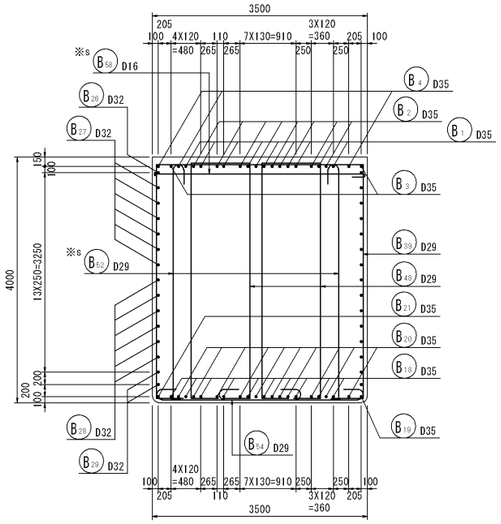
ハンチ・脚柱内部



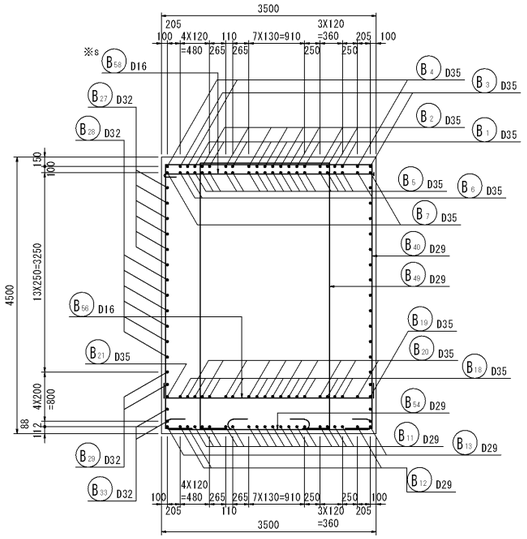
5 － 5



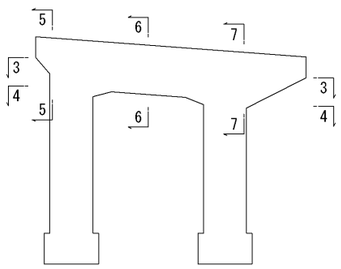
6 － 6



7 － 7



位置図



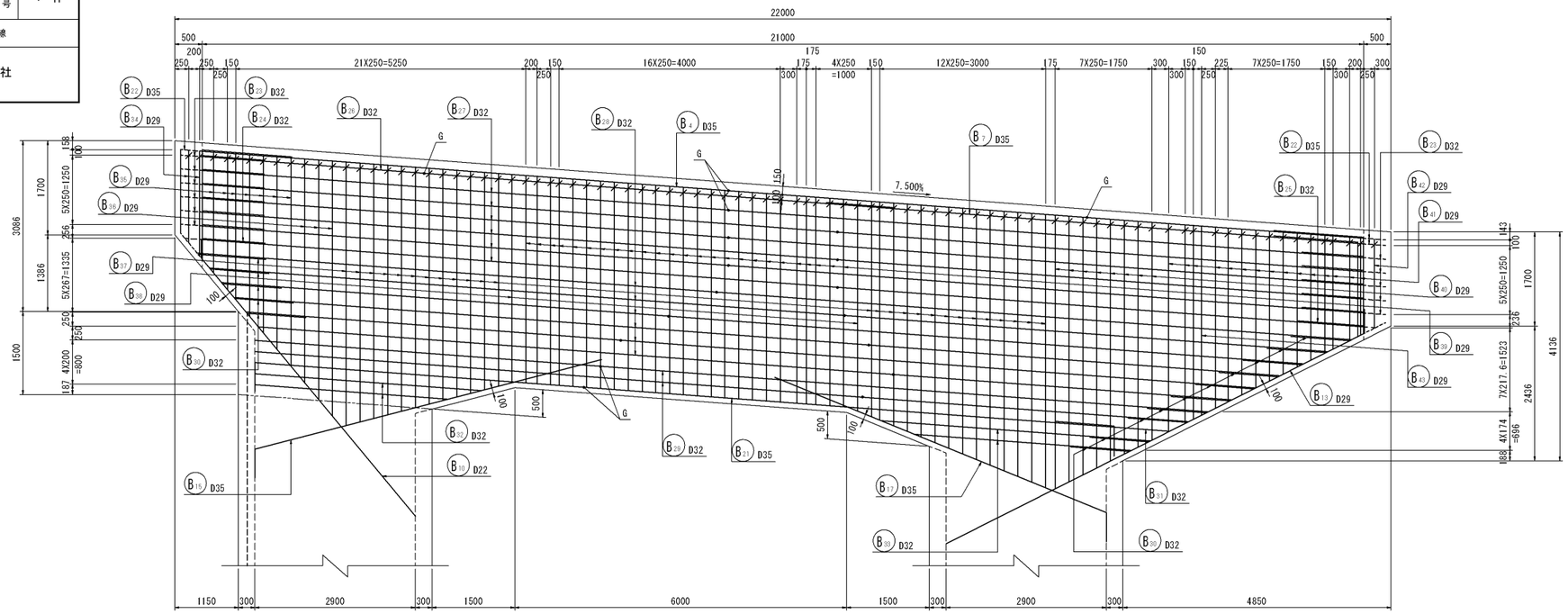
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	90 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その３）	番号	3 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

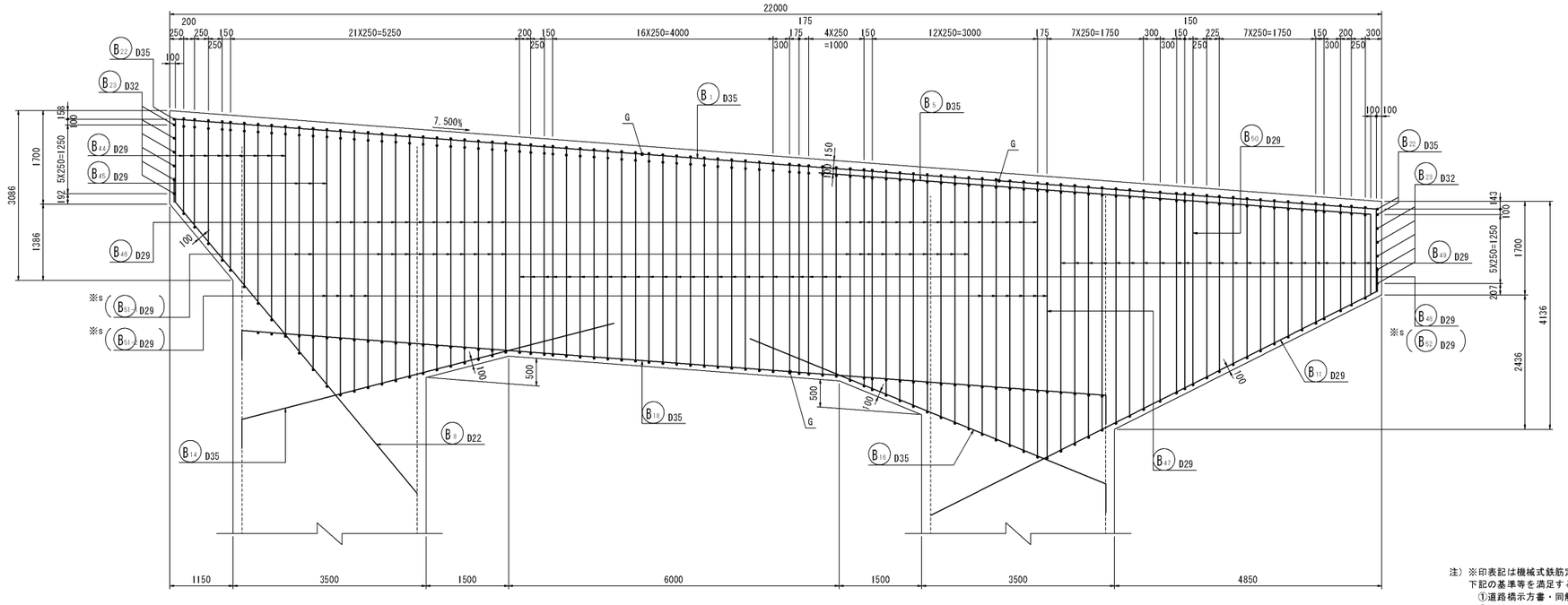
ＣＰ４橋脚配筋図（その3）　S=1:50

8 － 8

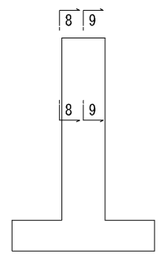


9 － 9

注．（　）内符号は端部を示す。



位置図



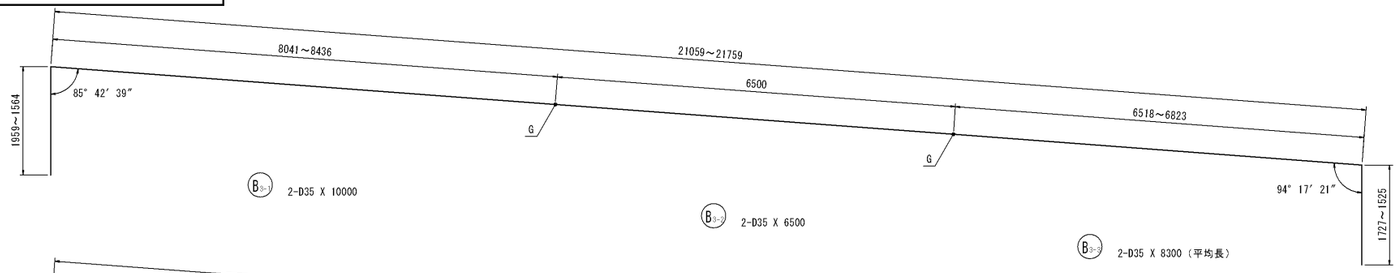
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

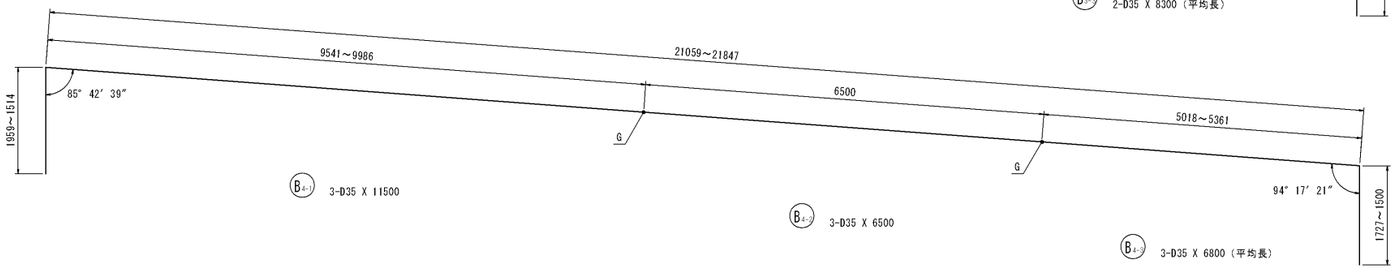
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

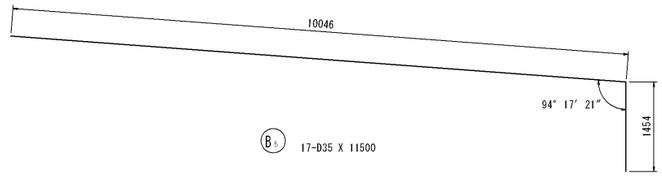
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	91 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その４）	番号	4 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

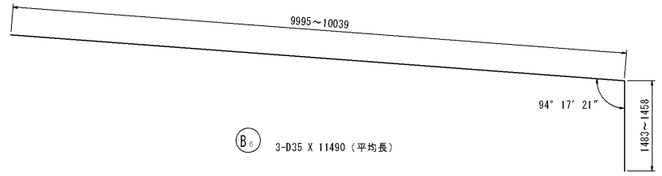
ＣＰ４橋脚配筋図（その4）

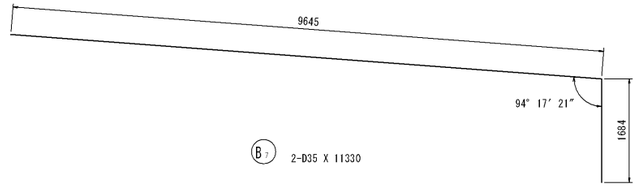
S=1:50

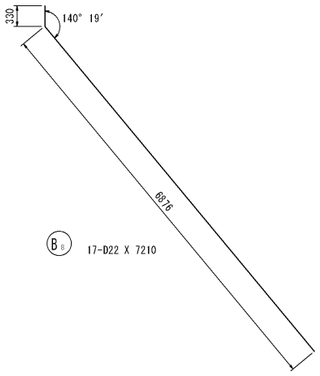


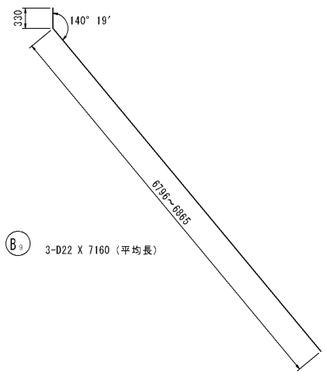


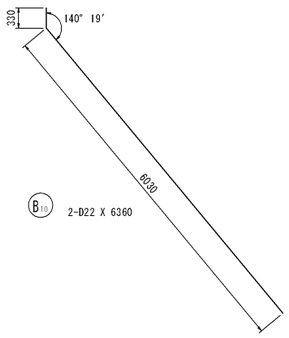


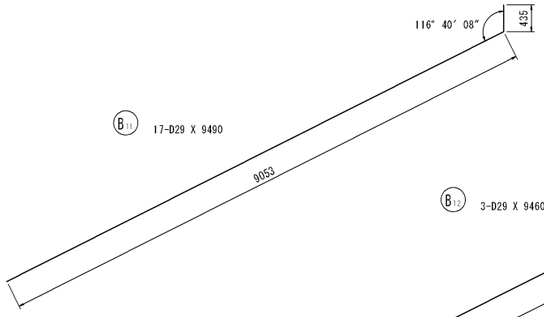


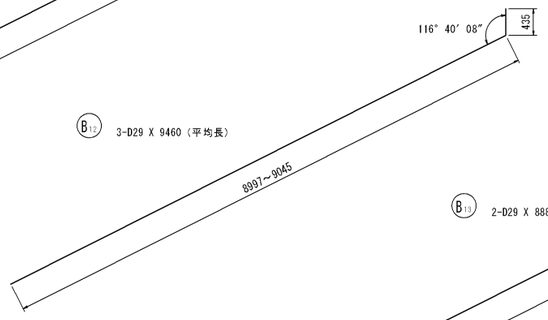


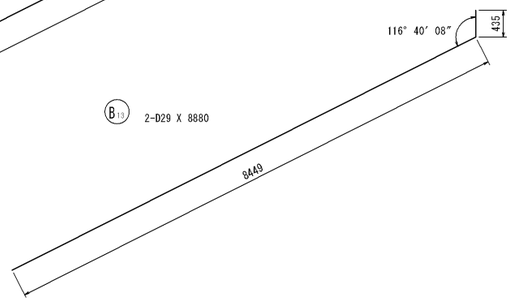


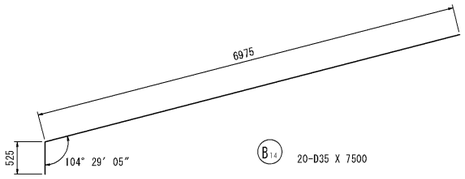


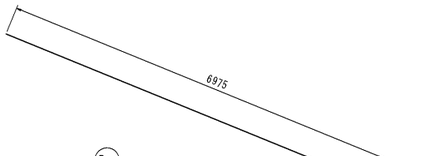


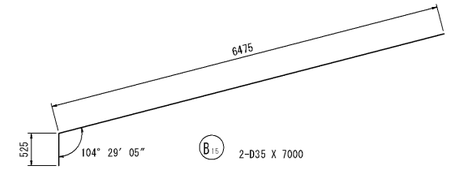


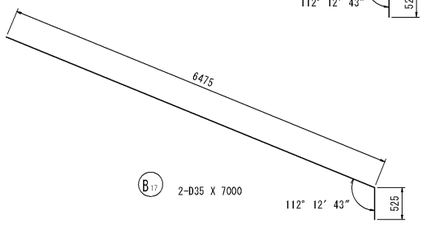


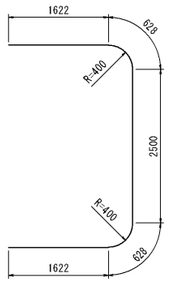


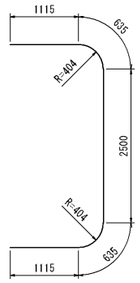


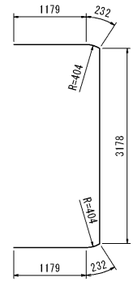












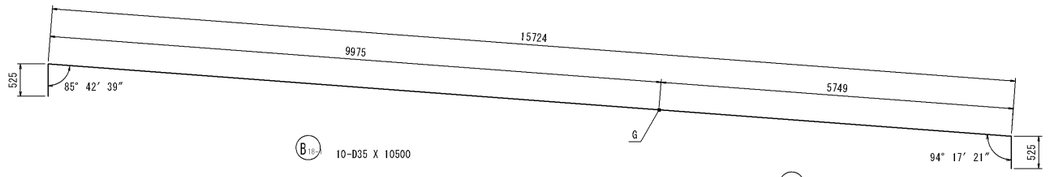
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	92 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その５）	番号	5 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

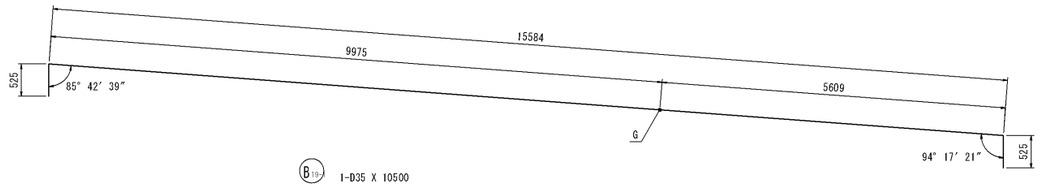
ＣＰ４橋脚配筋図（その5）

S=1:50



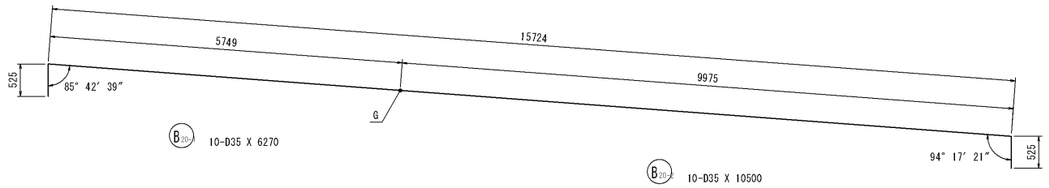
B18 10-D35 X 10500

B18 10-D35 X 6270



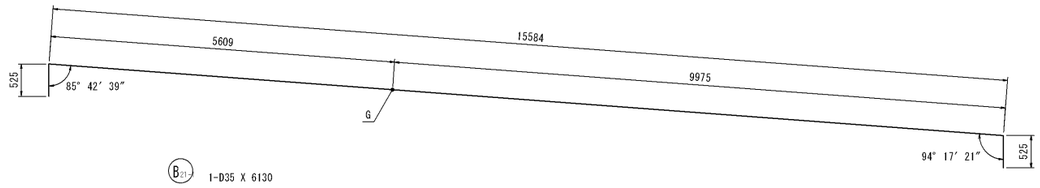
B19 1-D35 X 10500

B19 1-D35 X 6130



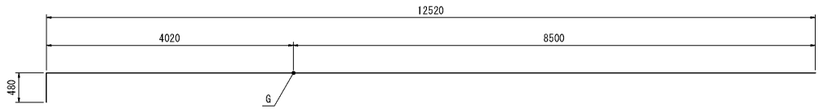
B20 10-D35 X 6270

B20 10-D35 X 10500



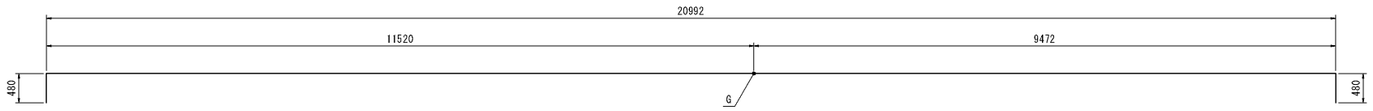
B21 1-D35 X 6130

B21 1-D35 X 10500



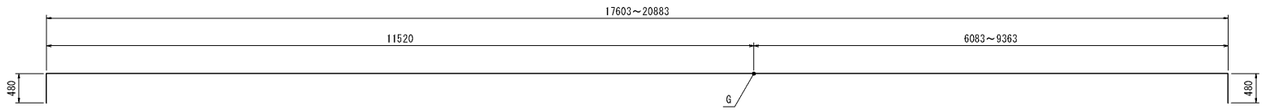
B26 2-D32 X 4500

B26 2-D32 X 8500



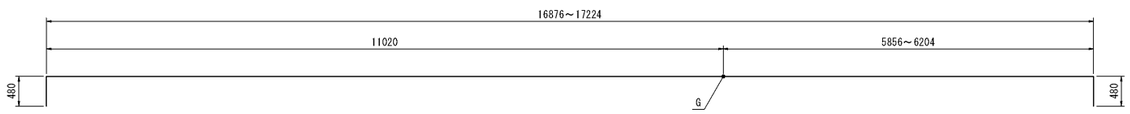
B27 12-D32 X 12000

B27 12-D32 X 9950



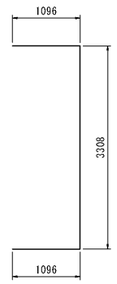
B28 12-D32 X 12000

B28 12-D32 X 8200（平均長）

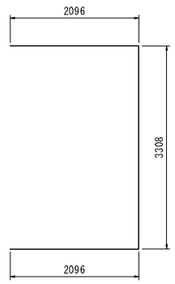


B29 4-D32 X 11500

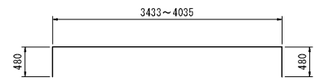
B29 4-D32 X 6510（平均長）



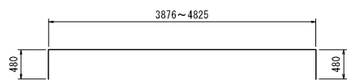
B36 15-D32 X 5500



B37 1-D32 X 7500



B32 4-D32 X 4690（平均長）



B37 4-D32 X 5310（平均長）

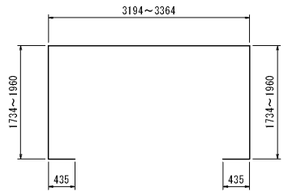
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

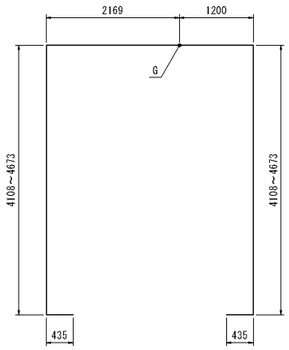
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	93 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その６）	番号	6／11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＣＰ４橋脚配筋図（その6）

S=1:50

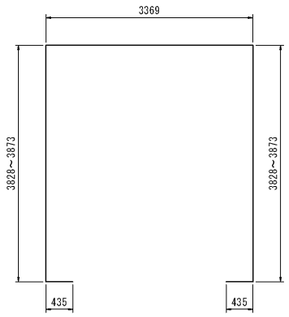


B34 2-D29 X 7840（平均長）

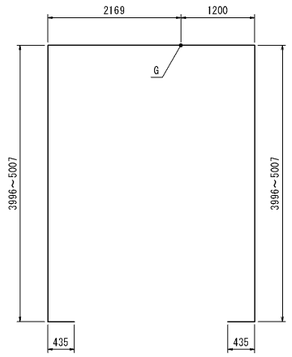


B35 3-D29 X 6990（平均長）

B35-2 3-D29 X 6030（平均長）

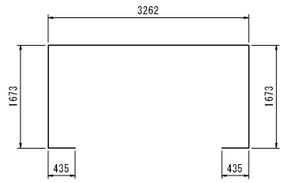


B36 2-D29 X 11940（平均長）

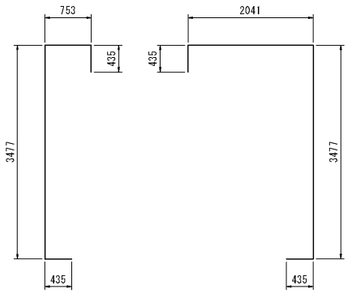


B40 8-D29 X 7110（平均長）

B40-2 8-D29 X 6140（平均長）

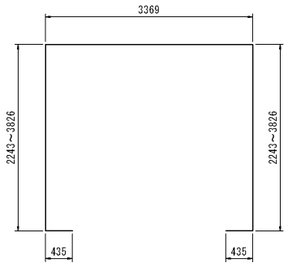


B42 1-D29 X 7480

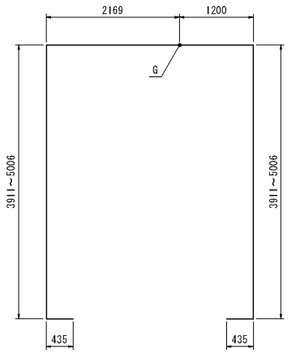


B43 1-D29 X 5100

B43-2 1-D29 X 6390

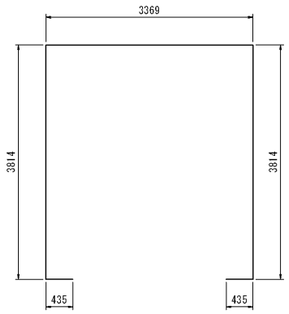


B35 7-D29 X 10310（平均長）

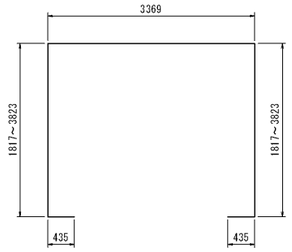


B37 26-D29 X 7060（平均長）

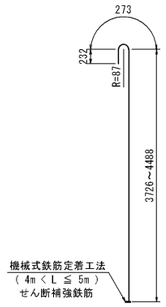
B37-2 26-D29 X 6090（平均長）



B39 25-D29 X 11870

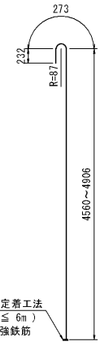


B41 15-D29 X 9880（平均長）



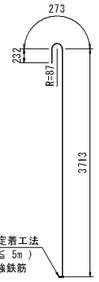
機械式鉄筋定着工法
（ 4m ＜ L ≦ 5m ）
せん断補強鉄筋

※s B61-2 44-D29 X 4610（平均長）



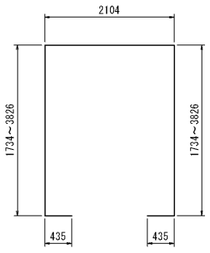
機械式鉄筋定着工法
（ 5m ＜ L ≦ 6m ）
せん断補強鉄筋

※s B61-1 20-D29 X 5240（平均長）

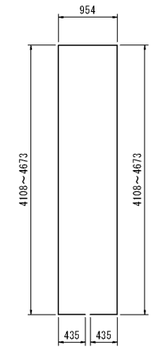


機械式鉄筋定着工法
（ 4m ＜ L ≦ 5m ）
せん断補強鉄筋

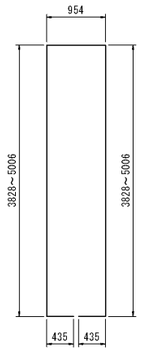
※s B62 50-D29 X 4220



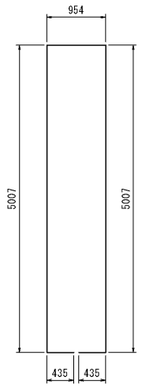
B44 9-D29 X 8530（平均長）



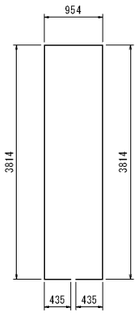
B46 6-D29 X 10610（平均長）



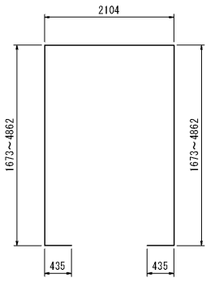
B46-2 56-D29 X 10660（平均長）



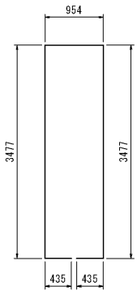
B47 2-D29 X 11840



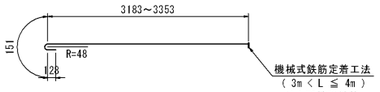
B48 50-D29 X 9450



B49 23-D29 X 9510（平均長）

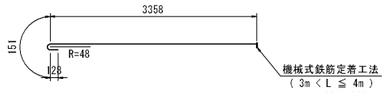


B50 1-D29 X 8780



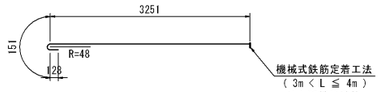
機械式鉄筋定着工法
（ 3m ＜ L ≦ 4m ）
せん断補強鉄筋

※s B57 2-D16 X 3550（平均長）



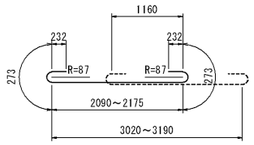
機械式鉄筋定着工法
（ 3m ＜ L ≦ 4m ）
せん断補強鉄筋

※s B58 86-D16 X 3640

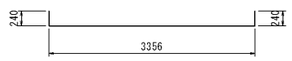


機械式鉄筋定着工法
（ 3m ＜ L ≦ 4m ）
せん断補強鉄筋

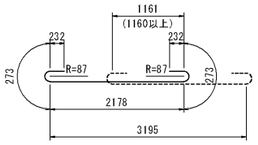
※s B59 1-D16 X 3530



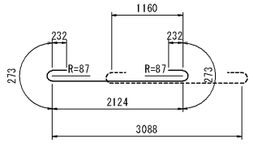
B53 4-D29 X 3140（平均長）



B58 36-D16 X 3840



B54 174-D29 X 3190



B55 2-D29 X 3130

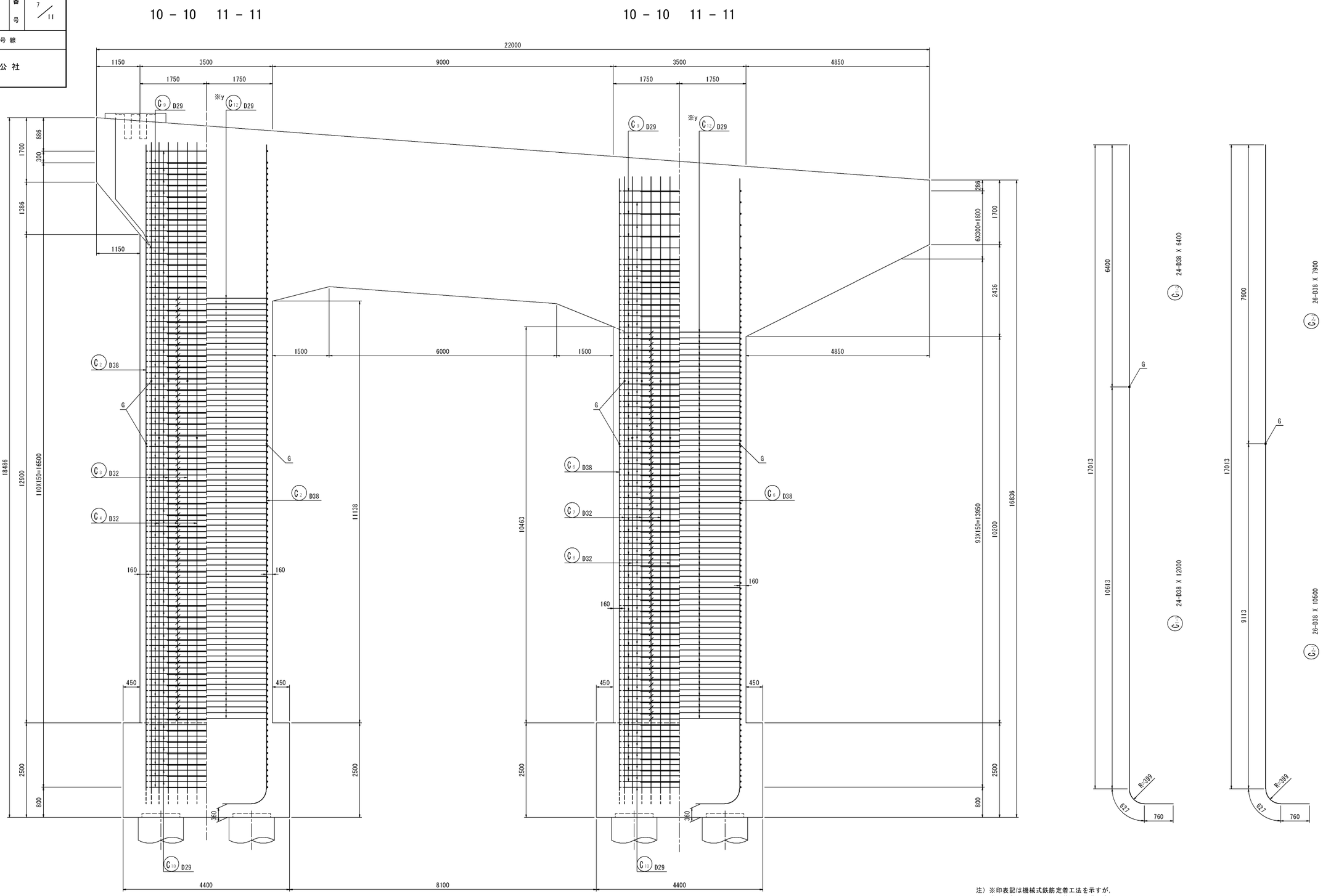
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
①道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
②機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

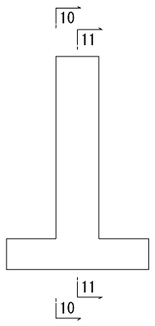
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	94 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その７）	番号	7 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＣＰ４橋脚配筋図（その7）

S=1:50



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，
適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

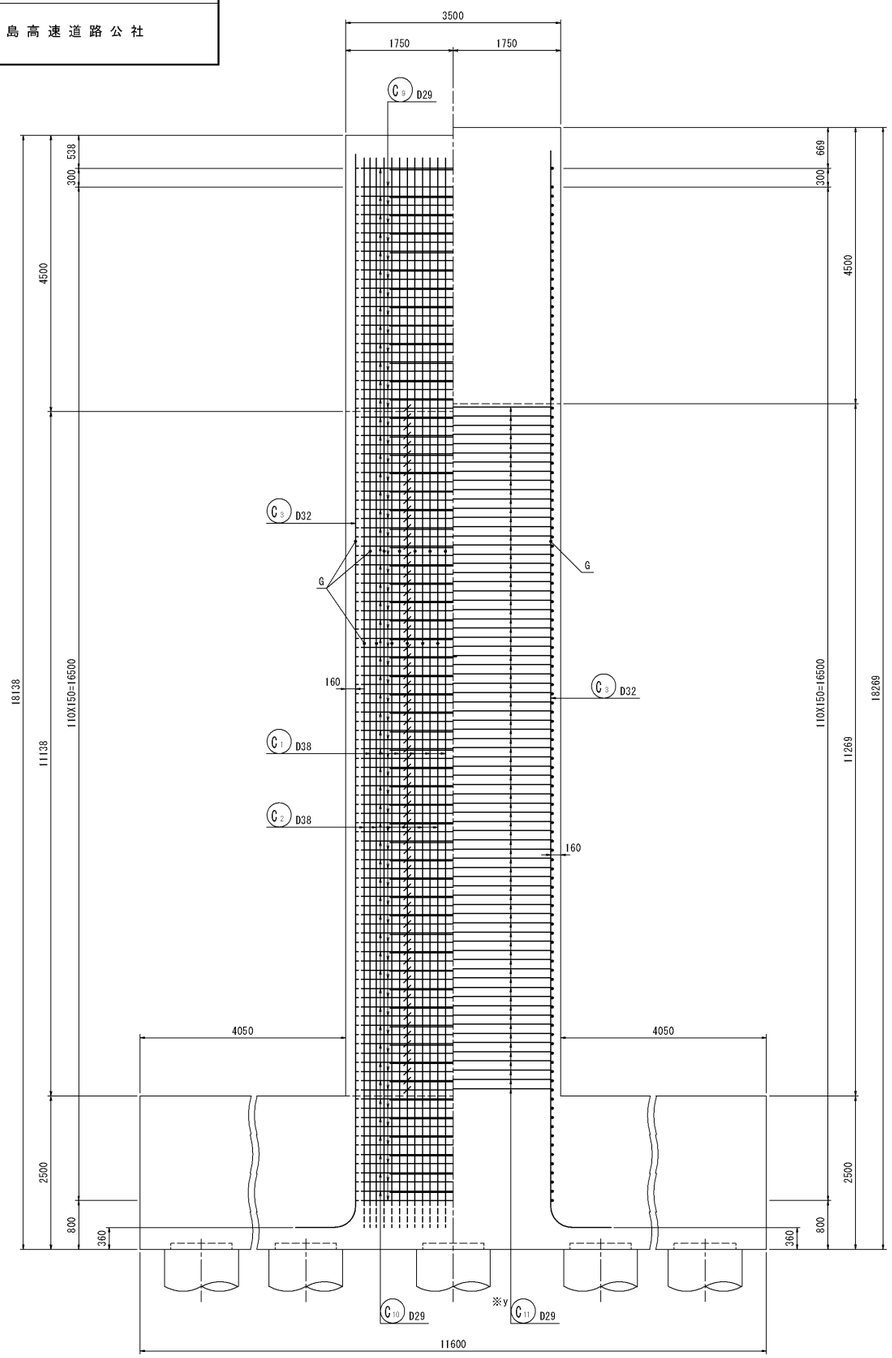
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	95 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その８）	番号	8 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

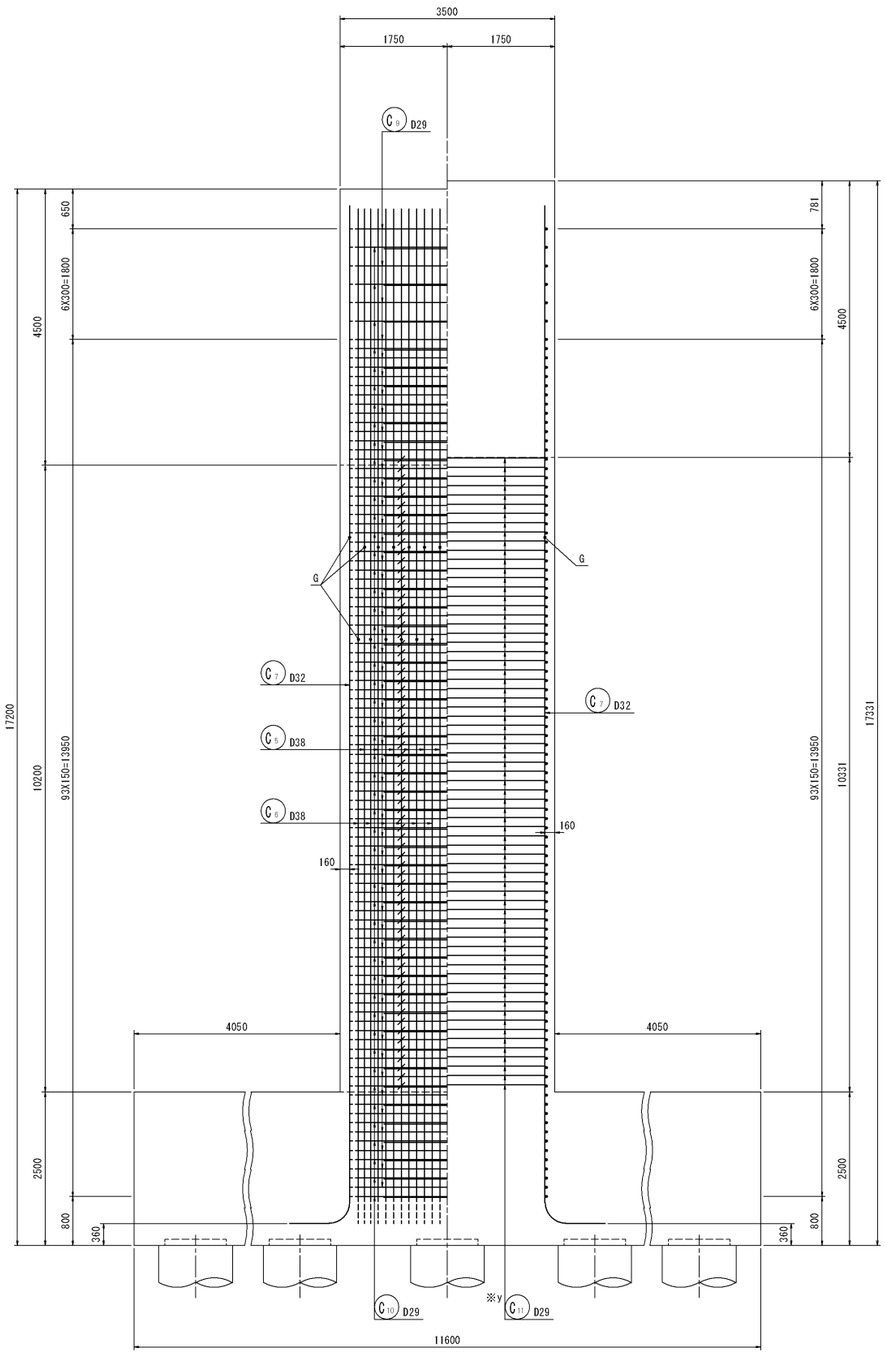
ＣＰ４橋脚配筋図（その8）

S=1:50

12 － 12　13 － 13

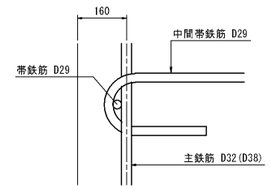


14 － 14　15 － 15

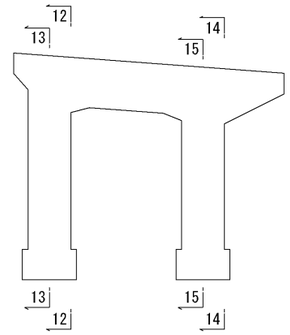


中間帯鉄筋詳細図

S=1:10



位置図



注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，

適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1.道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2.機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

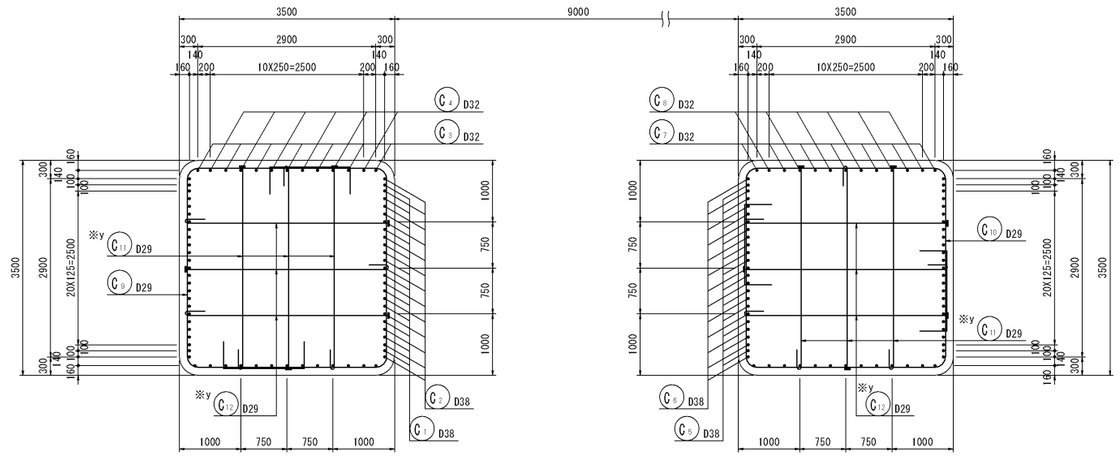
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	96 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	CP4橋脚 配筋図（その9）	番号	9／11
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

CP4橋脚配筋図（その9）

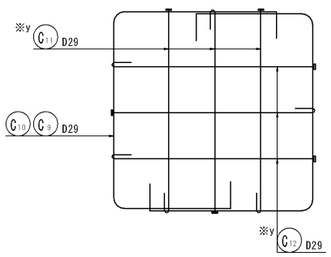
S=1:50

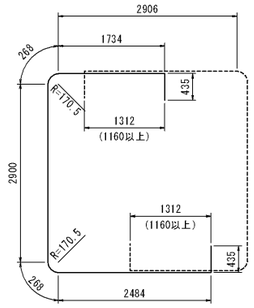
16 － 16



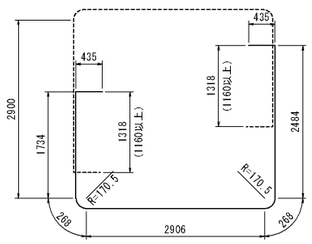
帯鉄筋組立図

（左右共通）

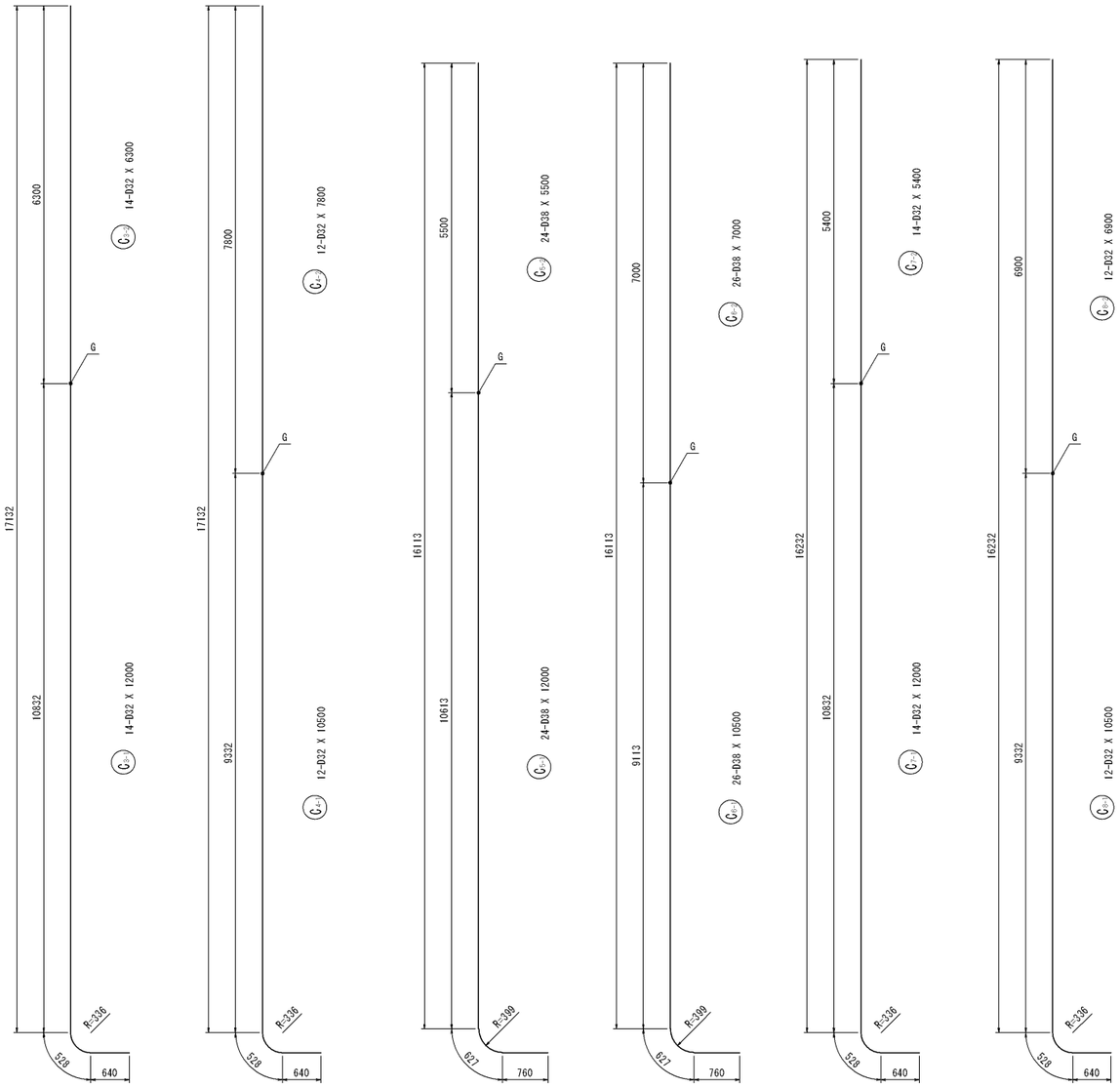




C9 212-D29 X 8520



C10 212-D29 X 8530

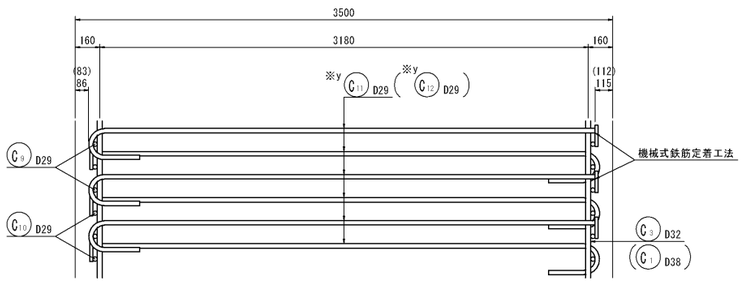


柱かぶり詳細図

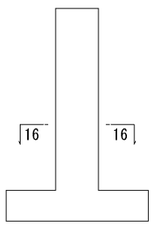
S=1:20

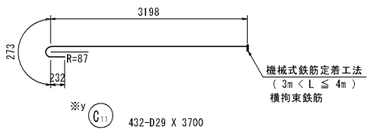
橋軸方向

注.（　）内は橋軸直角方向を示す。

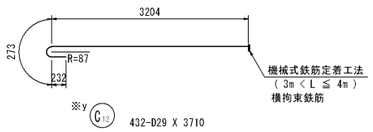


位置図





432-D29 X 3700



432-D29 X 3710

注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，

適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

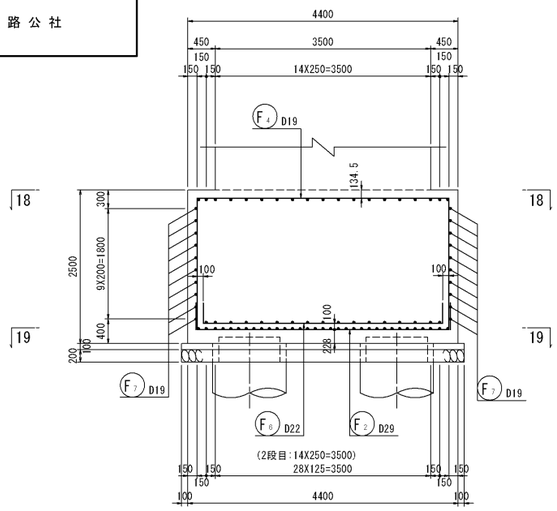
なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	97 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その１０）	番号	10 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

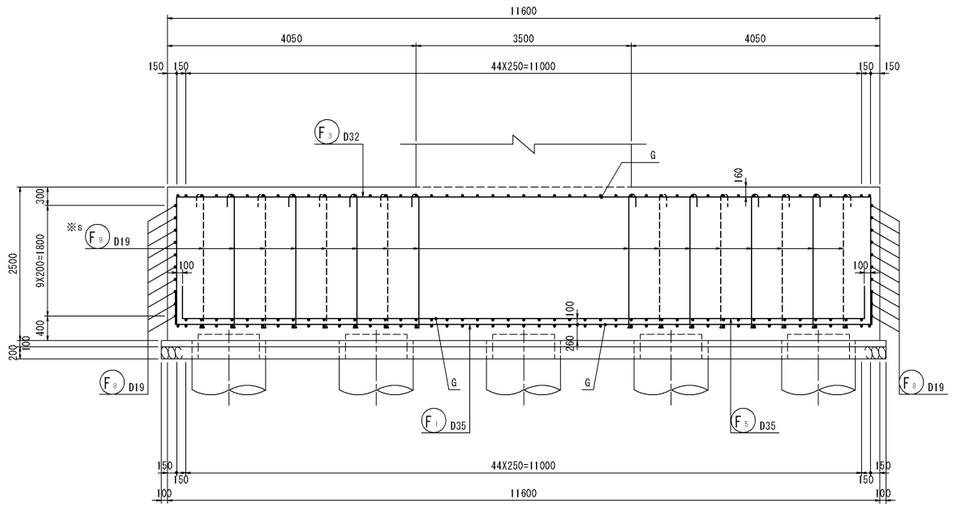
ＣＰ４橋脚配筋図（その10）　S=1:50

※ 左右、共通。

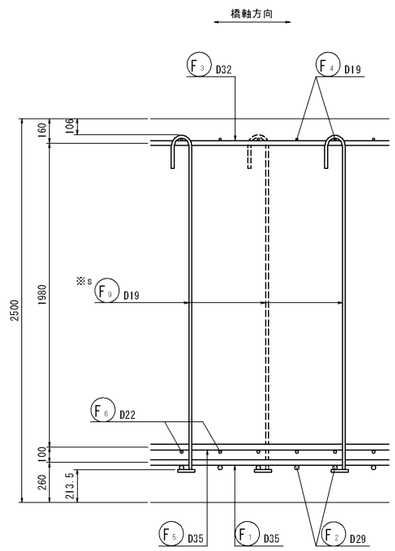
17 － 17（橋軸直角方向）



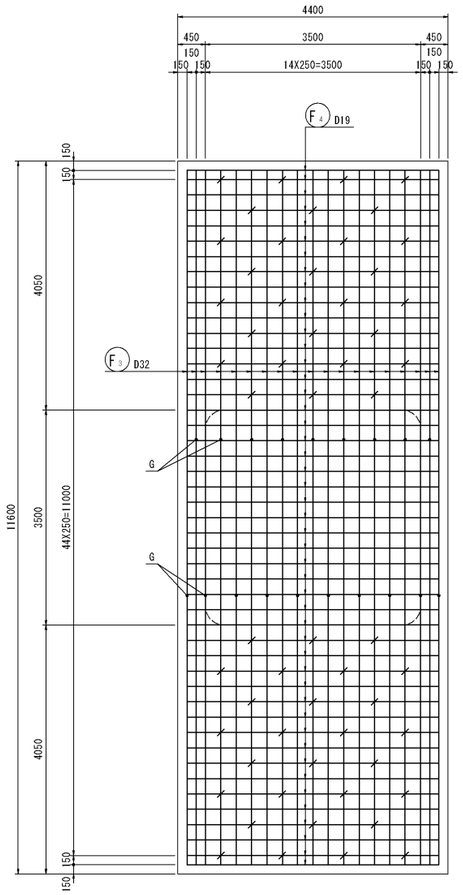
20 － 20（橋軸方向）



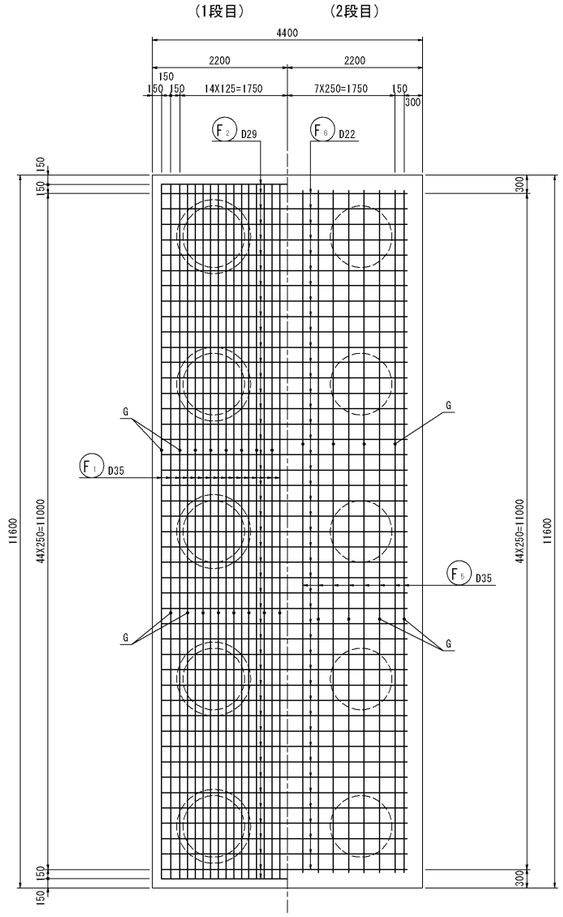
底版かぶり詳細図　S=1:20

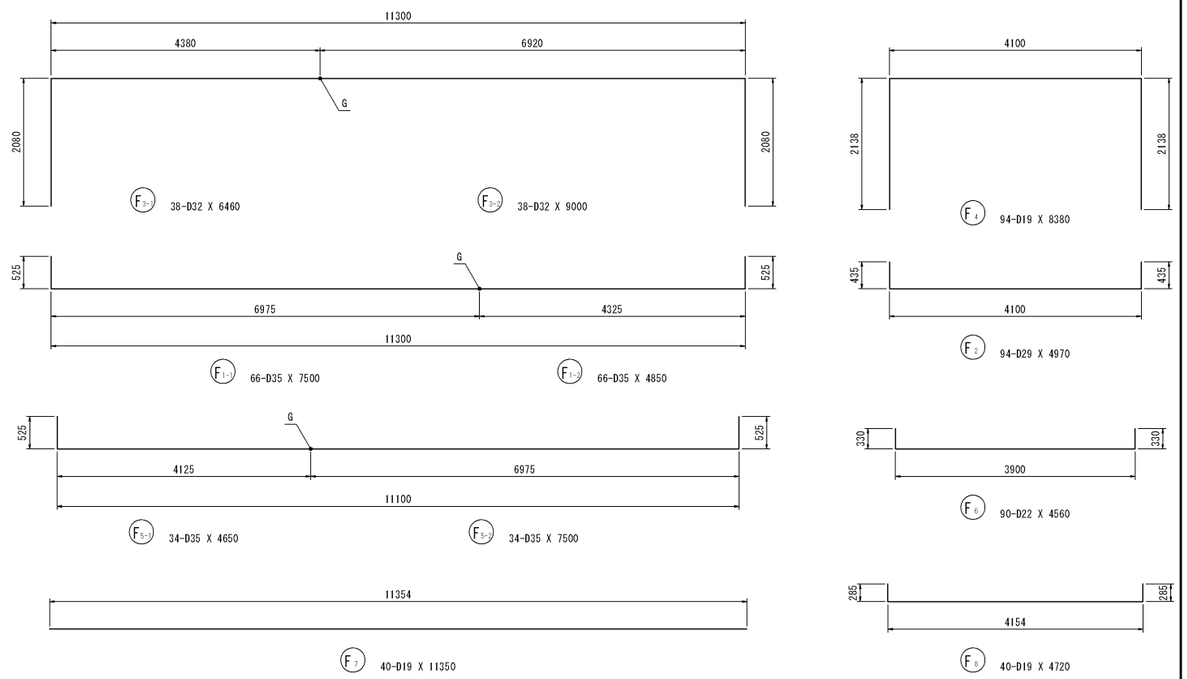


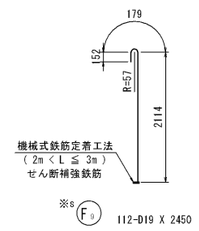
18 － 18（上面）



19 － 19（下面）







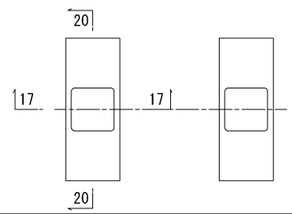
注）※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが，

適用にあたっては下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説（H29.11 日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお，定着体の設置方向は，施工条件に応じて
定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

位置図



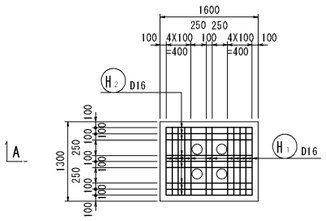
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	98 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 配筋図（その１１）	番号	11 ／ 11
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

ＣＰ４橋脚配筋図（その11）

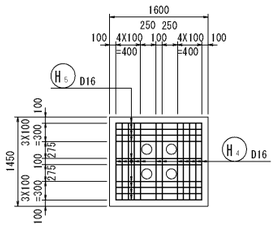
S=1:50

台座コンクリート配筋図

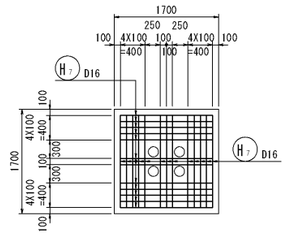
(Cランプ拡幅第2橋)　C-G1



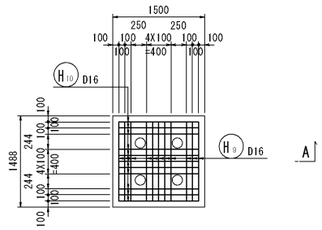
(Cランプ拡幅第2橋)　C-G2 , C-G3



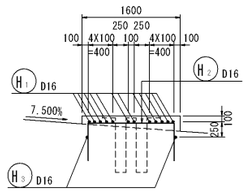
(完成Cランプ)　C-G4 ～ C-G6

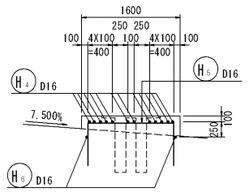


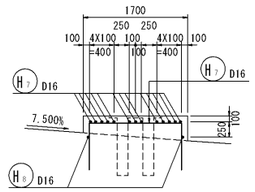
(Cランプ第1橋)　G1 , G2

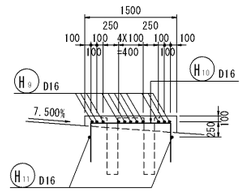


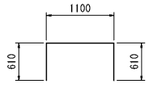
断面図
(A － A)



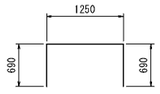




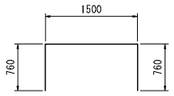




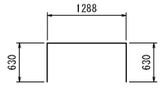
H1 12-D16 X 2320



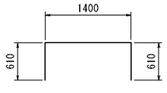
H4 24-D16 X 2630



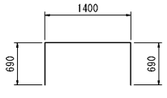
H7 75-D16 X 3020



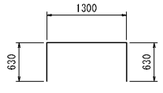
H9 22-D16 X 2550



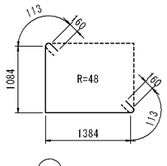
H2 9-D16 X 2620



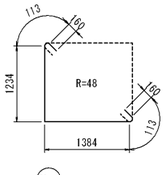
H5 20-D16 X 2780



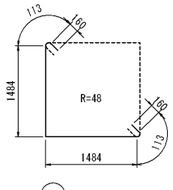
H10 22-D16 X 2560



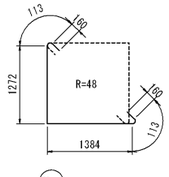
H3 2-D16 X 3010



H6 4-D16 X 3160



H8 6-D16 X 3510



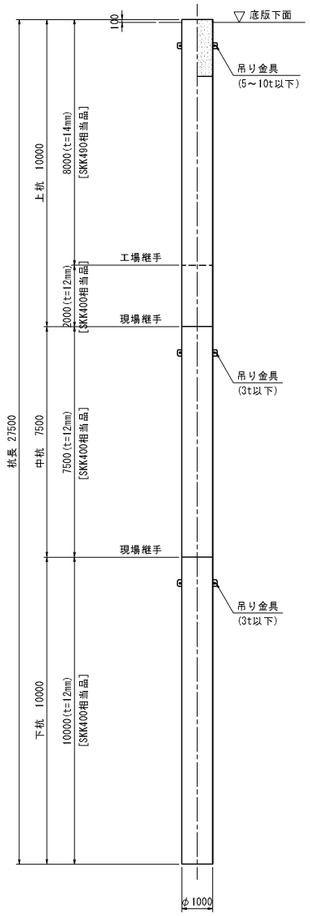
H11 4-D16 X 3200

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	99 ／ 110	縮尺	図示
図名	ＣＰ４橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その１）	番号	1／2
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

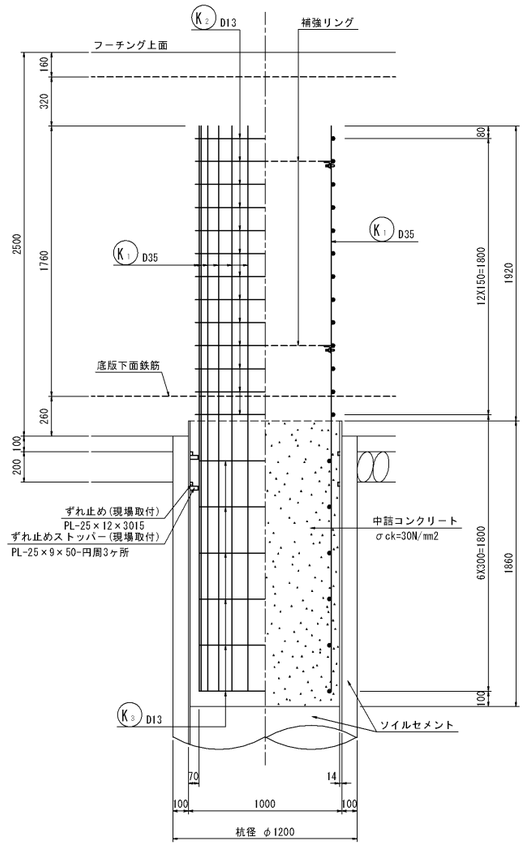
CP4橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図（その1） S=1:20

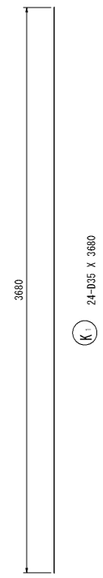
杭構成図 S=1:100

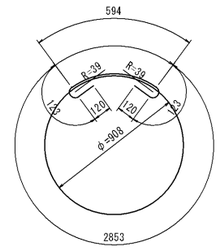
鋼管杭構成図 S=1:100



杭頭部詳細図

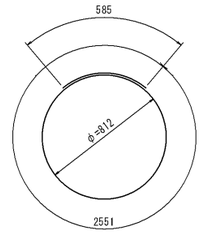






K2 13-D13 X 3930

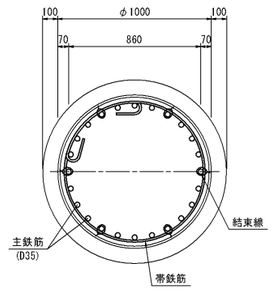
※ 継手部は高さ方向に千鳥状に配置すること



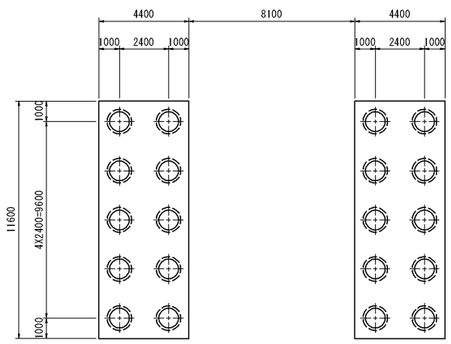
K3 6-D13 X 3140

主鉄筋・帯鉄筋結束詳細図

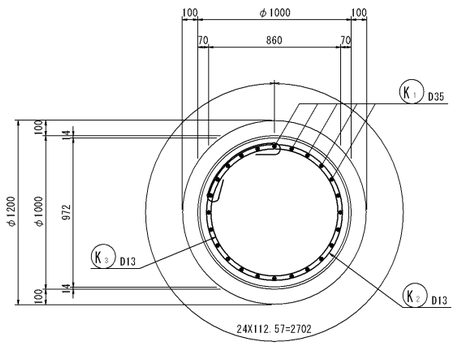
注）主鉄筋と帯鉄筋の交点を主鉄筋3～4本おきに1箇所結束線で結束する。



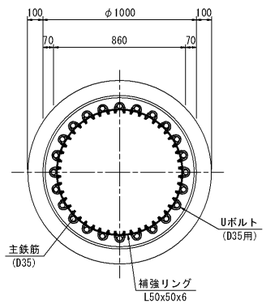
杭配置図



杭頭部断面図

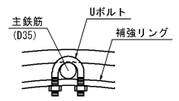


補強リングと主筋金具詳細図



固定金具詳細図

S=1:3



Ｕボルト又は同等品

主筋と補強リングは、全数金具で固定

※1. Ｕボルト規格
D38用, SS400, 変形時荷重30kN以上
場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法　設計・施工に関するガイドラインに準拠

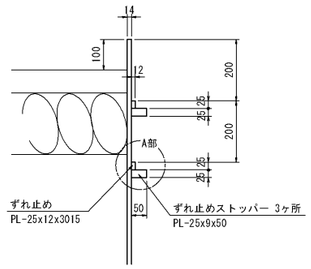
設計条件（基礎）

基礎形式		鋼管ソイルセメント杭 φ1200(φ1000)
鋼管		SKK400, 490
コンクリート	底版	σck=30N/mm²
	中詰め	σck=30N/mm²
鉄筋	主鉄筋	SD490
	上記以外	SD345

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	100 ／ 110	縮尺	図示	
図名	CP4橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図 （その2）	番号	2／2	
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

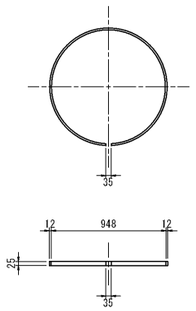
CP4橋脚 鋼管ソイルセメント杭詳細図（その2） S=1:20

ずれ止め詳細図 S=1:10

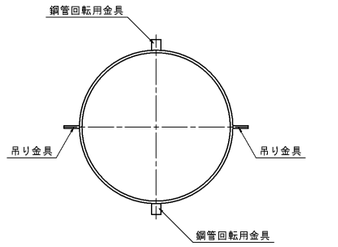


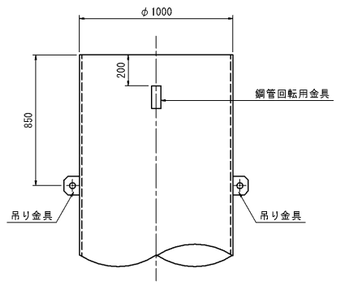
ずれ止め取付詳細図

（ニュートラルライン）

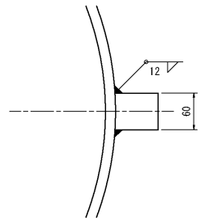


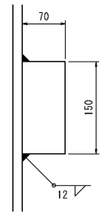
吊り金具及び鋼管回転用金具取付図



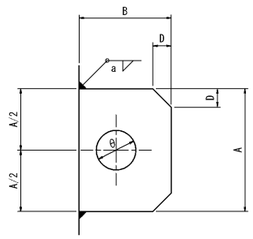


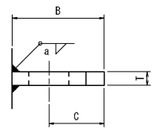
鋼管回転用金具詳細図 S=1:5





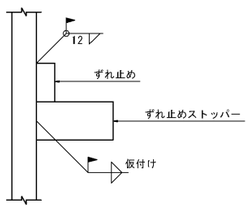
吊金具詳細図 S=1:5





種別	幅	高さ	板厚	穴径	脚長	穴位置	面取り	質量	数量
	A	B	T	φ	a	C	D	kg/箇	
3t以下	120	100	12	40	6	55	25	1	2
3～5t以下	120	100	16	40	9	55	25	2	2
5～10t以下	200	150	22	65	15	90	30	5	2

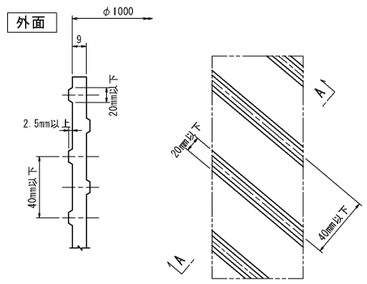
A部詳細図 S=1:2



杭外周部 S=1:2

外面突起（リブ）付鋼管

A － A　　正面図

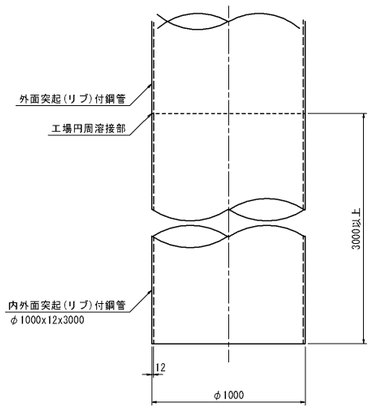


特記事項

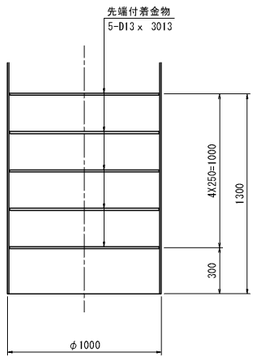
鋼管外面突起（リブ）は付属品取付、円周溶接等に支障がある場合は必要最小限の突起（リブ）を削除する事。

杭先端詳細図（参考）

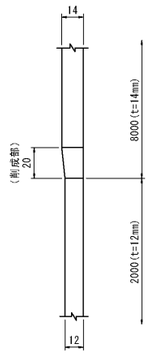
(1) 内外面突起(リブ)付鋼管



(2) 内面リング鉄筋取付

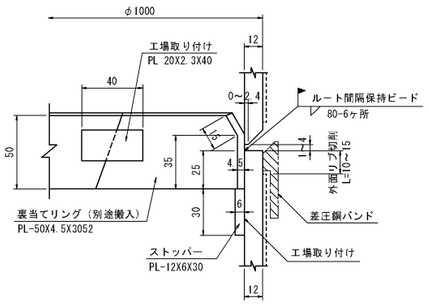


工場継手詳細図 S=1:2



現場円周溶接継手詳細図 S=1:2

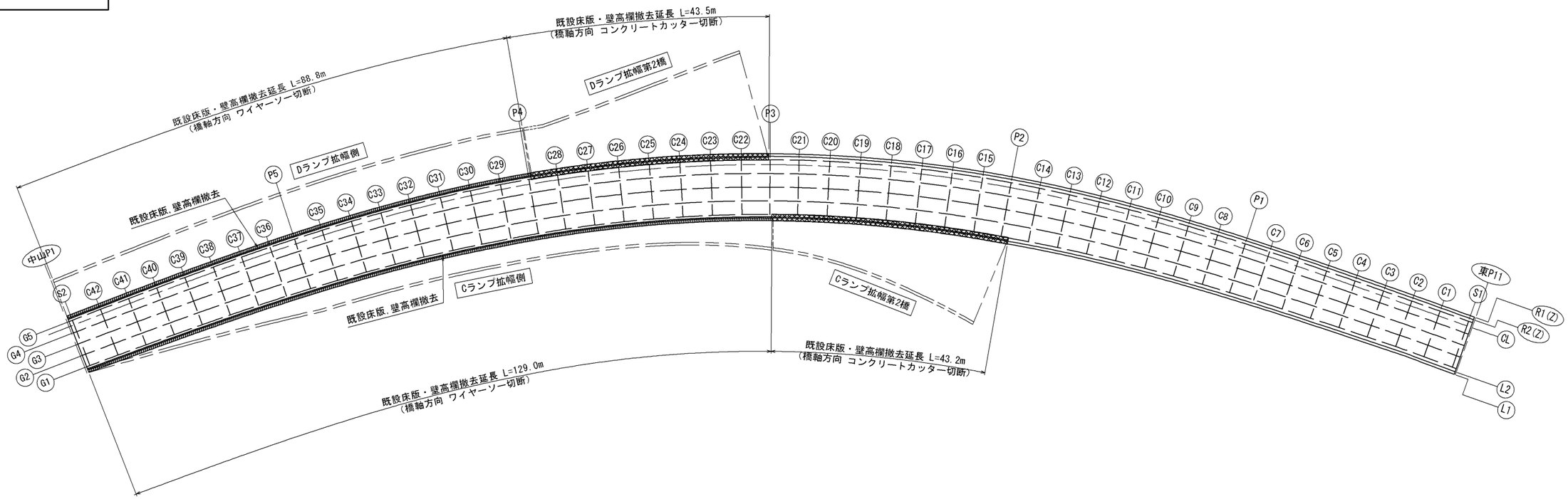
（差厚鋼バンド使用時）



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	101 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	既設床版・壁高欄 切断撤去概要図	番号	1／1
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

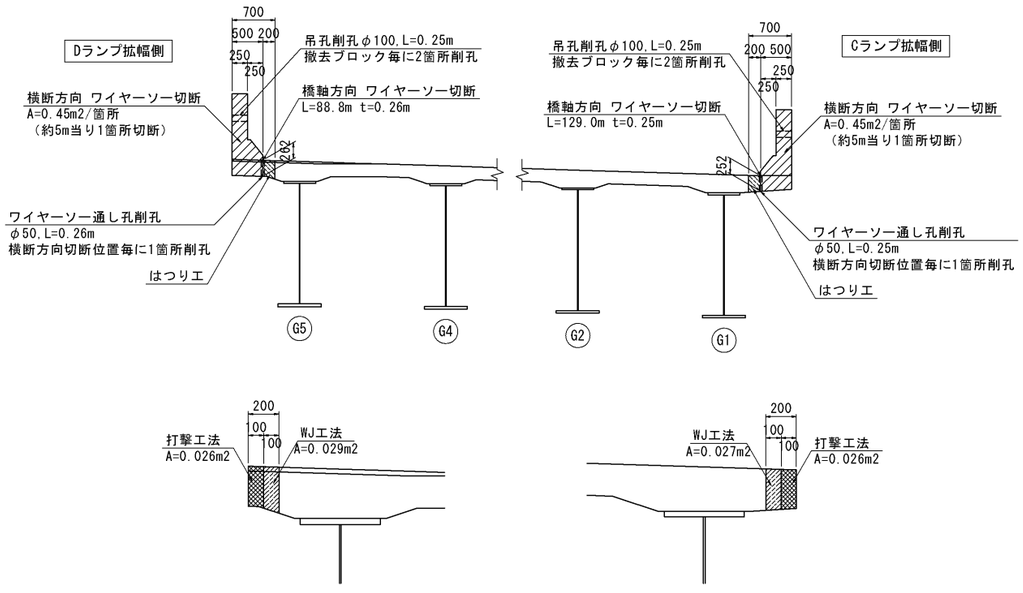
既設床版，壁高欄切断撤去概要図　S=1:400

平面図

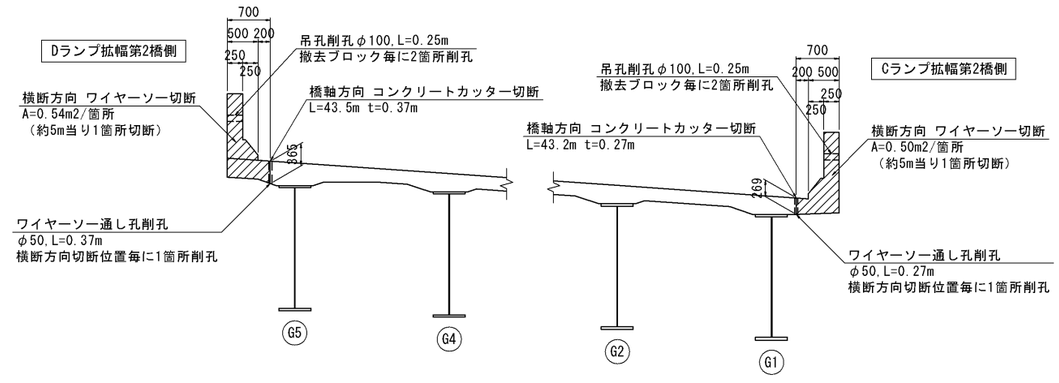


断面図　S=1:50

＜拡幅第1橋＞



＜拡幅第2橋＞



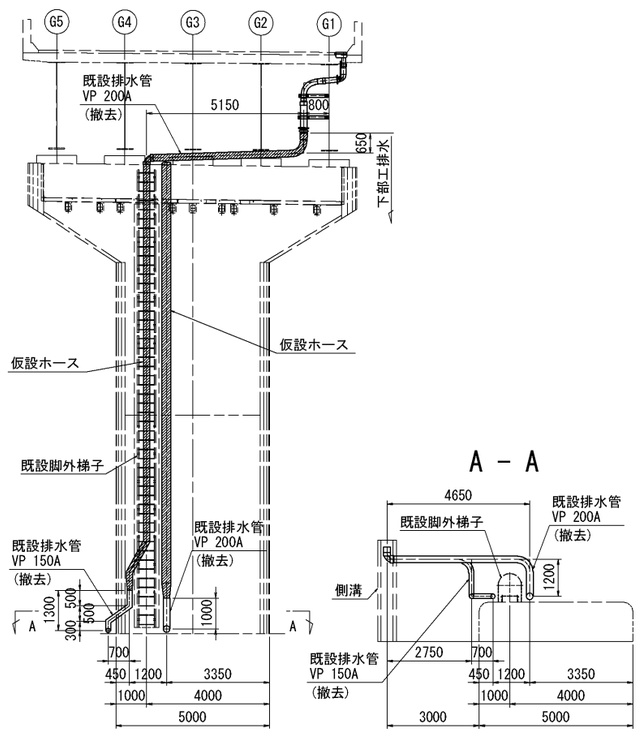
・床版・壁高欄は、延長5m程度のブロックに分割して撤去する。
・床版のワイヤーソー通し孔は、横断方向の切断位置毎に削孔する。
・クレーン撤去時の吊孔は、撤去ブロック当り2箇所削孔する。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	102 ／ 110	縮尺	図示	
図名	C・Dランプ拡幅第1橋 下部工排水装置	番号	1／1	
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

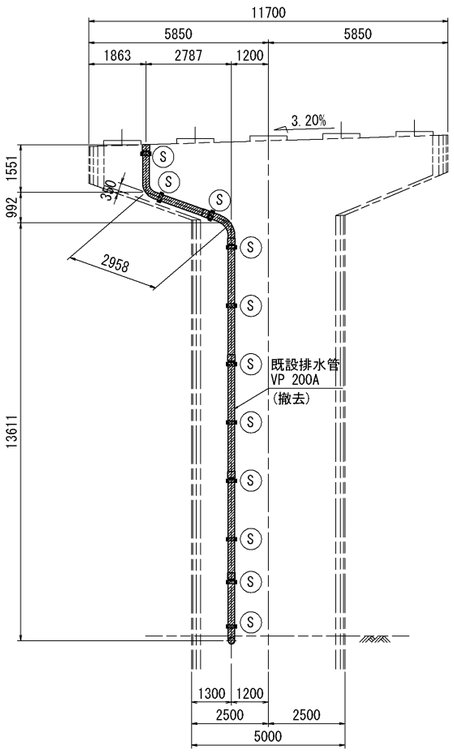
C・Dランプ拡幅第1橋　下部工排水装置　S=1:100

既設排水装置撤去図

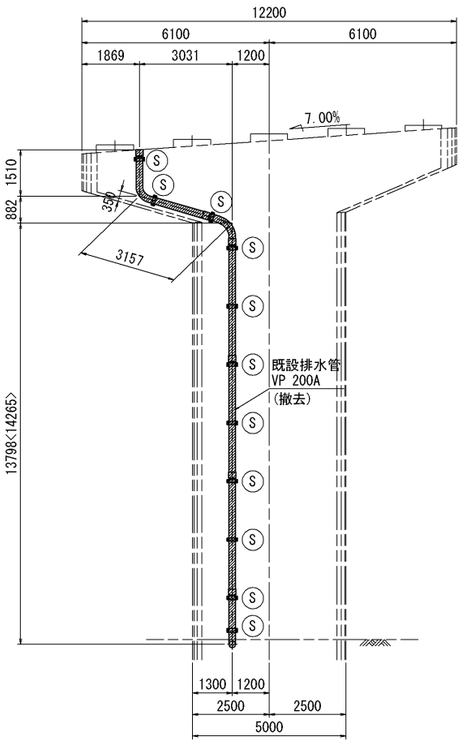
中山P1橋脚



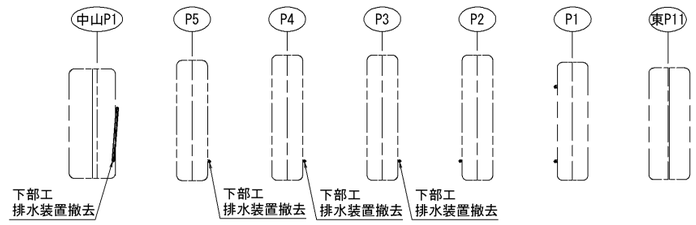
P5橋脚



P4<P3>橋脚



配置図



注記

1. 本図面は、既存資料及び現地写真を元に図化したものである。

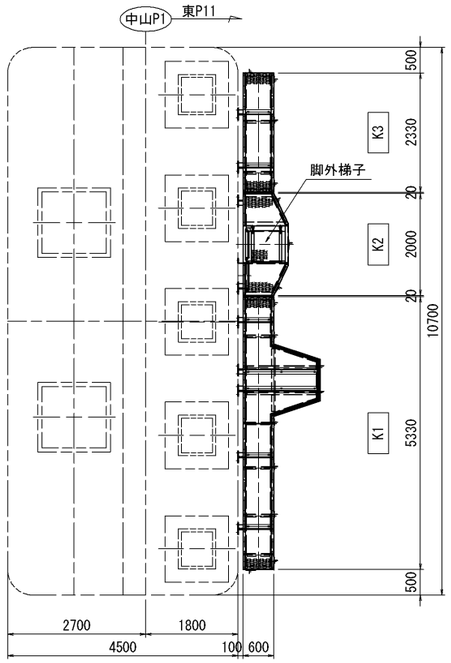
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	103 ／ 110	縮尺	図示	
図名	C・Dランプ拡幅第1橋 下部工検査路（その1）	番号	1／2	
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

C・Dランプ拡幅第1橋　下部工検査路（その1） S=1:60

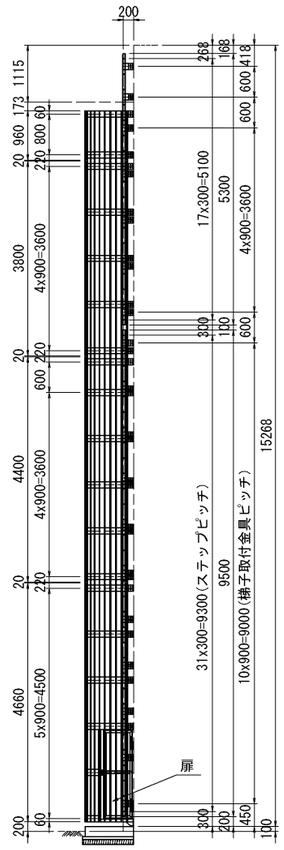
撤去図 － 1

中山P1橋脚

下部工検査路撤去図

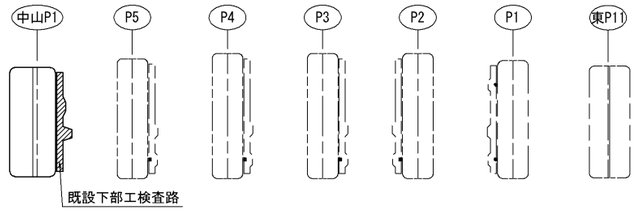


脚外梯子撤去図



注記
1. 本図面は、既存資料を元に図化したものである。
　復旧については、現場実測後に行うこと。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。

配置図

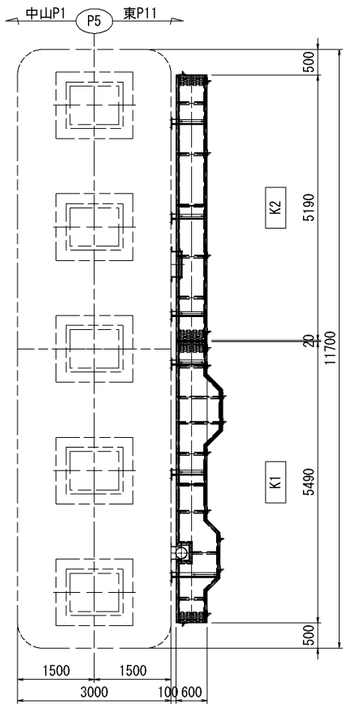


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事			
図面番号	104 ／ 110	縮尺	図示	
図名	Ｃ・Ｄランプ拡幅第１橋 下部工検査路（その２）		番号	2／2
路線名	広島高速５号線			
広島高速道路公社				

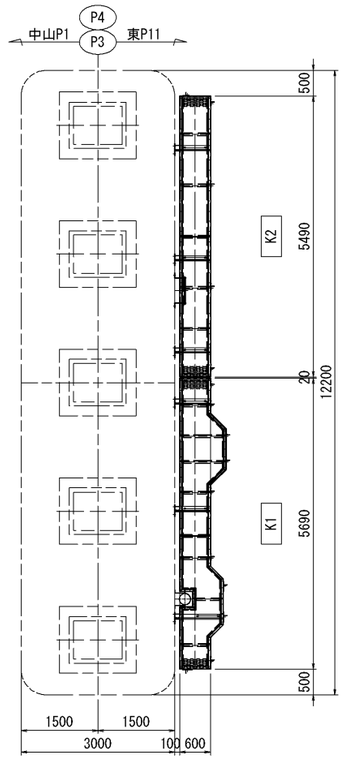
Ｃ・Ｄランプ拡幅第1橋　下部工検査路(その2) S=1:60

撤去図 － 2

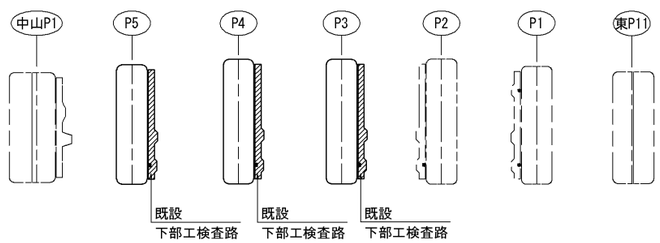
P5橋脚 下部工検査路撤去図



P4橋脚,P3橋脚 下部工検査路撤去図



配 置 図

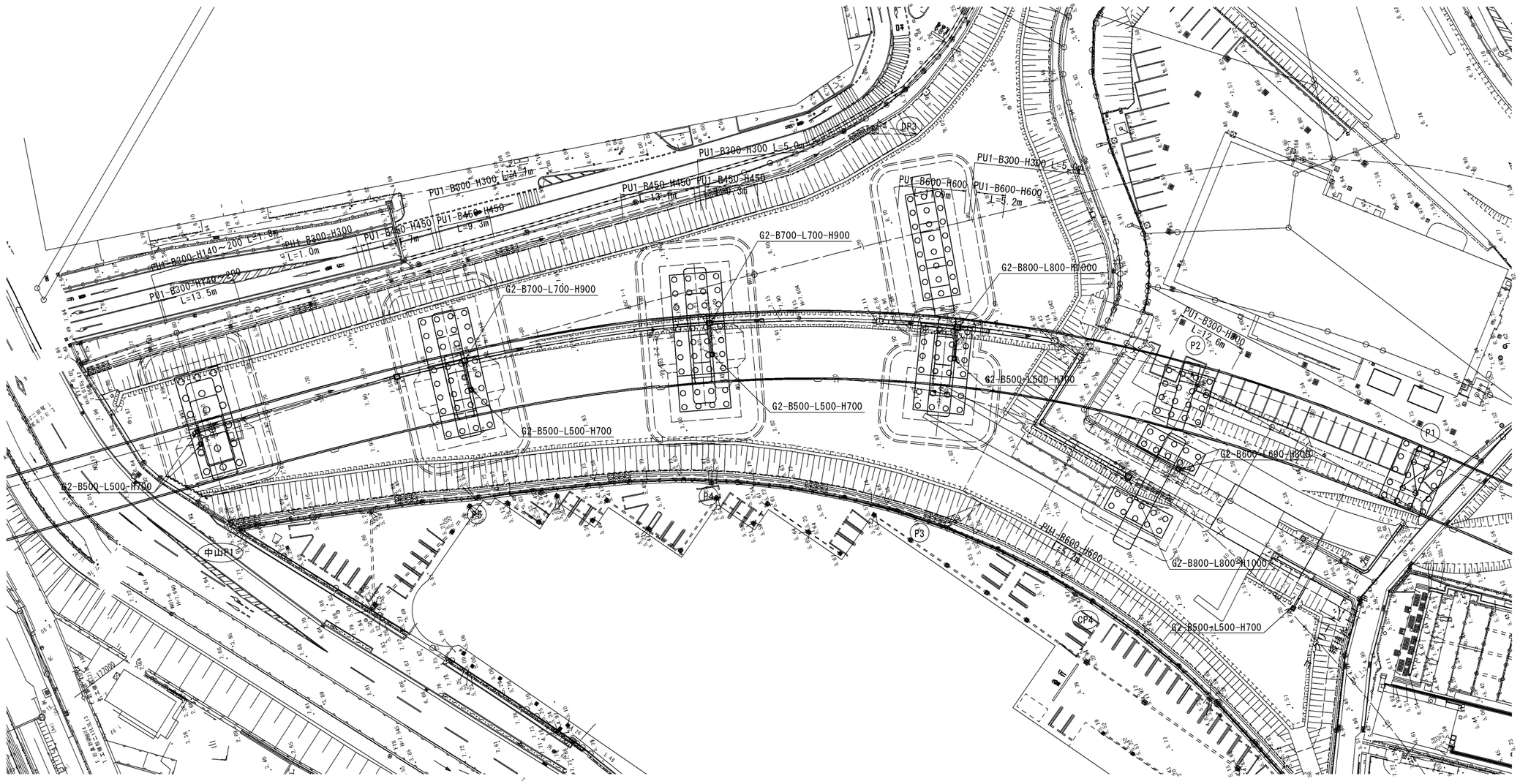


注記
1,本図面は、既存資料を元に図化したものである。
2,特記なき材質は、全てSS400とする。

工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	105 ／ 110	縮　尺	図　示	
図　名	排水構造物 撤去・復旧計画図（その1）		番号	1／4
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

排水構造物撤去・復旧計画図（その1）　S=1:400

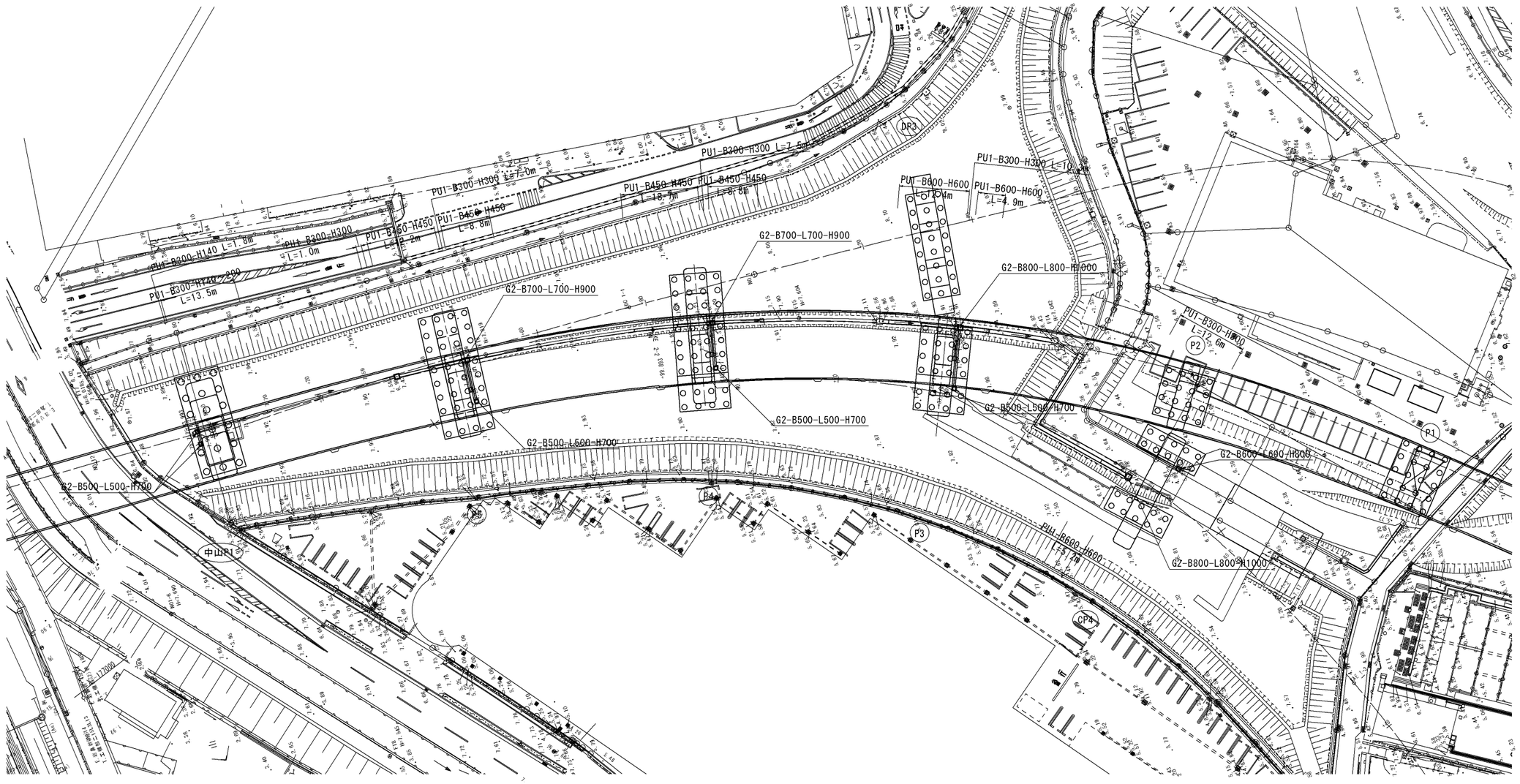
撤去平面図



工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	106 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	排水構造物 撤去・復旧計画図（その2）	番号	2 ／ 4
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

排水構造物撤去・復旧計画図（その2）　S=1:400

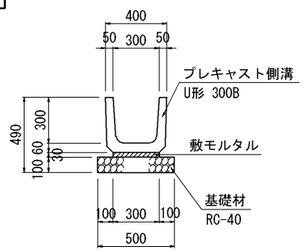
復旧平面図



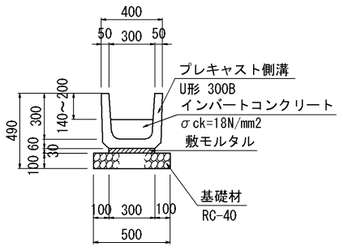
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事			
図面番号	107 ／ 110	縮尺	図示	
図名	排水構造物 撤去・復旧計画図（その3）	番号	3／4	
路線名	広島高速5号線			
広島高速道路公社				

排水構造物撤去・復旧計画図（その3） S=1:20

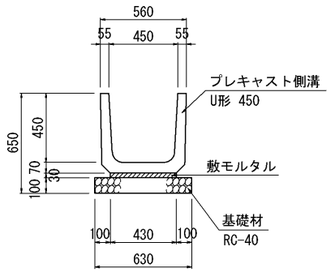
PU1-B300-H300



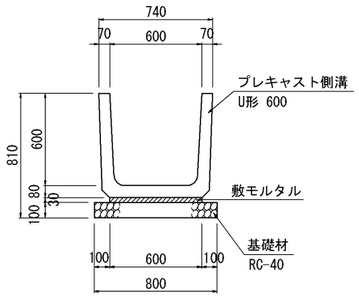
PU1-B300-H140～200



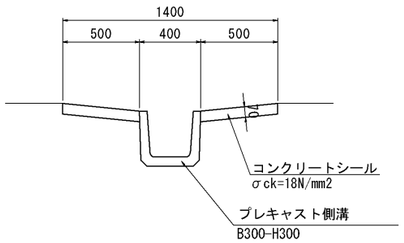
PU1-B450-H450



PU1-B600-H600



縦排水

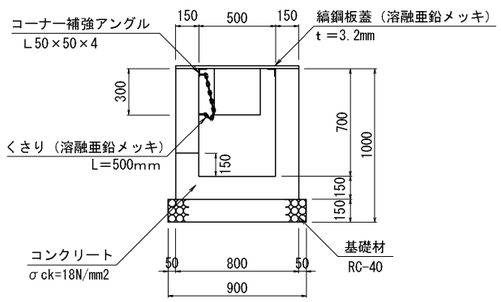


工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	108 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	排水構造物 撤去・復旧計画図（その４）	番号	4／4
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

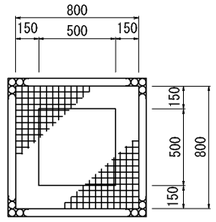
排水構造物撤去・復旧計画図（その4）　S=1:20

G2-B500-L500-H700

断面図

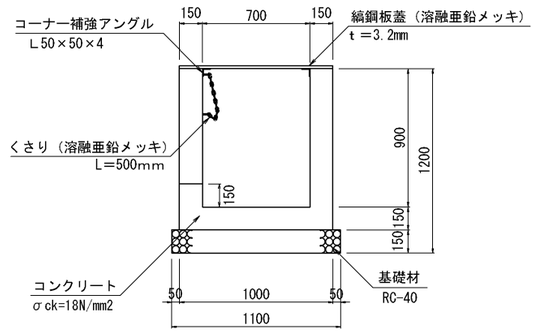


平面図

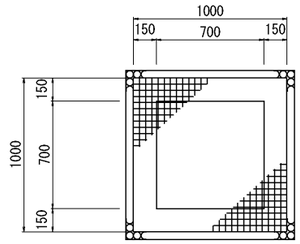


G2-B700-L700-H900

断面図

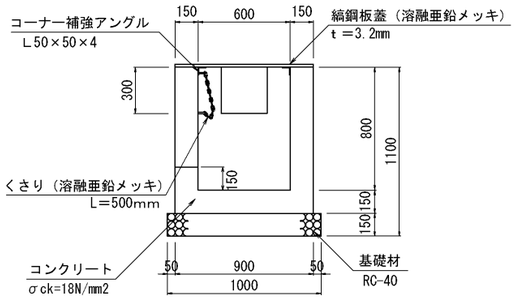


平面図

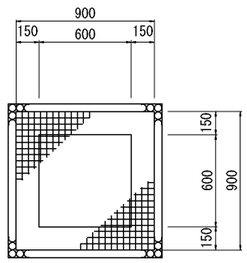


G2-B600-L600-H800

断面図

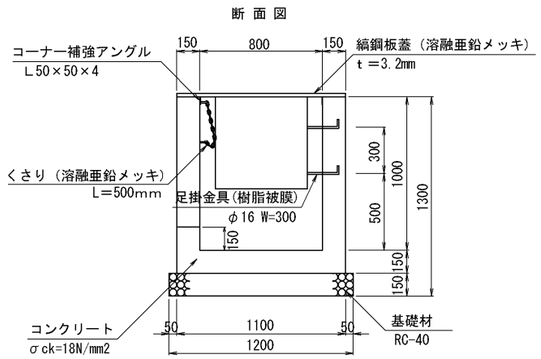


平面図

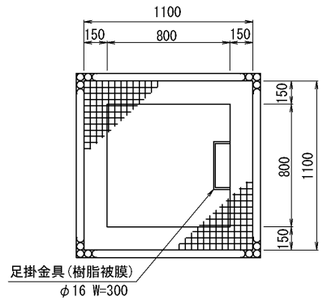


G2-B800-L800-H1000

断面図



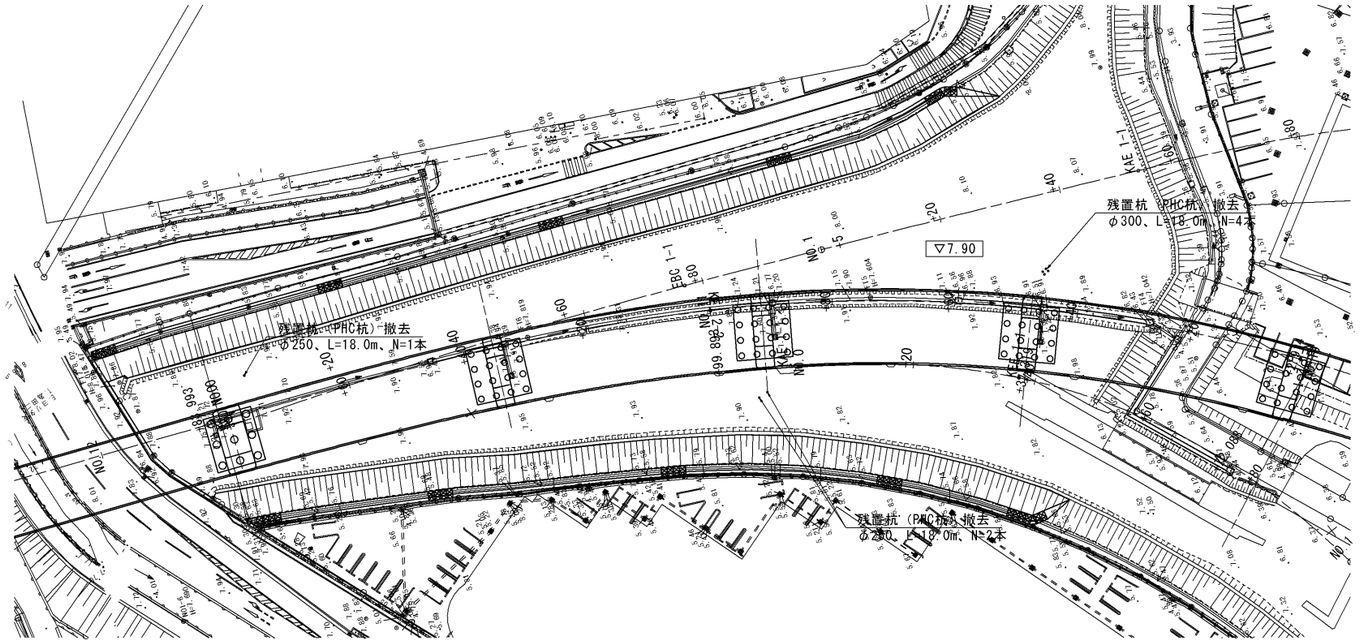
平面図



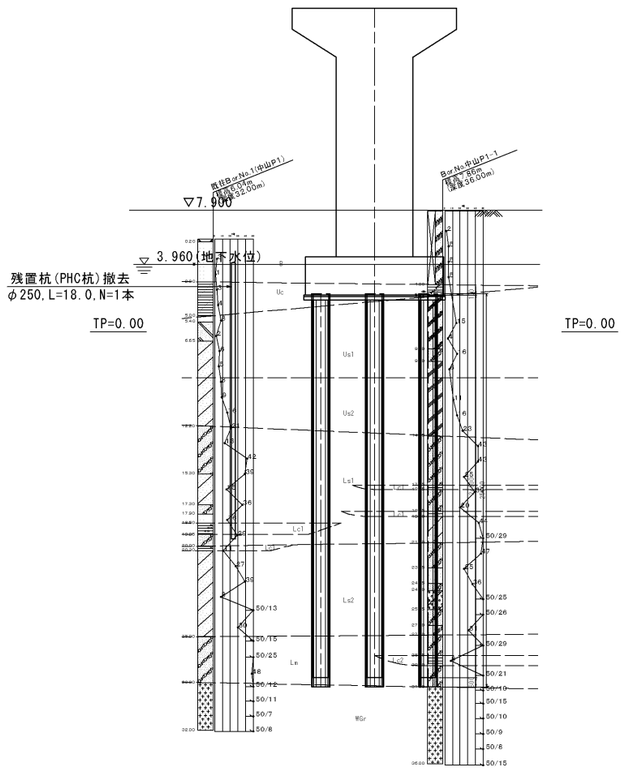
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品JCT下部工事		
図面番号	109 ／ 110	縮尺	図示
図名	残置杭　撤去計画図	番号	1／1
路線名	広島高速5号線		
広島高速道路公社			

残置杭撤去計画図

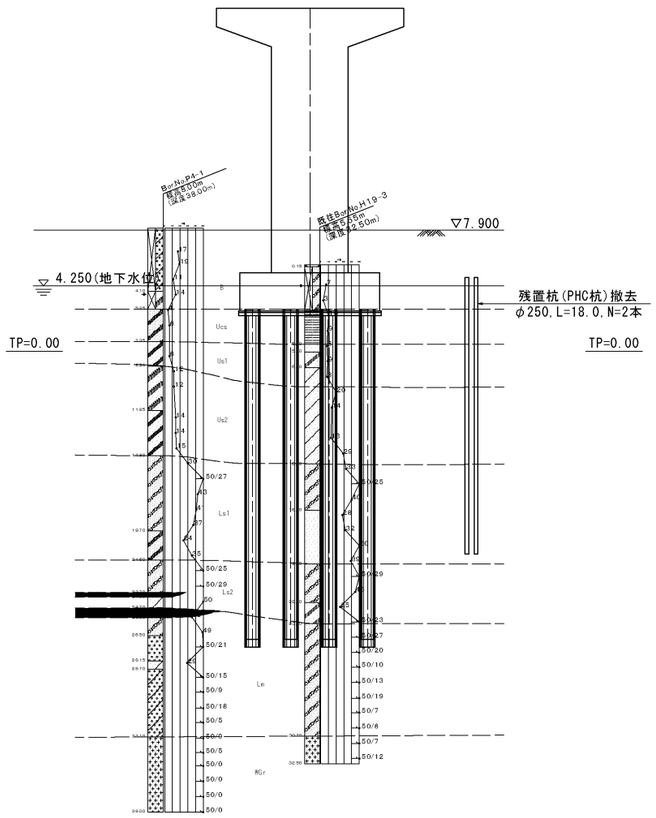
平面図　S=1:500



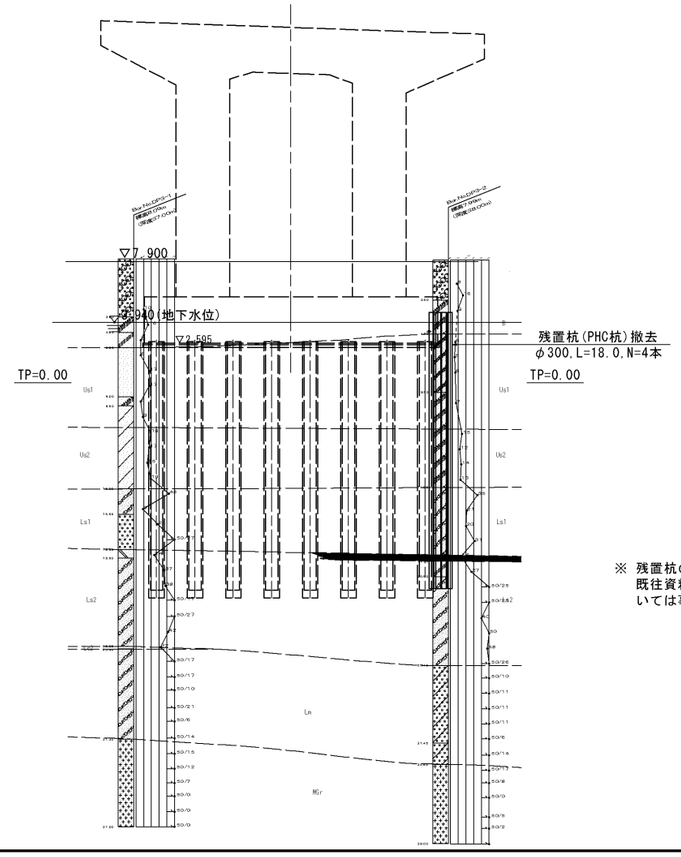
中山P1橋脚



P4橋脚



DP3橋脚

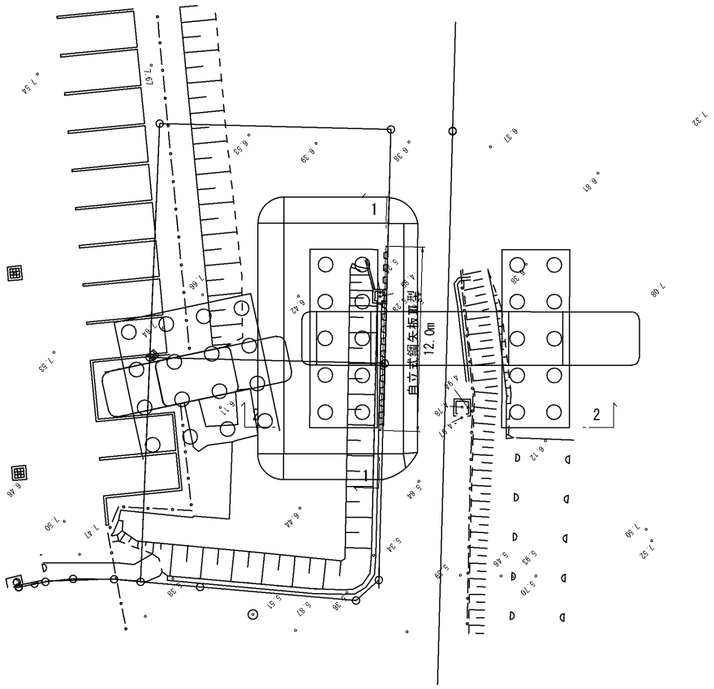


※ 残置杭の位置や杭径、杭長、杭天端高については、既往資料に基づく推定である。残置杭の位置については事前に試掘等により確認が必要である。

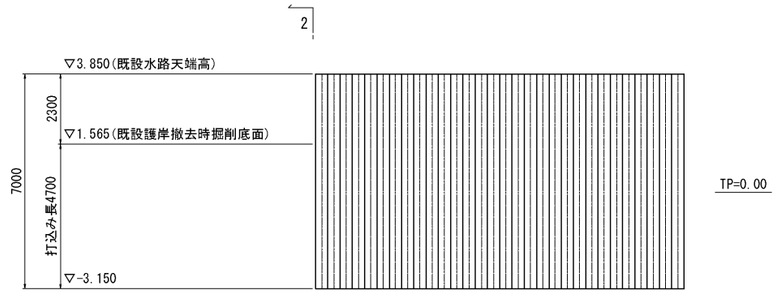
工事名	令和3年度 広島高速5号線 温品ＪＣＴ下部工事		
図面番号	110 ／ 110	縮　尺	図　示
図　名	ＣＰ４橋脚 遮断矢板工計画図	番号	1／1
路線名	広島高速５号線		
広島高速道路公社			

CP4橋脚　遮断矢板工計画図

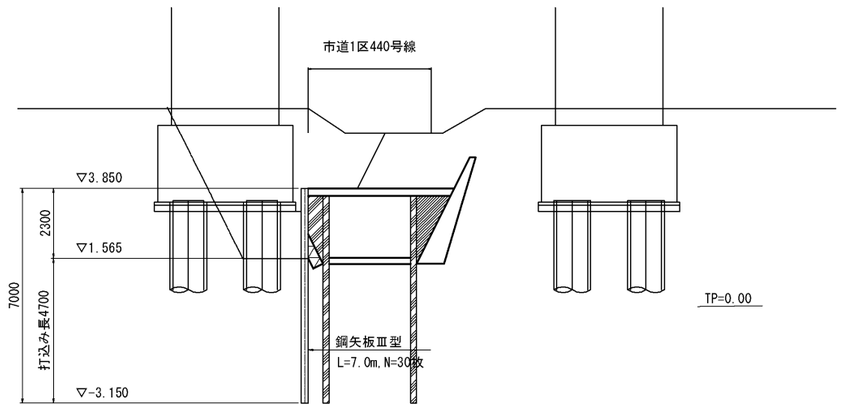
平面図　S=1:200



1 － 1　S=1:100



2 － 2　S=1:100



材料表

部材名	規格	1枚当り延長 (m)	枚数 (枚)	全延長 (m)	単位重量 (kg/m)	重量 (kg)
自立式鋼矢板	Ⅲ型	7.000	30	210.0	60.0	18900